

令和2年度
文部科学省委託調査

令和2年度「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」

青少年の体験活動の推進に関する調査研究

報告書

令和3年3月

株式会社浜銀総合研究所

目 次

I 調査研究の概要	5
1. 調査研究の目的・実施の背景等.....	6
(1) 本調査研究の目的	6
(2) 本調査研究の実施の背景（「体験活動」の定義・範囲や重要性等について）	7
2. 調査・分析の方法.....	8
(1) 実施調査・分析の種類、対象等	8
(2) 調査検討委員会の開催.....	9
(3) 報告書掲載の内容についての留意点.....	10
II 各調査の概要・まとめ.....	11
1. 文献調査	12
(1) 調査の実施概要等	12
(2) 調査結果から把握されたこと.....	12
2. ヒアリング調査	14
(1) 調査の実施概要等	14
(2) 調査結果から把握されたこと.....	15
3. 21世紀出生児縦断調査のデータ分析.....	17
(1) 調査の実施概要等	17
(2) 調査結果から把握されたこと.....	21
4. 全体を通じたまとめ、考察.....	23

参考資料（各調査・分析結果の詳細） 25

1. 文献調査により収集・整理した文献等の一覧.....	26
(1) 自然体験活動の影響・効果について.....	26
(2) 社会体験活動の影響・効果について.....	42
(3) 生活・文化体験活動の効果について.....	47
(4) その他（複数の分野にかかわるものなど）の活動の効果について.....	51
2. 対象別のヒアリング結果概要.....	55
3. 21世紀出生児縦断調査のデータ分析での使用項目・変数化の方法等.....	71
(1) 「家庭による背景・要因・属性等」に関する項目・変数.....	71
(2) 「体験」に関する項目・変数.....	79
(3) 「意識等」に関する項目・変数.....	84
4. 「体験」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係性.....	92
(1) 第8回調査の「自然体験」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	92
(2) 第8回調査の「社会体験」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	94
(3) 第8回調査の「文化的体験」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	96
(4) 第12回調査の「自然体験」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	98
(5) 第12回調査の「社会体験」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	100
(6) 第12回調査の「文化的体験」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	102
(7) 第7回調査の「遊び相手の多様性」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	104
(8) 第7回調査の「遊び場所の多様性」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	106
(9) 第7回調査の「遊び相手人数の多寡」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	108
(10) 第7回調査の「読書」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	110
(11) 第9回調査の「お手伝い」と「家庭による背景・要因・属性等」.....	112

5. 「向学校的な意識」(小学生) についての分析	114
(1) 「向学校的な意識」(小学生) と「家庭による背景・要因・属性等」 との関係	114
(2) 「向学校的な意識」(小学生) と「体験」 との関係	116
(3) 「向学校的な意識」(小学生) に関する回帰分析	119
(4) 「向学校的な意識」(小学生) に関する父母の収入の水準別の分析	121
6. 「向学校的な意識」(中学生) についての分析	123
(1) 「向学校的な意識」(中学生) と「家庭による背景・要因・属性等」 との関係	123
(2) 「向学校的な意識」(中学生) と「体験」 との関係	125
(3) 「向学校的な意識」(中学生) に関する回帰分析	128
(4) 「向学校的な意識」(中学生) に関する父母の収入の水準別の分析	130
7. 「向学校的な意識」(高校生) についての分析	132
(1) 「向学校的な意識」(高校生) と「家庭による背景・要因・属性等」 との関係	132
(2) 「向学校的な意識」(高校生) と「体験」 との関係	134
(3) 「向学校的な意識」(高校生) に関する回帰分析	137
(4) 「向学校的な意識」(高校生) に関する父母の収入の水準別の分析	139
8. 「自尊感情」 についての分析	141
(1) 「自尊感情」 と「家庭による背景・要因・属性等」 との関係	141
(2) 「自尊感情」 と「体験」 との関係	143
(3) 「自尊感情」 に関する回帰分析	145
(4) 「自尊感情」 に関する父母の収入の水準別の分析	147
9. 「外向性」 についての分析	149
(1) 「外向性」 と「家庭による背景・要因・属性等」 との関係	149
(2) 「外向性」 と「体験」 との関係	151
(3) 「外向性」 に関する回帰分析	153
(4) 「外向性」 に関する父母の収入の水準別の分析	155

10. 「新奇性追求」についての分析.....	157
(1) 「新奇性追求」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係.....	157
(2) 「新奇性追求」と「体験」との関係.....	159
(3) 「新奇性追求」に関する回帰分析.....	161
(4) 「新奇性追求」に関する父母の収入の水準別の分析.....	163
11. 「感情調整」についての分析.....	165
(1) 「感情調整」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係.....	165
(2) 「感情調整」と「体験」との関係.....	167
(3) 「感情調整」に関する回帰分析.....	169
(4) 「感情調整」に関する父母の収入の水準別の分析.....	171
12. 「肯定的な未来志向」についての分析.....	173
(1) 「肯定的な未来志向」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係.....	173
(2) 「肯定的な未来志向」と「体験」との関係.....	175
(3) 「肯定的な未来志向」に関する回帰分析.....	177
(4) 「肯定的な未来志向」に関する父母の収入の水準別の分析.....	179
13. 「心の健康」についての分析.....	181
(1) 「心の健康」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係.....	181
(2) 「心の健康」と「体験」との関係.....	183
(3) 「心の健康」に関する回帰分析.....	185
(4) 「心の健康」に関する父母の収入の水準別の分析.....	187
14. 体験の内容別の回帰分析結果の再整理.....	189

I 調査研究の概要

1. 調査研究の目的・実施の背景等

(1) 本調査研究の目的

平成 25 年 1 月 21 日中央教育審議会答申「今後の青少年の体験活動の推進について」では、体験活動は人づくりの“原点”であるという認識の下、未来の社会を担う全ての青少年に人間的な成長に不可欠な体験を経験させるためには、教育活動の一環として、体験活動の機会を意図的・計画的に創出することが重要とされている。

また、平成 30 年 6 月に閣議決定された「第 3 期教育振興基本計画」においては、子供の健やかな成長のためには豊かな心を育むことが不可欠であり、そのために、社会体験活動や自然体験活動等も含め児童生徒の多様な体験活動の機会を充実することが重要であることが示されている。

体験活動の充実が、青少年の社会性や豊かな人間性の育成を図る上で非常に重要であることは、独立行政法人国立青少年教育振興機構（以下、「青少年機構」という。）が実施してきた調査研究等でも明らかにされており、これらの成果等については「発達段階に応じた望ましい体験の在り方に関する調査研究」（中間まとめ）（令和 2 年 3 月）（以下、「中間まとめ」という。）として整理されている。

ただし、青少年機構による調査は、主に、調査回答者が振り返って回答する子供の頃の経験の多寡と現在の回答者の意識等との関係性（相関関係）に着目したものとなっている。また、分析としては主に 2 変数間のクロス集計が実施されているが、例えば保護者の所得水準等、他の変数の影響を統制した上での体験の影響・効果について検討されているわけではないことから、より精緻な議論をするためには、これらの点も踏まえた分析を行うことが必要である。

そこで本調査研究では、国が実施する 21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）の調査票情報（以下、「21 世紀出生児縦断調査のデータ」という。）を活用し、「体験がその後の状況に及ぼす影響・効果」に関し、下記の点を踏まえた分析を行った。これらを踏まえ、家庭による背景・環境、属性等の要因を踏まえた上でも、「多くの体験を経験した子供はその後の意識等が高い」ということを明らかにすることを試みた。

- ・過去に経験した体験とその後の意識等との関係という時系列的な関係性を明確に捉える
- ・家庭・保護者の状況等の差異も踏まえた上での体験活動などの影響・効果に着目する
- ・多様な「体験」に関し、その後の状況に及ぼす影響・効果について検討する

(2) 本調査研究の実施の背景（「体験活動」の定義・範囲や重要性等について）

「体験活動」の定義・範囲に関して、平成 19 年 1 月 30 日の中央教育審議会答申「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」では、主として「体験を通じて何らかの学習が行われることを目的として、体験する者に対して意図的・計画的に提供される体験」とされている。

また、平成 25 年 1 月 21 日中央教育審議会答申「今後の青少年の体験活動の推進について」において、「体験活動」は、その内容に応じて大きく三つの体験に分類されている。「今後の青少年の体験活動の推進について」では、「体験活動は教育的効果が高く、幼少期から青年期まで多くの人とかかわりながら体験を積み重ねることにより、『社会を生き抜く力』として必要となる基礎的な能力を養うという効果があり、社会で求められるコミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、創造力、変化に対応する力、異なる他者と協働したりする能力等を育むためには、様々な体験活動が不可欠である」とされている。

生活・文化体験活動：例えば放課後に行われる遊びやお手伝い、野遊び、スポーツ、部活動、地域や学校における年中行事。

自然体験活動：例えば登山やキャンプ、ハイキング等といった野外活動、又は星空観察や動植物観察といった自然・環境に係る学習活動。

社会体験活動：例えばボランティア活動や職場体験活動、インターンシップ。

出所)中央教育審議会「今後の青少年の体験活動の推進について(答申)」(平成 25 年 1 月 21 日)

この他、青少年機構の中間まとめでは、各種の調査結果を踏まえ、重要と考えられる活動の内容が「子どもの成長を支える 20 の体験」として、「体験を通じて育成したい 12 の資質・能力」とあわせて整理され、提示されている。

子どもの成長を支える 20 の体験

- | | | | |
|-----------|---------|-------------|----------|
| ・自然体験 | ・集団活動 | ・地域行事 | ・社会貢献 |
| ・職業体験 | ・文化芸術体験 | ・科学体験 | ・国際交流体験 |
| ・規則正しい生活 | ・お手伝い | ・遊び | ・運動・スポーツ |
| ・読書 | ・探求学習 | ・動植物とのふれあい | ・家族行事 |
| ・家族とのかかわり | | ・友達とのかかわり | |
| ・先生とのかかわり | | ・地域の人とのかかわり | |

体験を通じて育成したい 12 の資質・能力

- | | |
|-------------|--------|
| ・学ぶ力 | ・やり抜く力 |
| ・コミュニケーション力 | ・礼儀作法 |
| ・健康管理 | ・自己肯定感 |
| ・積極性 | ・協調性 |
| ・道徳観 | ・自立心 |
| ・勤労観 | ・公共心 |

出所)国立青少年教育振興機構「発達段階に応じた望ましい体験の在り方に関する調査研究～「体験カリキュラム」の構築に向けて～(中間まとめ)」(令和 2 年 3 月)

これらのように、体験活動などの重要性はこれまでも様々な形で捉えられ、主張されているところである。ただし、これまでの調査研究では、時系列的な因果の関係性が明瞭になっている分析や、家庭・保護者の要因等、他の変数の影響を統制した上での体験（活動）の影響・効果についての分析が必ずしも実施されているわけではないと考えられた。

そこで、本調査研究において 21 世紀出生児縦断調査という全国的で大規模な調査データを活用し、できるだけ多様な形で「体験」を捉え、従来の研究では十分に把握できていなかったことを明らかにすることを試みた。

2. 調査・分析の方法

(1) 実施調査・分析の種類、対象等

本調査研究では、主に下記の3種類の調査・分析を実施した。

- ①文献調査
- ②活動の指導者等に対するヒアリング調査
- ③21世紀出生児縦断調査のデータ分析

①文献調査

「体験の影響・効果」について、先行研究等ではどのような調査・分析がなされ、どのような知見が得られているのかに関し、文献等を基に情報の整理を行った。

また、文献調査の結果を基に、今回21世紀出生児縦断調査のデータを用いた分析を行うに当たり、どのような分析を実施しうるかについて検討を行った。

②活動の指導者等に対するヒアリング調査

「体験がその後の状況に及ぼす影響・効果」について、21世紀出生児縦断調査のデータ分析からは、「体験の多寡がその後の成長に影響を及ぼすか」ということを客観的なデータにより明確にすることができ、また、今後の体験活動の推進を考えるに当たり、「どんな体験をさせるか」や「いつ体験させるか」ということについて検討できるような結果が得られるのではないかと想定された。

他方で、データ分析の結果からは、「どのように体験させればよいか」や「体験では、どんなかわりがあるか」といった「質的な側面」については、十分な情報を得ることができないと考えられた。

そこで、本調査研究では、体験活動の実施にかかわる指導者等を対象にヒアリング調査を実施し、「体験活動を実践して実感する効果、なぜそのような効果が得られると考えるか」、「体験活動の提供方法、指導・支援方法としてどのようなことが重要であるか」、「今後の推進に当たって意識していること、留意点等」に関し、情報を得た。

これらの情報を踏まえて21世紀出生児縦断調査のデータを用いた分析の枠組み等を検討するとともに、体験活動の推進に当たって「どのように体験させればよいか」や「体験では、どんなかわりがあるか」といった「質的な側面」に着目できるように検討を行った。

③21 世紀出生児縦断調査のデータ分析

文部科学省及び厚生労働省が共管で実施する 21 世紀出生児縦断調査のデータを用いて、過去に体験したことの内容や経験の多寡が、その後の意識等に及ぼす影響・効果について、時系列を踏まえた分析を検討した。また、平成 25 年 1 月 21 日中央教育審議会答申「今後の青少年の体験活動の推進について」では、「保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、青少年の体験活動の機会に『体験格差』が生じているとの指摘もある」とされているが、このような、保護者の経済力の差異等を踏まえた上での体験がその後の意識等に及ぼす影響・効果について検討を行った。

21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）は、全国の 2001 年（平成 13 年）1 月 10 日から同月 17 日の間及び同年 7 月 10 日から同月 17 日の間に出生した子を対象とした調査である。同一の調査対象を追跡するパネル調査であり、子供と同居している者のことや保護者の就業状況等の家庭の状況、子供自身の学校生活の様子等を調査事項としており、年に 1 回の頻度で調査が実施されている。

この調査のデータを用いることで、時系列の関係を踏まえた分析が可能になる。また、「体験への参加」と「子供の成長」の両者に影響を与える要因をコントロールした分析が実施可能であり、「体験」の実施とその後の成長等に及ぼす影響・効果についてより詳細な検討が可能になる。

本調査研究の実施の時点で、第 18 回調査までのデータを分析することが可能であり、また、第 10 回以降の調査では、子供本人が回答している調査データも活用可能であった。本調査研究では、これら第 18 回までの各回の調査データを結合し、同一個人が過去に経験した体験の内容と、その後の意識等との関係について分析を行った。2 変数間関係についての分析だけでなく、回帰分析を行うことで、家庭・保護者の状況等の差異も踏まえた上での体験の影響・効果について検討を行った。

「体験」と「意識等」との関係性について分析をするに当たり、「体験」の実施状況は保護者が、「意識等」については子供本人が回答したものとなっており、それぞれ別の人が別のタイミングで回答した情報を結び付けた分析を行っているという点も今回の分析の特徴の 1 つである。

（2）調査検討委員会の開催

本調査研究の実施に当たり、下記の有識者に御協力いただき、助言を受けた。

対面・オンラインでの個別の打ち合わせに加えて、オンラインで参加頂く会議を 3 回開催し、主に 21 世紀出生児縦断調査のデータ分析の方法について議論・助言をいただいた。

氏 名（敬称略、50 音順）	所 属
阿 部 彩	東京都立大学人文社会学部 教授
青 木 康 太 朗	國學院大學人間開発学部 准教授（青少年教育研究センター客員研究員）
池 田 幸 恭	和洋女子大学人文学部 准教授（青少年教育研究センター客員研究員）
加 藤 承 彦	国立成育医療研究センター社会医学研究部・行動科学研究室 室長

(3) 報告書掲載の内容についての留意点

本報告書に掲載の集計結果は、厚生労働省・文部科学省の21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）・人口動態調査の調査票情報を独自集計したものであり、公表数とは一致しない場合がある。

なお、一部固有の名称等を用いていることなどにより、報告書内で表記を統一していない文言がある。

Ⅱ 各調査の概要・まとめ

1. 文献調査

(1) 調査の実施概要等

「科学研究費助成事業データベース」や論文検索サイトを活用し、「体験活動」＋「効果」等のキーワード検索により、日本語での論文・研究レポート等を抽出した。さらに、オンライン上で入手・参照できた資料を基に、体験活動の内容や、その影響・効果として期待されることについて情報整理を行った。

なお、上記の方法で抽出された文献で引用されている文献等についても一部追加で参照し、同様に情報整理を行った。

本調査研究において参照した文献等は本報告書の「参考資料」に一覧にして整理した。整理に当たっては、論文・研究で扱われている活動内容を基に、「自然体験活動」、「社会体験活動」、「生活・文化体験活動」、「その他（複数の分野にかかわるものなど）」に分類し、その上で、それぞれの中での活動内容の詳細や想定される影響・効果の内容等の別に分類した¹。

(2) 調査結果から把握されたこと

①体験活動の影響・効果、及び活動内容との結び付きについて

上記のような方法での検索等の結果として、特に自然体験活動を扱う文献が多く抽出された（図表 1-1-1～図表 1-1-19）。

自然体験活動については、幼児期・学童期のそれぞれについて、体験活動の影響・効果に関する研究がなされており、体験により、「社会的スキル」や「生きる力」というように、広く資質・能力等の育成に寄与する可能性があることが示されている。なお、「リーダーシップ」や「自己効力感」、「レジリエンス」など、個別の能力・意識等に注目した研究事例等も見られる。この他、生命や食、職業・産業のことなど、活動を通じて、特定の事柄に関する関心や意識を高める効果もあるとされている。

社会体験活動については、学童期を対象にした研究が多いと考えられ、「職場体験・キャリア教育」、「農業・酪農体験」、「ボランティア活動」というように、活動の内容別に情報の整理が可能であった（図表 1-2-1～図表 1-2-4）。活動の影響・効果として、「職場体験・キャリア教育」については「自己理解、進路理解、キャリア意識、職業理解等」、「農業・酪農体験」については「産業・生命・食・自然等に対する意識の高まり」というように、特定のテーマ・領域に対する理解や認識を深める効果があるのではないかと考えられる。

¹ 文献等の件数や扱われている内容のまとめ、21 世紀縦断調査で把握できる調査項目の内容等を踏まえて、本報告書では、「自然体験活動」、「社会体験活動」、「生活・文化体験活動」の順に整理した。

「生活・文化体験」に関しては、幼児期・学童期ともに研究の対象となっているが、「遊び」なども含み、より身近な生活の場面での活動実施による影響・効果等に関する分析等がなされている（図表 1-3-1～図表 1-3-7）。

これら、「その他（複数の分野にかかわるものなど）」として整理した内容（図表 1-4-1～図表 1-4-10）も含み、概ね、青少年機構の中間まとめで「子どもの成長を支える 20 の体験」と「体験を通じて育成したい 12 の資質・能力」として整理されたような内容と同様のモデル・イメージで捉えられるような知見が先行調査・研究等により得られていることが、本調査研究で実施した文献調査でも把握・確認されたものと考えられる。

②調査・分析の方法、今回の 21 世紀出生児縦断調査のデータ分析の位置付けについて

先行研究では、大石ほか（2017）²が整理しているように、必ずしも精緻な形でないものも含まれるが、主に、「①実験群と統制群を比較した研究」、「②活動の前後を比較した研究」、「③意識変容の持続性に着目した研究」等がある。

「実験群と統制群を比較した研究」と「活動の前後を比較した研究」に関しては、比較的小規模の集団を対象にした研究が多いと考えられる。「意識変容の持続性に着目した研究」については、活動実施後 1～3 か月後の状況を把握するものが多くっており、また、それよりも長期にわたる影響については過去を振り返っての回顧的な回答データに基づいて行われている。なお、質問紙調査による量的な研究だけでなく、観察やテキスト分析等の質的な研究も実施されている。

今回 21 世紀出生児縦断調査のデータ分析を行うに当たっては、「実験群と統制群」という形での設定は難しいと考えられ、また、「活動の前後を比較する」という設定での検討も、モデル・仮定の設定等、容易ではないと考えられた。

他方で、21 世紀出生児縦断調査のデータについては、大規模かつ一定の代表性のあるサンプルにより体験の影響・効果についての検討ができる。また、回顧的な回答とは別の形で、過去に経験したことがその後の状況に及ぼす影響について明確な時系列の因果の流れに沿った分析結果を得ることができる。さらには、「体験」と「意識等」との関係性について、家庭・保護者の要因の差異も考慮した上での検討ができる。

上記の観点から、本調査研究で実施する 21 世紀出生児縦断調査のデータ分析について、先行調査・研究等とは異なる形での分析結果を得ることができるのではないかと考えられた。

² 大石康彦・井上真理子・野田恵・小玉敏也(2017)「森林体験を伴う環境教育活動による意識変容とその持続性-多摩市立連光寺小学校5年生による1年間の学習活動を事例として-」、『環境教育』27(1),23-32。参考資料での整理番号 1-2-7。

2. ヒアリング調査

(1) 調査の実施概要等

ヒアリング調査の対象は、「文献調査」の結果や、調査検討委員会の委員からの紹介等を踏まえて、活動の内容としてできるだけ多様な事例を取り上げられるように検討を行った。

本調査研究では下記の組織・団体を対象に調査を行い、それぞれ、「体験活動を実践して実感する効果、なぜそのような効果が得られると考えるか」、「体験活動の提供方法、指導・支援方法としてどのようなことが重要であるか」、「今後の推進に当たって意識していること、留意点等」について情報把握を行った。

ヒアリング調査は 60 分～90 分程度の時間で、オンライン会議システム、又は対面で実施をし、音声データにより記録をとった。対象別のヒアリング結果の概要については、本報告書の「参考資料」に一覧にして整理した（「2. 対象別のヒアリング結果概要」①～⑧）。

<ヒアリング調査対象一覧（調査実施順）>

	組織・団体名	実施している体験活動の内容・種類等
①	独立行政法人国立青少年教育振興機構	国立の施設等でのキャンプ等の体験活動、自然の中での遊び等の自然体験
②	公益社団法人国土緑化推進機構	森林環境教育を通じたレクリエーション等の自然体験、奉仕活動等の社会体験
③	特定非営利活動法人キッズドア	低所得・ひとり親世帯の子供を主たる対象とした職業体験、コンサート鑑賞やキャンプ等の体験
④	公益財団法人ラボ国際交流センター	ホームステイ先への訪問や国内への外国人の受け入れ等の国際交流体験
⑤	公益財団法人ハーモニセンター	ポニー等動植物とのふれあい体験、動物の世話も含めたキャンプ等の宿泊体験
⑥	新潟市農林水産部食と花の推進課	学習と農業体験を結びつけた農業体験学習（学校の授業の一環として実施）
⑦	株式会社ラボ教育センター	英語劇を通じての交流・学習活動、異年齢の集団でのキャンプ等の活動
⑧	特定非営利活動法人プレーパークせたがや	プレーパークでの自由な遊びを通じた交流・体験活動

(2) 調査結果から把握されたこと

①体験活動の影響・効果、及び活動内容との結び付きについて

ヒアリング調査からは、それぞれの体験活動の実施主体が、様々な形でその影響・効果を認識していることが把握された。体験活動の影響・効果に関しては文献調査からも把握・整理することができたが、活動の指導者等により語られるエピソード等から、よりリアリティのある形で把握することができた。

体験活動の影響・効果について、ヒアリング調査から把握されたキーワードを順に挙げると、「主体性」、「社会性（社会力）」、「自信」、「人とかかわる力（能動性、協働）」、「自己肯定感」、「豊かな感性」、「問題解決にかかわる力（問題を解決しようとする姿勢）」、「学びに向かうための『原体験』」、「ワクワク感」、「ストレスの軽減」、「将来への夢や希望」、「中退予防」、「幅広い視野」、「他者への感謝」、「受容力」、「忍耐力」、「思いやり」、「興味・関心」、「職業意識」、「挑戦」、「社会貢献」、「許容」、「自立・自律」、「繋がり」、「観察する力」、「身体機能」などがある。

これらについて類似の内容をまとめつつ、活動内容との結び付き方を整理すると、まず、「主体性」、「ワクワク感」、「興味・関心」、「挑戦」といったことは、自ら様々なことに関心を持って取り組んでいこうとする意識・態度であると考えられる。これらについては、自然の中での自由な遊び・活動や、新しいもの・未知のものに触れたり学んだりすることで培われていくものなのではないかと考えられる。

「社会性（社会力）」、「人とかかわる力（能動性、協働）」、「幅広い視野」、「許容」、「繋がり」、「観察する力」などは、他者との関係をつくっていく力や、また、そのかわりの中で自身のことを考える力であろうと考えられる。これらは、キャンプ等の体験活動を通じて集団での生活を経験すること、異なる年齢の人や異なる文化を持つ人と交流すること、自分一人ではうまくできない経験をするなどが関係していると考えられる。なお、「中退予防」ということも、これらの「他者との関係をつくっていく力」と関連が強いのではないかと考えられる。

「自信」や「自己肯定感」といったことに関しては、体験活動を通じて「何かが（自分の力で）できた」、「何か人の役に立つ経験ができた」ということが重要であると指摘されている。あるいは、他の子供たちがやっていることを経験したことがないと、それがコンプレックスになってしまうという説明があった。

「豊かな感性」、「問題解決にかかわる力（問題を解決しようとする姿勢）」、「学びに向かうための『原体験』」、「受容力」に関しては、何かを経験することが次に何かをする上でのベースとなるといった捉え方をされているものと考えられる。「主体性」、「ワクワク感」、「興味・関心」、「挑戦」のキーワードとも近いものであると考えられるが、より、「学ぶこと」や「問題を解決すること」との結び付きが意識されていると考えられる。自然の中での経験や、人間関係に関する経験など、様々な経験が、次に何かをする時の意識や態度に影響すると考えられる。

「ストレスの軽減」や「身体機能」は、心身の健康にかかわるものであると考えられる。自然の中での活動や自由な遊びが、これらの面で良い影響を及ぼすのではないかと指摘されている。

「将来への夢や希望」、「職業意識」は、職業体験等を通じて将来のことを思い描く・考えることにな

るといった形で説明されている。なお、その影響・効果の表れ方として、農業などの特定の産業・職業への意識が高まるといったことと、広く将来に明るい展望を持つことができるといったこととの両面があると考えられる。

「他者への感謝」、「思いやり」、「社会貢献」については、自身以外のものとの関係性についての意識・態度であると考えられる。これらは、「社会性（社会力）」、「人とかかわる力（能動性、協働）」、「幅広い視野」、「許容」、「繋がり」、「観察する力」のキーワードとも近いものであると考えられるが、人間関係が形成された上での、他者への心情・態度の表出の面を捉えているのではないかと考えられる。

「忍耐力」や「自立・自律」は、「できなかったことが次第にできるようになる」といったこととして捉えられているのではないかと考えられた。繰り返し経験する活動の中で子供の成長が見て取れるといった説明がなされている。

②体験活動の提供方法、今後の推進等に関しどのようなことが重要と考えられるか

上記のように、体験活動の影響・効果について様々に認識されていることが把握されたが、ヒアリング調査からは、「どのように体験させればよいか」や「体験では、どんなかかわりがあるか」といったことに関しても、様々な話を聞くことができた。

複数の対象から共通して聞かれたことの1つが、「多様性を経験する」ということの重要性である。「自然環境など変化するのが当たり前という環境の中で適応力を身に付ける」、「多くの大人とかかわることで社会には様々な人がいることを知る」、「異年齢の、多様な人たちと生活をともにすることで他者との違いや共通点を見つけ出す」といったように、置かれる環境やかかわる人々について、より多様な状況を体験させることが重要であることが指摘されている。

また、「子供が主体である」ということも複数の対象から聞かれた。関連して、大人としては「褒める」、「一緒に行く」、「教え込むのではなく引き出す」、「見守る」といったかかわり方が重要であることが指摘されている。特に幼児期の活動に関してそのような指摘がなされており、幼児期に様々なことを自分で「やれた」、「できた」という経験をすることが重要なのではないかと考えられる。

他方で、主に小学生以降の時期に関しては、「学習と結び付ける」ということの重要性も指摘されている。教科と結び付きのある内容を体験することや、事前・事後の学習をしたり、活動の目標・テーマを意識させたりすることが、活動の効果をより高めることになるのではないかと考えられる。

機会の提供に関しては、障害を持っている子供や経済的に豊かでない家庭の子供など、どのような子供にも体験の機会を提供することが重要であることが指摘されている。現状ではこれらの点で機会の差があるということでもあり、問題意識が持たれていることも伺える。これらの課題への対応という点も含め、今後機会の充実を図っていく上では、地域との連携により活動を推進する視点も重要であること、学校教育の中で体験の機会を提供していくことも重要であること、より身近な場面でのかかわり等を意識することも重要であることなどが指摘されている。

3. 21 世紀出生児縦断調査のデータ分析

(1) 調査の実施概要等

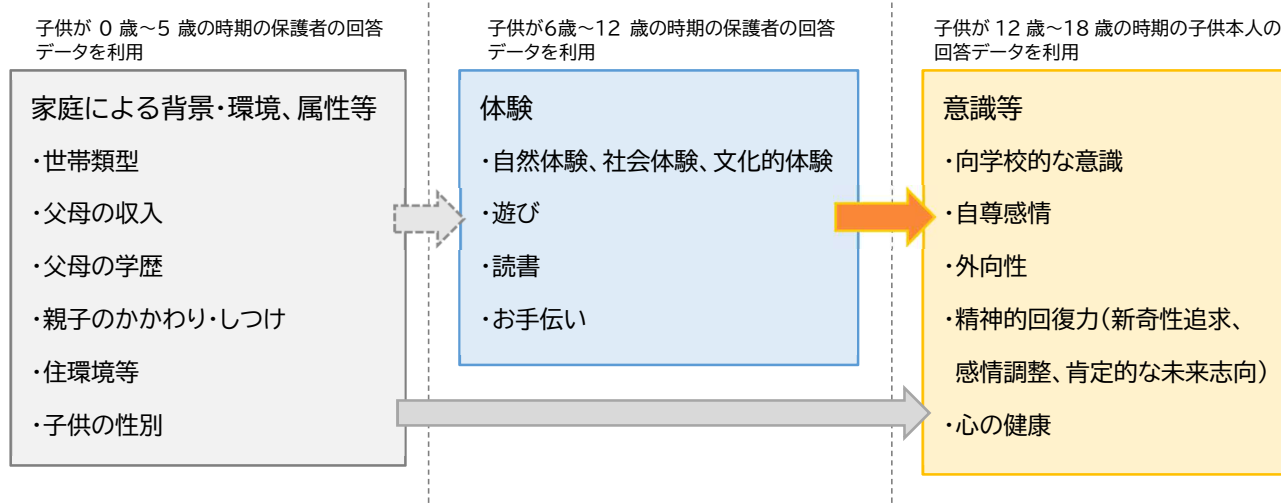
①分析の枠組み

「文献調査」や「ヒアリング調査」で得られた情報や、青少年機構が「子どもの成長を支える 20 の体験」や「体験を通じて育成したい 12 の資質・能力」として示した内容を踏まえ、21 世紀出生児縦断調査のデータから把握可能な「体験」と「意識等」の内容について、それぞれ検討を行った。また、「体験」と「意識等」だけでなく、「家庭による背景・環境、属性等」についても検討を行い、あわせて分析を行うことができたようにした。

21 世紀出生児縦断調査の各回の調査で得られている調査項目の内容等を精査し³、本調査研究では、次の内容・枠組みでの分析を実施することとした。このような内容・枠組みでの分析により、家庭による背景・環境、属性等の要因を踏まえた上でも、「多くの体験を経験した子供はその後の意識等が高い」ということを明らかにすることを試みた。

なお、「家庭による背景・環境、属性等」は子供が 5 歳までの時期の保護者の回答データ、「体験」は子供が 6 歳～12 歳の時期の保護者の回答データ、「意識等」は子供が 12 歳～18 歳の時期の子供本人の回答データを用いて分析を行った。

「体験」と「意識等」との関係性について分析をするに当たり、「体験」の実施状況は保護者が、「意識等」については子供本人が回答したものとなっており、それぞれ別の人が別のタイミングで回答した情報を結び付けた分析を行っているという点も今回の分析の特徴の 1 つである。



³ それぞれどの調査回のどのような調査項目に着目したのかについては「参考資料」の「3. 21 世紀出生児縦断調査のデータ分析での使用項目・変数化の方法等」に示した。

②「家庭による背景・環境、属性等」に関する項目・変数について

「家庭による背景・環境、属性等」として、「世帯類型」、「父母の収入」、「父母の学歴」、「親子のかかわり・しつけ」、「住環境等」、「子供の性別」の大きく6つの点に着目した。

「世帯類型」、「父母の収入」、「父母の学歴」は、主に家庭の社会経済的背景を把握するための項目として設定した。「親子のかかわり・しつけ」については、社会経済的背景の影響を受けるものであると考えられるが、より直接的に保護者と子供とのかかわりの状況を把握するための項目として設定した。

「住環境等」については、自然体験など、一部住環境と活動実施の状況との関係が見られるのではないかと想定されたことから、関連性を把握することと、統制変数として分析に用いることの両面を意識して項目を設定した。

「子供の性別」についても、経験する体験の内容や、その後の意識等に関する回答状況については性別による差異があることが想定されたことから、統制変数の1つとして分析に用いた。

③「体験」に関する項目・変数について

「体験」については、「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」、「遊び」、「読書」、「お手伝い」の大きく6つの点に着目した。なお、「自然体験」は「キャンプ、登山、川遊び、釣り」、「海水浴、マリンスポーツ」、「ウインタースポーツ」、「社会体験」は「農業体験」、「職業体験」、「ボランティア」、「文化的体験」は「動植物園・水族館・博物館・美術館体験」、「音楽・演劇・古典芸能鑑賞又は体験」、「スポーツ観戦」の内容を反映するものである。平成25年1月21日中央教育審議会答申「今後の青少年の体験活動の推進について」で示されている枠組みとは若干異なるが、従来「体験活動」として示されてきたものと合致するものである。なお、回帰分析においては、「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」のそれぞれを個別に説明変数として投入したモデルと、3つ同時に投入したモデルの両方を検討した。

「遊び」、「読書」、「お手伝い」については、青少年機構の「子どもの成長を支える20の体験」に示されている内容である。青少年機構の整理では、これらの活動は「生活習慣」と分類され、「自然体験」などの「体験活動」とは若干異なる位相にあるものとされている。本調査研究では、多様な「体験」に関し、その後の状況に及ぼす影響・効果について検討するという観点から、これらの項目についても分析を実施した。なお、「遊び」については、ヒアリング調査で得られた「多様性を経験する」という観点を踏まえ、「遊び相手の多様性」、「遊び場所の多様性」、「遊び相手の人数の多寡」の3つの要素に着目した分析を行った。

④「意識等」に関する項目・変数について

「意識等」については、「向学校的な意識」、「自尊感情」、「外向性」、「新奇性追求」、「感情調整」、「肯定的な未来志向」、「心の健康」の7つの点に着目した。変数・指標の作り方や名称は一部先行研究に基づいているが、ヒアリング調査で得られたキーワードとの対応関係も意識して検討を行った。

「向学校的な意識」は、「豊かな感性」、「問題解決にかかわる力（問題を解決しようとする姿勢）」、「学びに向かうための『原体験』」、「受容力」に対応すると考えたものであり、勉強・授業を楽しんでいるか否かを把握した。

「自尊感情」は、「自信」や「自己肯定感」に対応する内容である。

「外向性」については、「社会性（社会力）」、「人とかかわる力（能動性、協働）」、「幅広い視野」、「許容」、「繋がり」、「観察する力」との対応関係を意識し、特に対外的な積極性を把握できる指標として検討を行った。

「新奇性追求」、「感情調整」、「肯定的な未来志向」は、もともと先行研究では「精神的回復力」の下位尺度として設定されていた内容であるが、「新奇性追求」については「主体性」、「ワクワク感」、「興味・関心」、「挑戦」の内容を、「感情調整」は「他者への感謝」、「思いやり」、「社会貢献」、あるいは「忍耐力」や「自立・自律」の内容を、「肯定的な未来志向」は「将来への夢や希望」、「職業意識」の内容を、それぞれ反映しうるものとして検討を行った。

「心の健康」は、「ストレスの軽減」や「身体機能」に対応するものとして、特に心理面に関する内容を把握した。

⑤分析の実施内容

内容として、本報告書では次のような事項に関する分析を実施している。各分析結果の詳細は、本報告書の「参考資料」に図表にて掲載した。

整理記号	分析の方法	着目している項目・観点等	掲載場所(図表番号との対応関係)
A	2項目間の分析	「体験」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係性	図表 4-1-1～図表 4-11-7 で示したクロス集計
B	2項目間の分析	「意識」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係性	図表 5-1-1 以降、図表 X-1-1～図表 X-1-7 の図表番号で示したクロス集計及び平均値に関する集計
C	2項目間の分析	「意識」と「体験」との関係性	図表 5-2-1 以降、図表 X-2-1～図表 X-2-11 の図表番号で示したクロス集計及び平均値に関する集計
D	回帰分析	「家庭による背景・要因・属性等」の影響を踏まえた上での、「意識」と「体験」との関係性(影響・効果)	図表 5-3-1 以降、図表 X-3-1～図表 X-3-7 の図表番号で示した回帰分析の結果、及び図表 14-1～図表 14-5 として再整理した結果
E	回帰分析等	父母の収入の水準により分類した上での、「意識」と「体験」との関係性 (第 8 回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」に着目した分析)	図表 5-4-1 以降、図表 X-4-1～図表 X-4-6 の図表番号で示した回帰分析、クロス集計、平均値に関する集計、及びグラフ

まず、「A」として、「体験」と「家庭による背景・要因・属性等」に関し、それぞれの項目・変数によるクロス集計や平均値差の比較分析を行い、関係性を把握した。また、「B」及び「C」として、同様の分析を行うことで、「意識等」の各項目・変数について、「体験」や「家庭による背景・要因・属性等」の各項目・変数との関係を把握した。2つの項目間の関係性に関する分析として、「体験」と「意識等」との間の関係だけでなく、「家庭による背景・環境、属性等」と「体験」、「家庭による背景・環境、属性等」と「意識等」との間の関係についても分析し、項目間の関連性について体系的に捉えられるようにした。

その上で、「D」として、「家庭による背景・環境、属性等」と「体験」の各項目・変数を説明変数、「意識等」の各項目を被説明変数とした回帰分析を実施した。回帰分析により、「家庭による背景・環境、属性等」によらず、また、一定の時間を経た後も、「体験」が「意識等」にポジティブな影響・効果を及ぼしていると考えられるかについて明らかにすることを試みた。

さらに、「E」として、一部の項目（第 8 回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」に関する項目）については、父母の収入の水準により分類した上での分析も行い、収入の水準による傾向の違いや共通点等を把握することも試みた。

(2) 調査結果から把握されたこと

①「家庭による背景・環境、属性等」を踏まえた「体験」の影響・効果について⁴

分析内容「A」として、「体験」と「家庭による背景・要因・属性等」について、それぞれの項目・変数によるクロス集計を行うと、概ね、父母の収入や学歴の水準が相対的に高い方が、子供が様々な体験をしているという関係にあることが把握された⁵。

また、分析内容「C」に関し、多くの場合、「体験」と「意識等」との間には正の関連性があることが把握されるが、同様に、分析内容「B」に関し、「家庭による背景・要因・属性等」と「意識等」の間にも、多くの場合正の関連性が見られている。

このような関係性が見られることを踏まえ、本調査研究では、分析内容「D」として、「体験」と「意識等」との間関係が「家庭による背景・要因・属性等」による疑似的なものではないのかということについて検討を行うため、回帰分析を実施した。分析の結果、家庭・保護者による影響を踏まえた上で、それとは別に、小学生時期の体験がその後の高校生等の時期の意識等の在り方に影響を及ぼしていることが明らかになった。今回の分析により、小学生時期に経験したことが、一定の時間を経た後も、ポジティブな影響・効果を及ぼしていることが示された。

回帰分析の結果を踏まえて、分析内容「E」として、さらに父母の収入の水準別に分類した上で実施した分析でも、概ね、「体験」と「意識等」との間には正の関連性があることが把握された⁶。分析により、収入の水準が相対的に低い家庭の子供であっても、体験をする機会が比較的多くあった子供はその後の意識等の水準が高い傾向にあることが明らかになった。また、一部の分析（例えば図表 8-4-1、図表 9-4-1、図表 10-4-1）において、体験がその後の意識等の水準に影響する度合いが、収入の水準が相対的に低い家庭の子供に関して特に高いのではないかと考えられるような結果も得られた⁷。

父母の収入や学歴の水準等により「体験格差」があることが懸念される場所であるが、機会に恵まれない子供たちに体験の機会を提供することが重要であり、また、効果的であるということを示唆する結果が得られたと考えられる。

⁴ 本調査研究では、回帰分析により「家庭による背景・環境、属性等」の影響を踏まえた上での体験活動の影響・効果について検討を行っているが、「実験群と統制群を比較した研究」や「活動の前後を比較した研究」ではないことにはあらためて留意されたい。また、回帰分析の結果について、いずれも決定係数の値が高いわけではないという点にも留意が必要である。なお、決定係数の値が低いことについては、過去の体験活動とその後の意識等との関係を分析したものであることや、体験活動は保護者の回答で意識等は子供本人の回答であるということも影響しているのではないかと考えられる。

⁵ ただし、「遊び」に関する項目については逆の傾向が見られ、父母の収入や学歴の水準が相対的に低い方が多様な相手・多様な場所で遊んでいる割合が比較的高い。

⁶ 本報告書では、第 8 回調査の自然体験・社会体験・文化的体験に着目し、等価世帯所得の水準による分類別の回帰分析・クロス集計・平均値差の分析（分散分析）を追加的に行った。

⁷ 本調査研究では、「体験はその後の意識等に影響・効果を有するか」、また、「どのような体験がその後の意識等に影響・効果を有するか」ということについて一定の分析結果を得ることができたと考えられるが、「どのような体験活動をどのようなタイミングで実施することがより効果的であるか」といったことや、「体験活動がどのような子供たちに対してより効果的であるか」ということについて、一部分分析を試みているが、十分に検討ができたわけではない。調査実施時期が異なる回のデータを様々な組み合わせた分析を行うことや、回帰分析の結果から把握される係数の大きさ等に着目するなど、今後別の観点からのアプローチでの分析を行うことも検討するのではないかと考えられる。

②多様な「体験」の影響・効果について

また、本調査研究の分析により、体験とその後の意識等との間の結び付き方は、「体験」の内容によって様ではないことも明らかになった。

回帰分析の結果により、例えば、「自然体験」は、「自尊感情」や「外向性」等については正の関連性が見られたが（図表 8-3-3、図表 8-3-4、図表 9-3-3、図表 9-3-4）、中学生・高校生の時期の「向学校的な意識」との関連性は統計的に有意なものではなかった（図表 6-3-3、図表 6-3-4、図表 7-3-3、図表 7-3-4）。他方で、「社会体験」については、例えば「自尊感情」との関連性は有意ではないが、中学生・高校生の時期の「向学校的な意識」との関連性は見られるという結果となっており、体験の内容によって影響・効果の表れ方が異なるということが示唆されている。なお、「文化的体験」については、第 8 回調査時点・第 12 回調査時点ともに、今回「意識等」として着目したいずれの項目・指標に対しても、正の関連性が見られることが明らかになった（図表 14-1、図表 14-2 など）。

「遊び」については、特に遊び相手の多様性（年上、年下、家族以外の大人と遊ぶか）と意識等との関連性がより明瞭に見られ、これら多様な相手と遊ぶ機会があった者の方が、その後様々な意識等が高いという結果になっている（図表 14-3 など）。このような結果はヒアリング調査の結果とも整合的であり、「多様な他者」との交流が重要であることが示唆される結果となっている。

「読書」については、「向学校的な意識」について、小学生・中学生・高校生の各段階で正の関連性が見られる（図表 5-3-6、図表 6-3-6、図表 7-3-6）。「自尊感情」、「新奇性追求」、「感情調整」、「肯定的な未来志向」についても正の関連性が見られるが、「外向性」と「心の健康」については有意な関係ではない（図表 14-4、図表 9-3-6、図表 13-3-6）。確かに、特に「外向性」との関係については読書活動との関連性は想起しにくく、活動の影響・効果について、その特性が表れた結果となっているのではないかと考えられる。

「お手伝い」については、今回「意識等」として着目したいずれの項目・指標に対しても、正の関連性が見られるという結果であった（図表 14-5 など）。回帰分析において、幼少期の「父母の年収」や「父母の学歴」、「親子のかかわり・しつけ」等の要因を踏まえた上でも見られた影響・効果であることから、その後の段階での「お手伝い」が別途重要な意味を持っていることが伺える。データ分析から明らかにされたことではないが、ヒアリング調査結果を踏まえると、例えば、お手伝いを通して子供は「誰かの役に立つ」、「他者から褒められる」という経験をしており、そのことがその後の意識等に影響している、という可能性があるのではないかと考えられた。

4. 全体を通じたまとめ、考察

本調査研究で実施した調査・分析の結果から、様々な観点から、あらためて、青少年にとって「体験」が重要であることが示された。

文献調査は先行研究の内容について参照・情報整理したものであり、先行研究によっても様々な形で「体験活動の影響・効果」について調査・分析がなされていることを示した。その上で、ヒアリング調査では、それぞれの体験活動の実施主体が様々な形でその影響・効果を認識していることが把握され、語られるエピソード等から、活動内容と影響・効果との結び付きについて、よりリアリティのある形で把握することができた。

文献調査・ヒアリング調査の結果を受けて実施した 21 世紀出生児縦断調査のデータ分析では、家庭・保護者による影響とは別に、学童期の経験が、その後一定期間を経た青年期における意識等と関連性を有することが明らかになった。

また、今回着目した「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」、「遊び」、「読書」、「お手伝い」が、それぞれ異なる形でその後の意識等と結びついていることが明らかになり、子供たちに多様な形で体験の場や機会を作っていくことが重要であるということも確認された。

本調査研究を通じて、「体験」が充実している子供については、その背景として、父母の収入や学歴が高い傾向にあることも把握された。一般的に、体験の場や機会が提供される度合いには、これら家庭の要因によって格差があるものと考えられる。ただし、父母の収入が相対的に低い家庭の子供であっても、体験の機会が多くあった子供については、その後の意識等の水準が高い傾向にあることも本調査研究の分析により明らかになっている。また、一部の分析においては、体験がその後の意識等の水準に影響する度合いが、収入の水準が相対的に低い家庭の子供に関して特に高いのではないかと考えられるような結果も得られた。

今後は、子供が置かれている家庭環境等によらず、全ての子供が十分な体験を経験できるよう、環境等の差異も踏まえた上で、子供の生活環境の中に体験の機会を創出・提供していくということが、青少年の成長において重要であることが示されたと考えられる。家庭環境等による「体験格差」があるからこそ、機会に恵まれない子供たちに体験の機会を提供することが重要であり、また、効果的であるのではないかと考えられる。

今後機会の充実を図っていくということに関し、ヒアリング調査では、地域との連携により活動を推進すること、学校教育の中で体験の機会を提供していくこと、より身近な場面でのかかわり等も意識することなどが重要であることも指摘された。また、「どのように体験させればよいか」や「体験では、どんなかかわりがあるか」といったことに関し、「多様性を体験する」、「子供が主体である」、「学習と結び付ける」といったキーワードにより、「質的な側面」で重要と考えられることも明らかになった。

これら本調査研究で整理された情報や得られた分析結果を基に、更なる取組の充実等が期待される。

参考資料（各調査・分析結果の詳細）

1. 文献調査により収集・整理した文献等の一覧

(1) 自然体験活動の影響・効果について

①社会性・社会的スキル、「生きる力」など

図表 1-1-1 「幼児×社会性・社会的スキル」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-1-1	キャンプ経験が5歳児の自主性の向上に及ぼす影響	遠藤浩 飯田稔	1989	日本体育学会 第40回大会予稿集、p.701	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児のキャンプ前後の家庭での自主性の変化とキャンプにおける自主性行動を検討。 ・キャンプ経験によって5歳児の家庭での自主性に向上が見られた、とされている。
1-1-2	キャンプ中における幼児の人間関係形成プロセス	山本裕之 清河明彦 山本裕美子 平野吉直 坂本昭裕	2010	国立青少年教育振興機構研究紀要、第10号	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児がキャンプ中にどのように人間関係を築き上げていったか、そして、人間関係を築き上げている要因は何かを明らかにすることを目的に、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析。 ・キャンプに参加することによって「社会性の醸成」と「自立行動の芽生え」につながる行動をとっていたことや、「他者とかかわることの心地よさ」を感じていたことが明らかになった、とされている。
1-1-3	幼児・低学年児童における継続型組織キャンプの効果に関する研究	伊原久美子 中野友博 飯田稔	2013	野外教育研究 16(1),31-44	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児・低学年児童における継続型組織キャンプの効果を検討。 ・事前事後で保護者に対して調査を実施。キャンプ参加者は「積極性」や「協調性」など、非参加者と比較してキャンプで育つ力が向上し、その効果はキャンプ後、キャンプ1か月後まで維持されることが明らかとなった、とされている。
1-1-4	幼児キャンプの効果に関する研究－幼児用自然体験活動効果測定尺度の作成とその試用－	福富優 平野吉直 中野友博	2020	野外教育研究 23(2),1-14	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期における自然体験活動の効果を多角的に測ることのできる「幼児用自然体験活動効果測定尺度」を作成。幼児を対象としたキャンプの検証を行う。 ・キャンプ開始前後の調査比較(回答者は保護者)を行い、「社会性」や「積極性」等について効果が見られたとされている。

図表 1-1-2 「児童・生徒×社会性・社会的スキル」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-1-5	自然体験活動が児童・生徒の心理的側面に及ぼす影響—少年自然の家主催事業参加者の過去の自然体験活動の有無からの比較—	叶俊文 平田裕一 中野友博	2000	野外教育研究, 4(1), 39-50	・青少年教育施設が主催した雪上を中心とした自然体験活動を通じて、子どもたちがどのような心理的变化を引き起こしているのかについて検討する。 ・友人コンピテンスや活動、仲間、自分への取組という状況的な効果力感を培い、今後も意欲的に取り組めると認識することができるようになった、とされている。
1-1-6	組織キャンプ体験による児童の社会的スキル向上効果	西田順一 橋本公雄 徳永幹雄 柳敏晴	2002	野外教育研究 5(2)、45-54	・組織キャンプ体験に伴う社会的スキル向上の効果について検討する。 ・一定の効果が見られたのは、「向社会的スキル」であったとされている。
1-1-7	長期キャンプ体験における参加者の社会的スキルの変容に関する研究～参加者の特性による変容過程の違いに着目して～	青木康太郎 永吉宏英	2003	野外教育研究 6(2),1-12	・長期的なキャンプ体験が、参加者のスキルに与える影響を明らかにするとともに、参加者の特性による社会的スキルの変容過程を比較することによって、その変容の要因を明らかにする。 ・キャンプ体験以前から時系列的に調査することによって、日常生活からキャンプへと場面が転換することによる社会的スキルの低下があったことなどを明らかにした、とされている。
1-1-8	キャンプ体験が児童の思いやりに与える影響—「森の体験キャンプ」に着目して—	向坊俊 城後豊	2005	北海道教育大学紀要(教育学編)、第 55 巻第 2 号 19-26	・キャンプ体験が児童の思いやりに与える影響について調査分析し、キャンプ体験の効果について検討する。 ・森の体験キャンプは、思いやりを構成する「自己表現」、「相互理解」、「協力・支援」を育むことに効果があったと示唆された、とされている。
1-1-9	子どもの自立性に関わる遊びと自然体験—自立性の規定要因の統計的因果モデル—	本間玖美子	2007	Health and Behavior Sciences 5 (2),37-44	・子どもの自立性が子ども自身の自然体験、親の自然体験や子どもの遊びの中からどの程度養成されるのかを検討。 ・子どもの自立性の度合いは子ども自身の自然体験度の寄与が最も大きく、遊びスコアがそれに次ぐが親の自然体験度はほとんど影響していないことが分かる、とされている。

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-1-10	長期継続型デイ・キャンプが参加児童の社会的スキルに及ぼす効果～キャンプ場面による学習と日常場面への般化の関連に着目して～	小山諒 岡村泰斗 井村仁	2008	国立青少年教育振興機構研究紀要, 第8号 65-75	<ul style="list-style-type: none"> ・長期継続型デイ・キャンプ参加児童がデイ・キャンプで獲得した社会的スキルを日常場面で活かすことが、次回のデイ・キャンプでの社会的スキルの獲得に及ぼす効果を検証。 ・長期継続型デイ・キャンプにおいて、キャンプ場面だけではなく、日常場面への学習成果の一般化を支持する必要性が示唆された、とされている。
1-1-11	組織キャンプにおける参加児童の社会的行動に関する研究	山脇あゆみ 遠藤浩	2011	野外教育研究 14(2),1-12	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年児童において教育キャンプの日程が進むにつれて向社会的行動の増加と反社会的行動の減少が見られるであろうとの仮説についての検証を実施。 ・組織キャンプという環境の中では、向社会的行動が生じやすいということが示されている、とされている。
1-1-12	児童における身体活動とレジリエンスおよび社会的スキルとの関連～自然体験活動に着目して～	中島祐介 田中純夫	2014	順天堂スポーツ健康科学研究第5巻第2号(通巻65号), 39-43	<ul style="list-style-type: none"> ・レジリエンス及び社会的スキルを養う機会として、自然体験活動にある身体活動の重要性を検討する。 ・「自然体験活動を5回以上経験している者は、自然体験活動を全く経験していない者より社会的スキルが高いことが示唆される」とされている。
1-1-13	子供の生活力に関する実態調査	国立青少年教育振興機構	2015	報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の生活スキル(コミュニケーションスキル、礼儀・マナースキル、家事・暮らしスキル、健康管理スキル、課題解決スキル)と体験活動、生活環境、保護者の子供とのかかわりとの関係について検証。 ・自然体験やお手伝い、読書をする事が多い子供ほど生活スキルが高い傾向にあることなどが明らかになった、とされている。

図表 1-1-3 「児童・生徒×『生きる力』」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-1-14	長期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす影響	橘直隆 平野吉直 関根章文	2003	野外教育研究 6(2),45-56	<ul style="list-style-type: none"> ・長期キャンプに参加した小中学生を対象に、キャンプ前後で生きる力がどのように変容するかを検証する。 ・14の下位尺度及び3つの能力全てで得点が有意に増加した、とされている。

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-1-15	長期・短期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす効果	中川もも 岡村泰斗 黒澤毅 荒木恵理 米山絵理	2005	野外教育研究 8(2),31-43	<ul style="list-style-type: none"> ・2泊3日の短期キャンプと、2週間の長期キャンプが小中学生の「生きる力」に及ぼす効果を比較する。 ・それぞれ異なる形で効果が見られており、また、長期キャンプの「判断力」の向上が短期キャンプと比べて大きいことなどが明らかになった、とされている。
1-1-16	キャンプが子どもの大脳活動と「生きる力」に及ぼす影響	瀧直也 平野吉直 寺沢宏次	2005	国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要第5号,45-55	<ul style="list-style-type: none"> ・初日と最終日に行った go/no-go 課題実験とアンケート調査による「生きる力」得点の結果を照らし合わせ、その関連性を見出し、キャンプの教育的効果を具体的に明らかにする。 ・キャンプ経験による子どもの大脳活動の発達と「生きる力」の向上に関連性が見出せた、とされている。
1-1-17	水辺活動におけるウォーターワイズプログラムが児童の生きる力に及ぼす効果	青木康太郎 福田芳則 谷健二 下地隆 小松由美	2005	野外教育研究 8(2),59-70	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーターワイズプログラムが生きる力の向上効果に及ぼす影響をより詳細に検証する。 ・ウォーターワイズプログラムは、生きる力のうち、身体的耐性を除く 13 因子に向上効果がある、とされている。
1-1-18	通学型キャンプが子どもの「生きる力」に及ぼす影響	瀧直也 新島邦彦 平野吉直	2007	国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要第7号,1-14	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども IKR 評定用紙」を用いて、キャンプ1週間前、キャンプ初日、キャンプ最終日、キャンプ1か月後、キャンプ2か月後の計5回調査を実施。 ・参加者の「生きる力」は、キャンプ初日からキャンプ最終日で有意に向上し、キャンプ最終日、キャンプ1ヶ月後、2ヶ月後それぞれの間で有意な差は見られなかったことや、キャンプ1週間前からキャンプ初日で有意に向上したことなどが明らかになった、とされている。
1-1-19	5泊6日間の臨海学校が児童の生きる力に及ぼす効果	矢野正	2007	野外教育研究, 11(1), 51-64	<ul style="list-style-type: none"> ・野外教育の1つである臨海学校に着目し、高学年児童の「生きる力」の変容を明らかにするとともに、その教育効果に資する基礎的データを得る。 ・児童への IKR 評定用紙の分析結果では、「生きる力」得点が臨海学校直後に向上し、臨海学校1か月半後も維持された、とされている。

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-1-20	無人島キャンプ体験が青年に及ぼす教育効果について	黒島直人 服部英二 吉田章 林丈	2009	国立青少年教育振興機構研究紀要第9号, 133-141	<ul style="list-style-type: none"> ・「第35回無人島に挑む全国青年の集い」参加者の「生きる力」の獲得や自己の成長に寄与することができるかなどについて検証する。 ・無人島キャンプ体験が参加者の態度変容などに影響を及ぼし、「生きる力」の向上に有効であることや、非日常的な生活への環境適応に関する有効な知見を得ることができた、とされている。
1-1-21	小学生の集団宿泊活動の教育効果—小学校自然体験活動のモデルプログラムについて—	小林道正 杉本克之 佐伯英人	2010	国立青少年教育振興機構研究紀要, 第10号, 109-117	<ul style="list-style-type: none"> ・開発したモデルプログラムを実践し、その教育効果を検証する。 ・12の尺度(「非依存」、「積極性」、「明朗性」、「交友・協調」、「現実肯定」、「視野・判断」、「自己規制」、「自然への関心」、「まじめ勤勉」、「思いやり」、「日常的行動力」、「野外技能・生活」)において、実践の前後で有意な差異が見られた、とされている。
1-1-22	学校教育における自然体験活動の効果と課題—兵庫県『自然学校』での実践事例について—	畑祐介 畦浩二	2010	日本理科教育学会近畿支部大会発表要旨集 2010, 71	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県の小学5年生全員を対象に実施している自然体験活動『自然学校』を事例に、自然体験活動が参加児童の「生きる力」に与える効果と課題を明らかにする。 ・『自然学校』は、参加児童の「生きる力」の向上に効果があった、とされている。
1-1-23	体験活動が子どもに与える影響—2年間の体験活動事例を通して—	時代 明石要一	2012	千葉大学教育学部研究紀要 60, 121-132	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対する体験活動の影響を検討する。 ・一週間の自然体験・生活体験・集団宿泊体験活動を通じて、子どもは「生きる力」が増強し、学級の凝縮性が高まり、生徒間あるいは教師と生徒間の連帯感が増え、仲間関係がより開放的に変化していることなどが明らかになったとされている。
1-1-24	青年の家における主催事業(体験活動)の教育効果について—「生きる力」の測定・分析ツールを用いた結果より—	市山高太郎 山田力也	2016	西九州大学健康福祉学部紀要 46, 13-22	<ul style="list-style-type: none"> ・「IKR測定容姿」を用いた、「夏！子ども体験塾」の効果検証を行う。 ・生きる力と3つの上位能力は、事業直前(Pre)より事業終了直後(Post1)及び事業終了約1ヶ月後(Post2)の値が全て上昇しており、本事業が参加者の生きる力の全体にプラスの効果を与えたことが明らかになった、とされている。
1-1-25	小学校における自然体験活動の心理教育的効果の検討	桑原千明 小野屋春香	2018	文教大学教育学部紀要 52, 119-127	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事として行われる短期間の自然宿泊体験である宿泊学習が、児童の「生きる力」及び社会的行動に及ぼす効果を明らかにする。 ・「リーダーシップ行動」、「協調的行動」が増加、「自己中心的行動」が減少し、3週間後までその効果は維持された、とされている。

図表 1-1-4 「過去の体験×現在の社会性・社会的スキル、生きる力」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-1-26	子どもの体験活動の実態に関する調査研究	国立青少年教育振興機構	2010	報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返る形で子供の頃の体験と体験を通じて得られる資質・能力との関係について検証。 ・子供の頃に「自然体験」や「友だちとの遊び」などの体験が豊富な人ほど、意欲・関心、規範意識、将来意識が高くなる傾向が見られた、とされている。
1-1-27	幼少期の自然体験と大学生の社会性との関係－親の養育態度をふまえて－	山本俊光	2012	環境教育 22(1),14-24	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期の自然体験の実態、自然体験と親の態度、親の態度と社会性、自然体験と社会性との関係について検討。 ・多くの自然体験と社会性(共感や社会的スキル)に関連が見られた、とされている。
1-1-28	子供の頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究	国立青少年教育振興機構	2018	報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・社会を生き抜くために必要な資質・能力(へこたれない力、自己肯定感、意欲、コミュニケーション力)を高める体験活動の在り方について調査研究を実施。 ・成人を対象に、子供の頃の体験(家庭・地域・学校での体験)や人間関係(親、先生、友だち、近所の人)と社会を生き抜く資質・能力について調査を行い、その関係について検証。 ・子供の頃、「家族行事」(家庭)、「友だちとの外遊び」(地域)、「委員会活動・部活動」(学校)を多くしていた人や、「お手伝いや家族行事といった家庭での体験が多く、家族との愛情や絆を強く感じていた人」、「外遊びを多くし、遊びに熱中していた人」ほど、社会を生き抜く資質・能力が高い傾向にあることが分かった、とされている。

②自然や環境等に対する態度形成・意識向上

図表 1-1-5 自然や環境等に対する態度形成・意識向上に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-2-1	キャンプにおける環境教育・冒険教育プログラムが参加者の自然に対する態度に及ぼす効果の比較研究	岡村泰斗 飯田稔 橘直隆 関智子	2000	野 外 教 育 研 究,3(2),1-12	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場面に環境教育プログラムと冒険教育プログラムを導入し、それぞれのプログラムが参加者の自然に対する態度に及ぼす効果を比較した。 ・環境教育、冒険教育プログラムを導入したキャンプにより、参加者の自然に対する認知的、感情的態度はキャンプに参加しなかったものに比べキャンプ後に向上し、キャンプ 1ヶ月後まで維持された、とされている。
1-2-2	子ども長期自然体験村事業に関する評価研究 ―参加者の達成動機、友人関係、自然認識に着目して―	岡村泰斗 飯田稔 関智子	2001	レジャー・レクリエーション研究 第 44 号,1-9	<ul style="list-style-type: none"> ・4 つの子ども長期自然体験村事業を対象とし、参加者の達成動機、友人関係、自然認識の成長の観点から評価を行う。 ・子ども長期自然体験村事業は、参加者の自然認識に効果を及ぼしたが、達成動機と友人関係に対し一部の成果しか得られなかった、とされている。
1-2-3	ウォーターワイズにおける教育効果に関する研究	青木康太郎 酒井哲雄 植木弥生	2007	国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要, 第 7 号,29-40	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーターワイズにおける教育効果の構成概念を明らかにするとともに、教育効果の検証を行う。 ・ウォーターワイズは、児童の海洋環境に対する認識を深め、海に対する関心を高めるとともに海洋環境や文化の保全意識、創造力を向上させ、社会的な行動を増加させる教育効果があることなどが明らかになった、とされている。
1-2-4	森林環境学習「やまのこ」事業が児童の森林への意識にもたらす影響	岩西哲 森永紗江子	2011	環境教育 21(1),16-27	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回答内容を事前・事後間で比較、分析し、児童たちの森林への好嫌度や思い描く森林像、森林の多面的機能への理解が、全体としてどのように変化したのかを明らかにする。 ・「やまのこ」前後での児童の意識変化は、児童達の描く森林像がより具体性を帯びたものになっていたことなどが明らかになった、とされている。
1-2-5	都市域の自然体験活動としてのミツパチプロジェクトに関する研究	山田順之 曾根佑太 古谷勝則	2011	日本造園学会 全国大会 研究 発表論文集 抄録 123-123	<ul style="list-style-type: none"> ・都市域で増加しているミツパチプロジェクトを事例として取り上げ、ミツパチプロジェクトの実態調査を行うとともに、それを活用した自然体験活動の効果を検証する。 ・「危険性に関する意識」、「自然環境に関する関心」等の促進効果が明らかになった、とされている。

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-2-6	小学校におけるビオトープを用いた自然体験活動が児童に及ぼす教育的効果—土壌動物・種子散布の指導事例をもとに—	塩俵昂平 安藤秀俊	2013	理科教育学研究 54(2),189-199	・ビオトープを用いた自然体験活動を行うことによる教育的な効果を明らかにする。 ・「土壌動物」に関しては、マイナスイメージの改善や土壌中に広がる生命の多さの実感、土壌動物の役割についての意識が有意に向上し、「植物の種子散布」に関しては、植物や植物の種子への興味・関心の向上、植物の生命力への感心について有意差が認められた、とされている。
1-2-7	森林体験を伴う環境教育活動による意識変容とその持続性—多摩市立連光寺小学校5年生による1年間の学習活動を事例として—	大石康彦 井上真理子 野田恵 小玉敏也	2017	環境教育 27(1),23-32	・森林体験を伴うまとまった時間をあてた環境教育活動を対象に、活動による意識変容とその持続性の検証を目的とした。 ・森林体験を伴うまとまった時間をあてた環境教育活動によって、環境教育の目標や総合的な学習の時間の目標の一部が達成、持続したことが明らかになった、とされている。
1-2-8	大学・地域・家庭が連携した子どもへの自然体験活動	森太郎 與倉弘子 久保加織 石川俊之 森田実 石橋克也 内藤京子 須川美弥子 小松文郎	2017	パイディア : 滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター 紀要 25, 107-112	・自然体験活動「石山っ子わくわく親子で畑体験活動隊」について、子ども及び保護者が活動を振り返って記述した感想文における言語データを、テキストマイニングにより解析することで、本活動の意義や成果について考察する。 ・食料の生産から消費まで様々な体験活動を実施することで、子どもにとって食べる活動が強く印象に残っており、食育の観点から効果があると考えられた、とされている。
1-2-9	遠征型キャンプが小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果—滞在型キャンプ及びキャンプ不参加者との比較—	岡田成弘 坂本昭裕 川田泰紀 堀松雅博	2018	コーチング学研究第 31 巻第 2 号, 185-195	・遠征型キャンプに着目し、自然に対する態度に及ぼす効果を検討した。 ・キャンプに対する価値観や自然に対する肯定的な感情などの自然に対する態度を向上させるためには、宿泊を伴った遠征活動をキャンプに導入していくことが有効であると示唆された、とされている。
1-2-10	キャンプ中の自然へのアタッチメントを感じる体験が小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果	岡田成弘 坂本昭裕 川田泰紀 堀松雅博	2019	野外教育研究, 22(2),1-15	・キャンプ中の自然へのアタッチメントを感じる体験が自然に対する態度に及ぼす効果を明らかにする。 ・キャンプにおいて自然へのアタッチメントを感じる体験が深かった者は自然に対する態度が向上することが明らかになった、とされている。

③個別の資質・能力・意識等

図表 1-1-6 「リーダーシップ」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-3-1	キャンプ集団における児童のリーダーシップ行動の変容	倉本満枝	1981	実験社会心理学研究 20(2),127-135	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプという集団場面におけるリーダーシップ行動の変容、及び学校生活におけるリーダーシップ行動に及ぼすキャンプ経験の効果について検討を行う。 ・キャンプ経験によって、学校生活におけるリーダーシップ行動の向上が認められ、特に、対人行動の向上及び諸活動に対する建設的、積極的参加の向上が顕著である、とされている。
1-3-2	集団宿泊時における児童のリーダーシップ	宮本正一 高橋理恵	1992	岐阜大学教科教育学研究,1,1-10	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 5 年生が集団宿泊合宿体験を通じて、対人行動、特にリーダーシップがどのように変容するかを検討する。 ・事前事後で質問紙調査を実施。評価得点が上昇した、とされている。
1-3-3	小・中学生の生活体験やキャンプ経験が主体的積極的行動傾向に与える影響	谷井淳一	2001	国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要創刊号,21-33	<ul style="list-style-type: none"> ・「学年が進行するに従い、さらにテント泊経験が多い程、野外体験、調理体験、工作体験はそれぞれ増加し、そして、これらの体験が豊かな程、キャンプ中の積極性やリーダーシップ行動を意味する「主体的傾向(主体的積極的行動傾向)」は高くなることが分かった、とされている。
1-3-4	子どもの発達特性に応じた体験活動の実践 ～「コミュニケーション能力」と「リーダーシップ」に着目した検討～	林幸克	2004	教育研究所紀要 13, 67-76	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達特性に応じた体験活動をより効果的に実践する在り方を、「コミュニケーション能力」と「リーダーシップ」の2つの観点から検討する。 ・前者は、学校進行に伴いその向上の度合いが縮小傾向にあり、後者は、学校進行とともに向上度が拡大傾向にあることが明らかになった、とされている。

図表 1-1-7 「自己効力感」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-3-5	集団宿泊体験を通しての自己効力感の変容	宮本正一 今井由紀	1994	岐阜大学教育学・心理学研究紀要,12,71-83	・野外体験活動が子供の対人関係における自己効力感にどのような影響を与えるかについて検討する。 ・事前事後で質問紙調査を実施。対人的自己効力感の有意な上昇が認められた、とされている。
1-3-6	キャンプ経験が児童の自己概念と一般性自己効力に及ぼす影響	関根章文 飯田稔	1996	筑波大学体育科学系紀要第19巻,85-89	・キャンプ経験が参加児童の自己概念や一般性自己効力に及ぼす影響を検証する。 ・「達成動機」や「努力主義」といった自己概念を高める傾向にあることが明らかになった、とされている。
1-3-7	ウォーターワイズプログラム参加者における自己効力感の変化	久保和之 谷健二 福田芳則 吉田嗣治 片岡直樹	2003	国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要,第3号,139-144	・水辺を利用する野外教育の1つである「ウォーターワイズ」プログラムに参加した児童の自己効力感に着目し、プログラムの効果を検討する。 ・「ウォーターワイズ」プログラムを経験することによって、他の野外活動と同様に、児童の自己効力感が高まることが明らかになった、とされている。

図表 1-1-8 「レジリエンス」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-3-8	青少年期の体験活動の効果 ―自然体験とレジリエンスの関連に着目して―	佐藤智子	2015	日本教育学会大会研究発表要項74,174-175	・「レジリエンス」を育成する1つの学習方法としての体験活動、特に自然体験(野外体験)活動に着目した。 ・「レジリエンス」に対する自然体験活動の効果が確認できた、一方で、生活文化体験や社会体験については、効果が確認できなかった、とされている。
1-3-9	なすかしの森セカンドスクールが参加児童に及ぼす効果と指導方法の検討 ―レジリエンスの変容に着目して―	湯川枢 志賀亮太	2016	国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要4,62-70	・長期宿泊体験活動「なすかしの森セカンドスクール」の小学生のレジリエンスに対する影響を測定。 ・小学生版レジリエンスの尺度を用いた質問紙調査及び参与観察を行った結果、参加児童に有意な影響を及ぼすことが確認された、とされている。

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-3-10	自然体験活動とレジリエンスの関連性	佐々木太朗 大谷哲朗	2017	心理相談センター 紀要 第 13 号,27-34	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動の頻度を尋ねる質問とレジリエンス尺度から構成された質問紙を使用して調査研究を実施。 ・相関係数を求めたところ、いくつかの自然体験活動と下位尺度得点の間に有意な相関が見られた、とされている。
1-3-11	児童期における自然体験活動とレジリエンスの関連	大谷哲郎 佐々木太朗	2020	比治山大学・比治山大学短期大学部教職課程研究 6, 45-51	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動によって向上すると推察されるレジリエンスを測定するためのレジリエンス尺度を作成し、レジリエンスを高める自然体験活動を明らかにする。 ・相関分析を実施。「レジリエンスを高める可能性がある自然体験活動は、ある程度の体力的に負荷がかかるものや、他人と協力したり、動物に直接かかわったりすることによって生じる相互作用によるものと考えられる。」とされている。

図表 1-1-9 「自己制御」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-3-12	キャンプ経験が幼児の幼稚園での自己制御機能に及ぼす影響	布目靖則 飯田稔 穴戸和行 多田聡	1993	日本体育学会 大会号第 44 回	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプに参加した年長児を対象に、幼稚園における自己制御機能を測定し、キャンプ経験による影響を明らかにする。 ・キャンプ後に幼稚園における自己制御機能が向上し、その効果は、キャンプ 3 か月後まで維持された、とされている。
1-3-13	キャンプ経験が児童・生徒の Self-Control に及ぼす影響	黒澤毅 飯田稔 橘直隆 庄司一子	1999	野外教育研究 2(2),29-36	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ経験が児童・生徒の self-control にどのような影響を及ぼすかを明らかにする。 ・日常における self-control は、内的基準による self-control がキャンプ 1 ヶ月後に向上し、外的基準による self-control はキャンプ 1 ヶ月後に低下した、などとされている。

図表 1-1-10 「問題解決力」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-3-14	問題解決力を測定する尺度の作成 —自然体験において育まれる問題 解決力を測る—	中村織江 川村協平	2004	野外教育研究 8(1),77-86	・自然体験において問題解決力は効果的に育まれるのかを明らかにする。 ・自然体験が豊富な体操が構成するグループが、自然体験が少ない対象が構成するグループより高い問題解決力を示すという結果が示唆された、とされている。

図表 1-1-11 「自己表現力」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-3-15	自然体験学習が児童の自己表現力 に及ぼす影響—体験型環境教育プ ログラムに着目して—	向坊俊 城後豊	2006	野外教育研究 10(1), 35-47	・児童が自然の中で学んでいる内容を明確にし、自然の中で体験を通して学習する自然 体験学習の効果を検証する。 ・「自然体験活動は、継続的に行うことによって、児童の自己表現力を育み、日常生活にお いてもその効果は持続する」とされている。

図表 1-1-12 「内発的動機づけ」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-3-16	長期自然体験が児童の内発的動機 づけに及ぼす影響	蓬田高正 飯田稔 井村仁 関智子 岡村泰斗	2000	野外教育研究 3(2),13-22	・内発的動機づけを有能感、自己決定感、他者受容感として捉え、長期自然体験が児童 の内発的動機づけに及ぼす影響を明らかにする。 ・長期自然体験に参加した児童は、長期自然体験に参加していない児童と比較して、有能 感及び他者受容感が長期自然体験期間中に向上した、とされている。

図表 1-1-13 「メンタルヘルス」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-3-17	組織キャンプ体験に伴うメンタルヘルス変容の因果モデル—エンジョイメントを媒介とした検討—	西田順一 橋本公雄 柳敏晴 馬場亜紗子	2005	教育心理学研究 53(2),196-208	・組織キャンプの体験はエンジョイメントを介してメンタルヘルス変容に影響する因果モデルにより検討。 ・エンジョイメントの間接パスを通じたメンタルヘルスへの影響が見られた、とされている。

図表 1-1-14 「精神発達・感性」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-3-18	キャンプ経験が幼児・児童の精神発達、感性に及ぼす影響	若杉純子 川村協平 永吉英記	1997	日本体育学会 大会号第48回	・キャンプ経験が幼児・児童の「精神発達」、「感性」、「体験」にどのような影響を与えるのかを検討。 ・幼児では「精神発達」、「感性」、「体験回数」、小学校低学年児では「感性」、「体験回数」において、経験群の POST で有意に向上しており、その効果は AFTER まで維持されていた、とされている。

④特定の対象に関する影響・効果等

図表 1-1-15 「不登校児童生徒」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-4-1	キャンプ経験が不登校生徒に与える心理的影響	奥山 洸 諫山 邦子 加藤 敏之 齊藤 詔司 菊地 和孝 森 敏隆	1999	野 外 教 育 研 究 3(1),25-36	・プログラムに参加した不登校の生徒の心理的、行動的な変容を、個別プログラムとのかかわりも含めて検討する。 ・「人よりおとっていると感じることがある」、「自分を頼りないと感じることがある」については、事前より事後の値が有意に低かったことなどが明らかになった、とされている。
1-4-2	不登校児は長期冒険キャンプ後どのように社会へ適応していくのか	小田 梓 坂本 昭裕	2009	野 外 教 育 研 究 13(1),29-42	・長期冒険キャンプに参加した不登校児の追跡調査を行い、彼らがいかに社会へと適応していくのか、そしてその過程においてキャンプ体験がどのように影響しているかについて検討する。 ・「自信」の獲得と「関係性」の回復の影響があり、社会適用にも大きく影響していたことが明らかになった、とされている。
1-4-3	冒険教育プログラムを導入した長期キャンプにおける不登校生徒の身体性回復のプロセス	吉松 梓 坂本 昭裕	2018	体 育 学 研 究 63(2),811-826	・冒険教育プログラムを導入した長期のキャンプに参加した不登校生徒を対象とし、彼らの身体性回復のプロセスとその要因を質的研究から明らかにする。 ・身体性回復に影響を及ぼした要因として、【身体を介したスタッフの受容的な関わり】【身体を通じた実存的次元での仲間関係】【自然の中での身体感覚に基づいた感情体験】の 3 つのカテゴリーを含む【他者および自然との身体を介した関係性】があることが示された、とされている。

図表 1-1-16 「障害児」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-4-4	自然体験活動が ADHD,LD,AS の子どもたちに及ぼす影響に関する実践報告	沖野千歳	2006	国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要第 6 号, 239-249	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに集団生活をさせることにより、生活リズムを回復させることができ、また、活動に体を動かすもの、クラフトなどの手先を動かすものを組み合わせることによって、前頭葉の活性を促すことができるのではないかを問う仮説を検証する。 ・抑制力の向上、衝動性の抑制、図地知覚能力の向上、問題行動の減少等が見られた、とされている。

図表 1-1-17 「疾患罹患者」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-4-5	学童期に慢性疾患を罹患した大学生の自然体験の有用性に関する研究	川崎友絵 牛尾禮子 石田喬士 尾瀬裕 郷間英世	2008	小児保健研究 67(1), 81-88	<ul style="list-style-type: none"> ・学童期に慢性疾患を罹患した大学生が、幼少期から青年期に至る過程で、「どのような自然体験を行ったか」、「自然体験を行ったことで何を得たか」、また彼らは、現在、「生きる力についてどのように考えているか」を調査。 ・自然体験は、生きていることの喜びを実感させ、闘病意欲を高め、生活や自分自身の幅に広がりを持たせ、豊かな人間関係を養っていた、とされている。

図表 1-1-18 「被災児童生徒」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-4-6	福島県在住の小中学生を対象とした森林体験を伴う自然体験活動が生きる力と自然との共生観に及ぼす効果	山田亮 白岡千帆里 能條歩	2020	日本森林学会誌 102(1),69-76	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとの自然体験の経験の多寡という視点と、自然の営みにより心身に大きな損傷を受けるといった自然災害というネガティブな経験をした子供たちへのプログラム効果を検証する。 ・参加者全体において、プログラムによる生きる力及び自然との共生観の向上効果が実証され、参加者のうち自然体験の経験が少ない子供は、多い子供よりもプログラムによる向上効果が見られたとされている。

⑤その後の活動等の継続に対する影響・効果等

図表 1-1-19 「その後の活動等の継続に対する影響・効果等」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
1-5-1	幼児期に豊富な自然体験をした児童に関する研究	山本裕之 平野吉直 内田幸一	2005	国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要第5号,69-80	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中での遊びや体験活動を数多くカリキュラムに取り入れている、N市のK幼児教室に通っていた小学1年生から4年生の卒園児35名の保護者を対象とし、質問紙法による調査を実施。 ・K幼児教室卒園児は、全国調査における同年齢の子供たちに比べて自然体験活動を多く行っていることなどが明らかになった、とされている。
1-5-2	少年期の組織キャンプにおける Significant Life Experiences が成人期の環境行動に及ぼす影響 —花山キャンプを事例として—	岡田成弘 岡村泰斗 飯田稔 降旗信一	2008	野外教育研究 12(1),27-40	<ul style="list-style-type: none"> ・組織キャンプ経験者において、組織キャンプ SLE が成人期の環境行動に及ぼした影響を検証した。 ・組織キャンプ経験群の環境行動は、組織キャンプ非経験群のものより高かったことなどが明らかになった、とされている。

(2) 社会体験活動の影響・効果について

①職場体験・キャリア教育の影響・効果（自己理解、進路理解、キャリア意識、職業理解等）

図表 1-2-1 「職場体験・キャリア教育の影響・効果」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
2-1-1	中学生の職場体験について—仕事体験が生徒の職業意識に及ぼす効果の検討—	安達智子 平尾善美	1999	日本教育心理学会総会発表論文集 41	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習が生徒の職業に対する姿勢に及ぼす影響について検討する。 ・生徒の主体的な活動や発見、仕事体験から得られる充実感、仕事に対する自覚に関して、希望職種を体験学習する場合の方が大きな効果を期待できるが、希望職種以外でも効果が見られる、とされている。
2-1-2	職場体験による中学生の進路成熟及び自律的高校進学動機の変容と影響要因	山田智之	2011	キャリア教育研究 30(1),1-14	<ul style="list-style-type: none"> ・5 日間の職場体験における体験前と体験後、事後学習後の中学生の進路成熟の変容や高校への進学動機の変容について明らかにする。 ・職場体験が生徒の進路成熟を向上させ、自律的高校進学動機における自己決定的な面を向上させることが明らかになった、とされている。
2-1-3	岡山県における職場体験活動の定着経緯と今後の課題 —生徒指導との関係性に着目して—	高木亮 森上敏夫	2012	中国学園紀要 11,189-196	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験の教育行政場面での環境整備に関わった経緯を整理すること、職場体験がどのような効果があるのかを心理学的方法で検討する。 ・職場体験の充実は不登校傾向の抑止も含めた生徒指導上の問題緩和につながり、学校の教育課程の側面の動機づけ向上に効果があることを示唆している、とされている。
2-1-4	中学生における職場体験が職業選択や職業生活に与える影響 ～新潟県上越市における社会人への調査から～	山田智之 田邊道行 佐藤賢治	2017	上越教育大学研究紀要 37(1), 83-94	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校時代の職場体験が成人期の職業選択や職業生活に与えた影響について検討し、その効果を明らかにする。 ・職場体験の体験日数(1～2日間、3～4日間、5日間以上)が長いほど、職業選択や職業生活に影響を与えたと自認する傾向があることが確認された、とされている。
2-1-5	キャリア教育における教育効果の測定に関する実証的な研究	濱保和治 岡田大爾	2018	広島国際大学教職教室教育論叢 10, 121-130	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験活動の効果に関連する要因を明らかにし、効果の持続性について測定し、職場体験活動の在り方について考察する。 ・職場体験の事前・事後での調査結果の比較により、「自己有用感」と「将来設計・展望」は増加した、とされている。

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
2-1-6	小・中・高等学校におけるキャリア教育の啓発的経験の効果 ―大学生を対象とした調査―	児玉真樹子	2019	広島大学大学院教育学研究科紀要・第一部，学習開発関連領域 68，1-10	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、高等学校での体験活動が自己理解と進路(仕事、上級学校など)理解に及ぼす効果を明らかにする。 ・体験活動を通しての自己理解と進路理解がキャリア形成に及ぼす影響を明らかにする。 ・小学校、中学校、高等学校全ての体験活動で、自己理解や進路理解の度合いの得点が一般的に高いことなどが明らかになったとされる。

②農業・酪農体験の影響・効果（産業・生命・食・自然等に対する意識の高まり）

図表 1-2-2 「農業体験の影響・効果」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
2-2-1	小学校における農業体験学習の効果 ―東京都練馬区を事例として―	丸山敦史 浅野志保 菊池真夫	2004	千葉大学園芸学部学術報告 58,59-66	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の児童から得られたデータを用いて行われたプロビット分析の結果、自然や農業の大切さの自覚等の面で農業体験学習が児童に良い影響を与えていることが明らかになった、とされている。
2-2-2	田んぼや水路を活用した「田んぼの学校」が参加者に及ぼす教育効果―代表的な3つのグループにおける参加者調査から―	宮元均 加納麻紀子 水谷正一	2007	農村計画学会誌 26, 119-124	<ul style="list-style-type: none"> ・「田んぼの学校」の参加者を対象としたアンケート調査から、「田んぼの学校」の教育効果を明らかにすることを目的とする。 ・農作業体験や生き物とのふれあいを通じて、感覚的認識をより大きく獲得していることが明らかになった、とされている。
2-2-3	農業体験学習による子どもの意識・情感への影響に関する実証分析―実施場所の異なる都市地域の3つの小学校を対象として―	山田伊澄	2008	農林業問題研究 44(2), 326-336	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内で農業体験学習を行う場合と、農村に出かけて農業体験学習を行う場合、あるいは農村に宿泊して体験学習をする場合とで、それらが子どもの意識・情感に与える影響はどのように異なるかに着目。 ・「自然・生き物への観察力・科学的知識」、「農業・農村への知識・理解等」といった項目に対しては、「郊外」がプラスの影響を及ぼし、「農村定住への志向」、「心の安定等」の項目に対しては、「農村」がプラスの影響を及ぼし、「積極性・自主性等」では「学校内」がプラスに影響しているという傾向となっていた、とされている。

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
2-2-4	大学・地域連携による小学生の農業体験プログラム－1年間を通じた活動による環境教育的効果－	嶋谷円 胡子揚歌 木島温夫	2008	環境教育 17(3),44-53	・子供は種まきから収穫までの野菜の栽培を通じて食に関心を持つようになったことなどが明らかになった、とされている。
2-2-5	農村・農作業体験学習の前後における気分・感情の変化について－農業・農村体験学習の教育的機能・保健休養機能の定量的評価に関する研究(II)－	山本徳司	2008	農村生活研究 136号 22-29	・小・中学生を対象とした田植え、稲刈りなどの農作業体験や自然観察行為の体験前後の心理的变化を把握・分析する。 ・農業・農村体験前後においては「怒り」や「不安」が低下し、心理的な保健休養効果が確認できた、とされている。
2-2-6	農業体験活動が子どもの農業イメージに及ぼす影響－静岡県藤枝市における混住化地域を事例として－	稲垣栄洋 大石智広 高橋智紀 松野和夫 山本徳司 栗田英治	2010	農村計画学会誌 29,161-166	・小学生の農業に対するイメージが農業体験の前後で変化するか、小学校での農業体験の有無は中学校になってからの農業に対するイメージに影響を与えているか、について検討。 ・「農業」等から想起する言葉が多様になるということや、農業に対する関心の高まり等が見られた、とされている。
2-2-7	農業体験学習が環境意識と食習慣に及ぼす影響の比較分析 －教育効果と地域効果の分離の視点から－	英格 矢部光保	2014	環境教育 24(2),40-49	・体験学習が農村部でも、児童の自然環境・食農に対する意識、日常行動や食習慣にプラスの変化を生じさせるという仮説を検証し、そして、このような農業体験学習が環境教育の発展にどう貢献できるかについて検討する。 ・実施校(後)は、実施校(前)や対照校(後)よりも、意識向上に関する合計点が高く、かつ、有意差のあった質問項目数が多いことから、農業体験学習効果が示された、とされている。
2-2-8	小学校における米作りの体験活動をより効果的なものにする要因について－農業への理解と食べ物への感謝の気持ちに着目して－	勝野美江 藤生英行	2015	日本食育学会誌 9(1),67-80	・児童の農業への理解、食べ物への感謝気持ちに関する尺度を作成し、米作りの体験活動前後の児童の農業への理解や食べ物への感謝の気持ちの変化に着目した分析を実施。 ・米作りの体験活動を通じて児童が農業への理解を深めていることや、食べ物への感謝の気持ちを育んでいることが示唆されたことなどが明らかになった、とされている。

図表 1-2-3 「酪農体験の影響・効果」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
2-2-9	酪農教育ファームを通して子どもに育成される力に関する基礎的研究 —大学生を対象とした調査をもとに—	木下博義 秀島哲 川崎弘作 寺本貴啓 松浦拓也 角屋重樹	2009	広島大学大学院教育学研究科紀要,第二部,文化教育開発関連領域第58号,11-17	・酪農教育ファームの活動によって、子どもにどのような力が育成されるのかを調査・検討。 ・大学生が認識していることとして、「関心・意欲・態度」、「知識・技能」が挙げられることが明らかになった、とされている。
2-2-10	酪農体験が生命尊重の価値観育成に与える効果についての実践研究	鈴木由美子 中野浩史	2013	学習開発学研究 6,11-18	・酪農体験が子供の生命尊重の価値観に与える効果を明らかにする。 ・酪農家と乳牛とのふれあいは、児童生徒の「自尊感情」や「自己効力感」を育成するのに効果的であることなどが明らかになった、とされている。
2-2-11	酪農教育ファームの教育効果に関する基礎的な研究 —酪農体験活動を行った子どもの追跡調査のための質問紙法の開発—	石井雅幸 石山理恵 木下博義	2016	大妻女子大学家政系研究紀要 52,107-119	・子ども時代、又は以前に酪農体験活動を行った人を対象としてアンケート調査を実施し、現在の自分は酪農体験活動を行ったことでどのような影響を受けているのか、また、どう活かしているのかなどを「食と命」、「キャリア(生き方)」の面から調査し、酪農体験活動の教育的効果を明らかにする。 ・牛乳への意識、牧場や乳牛への意識に酪農体験活動の経験者と未経験者に違いが見られた、とされている。

③ボランティア活動の影響・効果（意識の高まり）

図表 1-2-4 「ボランティア活動の影響・効果」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
2-3-1	中学生対象のボランティア学習プログラムに関する実践的研究	本橋彰 谷井淳一	2003	国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要第3号, 83-95	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生を対象に体験活動としてのボランティア活動の学習効果に着目したボランティア学習プログラムを試行的に実施し、あわせて、ねらいどおりの効果が得られたかを検証する。 ・「ボランティア活動は多くの内容があることを知っている」、「ボランティア活動を取り巻く課題について知っている」、「自分の感じていることをみんなにわかるように説明するのが得意だ」などの項目の向上が大きかった、とされている。

(3) 生活・文化体験活動の効果について

① 幼児の体験に関する効果

図表 1-3-1 「幼児×遊び」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
3-1-1	幼児の非社会的遊びと社会的スキル・問題行動に関する縦断的検討研究	大内晶子 櫻井茂男	2008	教育心理学研究 ,56,376-388	・入園直後とその半年後に幼児の非社会的遊び(沈黙行動、ひとり静的行動、ひとり動的行動)の観察を行い、さらに卒園直前の社会的スキル・問題行動について担任教師に求めた評定との関連を検討した。 ・ひとり静的行動やひとり動的行動がその後の問題行動を予測すること等が明らかになった、とされている。
3-1-2	幼児の役割遊びにおける役割取得の特徴に関する研究 —5 歳児のごっこ遊びの成立過程—	神谷友里 吉川はる奈	2011	埼玉大学紀要 教育学部 60(2),19-28	・ごっこ遊びの様子を役割取得能力に焦点を当て観察した。 ・役割や場面、テーマを簡潔に宣言することを通じて遊び始める過程が明らかになった、とされている。

図表 1-3-2 「幼児×栽培・飼育経験」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
3-1-3	幼児期の栽培体験と成長後の社会性との関係—女子学生と園児の母親の場合—	山本俊光 森啓一郎 松尾英輔	2011	人間・植物関係学会雑誌 10(2),13-20	・被調査者の幼少期の栽培体験と調査時点での社会性との関係について調査。 ・幼少期に栽培体験が多かった学生及び母親は、緊急時の不安感は低く、相手の立場に対して配慮を行い、トラブルを処理し、問題を解決することができる人と認知している人が多かった、とされている。
3-1-4	幼児におけるウサギの飼育経験とその心的機能の理解	藤崎亜由子	2004	発達心理学研究 15(1),40-51	・ウサギ小屋への入室日数が多い子供たちの方が生物学的知識を豊富に有するにもかかわらず、ウサギの心的機能に対する擬人化が増え、ウサギに対する言葉かけも多くなっていた、とされている。

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
3-1-5	ムシ飼育のねらいとその飼育経験効果について—幼稚園・保育園におけるムシの飼育の意味—	山下久美	2006	人文・社会科学論集 23,79-98	<ul style="list-style-type: none"> ・ムシ類の飼育の効果について、直接子供に問うことで、心情的発達に望ましい効果が認められるか否かを検証する。 ・ムシの生態を学ぶことや、「命への理解と思いを育む」ことについて、飼育経験効果が認められた、とされている。
3-1-6	虫との関わりが幼児の社会性の発達に与える効果について	山下久美 首藤敏元	2008	埼玉大学紀要 教育学部 57(2),105-121	<ul style="list-style-type: none"> ・虫の飼育が社会性の発達を促す効果について検討を行った。 ・「命への理解と思い」、「思いやり」、「仲間関係を育てる」等について、虫とかかわることによる効果が認められた、とされている。

②児童・生徒の体験に関する効果

図表 1-3-3 「児童・生徒×栽培・飼育経験」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
3-2-1	学校飼育動物を学級で1ヶ月飼育したときに現れる児童の変容—飼育経験の有無,飼育前後,及び飼育していない学級との比較から—	三崎隆 長坂始	2008	信州大学教育学部紀要 120, 1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育経験がある児童と飼育経験がない児童とを比較。 ・飼育経験がある児童の方が、動物が捨てられていた時に悲しく思う児童の割合が高いことや、動物を大事にしたり弱いものを守ったりする心情や自分の仕事を果たそうとする考え方が高まることなどが明らかになった、とされている。
3-2-2	家畜の飼育・出荷・食べる体験活動の教育的効果について —総合的な学習の時間における児童の意識の変容から—	吉崎蒔子 松井千鶴子	2019	上越教育大学教職大学院研究紀要6, 121-130	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の飼育・出荷・食べる体験活動の教育的効果について、家畜の命に対する児童の意識の変容から明らかにする。 ・作文の分析やインタビュー等を通じて「出荷について考えることを通して児童が自分らしい生命観をつくり、活動が終了しても自分の生き方について考え続けようとしていることが明らかとなった」とされている。

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
3-2-3	動物飼育体験の教育的効果(2)ウサギの飼育を通して子どもが体験すること	小林真 板倉佳代 米崎瑛美 稲垣恵美子 神川瑞子	2018	教育実践研究：富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 13, 95-104	<ul style="list-style-type: none"> ・ウサギ飼育当番の活動中の発言や行動から、ウサギに対する態度がどのように変化したかを検討する。 ・さらに、ウサギに対する態度の変化とウサギの描画の変化を関連付けて、飼育体験の持つ意味を検討する ・家庭での飼育体験がなく生命尊重の意識が低い子どもにとっては、飼育体験は生命尊重の意識を高める効果があった、とされている。

図表 1-3-4 「児童・生徒×学校行事」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
3-2-4	文化祭での学級劇における中学生の小集団の体験の効果—小集団の発展、分業的協力、担任教員の援助介入に焦点をあてて—	樽木靖夫 石隈利紀	2006	教育心理学研究 54(1), 101-111	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭での学級劇において、小集団の体験の効果について検討。 ・小集団の発展を高く認識した生徒は、そうでない生徒よりも自己活動の認知(自主性、協力、運営)、他者との相互理解を高めたことなどが明らかになった、とされている。
3-2-5	家庭背景別にみた学校行事の教育的意義—体育大会を事例に—	長谷川祐介	2009	比治山大学現代文化学部紀要 16, 135-144	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的階層別にみた学校行事への取組の相違、生徒の自己概念に及ぼす影響の相違を検討。 ・自己有能感や社会性は文化的階層が下位の生徒たちにおいて体育大会効用感が正の影響を及ぼしていた、とされている。
3-2-6	中学・高校における学校行事体験の発達の意義：大学生の回顧的意味づけに着目して	河本愛子	2014	発達心理学研究 25(4), 453-465	<ul style="list-style-type: none"> ・中学・高校における学校行事体験に対する大学生の回顧的意味づけに着目して検討。 ・「集団への肯定的感情」、「他者意識の高まり」、「集団活動に対する消耗感」、「問題解決への積極性」、「他者統率の熟達」、「学校活動への更なる傾倒」についての意味づけが見いだされた、とされている。
3-2-7	体験活動により向上する学級社会関係資本 —小学校修学旅行の充実の背景と効果の検証—	門原眞佐子 舞田大貴 高木亮	2018	就実教育実践研究 11, 65-76	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行前後に質問紙調査を実施した。 ・修学旅行の“楽しみ”と“充実”の変化により修学旅行後の学級風土・社会関係資本を高める効果が確認された、とされている。

図表 1-3-5 「児童・生徒×部活動」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
3-2-8	中学校部活動の機能に関する社会的考察—東京都 23 区の事例を通して—	藤田武志	2001	学校教育研究, 第 16 巻,186-199	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の意識を通じて、学校における部活動がどのような機能を持っているのかを考察。 ・部活動は生徒たちの向学校生を高める機能を持っていることや、特に学業成績の中・下位の生徒たちに効果を及ぼしていることなどが明らかになった、とされている。

図表 1-3-6 「児童・生徒×異年齢・学年との交流活動」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
3-2-9	体験活動を通じた小中連携による中 1 ギャップ予防プログラムの報告 —異年齢間ピアサポート活動「中学生と語る会」が小 6 にもたらす効果検証—	門原真佐子 高木亮 上森宏樹	2020	就実教育実践研究 13, 49-57	<ul style="list-style-type: none"> ・中1ギャップ解消のために行われている「中学生と語る会」という中学校 1 年生と小学校 6 年生がかかわる体験活動(総合的な学習の時間)に注目し、その会の前後でどのような変化が起きるかを検討する。 ・会への参加により、不安感が解消される因子が確認された、とされている。

図表 1-3-7 「児童・生徒×保育体験」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
3-2-10	子どものイメージと自己効力感の変容からみる保育体験学習の教育的効果	鎌野育代 伊藤葉子	2009	日本家庭科教育学会誌 52(4),283-290	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の保育体験学習の教育的効果を明確に示す資料を作成する。 ・保育学習を通じて中学生は幼児への関心を高めていること、幼児に対してプラスのイメージを大きくし、マイナスのイメージを小さくしていることが明らかとなった、とされている。

(4) その他（複数の分野にかかわるものなど）の活動の効果について

図表 1-4-1 「長期寄宿体験」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
4-1-1	70 日間の長期寄宿体験が子どもの自己効力感に及ぼす影響	瀧直也 平野吉直	2018	教育実践研究：信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター紀要17, 99-106	<ul style="list-style-type: none"> ・児童用セルフ・エフィカシー尺度「GSESC-R」を用いて、70 日間の長期寄宿体験が児童の自己効力感に及ぼす影響を明らかにする。 ・長期寄宿体験を通して、入園児童の自己効力感は向上する可能性があることが分かった、とされている。
4-1-2	70 日間の長期寄宿体験が児童の生きる力に及ぼす影響	瀧直也 本村明夏 平野吉直	2018	青少年教育研究センター紀要第 6 号, 44-53	<ul style="list-style-type: none"> ・70 日間の長期寄宿体験が、児童の生きる力に与える影響を明らかにするために、「IKR 評定用紙」を用いた調査を実施。 ・調査の結果、児童の生きる力の得点が有意に向上したことが分かった、とされている。

図表 1-4-2 「長期集団宿泊体験」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
4-1-3	「生きる力」を育む長期集団宿泊体験活動 ―その効果と課題―	藤村法子 水野雄希	2012	教育実践研究紀要 12, 231-240	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市の小学校で展開される「長期宿泊体験活動」の取組が、「生きる力」の育成にどのような効果を及ぼすか等を明らかにする。 ・「生きる力」の指標となる「心理的社会的能力」、「徳育的能力」、「身体的能力」ともに効果的な変容が見られた、とされている。

図表 1-4-3 「複数回に渡っての宿泊体験を伴う活動（「山伏塾）」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
4-1-4	子どもの体験活動における心身の変容に関する研究—「山伏塾」の事例を基に—	井上豊久	2003	生活体験学習研究 3, 33-43	<ul style="list-style-type: none"> ・「山伏塾」の事例を基に子どもの体の面や心の面でどのような変容があったのか、あるいはなかったのかだけを検証するだけではなく、青年リーダーの記録や保護者の報告、因子分析を事前と事後で行うことにより、子どもの心身の変容を多面的及び裏側から詳細にみていく。 ・異年齢異世代の相互作用による体験活動の活性化と再評価の重要性、多様な体験の相乗効果による心身の変容の拡充、自己決定力の獲得とその向上、が明確になったとされている。

図表 1-4-4 「院内学級における体験活動」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
4-1-5	院内学級における体験的な学習活動に関する教員への質問紙調査	有馬美幸 涌井剛 高野美由紀	2018	特殊教育学研究 56(4),199-207	<ul style="list-style-type: none"> ・院内学級で実施されている体験的な学習活動の現状と、活動による児童生徒への影響について調査。 ・「すべての体験学習において、大半の教員が「学習意欲の向上」と「体調によい影響があった」と感じていた」とされている。

図表 1-4-5 「数学的活動における体験活動」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
4-1-6	自己効力感を高める体験活動に関する一考察 —算数科図形領域における数学的活動を重視した授業実践を通して—	鈴木彩文	2020	山形大学大学院教育実践研究科年報 11, 104-111	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科における数学的活動の位置付けが自己効力感の高まりにどのような影響を及ぼすのかを明らかにする。 ・単元実施前後の調査結果を比較。「個人の内部からやってみたいという気持ちを生み出させる体験活動であること、またそのような体験活動を連続させること、さらには、事象や他者とのよりよい相互作用を重視することが自己効力感の高まりに影響することが明らかになった。」とされている。

図表 1-4-6 「国際交流」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
4-1-7	”Ehime University” Science & Culture Camp の開発と参加生徒への影響	隅田学 林秀則 坪井敬文 菅谷成子 バージノルス 大橋淳史 中山晃 向平和	2018	日本科学教育学会研究会研究報告 32(8), 49-50	<ul style="list-style-type: none"> ・“Ehime University” Science & Culture Camp の開発と実践、及び当該キャンプが生徒の国際的な科学・文化交流力に与える効果の測定。 ・「キャンプの事前・事後調査より、日本の生徒にとっても外国の生徒にとっても国際的な科学・文化交流力を高める効果があったとともに、事前・事後ともに、日本人生徒よりも外国人生徒の方が、自己評価得点が高いことがわかった」とされている。

図表 1-4-7 「離島との交流」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
4-1-8	沖縄県における離島を活用した体験活動の効果 —テキストマイニングを用いた分析—	平野貴也	2017	生活体験学習研究：日本生活体験学習学会誌 17, 15-22	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県における離島体験交流促進活動の効果をテキストマイニングの手法を用いて明らかにする。 ・言説分析によって「環境」、「生活」、「体験内容」、「対人関係」、「学び」、「気づき」の6クラスターに集約することができたとされ、離島体験交流促進活動を通じて児童は様々な学習効果を得ている、とされている。

図表 1-4-8 「被災地での体験活動」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
4-1-9	教育方法一般 被災地訪問が子どもたちに与えた影響についての一考察 —「知的活動」と「体験活動」を効果的に行うための単元構成の工夫—	恩田知弥	2015	教育実践研究 25, 265-270	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年児童に被災地での体験活動を中心とした「絆 つながり 子どもたちが見た東日本大震災」の単元攻勢を実践することにおける学習の成果を児童の活動や記録から推察し検証する。 ・「絆 つながり 子どもたちが見た東日本大震災」は、一人一人に大きな達成感と思いやりの気持ちを芽生えさせた、とされている。

図表 1-4-9 「ボーイスカウト活動」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
4-1-10	ボーイスカウトにおける体験活動が青少年に与える影響	田中優	2015	大妻女子大学 人間関係学部 紀要,17,1-14	・ボーイスカウトの訓練キャンプに参加した者の参加後に調査を実施した。 ・「生きる力」、及び自尊感情について事前と事後の得点の有意な差はほとんど認められなかったが、リーダーシップ能力の「集団維持機能」については有意な差が認められた、とされている。
4-1-11	ボーイスカウトにおける体験活動が青少年に与える影響(2)2014 年度および 2015 年度における継続調査による検討	田中優	2016	大妻女子大学 人間関係学部 紀要,18,141-153	・ボーイスカウトの訓練キャンプに参加した者の 1 年後の状況について調査。 ・2014 年と 2015 年に共通して向上する能力は、心理社会的能力であり、自己を肯定的に捉える能力が高まることなどが明らかになった、とされている。

図表 1-4-10 「感動体験」に関する文献等

整理番号	タイトル	著者・発表者	発表年	媒体等	概要
4-1-12	『感動』体験の効果について 一人が変化するメカニズムー	戸梶亜紀彦	2004	広島大学マネ ジメント研究 4,27-37	・「自分の何かを変えた感動的な出来事」の効果に関するメカニズムについて検討。 ・大きく「動機づけに関連した効果」、「認知的枠組みの更新に関連した効果」、「他者志向・対人受容に関連した効果」という 3 つの効果があることが示された、とされている。

2. 対象別のヒアリング結果概要

①国立青少年教育振興機構

■ヒアリング対象・活動の概要

組織・団体名、氏名	独立行政法人国立青少年教育振興機構 伊野亘様(理事)
ヒアリング日	2020年11月30日
ヒアリングで伺った活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・国立妙高青少年自然の家での、幼児を対象としたキャンプ等の体験活動。及び、開発したプログラムを保育園・幼稚園・こども園に展開して実施した活動。 ・小学生の学校教育・社会教育・青少年教育としての4泊5日のプログラム。 ・非行少年や不登校の児童生徒を対象にした、20日間前後のプログラム。

■体験活動を実践して実感する効果、なぜそのような効果が得られると考えるか

キーワード等	エピソード等
幼児の主体性等	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で子供たち自身が次々にいろいろなものを発見したり、掘り返したり、自分たちで池を作ったりして、いろいろなおもしろい活動を考え始めて、それが子供たちの中で広がっていく。自然の中に入ってどんどん遊びが広がっていく。 ・子供たちの表現力、意欲、自分のことは自分で行う、ということが自然と身に付いてくる。
幼児の社会性等	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年教育施設の持っている教育機能は、子供たちにとってはミニ社会を経験するような場面になってくると思う。その中で、ちゃんと挨拶ができた、マナーなど自然にできるようになったりする。 ・保育園、幼稚園、子ども園も集団生活であるため同様であるが、そこで学んできたことを成果として出せる場でもあると言える。
幼児の自信	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が自分の力でやれたという自信が何よりも子供の成長につながると思う。例えば子供が木に登りたいけれどなかなか登れなかった時、大人がちょっとだけ手伝うこともあるが、子供が自分でやれたということが、喜び、自信につながる。
小学生の人とかかわる力、自信	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が大きな集団の中に入った時になかなか適応できない子供がいる。「中1ギャップ」を意識してのプログラムとして、いろいろな学校の子供たち、初めて出会う子供たちでグループを作って、創作ダンスを作る。 ・4泊5日のプログラムの中で、なかなか自分のことを出せない子供もいるし、ホームシックで泣き出す子供もいるが、ダンスを作ることで仲間とコミュニケーションが生まれる。最終的には人とかかわる力や自分に対してちゃんとできたという自信を持ってもらう。
不登校等の課題を抱える子供の人間関係、自己肯定感	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たち自身が悩みを抱えているので、自己肯定感は低い傾向にある。学校に行けなかったり、警察にお世話になって友達に迷惑をかけた、子供が集まって一緒に過ごす。 ・キャンプという限られた範囲の中で人間関係を学ぶことができる。グループでの活動を通じて、自己肯定感を高めてもらいたい。 ・いろいろな体験を通じて、「まんざらでもない自分」を集団の中で経験し、初めて自分というものの良さや自信を持てるようになってくる。

■体験活動の提供方法、指導・支援方法としてどのようなことが重要であるか

キーワード等	エピソード等
認める、一緒に活動する、褒める	・幼児の自然体験活動を取り組み始めた最初の時、自分で考えたいろいろな活動を用意し、いろいろな道具も持って行った。しかし、結局は持ってきたものは一切使わずに、川の中に入って、大きな石が自然に滑り台になり、一人が始めたら次々とみんな集まって滑り台の遊びが始まった。私たち大人は、子供たちがしていることに対して褒めたり、驚いたり、そういったかかわりの中で支援したという経験をした。そこから、子供たちの意欲や主体性を自然の中で身に付けさせたいということで、森の中、川の中、雪の中など、四季を通じてのいろいろな活動をするようになった。
保護者からの理解を得る	・当初は保護者の方からの反対を受けた。服を汚して帰るし、たまには擦り傷の1つもして帰ることになる。ただ、ビデオや写真を撮って、子供たちが本当に夢中になっている姿を映像なりで見えていただいて、それが子供の成長にどういう意味があるのかということの説明して、汚して帰ってきたら褒めてやってくださいというお願いをして実施をした。
大学生の参画	・小学生のプログラムは大学生にも参画してもらった。子供たちに主体性を持たせたいので、指導・支援の仕方も、いわゆる引っ張っていく形ではなく、子供の良さを引き出すような、たとえ問題が起きてもみんなで話し合う手法等について学んでもらった上で参画してもらった。
「お守り」、「宝物」としての活動の重要性	・体験活動は、体育の授業でいえば跳び箱の踏切板のような役割を果たしているのではないか。「これをやったからどうこうなる」というものではないと思うが、これをやったことによって「肯定的な意味づけ」を自分なりに持って、お守りのように、宝物のように、「やれた自分」というものを抱えて、社会あるいは学校に挑戦できるようにしていくということが大きなねらいとしてある。

■今後の推進に当たって意識していること、留意点等

キーワード等	エピソード等
発達段階による違いを踏まえたかかわり	・幼児は身体全てを使って、意欲の塊のようなもので、何かを見つけるとすぐに反応してくれる。小学生になってくると、周りの子供たちが見えてきたりするので、しっかりと自分というものに対して考えを持って行動する。 ・小学生の場合は学校が1つの社会であり、例えば6年生は学校を背負って立つリーダーなので、その中で自分たちの学校あるいは学級をどうしたいかという思いをしっかりと持っている。ただ、放っておいても自主的・自発的に動くということはないので、先生方が子供の考えを引き出して、様々な意見を出し合って話し合い、子供たちが主役となって解決していくようにする。
誰でも体験の機会を得られるような取組推進の必要性	・1つは経済的な問題もあるが、もう1つは発達障害を持っている子供など、誰でも体験の機会を得られるような取組を進めていかなければいけないと常々感じている。 ・体験活動のユニバーサルデザイン化という形で、仲間とのかかわりを持つことが難しい発達障害を持つ子供であっても、キャンプという限られた集団の中で過ごす中で、人間関係の作り方を学んでいけるような、体験活動の構造化を考えていきたい。

②国土緑化推進機構

■ヒアリング対象・活動の概要

組織・団体名、氏名	公益社団法人国土緑化推進機構 木俣知大様(政策企画部 政策企画課長)
ヒアリング日	2020年12月11日
ヒアリングで伺った活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学童期を対象とした、「緑の少年団」という社会教育・活動の枠組みにおける、子供たちの奉仕活動やレクリエーション活動や、従来の森林環境教育を発展させた、「森林ESD」(持続可能な社会づくりに向け、問題解決に必要な能力・態度を身に付けさせるため、森林・里山を活用した人材育成システム)での取組。 ・「森と自然を活用した保育の自治体ネットワーク」における、自治体と連携した幼児期の取組。

■体験活動を実践して実感する効果、なぜそのような効果が得られると考えるか

キーワード等	エピソード等
幼児期における豊かな感性、小学校高学年での問題解決に関する力	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動は幼児期の方がやはり効果は高く、その時にやる必要があると、感性を育むという活動は幼児期にちゃんと行っておくべきと考え、取組を進めている。 ・小学校高学年は問題解決学習として、社会体験をしながら問題解決につながっていくような体験活動をしっかりとしていくことが求められていると思われる。 ・幼児期や小学校低学年はいわゆる体験活動が軸(～の中で(in)の学習)で良いと思うが、中学年は調べ学習(～について(about)の学習)、高学年は問題解決学習(～のために(for)の学習)を行っていくことが重要と考えている。
学びに向かうための「原体験」としての効果	<ul style="list-style-type: none"> ・学びに向かう力、地域の森を守っていこうと思うためには、その森の豊かさから、不思議さから、課題から、というところの原体験的なものがないと、自分ごととしてその課題を認識して、問題解決のことを考えていこうと思わないのではないかと。 ・なかなか原体験の部分が育めずに、原体験がないまま社会課題の話をして、自分ごととして主体的・対話的で深い学びができるかということ、難しいと思っている。 ・「調べ学習」といっても、不思議さとかに関する経験がないと深く調べようと思わないのではないかと。小学生の時期に主体的・対話的で深い学びをしていくためには、幼児期により良い原体験というか、自然体験・社会体験活動をしておくことがすごく大事になってくるだろうと思う。
子供のワクワク感の高まり、ストレスの低下	<ul style="list-style-type: none"> ・脳波測定機械を使って測定すると、アクティビティ前後の反応として、森林散策ではワクワク感が高まり、ストレスも少ないという変化が見られた。 ・森林散策は「次は何があるかな」といったことを考えながら行っているため、ワクワク感が高まると考えられる。また、ワクワク感が高まることは、いろいろな能力形成のベースになるのだろうと思う。

■体験活動の提供方法、指導・支援方法としてどのようなことが重要であるか

キーワード等	エピソード等
資質・能力の育成を意図した活動	・「とりあえず森の中で体験だけすれば良い」というものではなく、その体験を通じてどのような資質・能力を育てていくのかというところを整備して、意図的に取り組んでいこうとしている。
教科書の内容、学校教育との連動	・教科書に書いてある中身を分析して、指導要領の内容として森林に関する要素を整理し、ちゃんと学びに向かう力を育てるような形にする。 ・また、移動教室等で森林がある環境に出向く機会がある時に、森林・林業のことを学んだり、伐採体験をしたり、事前事後学習をしたりできるように考えている。
教科横断的な学習の中での体験活動	・林業全体については社会科で、植物の成長等は理科の中で、生活科や家庭科の中では近年エシカル消費という話があり、道徳でも「自然」ということはテーマになる。 ・いわゆる特別活動における集団活動というところだけでなく、教科との関連性をより強調していくことによって体験活動の意義、自然環境を使った学習・体験の意義は高まっていくと思われる。
多様性がある環境の中での活動	・今の実社会の状況は、将来の予測が難しい。知識が陳腐化し、グローバル化が進展して多文化の中でいろいろな価値観があるのが当たり前という社会の中で、生き抜いていくことが必要ということを考えていかなければならない。 ・そのようなことを考えた時、人工的な教室や保育室の中は変化がなく、多様性もなく固定的である。他方で自然環境は1つとして同じ環境はない。変化するのが当たり前で、多様性が当たり前という環境の中で、変化への適応力とか、多様性のある中でどう遊びをつくりだしていくかといった物ごとの見方等を養っていくことは重要だと思われる。

■今後の推進に当たって意識していること、留意点等

キーワード等	エピソード等
指導者の養成	・学習指導要領の内容や、調べ学習や問題解決学習のことも踏まえて指導者の養成講座を行っているものは少ない。今後は、この部分も踏まえて体験活動ができる指導者をちゃんと育成していくことが必要だと考えている。
地域との連携による「社会的な効果」を意識しての活動	・地域で活動を推進していく時の視点として、地域の新しい担い手が広がっていくといったような、地域での社会的な効果があるということも重要だと思う。 ・自然豊かな地方での子育てを求めて移住されるという方も多い。自然保育などを行うことによって教育の質を高めて、非認知能力を高めたり、自己肯定感を高めたりということを考えながら、地域と連携して取組をしていくことになるため、移住促進につなげて考えるであるとか、あるいは地域のシニアの人たちとかかわることでシニアの人たちの生きがい作りをしていくとか、地域全体として森に対する理解者や整備員を増やしていくとか、そうしたいろいろな社会的な効果も高めていくことを同時並行で考えていくことがとても大事なところだと考えている。
保護者にとつての効果	・都市での生活においては、保護者は子供をコントロールしなければならない場面が多く、そのことで育児ストレスを抱えていく。自然環境の中で自由に子供が過ごせる環境は、子育てをしている保護者にとってもストレスの軽減になるのではないかと考えられる。

③キッズドア

■ヒアリング対象・活動の概要

組織・団体名、氏名	特定非営利活動法人キッズドア 渡辺由美子様(理事長)
ヒアリング日	2020年12月15日
ヒアリングで伺った活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・低所得、ひとり親世帯の子供を主たる対象とした学習支援。 ・企業と連携した会社見学やワークショップの参加、クラシックコンサートの鑑賞やキャンプへの参加を通じた体験の提供。 ・高校生を対象とした2泊3日の自然体験。

■体験活動を実践して実感する効果、なぜそのような効果が得られると考えるか

キーワード等	エピソード等
将来への夢や希望を抱かせる	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の状態にある家庭の子供は、一般的な子供と比べて旅行などの体験が乏しく、将来への希望や夢を抱きにくい。将来の夢を持っていないことで学習への意欲が湧かず、学力を身に付けにくくなり、貧困の連鎖の一因となる。 ・会社見学やワークショップ、美術館やコンサートの鑑賞、プログラミング教室などにより、子供が将来に対して夢や希望を抱けるようになる。それによって学習意欲が高まり、学力も上がっていく。
高校中退の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に参加していた子供が高等学校に進学しても、知り合いがいないと中退してしまう割合が高い。 ・東京都の足立区で行っていた居場所学習会に参加していた子供を対象に、宮城県石巻市にあるモリウミアスという施設での、2泊3日の自然体験を開催した。 ・仲間と鍬を使って畑を耕したり、専属の料理人が地のものを使って用意した料理を皆で食べたりすることによって、社会や仲間の良さを感じ、頑張ろうという気持ちになれる。この活動に参加した子供は劇的に高校の中退率が低下した。
体験の剥奪を解消することによる自信の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的に豊かでない家庭の子供は、一般的な子供が当たり前で体験していることを経験できていない場合がある。 ・例えば、映画館で映画を見たことがない子供がいた場合、その子供は、成長した時に周囲の話題に乗る機会を逃すことになる。 ・他の子供たちがやっていることを経験したことがないと、子供にとってはそれがコンプレックスになるが、それを解消することは子供の自信につながる。
人の役に立つことによる自己肯定感の高まり	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の状態にある家庭の子供は、町内会の活動などに参加する機会が非常に少ない。 ・地域の活動や行事に参加させ、屋台などの手伝いをさせることは、子供に人の役に立っているという意識を与え、子供の自己肯定感を高めることにつながる。 ・また、地域の方も子供たちに対して協力的になり、様々な支援に関わってくれることになる。

■体験活動の提供方法、指導・支援方法としてどのようなことが重要であるか

キーワード等	エピソード等
人との濃厚なかかわり	・学校で行われるものと比べて、民間で行われる体験活動は、人と人のかかわりが濃厚になる。フェローオーケストラと連携しており、子供の席と非常に近い距離で演奏してくれたり、演奏の後に楽器を触らせてくれたりする。そのような交流を通じて、活動を提供してくれる方への理解が深まり、強く子供の印象に残る。
家庭外からの介入の必要性	・地域の活動の参加などは、子供にとって非常に良い効果があるが、それを理解している親と、地域の活動に面倒くさがって連れて行かない親とでその子供の体験の機会に格差が生じることになる。そのため、家庭の外から、誰かが介入して子供を体験に行かせたり、来た子供の面倒を見たりすることが重要であると思われる。
多くの大人がかかわること	・学校では、少数の大人が多くの子供の面倒を見る必要があり、どうしても「管理」の面が強くなってしまふ。多くの大人が子供を見ることで、子供を一人一人見ることができるようになり、子供の行動に対して、より寛容になれる。 ・また、大人の中でも意見が食い違うことがあり、その様子を見ることで、子供も、社会には様々な人がいるということを理解することができる。 ・元気なシニアの方に協力いただくと、多様な価値観を取り入れることができる。また、大学生のスタッフは入れ替わりが激しいが、シニアの方であれば、子供の成長を長期的に見守ることができる。
子供の参加を促すフック	・貧困の状態にある家庭の子供は、体験活動やキャリア教育に及び腰であることが多い。 ・体験に行くとお弁当やお土産をもらえるなど、子供が興味を持てるような仕掛けがあると子供は喜んで参加するようになる。また、子供の参加意欲が最も向上するのは、普段から接している支援スタッフが一緒に参加してくれるケースである。
支援者に対するフィードバック	・事業を成功させるには、事業の成否にかかわる評価軸を適切に定めて、事業に参加してもらった支援者に対して適宜フィードバックすることが必要である。 ・料理教室であれば、子供が料理を作れるようになることではなく、料理を通して子供の笑顔が増えることを目的にする。自分が事業に参加したことが、子供に対して良かったのかどうかを支援者は気になっている。適切にフィードバックを行い、みんなが満足しながら事業を続けることが重要である。

■今後の推進に当たって意識していること、留意点等

キーワード等	エピソード等
小学生に対する体験活動提供の難しさ	・子供が小さい時の体験活動の提供が課題となっている。キッズドアの学習会では、主要な対象が中学生になってしまいがちであり、また、小学生は遠くに連れていくことが難しい。
全ての子供に開かれた体験活動	・バーベキューなどの自然体験や美術鑑賞、音楽鑑賞は、家庭環境によって体験できる子供とできない子供がいる。それらの体験が全ての子供に響くわけではないが、一部の子供には大きな影響を及ぼす。そのような体験の機会を、どのような環境で育つ子供にも保障することは重要である。

④ラボ国際交流センター

■ヒアリング対象・活動の概要

組織・団体名、氏名	公益財団法人ラボ国際交流センター 間島祐介様(代表理事)
ヒアリング日	2020年12月17日
ヒアリングで伺った活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ラボ国際交流プログラムでは、①ホームステイ先への訪問、②日本国内への外国人の受け入れ、③高校生留学、④海外インターン、⑤短期日本語研修者の受け入れを行っている。 ・国際交流事業の他に、外国人のための日本語教育活動と、言語学に関する調査・研究を行っている。

■体験活動を実践して実感する効果、なぜそのような効果が得られると考えるか

キーワード等	エピソード等
幅広い視野の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・ラボ国際交流の目的は、異なる言語や生活習慣に触れることにより、自国の文化との違いや共通点を見出し、幅広い視野を身に付けることとしている。 ・日本と外国での家族の在り方の違いや、同性・同年代の子供が大変な仕事をしていることを体感することによって、グローバルな視点を身に付けることができる。
他者への感謝	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイを経験することで、今まで育ててくれた親や、忙しい中で自分を受け入れてくれたホストファミリーに対して、感謝の気持ちを持つことができる。
能動的に他者と関わろうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイ中の共同生活やコミュニケーションにおいて、ホストファミリーに何かしてもらおうという受動的な態度ではなく、能動的に人と関わっていく態度が必要であると子供は気付く。 ・他者とのコミュニケーションにおいて、英語の能力だけでなく、相手に言葉を伝えようとする、又は相手を理解しようとする気持ちが重要であるということを学んでいる。
多様な他者と協働することによる社会力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・参加準備として合宿や他人の家に宿泊する体験を必ず課している。 ・異年齢の、話す方言も違う多様な人たちと生活をともにすることで、他者との違いや共通点を見つけ出すことができる。そのような体験を通して、他者への強い関心と愛着、信頼感を育み、社会力が育っていく。 ・また、多様な他者との濃密な交流を通じて、自分は何かしらの点で人の役に立てるという自己肯定感を育てることができる。
五感を使った体験が受容力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・外国にあるもう1つの家族とともに生活しながら、子供が五感を使って直接肌で触れたり、見たり、聞いたりして、外国に住む人たちのことを学ぶことが重要である。 ・本やネットなどで知識を得るだけでなく、実際に体験することの方が、真実を知ることができるし、理解し、受容も大きい。

■体験活動の提供方法、指導・支援方法としてどのようなことが重要であるか

キーワード等	エピソード等
外国にきょうだいを作る	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイプログラムでは、同性・同年代のホストブラザー／ホストシスターがいることが特徴になっている。外国にきょうだいを作って、そこから仲良くなっていくということによって異文化への垣根を低くすることを想定している。
入念な事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の準備として、自分を紹介するアルバムを作ったり、日本文化を紹介する準備をしたりして、コミュニケーションのきっかけにしている。 ・ホームステイ前に自分の生活や環境を客観的に振り返る機会を設けることで、受け入れ先での自分の行動を意識し、また他人のことを考えることができるようになる。 ・普段から、社会の中での自分の存在というものを認識させ、身の回りのことは自分でやる、積極的に様々な人とコミュニケーションを取るといったことを意識させている。 ・事前準備においては、保護者の理解も重要である。
10代前半での「ひとりだちへの旅」	<ul style="list-style-type: none"> ・中学1・2年生の、子供から大人へと成長しようとする時期に、親元を離れて一人で生活をすることで、自立への第一歩となる。 ・10代の前半は、多様な文化に対する許容力があり、いろいろなものに興味関心を持って受け入れることができる感性が豊かな年齢である。体験の中でしか学べないものを、この年齢の子供たちに提供することが重要である。
先輩への憧れによるモチベーションの涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流に参加したいというモチベーションが子供自身にないと、プログラムの効果が薄くなってしまう。 ・モチベーションの涵養のためには、連綿と受け継がれてきた先輩方の言葉や態度に次の世代の子供たちが触れる機会を設け、先輩に対して憧れを抱くことが重要である。
子供の安全と健康の保証	<ul style="list-style-type: none"> ・外国に行く、又は外国の子供を受け入れるという点において、子供の安全と健康を最大限保証することに最も注力している。
目的を常に意識させることによる効果	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流の中で、全ての子供が、順風満帆に進むわけではなく、ホームシックになったり受け入れ先の家庭の中でうまくなじめなかったりする子供がいる。そのようなネガティブな態度になってしまった時は、自身の参加目的を再度思い出させることで、自ら考え、立ち直らせる。その中で、子供のレジリエンスが育っていく。 ・また、プログラムに参加する自身の目的を常に意識させることで、子供に対して自身の行動の責任性を求めていくことも、成長の1つであると考えられる。
受け入れ先への感謝を意識させる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が国際交流プログラムに参加できているのは、ホストファミリーのお陰であり、感謝することを意識させている。感謝の気持ちがあれば、ホストファミリーに対して何をすれば喜んでもらえるかを考えるようになる。

■今後の推進に当たって意識していること、留意点等

キーワード等	エピソード等
全ての子供に機会が与えられるわけではない	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけたくさんの子供に国際交流プログラムに参加してほしいと考えているが、様々な理由から、全ての子供に機会が与えられているわけではないという前提に立って活動している。 ・訪問できない家庭でも受け入れはできるように、相互交流のプログラムを組んでいる。

⑤ハーモニセンター

■ヒアリング対象・活動の概要

組織・団体名、氏名	公益財団法人ハーモニセンター 山本直輝様(事務局長補佐)
ヒアリング日	2020年12月18日
ヒアリングで伺った活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ポニーとの触れ合い体験を主要な活動としている。馬に乗るだけではなく、餌やりなどの動物の世話も含めたプログラムのキャンプを実施している。 ・高校生や大学生に、ボランティアとしてキャンプの手伝いをしてもらっている。

■体験活動を実践して実感する効果、なぜそのような効果が得られると考えるか

キーワード等	エピソード等
チャレンジする中での忍耐力育成	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達や技量に応じて、レベル別の乗馬体験を実施している。低学年向けのプログラムは、馬を好きになってもらうことに主眼を置いているが、高学年のプログラムからは、難しいことにチャレンジしていく仕組みになっている。 ・子供の成長段階に応じて馬の個体を変えることで、子供の忍耐力を引き出す仕掛けを行っている。乗馬を通して忍耐力を養ってきた子供は、気が強く、自分の言いたいことをはっきりと言えるようになる。 ・高校生／大学生のボランティアにおいても、キャンプを経験してきた人は忍耐力があり、何かあって注意しても、次の日は切り替えて作業に取り組んでくれる。
馬への思いやりから他の子の思いやりへ	<ul style="list-style-type: none"> ・朝起きたら自分たちが御飯を食べる前に馬に餌をあげる、雨が降ってきたら自分たちが建物に入る前に馬を小屋に連れていくなど、馬を思いやる声掛けをするように心がけている。 ・馬への思いやりを育てる中で、子供たち同士が他の子に対する思いやりを持つようになっていけると感じる。
他者に助言を求めることでの社会性の育ち	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の子供には、馬を走らせたり障害を飛ばせたりするなど、難しいことに挑戦させているので、1回のキャンプにつき、1人1回程度は涙を見せている。そのような経験を重ねることで、職員や馬に乗るのが上手な他の子供に、自分から聞きに行くようになり、社会性が育っていく。 ・キャンプの常連の子供と初めて参加する子供と比べて、常連の子供の方は、人との距離感が近く、他者の表情を読み取る能力に秀でている。
ボランティアが子供を思いやるように成長する	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは馬のことばかり気にかけていたボランティアも、ボランティアリーダーが何度も子供を見るように声をかけることで、子供の笑顔を引き出すためにはどうしたらいいかなどを考えるようになり、ボランティア自身も明るくなる。

■体験活動の提供方法、指導・支援方法としてどのようなことが重要であるか

キーワード等	エピソード等
小さなことを1つずつ褒める	・低学年の子供は、まずは馬を好きになってくれることに目を向けている。子供によっては、馬に触ることもできない子もいるので、マイナスの言葉はできるだけなくし、できたことを1つずつ褒めるように心がけている。
一人一人テーマを持って接する	・子供が成長していくにつれて、子供に合った馬を選ぶようにしている。子供の方も、「今回はこの馬でこれができるようになる」というテーマを持ってキャンプに挑む子もいる。ボランティアと子供の様子について情報を密に交わしながら、子供一人一人に対してテーマを持って接するという意識をしている。
生き物を扱うことによるバリエーションの豊富さ	・馬にも、怪我をしている時やイライラしている時などがある。生き物を扱うキャンプのため、日によって体験できる内容が異なり、子供たちの心理面にとっては、良いスパイスとなっている。
年の近いボランティアの重要性	・年の近いボランティアが、子供の生活面をサポートすることで、子供は肩の力を抜き、自分をさらけ出して甘えられるようになる。 ・子供一人一人に合った馬を選ぶには、子供の様子を把握することが必要であり、ボランティアから聞いた子供の様子を、乗馬の指導に活かしている。

■今後の推進に当たって意識していること、留意点等

キーワード等	エピソード等
学校教育の中で馬と触れ合える体験	・キャンプは参加費が高額であるため、裕福な家庭の子供しか体験できないことに課題を感じている。学校教育の中で体験ができるようなプログラムを増やしていきたい。 ・新潟県の小学校で、乗馬体験を実施することがあるが、頻度は少ない。より日常的に体験の場を作っていけると良い。

⑥新潟市アグリパーク

■ヒアリング対象・活動の概要

組織・団体名、氏名	新潟市アグリパーク(新潟市農林水産部食と花の推進課) 澤栗賢一様(新潟市農林水産部食と花の推進課アグリ・スタディ指導主事(教育委員会学校支援課併任)) 佐藤克彦様(新潟市農林水産部食と花の推進課教育ファーム・農村都市交流担当係長)
ヒアリング日	2020年12月21日
ヒアリングで伺った活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市では日本一の米どころを活かした「学校教育田」の取組や全国初の公立教育ファームである「新潟市アグリパーク」を整備し、子供たちが農業を学ぶ環境を整えている。 ・その中で、学習と農業体験を結び付けた、農業体験学習「アグリ・スタディ・プログラム」(以下、プログラム)を学校の授業の一環として実施し、市内の子供たちが体系的に農業を学んでいる。 ・新型コロナウイルスの影響でプログラムが中止になったことへの対応として、教材としての動画を作成し、またアグリパークの動画チャンネルを開設している。

■体験活動を実践して実感する効果、なぜそのような効果が得られると考えるか

キーワード等	エピソード等
農業への興味・関心の高まり	・プログラムの一環で行ったアンケートでは、農業に対して興味・関心を持ち、それが高まっていることが伺える記述があった。
将来の職業としての農業	・プログラムの中で実際に労働を体験し、農家や酪農家などの地域の専門家の方から、農業における挑戦する楽しさや生計の立て方などの話を聞くことによって、農業が子供の将来の選択肢の1つになる。

■体験活動の提供方法、指導・支援方法としてどのようなことが重要であるか

キーワード等	エピソード等
学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムが学校の授業の一環として行われているため、学習指導要領に基づき、それぞれの教科等について農業体験を活かしたプログラムを用意している。 ・学校との事前打ち合わせが重要であり、教科等でのねらいや、単元の中でのプログラムの位置付けを担当者と確認している。
事前学習の中で問題意識を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習をしっかりと行ってきた子供は、目的意識を持って主体的にプログラムに取り組んでいる。 ・例えば、事前に生活科の学習の中で野菜作りに熱心に取り組んでいる子供は、どうすれば野菜を上手く育てられるか、多くの実をつけるにはどうしたらよいかなどの問題意識を持つ。そのような問題意識を持ってプログラムに参加できれば、学びが有意義なものとなる。 ・今年度はアグリパークと学校を繋いだオンライン事前学習を Zoom で試行的に実施した。子供たちの興味・関心を高める効果が非常に大きかったと認識している。

キーワード等	エピソード等
五感を通して学ぶ	・目で見える、耳で聞く、手で触る、鼻で嗅ぐ、口で味わう。この五感を十分に働かせることを、プログラムでは重視している。
アグリ魂に学ぶ	・「育てる」と「消費する」ことを調和させていくことを、「アグリ魂」と呼んでいる。 ・植える、世話をする、採取する、収穫するなどの「育てる」活動と、加工する、調理する、飲食するなどの「消費する」活動を組み合わせたプログラムとすることで、働くこと、食べること、生きることを自分ごととして考えられるようになる。
働くことを通して学ぶ	・子供たちに働いているという実感を持たせるため、プログラムの中に働く時間を一定程度組み込んでいる。調理体験のプログラムでは自分の使った食器を洗っている。また、暑い季節や寒い季節に屋外での作業をする大変さや、農作物を収穫する喜びなどを実感させるようにしている。 ・実際に働くことを通して農作物を作っている方の思いを知ること、食べ物や農業の大切さを知ってもらいたい。
「アクティブ・ラーニング」で学ぶ	・プログラムの始めに学習課題を確認し、プログラムの終わりにまとめ・振り返りの機会を設けることで、体験を言語活動に結び付ける工夫をしている。 ・学校に戻ってから、プログラムを通して学んだことを教科等の学習に活かしてもらっている。 ・問題解決的な学習課程に農業体験を位置付け、体験と言語活動が繰り返されるプログラムを作成している。
専門家に学ぶ	・子供が農家や酪農家、食品加工の専門家から直接学ぶことを大切にしている。 ・子供と専門家との出会いを効果的にするために、教師、専門家、インストラクター、地域の方の役割分担を明確にしている。

■今後の推進に当たって意識していること、留意点等

キーワード等	エピソード等
プログラムを通しての子供の成長の測定	・プログラム単体での学習効果を測定することは難しい。 ・子供に身に付けて欲しい資質・能力について、アンケート等により把握することもあるが、全てのプログラムで実施できているわけではない。プログラムの効果をより正確に把握することは、今後の課題となっている。
タブレット端末の活用	・GIGA スクール構想により、来年には新潟市の全ての小中学生がタブレット端末を持つことになる。何らかの理由でアグリパークに来園することが難しい場合、プログラムによってはその一部をオンラインで実施することが可能であることは確認できている。 ・現段階では、通信環境などでいくつかの課題があるため、教育委員会と連携しながら対応していく。 ・今後、一人一台のタブレット端末を活用したプログラムの開発に取り組んでいく。
学校の先生方の理解	・授業と結び付けてプログラムを実施しているため、学校の先生方の理解が必要である。そのため、年に数回、教育委員会と連携して先生方の研修を行っている。 ・取組を始めて7年目になるが、何度も来ていただいている学校があり、先生方にプログラムの良さを実感していただけていると感じている。

⑦ラボ教育センター

■ヒアリング対象・活動の概要

組織・団体名、氏名	株式会社ラボ教育センター 竹内美貴子様(ラボ言語事業グループ 広報担当)
ヒアリング日	2020年12月23日
ヒアリングで伺った活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児から大学生を対象に、週に1回行われるラボ・パーティで英語劇に取り組むことが主な活動となる。 ・小学生から大学生を対象とした、3泊4日のラボ・キャンプを、春夏冬の子供たちの長期休暇の時期に行っている。 ・その他にも、海外ホームステイや受け入れ、交流活動を行っている。

■体験活動を実践して実感する効果、なぜそのような効果が得られると考えるか

キーワード等	エピソード等
問題を解決しようとする姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・ラボ・パーティでは、指導者は子供たちに指示をしないため、子供たち自身で、物語のテーマや誰が何の役をやるのかなどを考えていかなければならない。仲間の中で納得できる答えを子供たち同士で考える過程で、問題を解決しようとする姿勢が身に付く。
人との協働を厭わない	<ul style="list-style-type: none"> ・ラボ・パーティや、ラボ・キャンプは、必ずグループで行われる活動であるため、自然と人と接することになる。自分ひとりではできなくても、人に助けを求められる子供が育っていると思う。
新しいものに挑戦しようとする姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプでは、高校生が20～25人の子供たちをリーダーとしてまとめることになる。キャンプのリーダーは、高校生には大変な仕事ではあるが、役割を強制されているわけではなく、彼ら／彼女らは自発的にリーダーになっている。 ・新しいものに対して、とりあえずやってみようという姿勢は、子供たちに身に付いているように思われる。
社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・英語劇やキャンプの中で、子供はグループの中での自分の位置を考えながら、今そこで何ができるかということを常に考える。そのため、社会へ貢献する力が養われる。
異文化の許容	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の人間は異なるバックグラウンドを持っている。日本各地の子供が集まるラボ・キャンプで、異文化を許容し、楽しみながら協力していくことが小さい頃から身に付いていると感じている。その結果が国際交流にも結び付く。
ひとりの人間としての自立・自律	<ul style="list-style-type: none"> ・子供がラボ・パーティに入会した当初の幼い頃は、先生も混ざって活動するが、小学生くらいになると、その日にどのような活動に、どう取り組むかを子供たち同士で考えられるようになる。 ・ラボ・パーティの題材として物語を使うことによって、子供の関心を引き出せているという点も重要である。

■体験活動の提供方法、指導・支援方法としてどのようなことが重要であるか

キーワード等	エピソード等
子供が本来持っている力を引き出す	<ul style="list-style-type: none"> ・何かを教え込むのではなく、子供が本来持っている力を引き出すことを重視している。 ・例えば、キャンプでホームシックになっている子供がいたとしても、簡単には帰らせずに勇気付ける。一晩寝ると元気になる子供は多い。この自分の力でホームシックを乗り越えたという経験は、子供にとって大きな自信となる。
グループ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・常にグループで活動させ、子供たち同士で学び合うことを重視している。 ・異年齢の子供たち同士だと、年齢が下の子供は憧れを抱きながら活動し、年齢が上の子供は、小さい子供にはどのように話したら伝わるかを考えながら接する。そのような子供たち同士の間に生まれる対話が、子供の学びにとって重要である。 ・3泊4日のキャンプでは、子供同士で学びあうことが大きく、先輩や周りの子供たちがやっている様子を見て、自分も頑張ってみようという気持ちになれる。
非日常性	<ul style="list-style-type: none"> ・子供がいつも生活している学校や家庭とは違う環境・メンバーと何かをすることが大切である。非日常性を提供することによって、子供は日常の自分を忘れて、探求や挑戦をすることができると考えている。
大人の役割・たたずまい	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の子供に何をどう身に付けて欲しいかを常に意識している。 ・子供に対して、指示をするのではなく、見守るということを心がけている。また、子供が失敗した場合でも、発想を転換させて激励していくことが重要である。
自ら考えさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が全て指示してしまうと、子供は考える必要がないので、言われたことしかできなくなってしまう。 ・自分で考える力がなければ社会では生きていけない。ラボ・パーティでは、とにかく考え抜くということを重視している。体験活動では、考えるトレーニングができると思う。
挑戦できるチャンスの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の頃であれば、失敗しても次の機会に挑戦することができるため、継続的に体験を提供する必要がある。 ・経験したことがないことに対して、後退りしてしまう子供ではなく、挑戦してみようと思える子供を育てるには、何らかの設定を行うことが必要であると考えている。 ・子供は年代に応じて果たすことができる役割が異なるため、長期的なスパンで体験を提供する必要がある。
子供の達成感が次への原動力に	<ul style="list-style-type: none"> ・達成感を得ることが、子供にとって次の挑戦への大きな原動力となる。 ・例えば、英語圏にホームステイした時、英語を上手く話すことができなくても、ホストファミリーととても良い時間を過ごすことができたのであれば、その経験はその後英語をもっと勉強しようという原動力になる。

■今後の推進に当たって意識していること、留意点等

キーワード等	エピソード等
日常の体験を重視する	<ul style="list-style-type: none"> ・環境的に体験活動の機会が乏しい子供もいるが、必ずしもキャンプ場や海外に行かなければいけないわけではない。親と一緒にいく動物園や、近くの公園でのハイキングでも、上記の指導方法を意識することで、子供は良い体験をすることができる。

⑧プレーパークせたがや

■ヒアリング対象・活動の概要

組織・団体名、氏名	特定非営利活動法人プレーパークせたがや 三輪英児様(理事/事務局長) 荒木直子様(羽根木プレーパーク世話人代表)
ヒアリング日	2020年12月25日
ヒアリングで伺った活動の概要	・子どもにとって自由な遊び場を提供するプレーパークの運営を地域住民の手で行っている。 ・一般の公園を借りて様々な遊具や焚き火等で遊ぶプレーカー事業、思春期の中高生のための夕食会、子育て世代の母親の情報交換会等を行っている。

■体験活動を実践して実感する効果、なぜそのような効果が得られると考えるか

キーワード等	エピソード等
地域の方との繋がり	・プレーパークでは出入りが自由の遊び場であるので、異年齢との交流が可能である。 ・最も年齢差が大きい例では、5歳児と80歳の男性がベーゴマで真剣勝負しているということがあった。現代の子どもは、友人の多くが同年代の子どもであるが、プレーパークで遊ぶ子どもは、同じ地域にすむ幅広い年齢の方と付き合うことができる。
人間を観察する力が養われる	・年齢を含め様々な方が出入りするプレーパークで遊ぶことによって、人間を観察する能力が身に付く。 ・大学生がインターンなどでプレーパークに来る時も、一見しただけで相手にしてくれそうな人とそうでない人を嗅ぎ分けることができる。
身体機能の向上	・プレーパークに来る子どもは、地面が凹凸の激しい場所で好きに走り回っているため、体幹がしっかりしている。走ることを訓練しているわけではなく、好きに走らせているからこそ、子供の能力が高まっていると考えている。 ・プレーパークの子どもたちを連れて長野県で田植えの体験をしたことがあった。村の子どもたちでも最初に田んぼに入った時は大抵転んでしまうのに、プレーパークの子どもたちは転ばないと、農業委員会の方に驚かれた。

■体験活動の提供方法、指導・支援方法としてどのようなことが重要であるか

キーワード等	エピソード等
子ども主体で考える	・プレーパークの遊びの定義は、子どもが好きなことを好きなように好きな時にすることを指す。そして、子どもの遊びをサポートすることがプレーパークの役割である。 ・大人が楽しいだろうと考えていることを子どもに強要したり、子どもがやりたいと思っていることを遮ったりすることは、子どもを管理することになる。管理をせずに、個々の子どもがそれぞれの遊びを展開できるように目を配るのがプレーパークの在り方である。

キーワード等	エピソード等
子どもを見守ることということ	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーパークでは禁止事項をあまり設けていない。命の危険があるようなことは止めるが、基本的には子どもの判断に任せている。 ・子どもの判断に任せることは、子どもを放っておくことではない。大人がいる現場においては、大人が子どもを見守ることが重要である。子どもに強制することなく、適切にコミュニケーションを取ることが、子どもを見て守る、すなわち見守ることになる。 ・また、子どもを見守るといのは、危険から子どもを守るという意味と同時に、その子どもの何かになるという意味を含んでいる。地域の方々が、子どもにとっての「近所のお兄さん、お姉さん」になることができれば、地域コミュニティの再生にもつながる。
自分の責任で自由に遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーパークでは、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにしている。自分の責任という言葉は、子どもがすることに対して放っておくという意味ではなく、自分が自由に遊びを選んでいいという、子どもに対する応援の意味で使っている。 ・また、自分の責任という言葉は、大人に対しては警告の意味を持っている。子どもをプレーパークに連れてきた、又は遊ぶことを認めているのは保護者であり、何でも人任せにするのではなく、子どもをしっかり見守ってくださいというメッセージになっている。
子ども目線のプレーワーカーの存在	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びのコーディネートをするため、親の世代よりも子どもに近い年齢で、常に子供の気持ちに寄り添うことができる若者をプレーワーカーとして雇っている。子どもとしても、年の近い若者の方が心を開きやすい。 ・子どもが爆竹をやりたいと言ってきた時や、鳩を捕まえてきて食べたいと言ってきた時も、プレーワーカーは、できないと初めから決めつけずに、どうすれば実現できるかを子ども目線で考えた。結局、爆竹は一部を土に埋めて爆発させ、鳩は法的・健康的に問題ないことを確認した上で焼き鳥にして食べた。

■今後の推進に当たって意識していること、留意点等

キーワード等	エピソード等
自分が何をしたいか分からない子どもが増加	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーパークに来て、「いったい何をしたらいいんですか」と聞いてくる子どもが増えてきているように感じる。 ・親や先生の許可を得なければ何もしてはいけないという癖がついていたり、何かをしたいという自分の気持ちが湧き上がる前に、次々と与えられることに慣れたりしている子どもが増えている。自分で決めることを経験できていないため、自分は何がしたいか分からないという事態に陥っている。
子どもが遊びで重視するのは結果ではなく過程	<ul style="list-style-type: none"> ・大人は何かにつけて費用対効果や理由を求めようとするが、子どもにとっては、遊びによって得られるものよりも、本人の欲求を満たすこと自体が重要である場合がある。 ・「何かを作りたい」のではなく、「釘を打ちたい」から木に釘を打つ、「鶴を折りたい」のではなく、「紙を折りたい」から折り紙をする、という子どもの行動を理解することが、子どもと接するにあたって重要だと考えている。
地方の子どもの外で遊ぶ機会が減少	<ul style="list-style-type: none"> ・人口規模の小さい自治体だと、学校が家から遠く、子どもが通学するにも親が車で送り迎えをすることになる。すると、子どもが学校からの帰り道に外で遊ぶということがなくなり、家でゲームばかりすることになる。

3. 21世紀出生児縦断調査のデータ分析での使用項目・変数化の方法等

(1) 「家庭による背景・要因・属性等」に関する項目・変数

①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）

第2回調査～第5回調査の各回での世帯構成の回答を基に、母・父の同居があるかと、父については単身赴任であるか否かの回答⁸を踏まえ、ひとり親世帯であるか否かを判別した。分類の結果、全体の1割弱の世帯が、第5回調査までの時点でひとり親世帯であると考えられた。

なお、各回の調査項目で無回答（不詳）のケースがあった場合には、その前後の回の回答状況が継続しているものとみなした。第5回調査までに調査サンプルとして脱落している場合には、集計の対象外とした。

図表 3-1-1 世帯類型についての分類・分布

	構成割合 (n=45,072)
いずれの回ともに母同居・父同居(又は父は単身赴任)	93.3%
上記以外(母非同居、又は父非同居かつ非単身赴任であったことがあったケース)	6.7%

※第2回～第5回調査の回答に基づく分類。不詳のケースは集計対象から除く。

②父母の収入

第1回、第2回、第4回、第5回の各回での回答を基に、世帯としての収入の水準を把握した⁹。

縦断調査では、「母（お母さん）が働いて得た年収」、「父（お父さん）が働いていた年収」、「その他¹⁰の年間収入」に分類して調査が行われているが、本調査研究では、これらを合算して、世帯の収入の水準を把握することとした。

ただし、収入の有無や金額について無回答（不詳）であるケースが比較的多く見られた。このような無回答（不詳）のデータがあった場合、一般的には集計の対象外とすることが想定されるが、全ての回答がそろっているデータのみを集計の対象とするという処理は、逆にサンプルをゆがめることにもなりかねないと考えられた¹¹。

また、「母が働いて得た年収」、「父が働いていた年収」、「その他の年間収入」のそれぞれについて、「収入あり・金額回答あり」、「収入あり・金額無回答（不詳）」、「収入なし」、「収入の有無無回答（不詳）」

⁸ 単身赴任であるか否かについて、第1回調査では把握されておらず、また、第2回～第4回調査では父親についてのみ調査が実施されている。これらのことを踏まえ、第2回～第5回の調査データを用いて、母親については同居の有無、父親については同居の有無と単身赴任の有無で判別した。

⁹ 第3回調査では収入についての調査は実施されていない。

¹⁰ 縦断調査の調査票において、「親からの援助、家賃・地代等の財産収入、児童手当、出産一時金等の給付金等を含みませ。」とされている。

¹¹ 縦断調査では、「母が働いて得た年収」、「父が働いていた年収」、「その他の年間収入」について、「それぞれの金額を記入してください。分けられない場合は、どちらかにまとめて記入していただいて結構です。」とされており、例えば母親の年収について、「収入あり」と回答があっても、金額が無回答（不詳）というケースも想定される。

の4つのパターンがあり、合計で次の64の回答の組み合わせが考えられたことから、それぞれのパターン別に収入額算出の方法を定め、それに従い世帯としての収入額を把握することとした。

図表 3-1-2 回答パターン別の収入の算出方法

整理番号	母親の収入の有無	母親の収入の金額	父親の収入の有無	父親の収入の金額	その他の収入の有無	その他の収入の金額	収入額算出の方法
1	あり	あり	あり	あり	あり	あり	母親+父親+その他
2	あり	あり	あり	あり	あり	不詳	母親+父親
3	あり	あり	あり	あり	なし	—	母親+父親
4	あり	あり	あり	あり	不詳	—	母親+父親
5	あり	あり	あり	不詳	あり	あり	母親+その他
6	あり	あり	あり	不詳	あり	不詳	母親
7	あり	あり	あり	不詳	なし	—	母親
8	あり	あり	あり	不詳	不詳	—	母親
9	あり	あり	なし	—	あり	あり	母親+その他
10	あり	あり	なし	—	あり	不詳	母親
11	あり	あり	なし	—	なし	—	母親
12	あり	あり	なし	—	不詳	—	母親
13	あり	あり	不詳	—	あり	あり	母親+その他
14	あり	あり	不詳	—	あり	不詳	母親
15	あり	あり	不詳	—	なし	—	母親
16	あり	あり	不詳	—	不詳	—	母親
17	あり	不詳	あり	あり	あり	あり	父親+その他
18	あり	不詳	あり	あり	あり	不詳	父親
19	あり	不詳	あり	あり	なし	—	父親
20	あり	不詳	あり	あり	不詳	—	父親
21	あり	不詳	あり	不詳	あり	あり	非算出
22	あり	不詳	あり	不詳	あり	不詳	非算出
23	あり	不詳	あり	不詳	なし	—	非算出
24	あり	不詳	あり	不詳	不詳	—	非算出
25	あり	不詳	なし	—	あり	あり	非算出
26	あり	不詳	なし	—	あり	不詳	非算出
27	あり	不詳	なし	—	なし	—	非算出
28	あり	不詳	なし	—	不詳	—	非算出
29	あり	不詳	不詳	—	あり	あり	非算出
30	あり	不詳	不詳	—	あり	不詳	非算出
31	あり	不詳	不詳	—	なし	—	非算出
32	あり	不詳	不詳	—	不詳	—	非算出

整理 番号	母親の 収入の有無	母親の 収入の金額	父親の 収入の有無	父親の 収入の金額	その他の 収入の有無	その他の 収入の金額	収入額算出の方法
33	なし	－	あり	あり	あり	あり	父親＋その他
34	なし	－	あり	あり	あり	不詳	父親
35	なし	－	あり	あり	なし	－	父親
36	なし	－	あり	あり	不詳	－	父親
37	なし	－	あり	不詳	あり	あり	非算出
38	なし	－	あり	不詳	あり	不詳	非算出
39	なし	－	あり	不詳	なし	－	非算出
40	なし	－	あり	不詳	不詳	－	非算出
41	なし	－	なし	－	あり	あり	その他
42	なし	－	なし	－	あり	不詳	非算出
43	なし	－	なし	－	なし	－	非算出
44	なし	－	なし	－	不詳	－	非算出
45	なし	－	不詳	－	あり	あり	その他
46	なし	－	不詳	－	あり	不詳	非算出
47	なし	－	不詳	－	なし	－	非算出
48	なし	－	不詳	－	不詳	－	非算出
49	不詳	－	あり	あり	あり	あり	父親＋その他
50	不詳	－	あり	あり	あり	不詳	父親
51	不詳	－	あり	あり	なし	－	父親
52	不詳	－	あり	あり	不詳	－	父親
53	不詳	－	あり	不詳	あり	あり	非算出
54	不詳	－	あり	不詳	あり	不詳	非算出
55	不詳	－	あり	不詳	なし	－	非算出
56	不詳	－	あり	不詳	不詳	－	非算出
57	不詳	－	なし	－	あり	あり	その他
58	不詳	－	なし	－	あり	不詳	非算出
59	不詳	－	なし	－	なし	－	非算出
60	不詳	－	なし	－	不詳	－	非算出
61	不詳	－	不詳	－	あり	あり	非算出
62	不詳	－	不詳	－	あり	不詳	非算出
63	不詳	－	不詳	－	なし	－	非算出
64	不詳	－	不詳	－	不詳	－	非算出

なお、ある調査回では金額が算出できなくても、別の回では算出可能というケースも多く見られた。そのため、いずれの調査回においても収入額のデータが得られなかった場合は集計の対象外としたが、4回の調査回のうち、1回でも算出できればその値を、2回以上の調査回でデータが得られた場合はそれらを平均した金額を用いることとした。

なお、分析においては、下記のような分類を用いた。外れ値等があることを踏まえ、回帰分析を行う際にも、金額をそのまま用いるのではなく、下記の11段階の分類を用いた（相対的な収入の多寡を把握する変数として1～11の値を使用した）。また、層別の分析を行う場合には、等価世帯所得の水準による分類を用いた。

図表 3-1-3 収入についての分類・分布

	構成割合 (n=46,361)
100万円未満	1.0%
100万円以上 200万円未満	2.9%
200万円以上 300万円未満	8.7%
300万円以上 400万円未満	17.5%
400万円以上 500万円未満	20.4%
500万円以上 600万円未満	17.1%
600万円以上 700万円未満	11.6%
700万円以上 800万円未満	7.7%
800万円以上 900万円未満	4.7%
900万円以上 1,000万円未満	2.8%
1,000万円以上	5.6%

※第1回、第2回、第4回、第5回調査の回答に基づく分類。いずれの回も不詳のケースは集計対象から除く¹²。

図表 3-1-4 収入についての分類・分布（等価世帯所得の水準による分類¹³）

	構成割合 (n=39,617)
中央値の2分の1未満	7.4%
中央値未満、中央値の2分の1以上	42.6%
中央値以上	50.0%

※世帯の人数は第5回調査データにより把握。

¹² 除いたケースは654ケースであった。

¹³ 等価世帯所得の中央値は243.96万円であった。

③父母の学歴

第2回調査で、母・父のそれぞれについて、「最後に卒業した（あるいは在学中の）学校」について調査が行われている。

この調査項目に関する回答結果を基に、「母・父ともに短大・高専、大学、大学院以外を卒業」、「母・父いずれかが短大・高専、大学、大学院を卒業」、「母・父ともに短大・高専、大学、大学院を卒業」の3分類で整理して集計に用いた。

なお、無回答（不詳）であった場合には、「短大・高専、大学、大学院以外を卒業」とみなして分類した¹⁴。

図表 3-1-5 父母の学歴についての分布

	母 構成割合 (n=43,925)	父 構成割合 (n=43,925)
中学校	4.1%	6.8%
専修・専門学校(中学校卒業後)	1.3%	1.4%
高校	39.1%	39.1%
専修・専門学校(高校卒業後)	17.7%	12.3%
短大・高専	23.3%	3.1%
大学	13.2%	32.2%
大学院	0.5%	3.4%
その他	0.1%	0.1%
不詳	0.6%	1.7%

※第2回調査の回答者が集計対象。

図表 3-1-6 父母の学歴についての分類・分布

	構成割合 (n=43,925)
母・父ともに短大・高専、大学、大学院以外を卒業	48.2%
母・父いずれかが短大・高専、大学、大学院を卒業	27.9%
母・父ともに短大・高専、大学、大学院を卒業	23.9%

※第2回調査の回答者が集計対象。無回答（不詳）であった場合には、「短大・高専、大学、大学院以外を卒業」として分類。
※回帰分析等の際には、ダミー変数化して使用する。

¹⁴ 父母の学歴について、ひとり親世帯である場合などでは、無回答（不詳）となる割合が高くなるのではないかと考えられたことから、無回答（不詳）の場合に集計対象外とするのではなく、「短大・高専、大学、大学院以外を卒業」とみなして集計対象に含めることとした。

④親子のかかわり・しつけ

21世紀出生児縦断調査において親子のかかわり方については様々な形で情報が得られているが、父母それぞれについて情報を得る形になっている項目が多く、ひとり親世帯である場合などに関しては、変数化するのが難しいと考えられた。

そこで、第5回までの調査回で、父母に回答が分かれなくて「しつけ」に関して情報が得られる第4回のデータに着目した¹⁵。第4回で調査をしている「しつけの状況」に関する13の項目について、「しつけをした（今はしていない）」、又は「しつけをしている」と回答した個数に着目した。

図表 3-1-7 「しつけ」について各項目の回答状況

	しつけの状況に関する回答割合(n=39,420)		
	しつけをしていた (今はしていない)	しつけをしている	しつけをしていない (これまでしていない)
挨拶や返事などをする	17.5%	80.4%	2.1%
食事の後自分の食器を台所に運ぶ	10.7%	41.7%	47.6%
人の話は最後まで聞く	6.6%	65.2%	28.2%
うそをつかない	6.6%	66.2%	27.2%
遊具で遊ぶときに順番を守る	14.5%	81.9%	1.3%
テレビやコンピュータゲームをする時間は決めている	7.8%	42.9%	49.3%
おもちゃや絵本をこわさない	18.1%	72.2%	9.6%
遊んだ後の片付けをする	8.8%	89.9%	1.3%
人の物と自分の物を区別する	16.4%	69.4%	14.2%
人に乱暴しない	13.8%	80.4%	5.8%
道路に出るときは必ず右左をみる	6.9%	83.3%	9.7%
知らない人にはついて行かない	6.2%	71.7%	22.1%
公共の場(バス・電車、病院等)では騒がない	8.2%	88.5%	3.3%

※第4回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

¹⁵ これら「しつけ」に関する内容にも体験活動としての要素が含まれている部分があると考えられるが、本調査研究では、幼少期のしつけについては「家庭による背景・要因・属性等」に関する項目として扱い、この要因からの影響を考慮した上で、学童期における体験がその後の意識等に影響しうるかということに着目した。

図表 3-1-8 「しつけ」の回答個数についての分類・分布

	構成割合 (n=39,420)
6 個以下	3.3%
7 個	3.3%
8 個	5.9%
9 個	10.0%
10 個	14.7%
11 個	20.2%
12 個	23.5%
13 個	19.1%

※第 4 回調査の回答者が集計対象。無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。
 ※回帰分析等の際には、個数のデータをそのまま使用する。

⑤住環境等

「体験」の実施状況に影響を及ぼし得る背景要因として、保護者の状況に加えて、住環境等の状況について 2 つの観点から着目した。

1 点目は、第 4 回調査で把握されている住環境に関する項目に関し、特に「田園・山間地域」であるか否かについて分析に使用した。

2 点目としては、居住地の自治体が「14 大都市」であるか、「その他の市」、「郡部」、「外国」であるかが把握できるため、同じく第 4 回の調査で得られるデータを用いて、その違いを考慮した分析を行った。

図表 3-1-9 住環境に関する回答状況

	構成割合 (n=41,364)
住宅の多い地域	79.1%
商店の多い地域	3.4%
工場の多い地域	1.3%
田園・山間地域	13.6%
その他	2.5%

※第 4 回調査の回答者が集計対象。当該設問に無回答(不詳)のケースは集計対象から除く。
 ※回帰分析の際には「田園・山間地域ダミー」として使用した。

図表 3-1-10 居住の自治体の分類・分布

	構成割合 (n=41,559)
14 大都市	21.7%
その他の市	60.3%
郡部	17.7%
外国	0.3%

※第 4 回調査のデータを基に集計。回帰分析等の際には、ダミー変数化して使用した¹⁶。

⑥子供の性別

子供が経験する体験の内容や、その後の意識等に関する回答状況については性別による差異があることも想定されたことから、統制変数の 1 つとして、子供の性別も分析に用いた。

図表 3-1-11 子供の性別の分類・分布

	構成割合 (n=47,015)
男	52.0%
女	48.0%

※第 1 回調査のデータを基に集計。

※回帰分析の際には「男子ダミー」として使用した。

¹⁶ 「その他の市」を 0 とし、それ以外をそれぞれ「1」としたダミー変数により分析を行った。

(2)「体験」に関する項目・変数

①自然体験・社会体験・文化的体験

第8回、第10回、第11回、第12回の各調査で、「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」の3つの分類により、計9つの項目で1年間での活動実施の有無・多寡について情報が得られている。

これら複数回のデータが得られている中で、本調査研究では、最も年齢が低い時期の第8回調査と、最も年齢が高い時期の第12回調査の回答に着目することとし、各回調査での自然体験、社会体験、文化的体験の3つの項目群で「1～2回」、又は「3回以上」の該当項目数(0～3の値の変数、「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」の3種類)を分析に用いることとした。

図表 3-2-1 第8回調査各項目の回答状況

		第8回調査の回答割合(n=32,067)		
		まったくない	1～2回	3回以上
自然 体験	キャンプ、登山、川遊び、釣り	32.4%	49.0%	18.6%
	海水浴、マリンスポーツ	28.5%	53.7%	17.8%
	ウインタースポーツ	64.9%	26.3%	8.9%
社会 体験	農業体験	57.8%	29.3%	12.9%
	職業体験	90.4%	8.4%	1.2%
	ボランティア	84.2%	13.5%	2.4%
文化的 体験	動植物園・水族館・博物館・美術館見学	13.0%	61.6%	25.4%
	音楽・演劇・古典芸能鑑賞又は体験	56.7%	36.3%	7.0%
	スポーツ観戦	62.9%	26.3%	10.9%

※第8回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-2-2 第12回調査各項目の回答状況

		第12回調査の回答割合(n=29,413)		
		まったくない	1～2回	3回以上
自然 体験	キャンプ、登山、川遊び、釣り	41.2%	45.7%	13.0%
	海水浴、マリンスポーツ	42.0%	47.4%	10.6%
	ウインタースポーツ	66.6%	26.1%	7.4%
社会 体験	農業体験	66.3%	25.1%	8.6%
	職業体験	85.7%	13.0%	1.4%
	ボランティア	81.0%	15.8%	3.2%
文化的 体験	動植物園・水族館・博物館・美術館見学	25.5%	59.9%	14.6%
	音楽・演劇・古典芸能鑑賞又は体験	55.3%	36.8%	8.0%
	スポーツ観戦	53.7%	30.5%	15.8%

※第12回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-2-3 第 8 回調査での「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」の 3 つの項目群で「1~2 回」、又は「3 回以上」の該当項目数

	第 8 回調査の「1~2 回」、又は「3 回以上」の該当個数割合 (n=32,067)			
	0 個	1 個	2 個	3 個
自然体験	11.8%	25.6%	39.1%	23.4%
社会体験	49.0%	36.9%	11.7%	2.4%
文化的体験	7.6%	35.0%	39.8%	17.6%

※第 8 回調査の回答者が集計対象。無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-2-4 第 12 回調査での「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」の 3 つの項目群で「1~2 回」、又は「3 回以上」の該当項目数

	第 12 回調査の「1~2 回」、又は「3 回以上」の該当個数割合 (n=29,413)			
	0 個	1 個	2 個	3 個
自然体験	20.5%	28.0%	32.4%	19.1%
社会体験	53.3%	30.6%	11.9%	4.2%
文化的体験	12.1%	30.9%	36.4%	20.6%

※第 12 回調査の回答者が集計対象。無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

②遊び

子供の遊びの状況については、第 2 回~第 8 回、及び第 12 回で回答が得られている（第 12 回は子供本人の回答）。ただし、各回によって「遊び」に関して調査されている内容が若干異なる。

このうち、第 7 回調査では、「遊び相手」と「遊ぶ場所」、「放課後の遊び相手の人数」について、それぞれ情報が把握できるため、第 7 回の調査に着目し、次の各観点に基づく変数を分析に用いた。

- A : 「遊び相手」に関し、「年上の子」、「年下の子」、「大人（家族以外）」の 3 項目について「よく遊ぶ」、又は「ときどき遊ぶ」を回答する個数（「遊び相手の多様性」）
- B : 「遊ぶ場所」に関し、「公共の場所（学校、児童館、学童保育、公園など）」、「空き地や路地」、「自然の場所（原っぱ、林、海岸など）」の 3 項目について「よく遊ぶ」、又は「ときどき遊ぶ」を回答する個数（「遊び場所の多様性」）
- C : 「放課後（学校の登校日）」に遊ぶ人数（「遊び相手人数の多寡」）

A：「遊び相手」に関し、「年上の子」、「年下の子」、「大人（家族以外）」の3項目について「よく遊ぶ」、又は「ときどき遊ぶ」を回答する個数

図表 3-2-5 「遊び相手」に関する各項目の回答状況

	第7回調査遊び相手に関する回答割合(n=34,381)		
	よく遊ぶ	ときどき遊ぶ	ほとんど遊ばない・まったく遊ばない
年上の子	23.0%	54.7%	22.4%
年下の子	12.2%	49.0%	38.8%
大人(家族以外)	3.9%	31.6%	64.4%

※第7回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-2-6 「遊び相手」に関する回答個数についての分類・分布

	構成割合 (n=34,381)
0個	12.7%
1個	25.0%
2個	37.5%
3個	24.8%

※第7回調査の回答者が集計対象。無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

B：「遊ぶ場所」に関し、「公共の場所（学校、児童館、学童保育、公園など）」、「空き地や路地」、「自然の場所（原っぱ、林、海岸など）」の3項目について「よく遊ぶ」、又は「ときどき遊ぶ」を回答する個数

図表 3-2-7 「遊ぶ場所」に関する各項目の回答状況

	第7回遊ぶ場所に関する回答割合(n=35,164)		
	よく遊ぶ	ときどき遊ぶ	ほとんど遊ばない・まったく遊ばない
公共の場所(学校、児童館、学童保育、公園など)	46.4%	43.7%	9.9%
空き地や路地	12.4%	27.4%	60.2%
自然の場所(原っぱ、林、海岸など)	7.4%	40.8%	51.9%

※第7回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-2-8 「遊ぶ場所」に関する回答個数についての分類・分布

	構成割合 (n=35,164)
0個	4.9%
1個	34.9%
2個	38.2%
3個	22.4%

※第7回調査の回答者が集計対象。無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

C : 「放課後（学校の登校日）」に遊ぶ人数

図表 3-2-9 「遊び相手の人数」に関する回答状況

	回答割合 (n=34,382)
友達と遊ばない(0人)	8.0%
1人と遊ぶ	19.7%
2人と遊ぶ	23.4%
3人以上と遊ぶ	48.9%

※第7回調査の回答者が集計対象。無回答(不詳)の回答及び「わからない」の回答は集計対象から除く。

※分析の際には、「友達と遊ばない」=1、「1人と遊ぶ」=2、「2人と遊ぶ」=3、「3人以上と遊ぶ」=4 とし、相対的な人数の多寡を把握する変数として使用した。

③読書

読書については、1か月の間に何冊本(小説、絵本など)を読んだかに関し、第7回、第8回、第10回で回答が得られている¹⁷。

本調査研究では、最も年齢が低い時期の第7回の回答について分析を行った。

図表 3-2-10 「読書」に関する第7回調査の回答割合

	第7回 回答割合 (n=36,392)
読まない	6.7%
1冊	12.4%
2、3冊	29.5%
4冊～7冊	26.5%
8冊～11冊	9.1%
12冊以上	15.8%

※第7回調査の回答者が集計対象。無回答(不詳)の回答は集計対象から除く。

※分析の際には、「読まない」=1、「1冊」=2、「2、3冊」=3、「4～7冊」=4、「8～11冊」=5、「12冊以上」=6 とし、相対的な読書冊数の多寡を把握する変数として使用した。

¹⁷ 調査では、別途「雑誌・マンガ」についても読んだ冊数について情報が得られているが、本調査研究では「本(小説、絵本など)」の読書冊数に着目した。なお、21世紀出生児調査では1冊単位の連続変数ではなく、上記のような分類での選択肢により回答が得られている。

④お手伝い

子供のお手伝いの状況については、第6回、第9回、第12回の各時点で情報が得られている。ただし、第6回・第9回は保護者、第12回は子供自身の回答である。

このうち、本調査研究では、第9回の保護者の回答を分析に用いた¹⁸。なお、「弟や妹の面倒を見る」を除く¹⁹回答項目数（0～7の値の変数）に着目した。

図表 3-2-11 「お手伝い」に関する第9回調査の各項目の回答割合

	第9回 回答割合 (n=35,275)
掃除	37.7%
新聞や手紙などを取ってくる	32.0%
買い物荷物の持つ	48.6%
洗たく物をたたむ	30.3%
食卓に食器を並べる、片付ける	74.0%
動物や植物の世話をする	29.1%
おつかい	25.8%

※第9回調査の回答者が集計対象。

図表 3-2-12 「お手伝い」に関する第9回調査の回答個数についての分類・分布

	第9回 回答割合 (n=35,275)
0個	5.8%
1個	18.2%
2個	24.3%
3個	21.5%
4個	14.5%
5個	8.6%
6個	4.9%
7個	2.3%

※第9回調査の回答者が集計対象。

¹⁸ 第6回調査時点だと、第4回調査の情報として把握する「しつけ」と近い情報になってしまう可能性が高いと考えられたこと、第12回の子供自身の回答よりも保護者からの回答の方がより客観的な形でお手伝いの実施の有無を把握できるのではないかと考えられたことから、第9回調査の情報を用いることとした。

¹⁹ 「弟や妹の面倒を見る」の項目は、弟や妹がいない場合には必然的に回答されない項目であるため、他の「掃除」などの項目とともに回答個数をカウントするのは適切でないと考えた。

(3) 「意識等」に関する項目・変数

①向学校的な意識

文献調査やヒアリング調査で、体験活動の効果として、学習意欲の高まり等が期待されるといったことが把握された。

このようなことを本調査研究での分析でも把握するため、小学生の時期に関しては、「勉強（体育・音楽などを含む）が楽しい」という項目に、中学生・高校生の時期に関しては、「楽しいと思える授業がたくさんある」の項目に着目した。また、「体験」との時系列的な関係から、「勉強（体育・音楽などを含む）が楽しい」については第12回（小学6年生段階）のデータについて、「楽しいと思える授業がたくさんある」については、第14回（中学2年生段階）と第17回（高校生等2年生段階）のデータを用いることとした²⁰。

なお、回帰分析において被説明変数として着目する際には、「勉強（体育・音楽などを含む）が楽しい」に関しては「はい」を「1」、「いいえ」と「どちらともいえない」を「0」としたダミー変数、「楽しいと思える授業がたくさんある」については、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を「1」とし、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を「0」としたダミー変数とした。また、回帰分析としては2項ロジスティック回帰分析を実施した。

図表 3-3-1 「勉強（体育・音楽などを含む）が楽しい」について第12回調査の回答割合

	はい	いいえ	どちらとも いえない
第12回:勉強(体育・音楽などを含む)が楽しい (n=31,625)	57.3%	10.2%	32.5%

※第12回調査の回答者が集計対象。無回答(不詳)の回答は集計対象から除く。

図表 3-3-2 「楽しいと思える授業がたくさんある」について第14回調査・第17回調査の回答割合

	とても そう思う	まあ そう思う	あまりそう思 わない	まったくそう 思わない
第14回:楽しいと思える授業がたくさんある (n=29,297)	27.1%	43.9%	25.0%	4.1%
第17回:楽しいと思える授業がたくさんある (n=24,257)	16.2%	40.8%	35.8%	7.2%

※第14回調査、第17回調査それぞれの回答者が集計対象。無回答(不詳)の回は集計対象から除く。

²⁰ 第18回調査では「楽しいと思える授業がたくさんある」について調査が実施されていないことから、中学生・高校生の時期に関しては、最終学年の1学年下の中学2年生と高校2年生の段階のデータを用いて分析を行った。

②自尊感情

第 17 回調査で把握されている項目を基に、「自尊感情」に関する指標を作成し、分析に用いた²¹。

なお、第 17 回調査では、「自尊感情」に関連する調査項目が 10 項目あるが、主成分分析と信頼性係数²²を確認し、「もっと自分自身を尊敬できるようになりたい」を除く 9 項目を用いて指標を作成した（5～45 点、得点が高い方が肯定的）。

図表 3-3-3 「自尊感情」に関する各項目の回答状況

(n=24,415)		とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
自尊感情 尺度	少なくとも人並みには、価値のある人間である	15.3%	38.0%	34.0%	9.2%	3.5%
	色々な良い要素を持っている	9.7%	31.0%	39.2%	15.6%	4.5%
	敗北者だと思ふことがよくある (逆転項目として使用)	6.5%	21.0%	31.7%	27.4%	13.4%
	物事を人並みには、うまくやれる	11.7%	43.0%	30.2%	12.3%	2.8%
	自分には、自慢できるところがあまりない (逆転項目として使用)	10.7%	27.6%	32.2%	22.5%	7.1%
	自分に対して肯定的である	7.8%	23.4%	49.7%	15.1%	3.9%
	だいたいにおいて、自分に満足している	8.1%	26.1%	34.4%	23.6%	7.8%
	自分は全くだめな人間だと思ふことがある (逆転項目として使用)	13.0%	25.8%	27.5%	22.7%	11.0%
	何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思ふ (逆転項目として使用)	7.7%	17.6%	34.3%	27.1%	13.3%

※第 17 回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

²¹ これらの項目については、もともと、21 世紀出生児縦断調査の調査項目検討において、Rosenberg, M. (1965). Society and Adolescent Self-Image. Princeton, NJ: Princeton University Press.と、山本真理子・松井豊・山成由紀子 (1982). 認知された自己の諸側面の構造. 教育心理学研究, 30, 64-68.が参照されたものである。

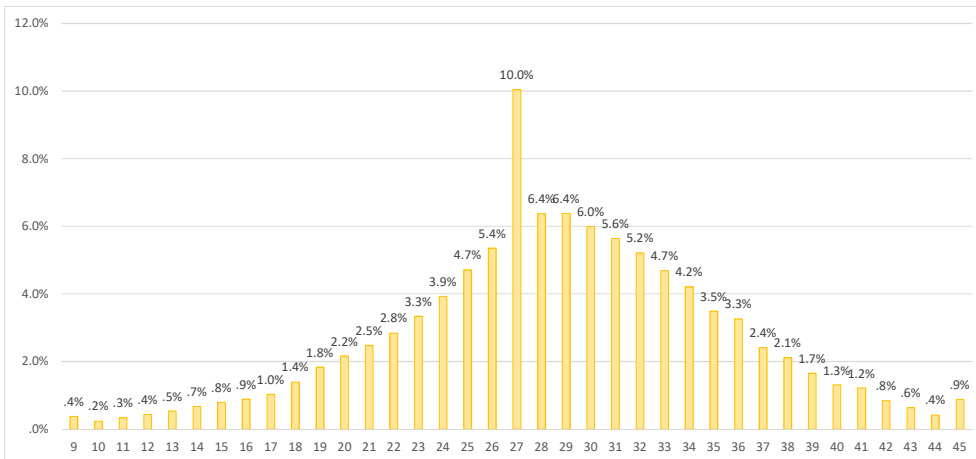
²² 「自尊感情」に関する 9 項目による信頼性係数クロンバックの $\alpha=0.869$ 。「もっと自分自身を尊敬できるようになりたい」を含めた 10 項目では $\alpha=0.842$ 。なお、「もっと自分自身を尊敬できるようになりたい」を除く 9 項目を用いて指標を作成するという点は、山本・松井・山成 (1982) とも整合的である。

図表 3-3-4 「自尊感情」に関する主成分分析の結果

成分	説明された分散の合計					
	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	4.437	44.371	44.371	4.437	44.371	44.371
2	1.365	13.648	58.018	1.365	13.648	58.018
3	.855	8.546	66.565			
4	.715	7.145	73.710			
5	.628	6.276	79.986			
6	.517	5.167	85.154			
7	.487	4.867	90.020			
8	.448	4.478	94.498			
9	.299	2.991	97.489			
10	.251	2.511	100.000			

成分行列	成分	
	1	2
逆転 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	.793	.304
色々な良い要素を持っている	.752	-.342
少なくとも人並みには、価値のある人間である	.751	-.352
逆転 自分は全くだめな人間だと思うことがある	.729	.437
逆転 自分には、自慢できるところがない	.710	.089
だいたいにおいて、自分に満足している	.672	-.062
逆転 敗北者だと思うことがよくある	.664	.373
物事を人並みには、うまくやれる	.630	-.339
自分に対して肯定的である	.595	-.225
逆転 もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	.056	.723

図表 3-3-5 「自尊感情」尺度の得点分布



※いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

③外向性

第 18 回調査において、「私は自分自身のことを、活発で、外向的だと思う」などの 10 項目により、現在の自分に関する認識・評価を尋ねている項目がある。

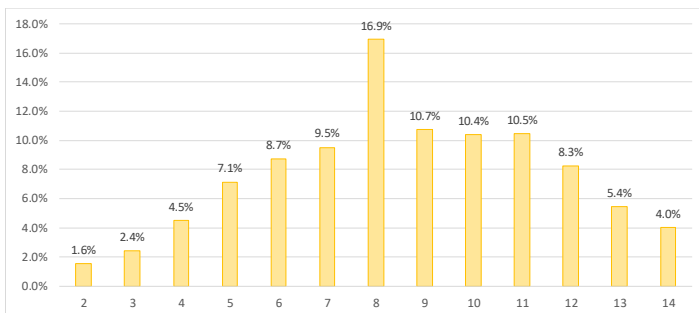
これは、先行研究²³に基づき設定された項目であるが、先行研究での分析結果等も踏まえ、調査項目のうち、「私は自分自身のことを、活発で、外向的だと思う」と「私は自分自身のことを、ひかえめで、おとなしいと思う（逆転項目として使用）」の 2 項目からなる「外向性」の指標（2～14 点、得点が高い方が肯定的）を作成し、分析に用いた²⁴。

図表 3-3-6 「外向性」に関する各項目の回答状況

(n=24,272)		強くそう 思う	まあまあ そう思う	少し そう思う	どちらでも ない	少し違うと 思う	おおよそ 違うと 思う	まったく 違うと 思う
外向性	私は自分自身のことを、活発で、外向的だと思う	8.8%	25.3%	17.7%	18.3%	14.6%	8.9%	6.5%
	私は自分自身のことを、ひかえめで、おとなしいと思う (逆転項目として使用)	4.7%	11.9%	19.1%	23.5%	18.5%	12.1%	10.2%

※第 18 回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-3-7 「外向性」尺度の得点分布



※いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

²³ これらの項目については、もともと、21 世紀出生児縦断調査の調査項目検討において、Gosling, S. D., Rentfrow, P. J., & Swann, W. B., Jr. (2003). A very brief measure of the Big-Five personality domains. *Journal of Research in Personality*, 37, 504–528.と、小塩真司・阿部晋吾・カトローニ ピノ(2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)作成の試み. *パーソナリティ研究*, 21, 40–52.が参照されたものである。このうち、小塩真司・阿部晋吾・カトローニ ピノ(2012)において、Big Five の下位尺度を各 2 項目で測定することが試みられており、特に「外向性」について内的整合性が確認され、また、得点としての妥当性が高いことが示されている。このことを踏まえ、本調査研究において、「私は自分自身のことを、活発で、外向的だと思う」と「私は自分自身のことを、ひかえめで、おとなしいと思う」の 2 項目による「外向性」の指標を作成し、分析に用いることとした。

²⁴ 「外向性」に関する 2 項目のクロンバックの α 係数=0.652。

④精神的回復力

上記の「外向性」等の項目とは別に、第 18 回調査では、「色々なことにチャレンジするのが好きだ」などの 9 項目により設定されている調査項目がある。

これらは、先行研究²⁵に基づき、「精神的回復力」を把握するために設定された項目であると考えられるが、先行研究の内容や、主成分分析・因子分析、信頼性係数を踏まえ、本調査研究では、先行研究での分類にならない、「精神的回復力」の下位尺度として、「新奇性追求」、「感情調整」、「肯定的な未来志向」の 3 つの指標（いずれも 3～15 点、得点が高い方が肯定的）を作成した²⁶。

図表 3-3-8 「精神的回復力」に関する主成分分析の結果

説明された分散の合計						
成分	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	4.024	44.706	44.706	4.024	44.706	44.706
2	1.539	17.097	61.804	1.539	17.097	61.804
3	1.071	11.904	73.707	1.071	11.904	73.707
4	.619	6.873	80.580			
5	.447	4.965	85.545			
6	.404	4.487	90.032			
7	.386	4.292	94.325			
8	.267	2.968	97.292			
9	.244	2.708	100.000			

成分行列	成分		
	1	2	3
自分の将来に希望を持っている	.804	-.119	-.412
自分の未来にはきっといいことがあると思う	.803	-.059	-.382
将来の見通しは明るいと思う	.776	-.024	-.476
ものごとに対する興味や関心が強い方だ	.698	-.338	.305
色々なことにチャレンジするのが好きだ	.679	-.312	.396
新しいことや珍しいことが好きだ	.671	-.332	.452
動揺しても、自分を落ち着かせることができる	.583	.491	.161
逆転 怒りを感じるとおさえられなくなる	.253	.757	.155
自分の感情をコントロールできる方だ	.573	.620	.157

²⁵ これらの項目については、もともと、21 世紀出生児縦断調査の調査項目検討において、小塩真司・中谷素之・金子一史・長峰伸治（2002）. ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特性—精神的回復力尺度の作成—. カウンセリング研究, 35, 57-65.が参照されたものである。

²⁶ 「新奇性追求」に関する 3 項目のクロンバックの α 係数=0.810、「感情調整」に関する 3 項目のクロンバックの α 係数=0.710、「肯定的な未来志向」に関する 3 項目のクロンバックの α 係数=0.888。

図表 3-3-9 「精神的回復力」に関する因子分析（主因子法・プロマックス回転）の結果

説明された分散の合計

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和 ^a
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	
1	4.024	44.706	44.706	3.682	40.917	40.917	3.183
2	1.539	17.097	61.804	1.080	12.004	52.921	2.824
3	1.071	11.904	73.707	.742	8.239	61.160	2.059
4	.619	6.873	80.580				
5	.447	4.965	85.545				
6	.404	4.487	90.032				
7	.386	4.292	94.325				
8	.267	2.968	97.292				
9	.244	2.708	100.000				

構造行列	因子		
	1	2	3
自分の将来に希望を持っている	.875	.550	.338
将来の見通しは明るいと思う	.856	.469	.382
自分の未来にはきっといいことがあると思う	.830	.541	.390
新しいことや珍しいことが好きだ	.436	.814	.246
色々なことにチャレンジするのが好きだ	.462	.748	.255
ものごとに対する興味や関心が強い方だ	.508	.745	.236
自分の感情をコントロールできる方だ	.395	.322	.871
動揺しても、自分を落ち着かせることができる	.401	.354	.641
逆転 怒りを感じるとおさえられなくなる	.131	.040	.545

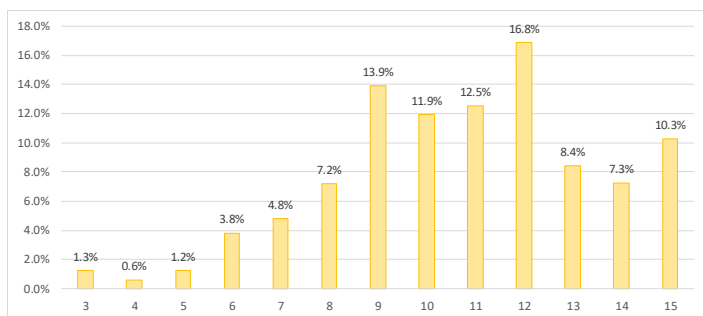
因子相関行列			
因子	1	2	3
1	1.000	.604	.435
2	.604	1.000	.336
3	.435	.336	1.000

図表 3-3-10 「新奇性追求」に関する各項目の回答状況

(n=24,273)		いいえ	どちらかと いうと いいえ	どちらでも ない	どちらかと いうと はい	はい
		新奇性 追求	色々なことにチャレンジするのが好きだ	4.5%	17.2%	24.2%
	新しいことや珍しいことが好きだ	3.0%	10.3%	25.6%	36.9%	24.3%
	ものごとに対する興味や関心が強い方だ	3.1%	11.6%	27.7%	37.8%	19.8%

※第 18 回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-3-11 「新奇性追求」尺度の得点分布



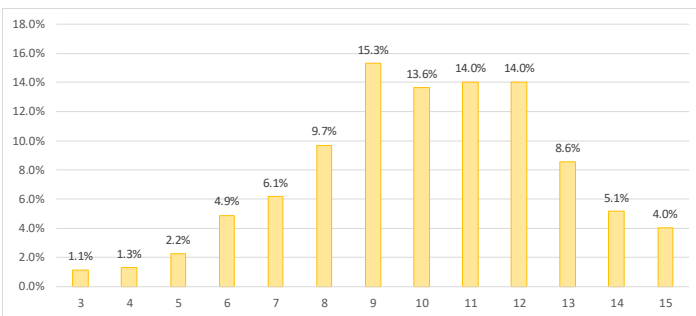
※いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-3-12 「感情調整」に関する各項目の回答状況

(n=24,286)		いいえ	どちらかと いうと いいえ	どちらでも ない	どちらかと いうと はい	はい
感情 調整	自分の感情をコントロールできる方だ	5.1%	16.2%	24.3%	39.0%	15.4%
	動揺しても、自分を落ち着かせることができる	5.2%	19.5%	33.4%	32.3%	9.5%
	怒りを感じるとおさえられなくなる (逆転項目として使用)	20.1%	31.2%	26.9%	16.5%	5.3%

※第 18 回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-3-13 「感情調整」尺度の得点分布



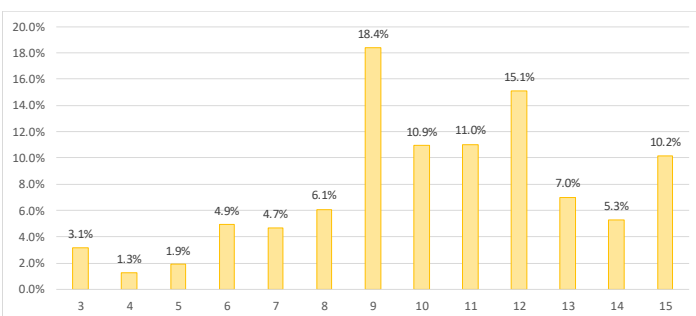
※いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-3-14 「肯定的な未来志向」に関する各項目の回答状況

(n=24,273)		いいえ	どちらかと いうと いいえ	どちらでも ない	どちらかと いうと はい	はい
肯定的な 未来志向	自分の未来にはきっといいことがあると思う	4.7%	10.4%	30.1%	31.7%	23.0%
	将来の見通しは明るいと思う	6.6%	14.2%	39.7%	26.8%	12.7%
	自分の未来に希望を持っている	5.8%	12.3%	29.7%	32.1%	20.1%

※第 18 回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-3-15 「肯定的な未来志向」尺度の得点分布



※いずれかの項目に無回答(不詳)の回答があるケースは集計対象から除く。

⑤心の健康

第 16 回～第 18 回調査において、「心の状態」として、「明るく、楽しい気分で過ごした」などの 5 項目で調査がなされている。

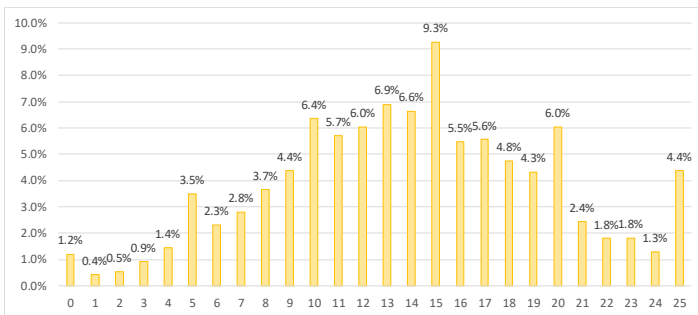
これらについて、合計して 0～25 点の尺度を作成し分析に用いた²⁷（得点が高い方が肯定的）。

図表 3-3-16 「心の健康」に関する各項目の回答状況

(n=24,189)		まったくない	ほんのたまに	半分以下の期間を	半分以上の期間を	ほとんどいつも	いつも
心の健康	明るく、楽しい気分で過ごした	3.3%	12.2%	16.5%	29.0%	24.4%	14.7%
	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	3.7%	12.2%	17.9%	29.0%	23.7%	13.5%
	意欲的で、活動的に過ごした	5.4%	15.5%	19.4%	27.1%	19.7%	12.8%
	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	6.5%	16.8%	20.5%	24.0%	18.6%	13.6%
	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	8.8%	23.0%	19.3%	24.0%	14.1%	10.7%

※第 18 回調査の回答者が集計対象。上記いずれかの項目に無回答（不詳）の回答があるケースは集計対象から除く。

図表 3-3-17 「心の健康」指標の得点分布



※いずれかの項目に無回答（不詳）の回答があるケースは集計対象から除く。

²⁷ 「心の健康」に関する 5 項目の信頼性係数クロンバックの α 係数=0.862。なお、これらの項目については、もともと、21 世紀出生児縦断調査の調査項目検討において、世界保健機関（WHO）により開発された「WHO-5 精神的健康状態表」を参照しているものであると考えられた。

4. 「体験」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係性

(1) 第8回調査の「自然体験」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-1-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第8回調査「自然体験」

世帯類型		第8回自然体験該当個数				合計
		0	1	2	3	
父母同居	度数	3502	7722	11833	7184	30241
	%	11.6%	25.5%	39.1%	23.8%	100.0%
	調整済み残差	-5.0	-1.6	.0	5.5	
ひとり親世帯	度数	282	497	715	332	1826
	%	15.4%	27.2%	39.2%	18.2%	100.0%
	調整済み残差	5.0	1.6	.0	-5.5	
合計	度数	3784	8219	12548	7516	32067
	%	11.8%	25.6%	39.1%	23.4%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-1-2 ②父母の収入と第8回調査「自然体験」

収入11分類		第8回自然体験該当個数				合計
		0	1	2	3	
100万円未満	度数	36	55	53	18	162
	%	22.2%	34.0%	32.7%	11.1%	100.0%
	調整済み残差	4.1	2.4	-1.7	-3.7	
100万円以上 200万円未満	度数	111	187	262	90	650
	%	17.1%	28.8%	40.3%	13.8%	100.0%
	調整済み残差	4.2	1.8	.6	-5.8	
200万円以上 300万円未満	度数	341	678	937	376	2332
	%	14.6%	29.1%	40.2%	16.1%	100.0%
	調整済み残差	4.4	4.0	1.1	-8.7	
300万円以上 400万円未満	度数	696	1415	2103	995	5209
	%	13.4%	27.2%	40.4%	19.1%	100.0%
	調整済み残差	3.9	2.8	2.0	-8.1	
400万円以上 500万円未満	度数	794	1788	2565	1439	6586
	%	12.1%	27.1%	38.9%	21.8%	100.0%
	調整済み残差	.8	3.2	-.4	-3.5	
500万円以上 600万円未満	度数	648	1448	2241	1400	5737
	%	11.3%	25.2%	39.1%	24.4%	100.0%
	調整済み残差	-1.2	-.8	-.1	1.9	
600万円以上 700万円未満	度数	426	933	1615	992	3966
	%	10.7%	23.5%	40.7%	25.0%	100.0%
	調整済み残差	-2.2	-3.3	2.2	2.5	
700万円以上 800万円未満	度数	282	624	1057	730	2693
	%	10.5%	23.2%	39.2%	27.1%	100.0%
	調整済み残差	-2.2	-3.1	.1	4.7	
800万円以上 900万円未満	度数	155	409	616	486	1666
	%	9.3%	24.5%	37.0%	29.2%	100.0%
	調整済み残差	-3.2	-1.0	-1.9	5.7	
900万円以上 1,000万円未満	度数	91	228	388	289	996
	%	9.1%	22.9%	39.0%	29.0%	100.0%
	調整済み残差	-2.6	-2.0	-.1	4.2	
1,000万円以上	度数	180	420	659	674	1933
	%	9.3%	21.7%	34.1%	34.9%	100.0%
	調整済み残差	-3.5	-4.1	-4.7	12.2	
合計	度数	3760	8185	12496	7489	31930
	%	11.8%	25.6%	39.1%	23.5%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

等価世帯所得の水準		第8回自然体験該当個数				合計
		0	1	2	3	
中央値の2分の1未満	度数	320	593	833	305	2051
	%	15.6%	28.9%	40.6%	14.9%	100.0%
	調整済み残差	5.6	3.6	1.5	-9.6	
中央値未満、中央値の2分の1以上	度数	1672	3542	5172	2737	13123
	%	12.7%	27.0%	39.4%	20.9%	100.0%
	調整済み残差	4.6	4.8	1.0	-9.6	
中央値以上	度数	1676	3859	6200	4311	16046
	%	10.4%	24.0%	38.6%	26.9%	100.0%
	調整済み残差	-7.4	-6.5	-1.7	14.2	
合計	度数	3668	7994	12205	7353	31220
	%	11.7%	25.6%	39.1%	23.6%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-1-3 ③父母の学歴と第8回調査「自然体験」

父母の学歴		第8回自然体験該当個数				合計
		0	1	2	3	
ともに短大・高専・大学・大学院以外を卒業	度数	1929	3815	5570	2787	14101
	%	13.7%	27.1%	39.5%	19.8%	100.0%
	調整済み残差	9.5	-5.3	-1.2	-14.0	
いずれかが短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	1012	2371	3643	2193	9219
	%	11.0%	25.7%	39.5%	23.8%	100.0%
	調整済み残差	-2.8	.3	.9	.8	
ともに短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	781	1918	3179	2459	8337
	%	9.4%	23.0%	38.1%	29.5%	100.0%
	調整済み残差	-7.9	-6.3	-2.2	15.0	
合計	度数	3722	8104	12392	7439	31657
	%	11.8%	25.6%	39.1%	23.5%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-1-4 ④親子のかかわり・しつけと第 8 回調査「自然体験」

		第8回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
しつけの実施 該当個数	6以下	度数	199	288	363	186	1036
		%	19.2%	27.8%	35.0%	18.0%	100.0%
		調整済み残差	-7.7	1.6	-2.8	-4.3	
7	度数	145	293	365	209	1012	
	%	14.3%	29.0%	36.1%	20.7%	100.0%	
	調整済み残差	-2.7	-2.4	-2.1	-2.2		
8	度数	246	525	683	388	1842	
	%	13.4%	28.5%	37.1%	21.1%	100.0%	
	調整済み残差	-2.3	-2.9	-1.9	-2.5		
9	度数	388	819	1203	672	3082	
	%	12.6%	26.6%	39.0%	21.8%	100.0%	
	調整済み残差	-1.7	1.2	-2	-2.3		
10	度数	500	1227	1761	1005	4493	
	%	11.1%	27.3%	39.2%	22.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.2	-2.7	0	-1.9		
11	度数	687	1540	2384	1489	6100	
	%	11.3%	25.2%	39.1%	24.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.1	-9	-2	1.9		
12	度数	734	1734	2822	1734	7024	
	%	10.4%	24.7%	40.2%	24.7%	100.0%	
	調整済み残差	-3.6	-2.2	2.0	2.7		
13	度数	625	1329	2251	1407	5612	
	%	11.1%	23.7%	40.1%	25.1%	100.0%	
	調整済み残差	-1.4	-3.8	1.6	3.1		
合計	度数	3524	7755	11832	7090	30201	
	%	11.7%	25.7%	39.2%	23.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

⑤住環境等と第 8 回調査「自然体験」

図表 4-1-5 居住環境の分類と第 8 回調査「自然体験」

		第8回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住環境	住宅の多い地域	度数	2963	6446	9823	5834	25066
		%	11.8%	25.7%	39.2%	23.3%	100.0%
		調整済み残差	.5	.1	.7	-1.3	
商店の多い地域	度数	127	304	401	257	1089	
	%	11.7%	27.9%	36.8%	23.6%	100.0%	
	調整済み残差	-1.1	1.7	-1.6	.1		
工場の多い地域	度数	51	106	147	90	394	
	%	12.9%	26.9%	37.3%	22.8%	100.0%	
	調整済み残差	.7	.5	-.7	-.3		
田舎・山間地域	度数	478	1071	1648	1051	4248	
	%	11.3%	25.2%	38.8%	24.7%	100.0%	
	調整済み残差	-1.1	-.8	-.4	2.2		
その他	度数	90	172	299	153	714	
	%	12.6%	24.1%	41.9%	21.4%	100.0%	
	調整済み残差	.7	-1.0	1.5	-1.3		
合計	度数	3709	8099	12318	7385	31511	
	%	11.8%	25.7%	39.1%	23.4%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p = 0.346$

図表 4-1-6 居住の自治体の分類と第 8 回調査「自然体験」

		第8回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	774	1801	2609	1720	6904
		%	11.2%	26.1%	37.8%	24.9%	100.0%
		調整済み残差	-1.6	.9	-2.5	3.3	
その他の市	度数	2279	4851	7515	4427	19072	
	%	11.9%	25.4%	39.4%	23.2%	100.0%	
	調整済み残差	1.2	-1.3	1.4	-1.2		
郡部	度数	661	1450	2210	1250	5571	
	%	11.9%	26.0%	39.7%	22.4%	100.0%	
	調整済み残差	.2	.6	1.0	-2.0		
外国	度数	11	25	31	20	87	
	%	12.6%	28.7%	35.6%	23.0%	100.0%	
	調整済み残差	.3	.7	-.7	-.1		
合計	度数	3725	8127	12365	7417	31634	
	%	11.8%	25.7%	39.1%	23.4%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p = 0.044$

図表 4-1-7 ⑥子供の性別と第 8 回調査「自然体験」

		第8回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
性別	男	度数	1761	4008	6770	4172	16711
		%	10.5%	24.0%	40.5%	25.0%	100.0%
		調整済み残差	-7.3	-7.0	5.3	6.7	
女	度数	2023	4211	5778	3344	15356	
	%	13.2%	27.4%	37.6%	21.8%	100.0%	
	調整済み残差	7.3	7.0	-5.3	-6.7		
合計	度数	3784	8219	12548	7516	32067	
	%	11.8%	25.6%	39.1%	23.4%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

(2) 第8回調査の「社会体験」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-2-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第8回調査「社会体験」

		第8回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
世帯類型	父母同居	度数	14726	11199	3574	742	30241
		%	48.7%	37.0%	11.8%	2.5%	100.0%
		調整済み残差	-4.2	2.6	2.0	-1.3	
ひとり親世帯		度数	981	622	187	36	1826
		%	53.7%	34.1%	10.2%	2.0%	100.0%
		調整済み残差	4.2	-2.6	-2.0	-1.3	
合計		度数	15707	11821	3761	778	32067
		%	49.0%	36.9%	11.7%	2.4%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-2-2 ②父母の収入と第8回調査「社会体験」

		第8回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
収入11分類	100万円未満	度数	82	57	17	6	162
		%	50.6%	35.2%	10.5%	3.7%	100.0%
		調整済み残差	.4	-.4	-.5	1.0	
100万円以上 200万円未満		度数	349	207	74	20	650
		%	53.7%	31.8%	11.4%	3.1%	100.0%
		調整済み残差	2.4	-2.7	-.3	1.1	
200万円以上 300万円未満		度数	1157	798	315	62	2332
		%	49.6%	34.2%	13.5%	2.7%	100.0%
		調整済み残差	.7	-2.8	2.8	.7	
300万円以上 400万円未満		度数	2627	1894	572	116	5209
		%	50.4%	36.4%	11.0%	2.2%	100.0%
		調整済み残差	2.3	-.8	-1.8	-1.1	
400万円以上 500万円未満		度数	3234	2454	759	139	6586
		%	49.1%	37.3%	11.5%	2.1%	100.0%
		調整済み残差	.3	.7	-.6	-1.9	
500万円以上 600万円未満		度数	2733	2209	641	154	5737
		%	47.6%	38.5%	11.2%	2.7%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	2.8	-1.5	1.3	
600万円以上 700万円未満		度数	1926	1465	480	95	3966
		%	48.6%	36.9%	12.1%	2.4%	100.0%
		調整済み残差	-.5	.1	.8	-.2	
700万円以上 800万円未満		度数	1307	998	317	71	2693
		%	48.5%	37.1%	11.8%	2.6%	100.0%
		調整済み残差	-.5	.2	.1	.7	
800万円以上 900万円未満		度数	794	635	193	44	1666
		%	47.7%	38.1%	11.6%	2.6%	100.0%
		調整済み残差	-1.1	1.1	-.2	.6	
900万円以上 1,000万円未満		度数	489	356	130	21	996
		%	49.1%	35.7%	13.1%	2.1%	100.0%
		調整済み残差	.1	-.7	1.3	-.7	
1,000万円以上		度数	935	699	249	50	1933
		%	48.4%	36.2%	12.9%	2.6%	100.0%
		調整済み残差	-.5	-.7	1.6	.4	
合計		度数	15633	11772	3747	778	31930
		%	49.0%	36.9%	11.7%	2.4%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.020

		第8回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
等価世帯所得の水準	中央値の2分の1未満	度数	1005	716	270	60	2051
		%	49.0%	34.9%	13.2%	2.9%	100.0%
		調整済み残差	.1	-1.9	2.1	1.5	
中央値未満、中央値の2分の1以上		度数	6448	4847	1520	308	13123
		%	49.1%	36.9%	11.6%	2.3%	100.0%
		調整済み残差	.6	.1	-.8	-.8	
中央値以上		度数	7821	5956	1878	391	16046
		%	48.7%	37.1%	11.7%	2.4%	100.0%
		調整済み残差	-.7	.8	-.3	.1	
合計		度数	15274	11519	3668	759	31220
		%	48.9%	36.9%	11.7%	2.4%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.178

図表 4-2-3 ③父母の学歴と第8回調査「社会体験」

		第8回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
父母の学歴	ともに短大・高専・大学・大学院以外を卒業	度数	7183	5057	1559	302	14101
		%	50.9%	35.9%	11.1%	2.1%	100.0%
		調整済み残差	6.5	-3.5	-3.5	-2.8	
いずれかが短大・高専・大学・大学院を卒業		度数	4368	3494	1122	235	9219
		%	47.4%	37.9%	12.2%	2.5%	100.0%
		調整済み残差	-3.5	2.3	1.5	1.0	
ともに短大・高専・大学・大学院を卒業		度数	3930	3139	1042	226	8337
		%	47.1%	37.7%	12.5%	2.7%	100.0%
		調整済み残差	-3.8	1.6	2.4	2.1	
合計		度数	15481	11690	3723	763	31657
		%	48.9%	36.9%	11.8%	2.4%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-2-4 ④親子のかかわり・しつけと第 8 回調査「社会体験」

		第8回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
しつけの実施 該当個数	6以下	度数	591	334	93	18	1036
		%	57.0%	32.2%	9.0%	1.7%	100.0%
		調整済み残差	5.4	-3.2	-2.8	-1.5	
7	度数	529	370	97	16	1012	
	%	52.3%	36.6%	9.6%	1.6%	100.0%	
	調整済み残差	2.2	-.3	-2.2	-1.8		
8	度数	1013	647	160	22	1842	
	%	55.0%	35.1%	8.7%	1.2%	100.0%	
	調整済み残差	5.5	-1.7	-4.2	-3.6		
9	度数	1613	1113	302	54	3082	
	%	52.3%	36.1%	9.8%	1.8%	100.0%	
	調整済み残差	4.1	-1.0	-3.5	-2.6		
10	度数	2222	1720	455	96	4493	
	%	49.5%	38.3%	10.1%	2.1%	100.0%	
	調整済み残差	.9	2.0	-3.7	-1.5		
11	度数	3019	2255	688	138	6100	
	%	49.5%	37.0%	11.3%	2.3%	100.0%	
	調整済み残差	1.2	.0	-1.3	-1.0		
12	度数	3280	2622	930	192	7024	
	%	46.7%	37.3%	13.2%	2.7%	100.0%	
	調整済み残差	-4.1	-.7	4.4	1.8		
13	度数	2481	2106	822	203	5612	
	%	44.2%	37.5%	14.6%	3.6%	100.0%	
	調整済み残差	-7.7	-.9	7.5	6.3		
合計	度数	14748	11167	3547	739	30201	
	%	48.8%	37.0%	11.7%	2.4%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: p<0.001

⑤住環境等と第 8 回調査「社会体験」

図表 4-2-5 居住環境の分類と第 8 回調査「社会体験」

		第8回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住環境	住宅の多い地域	度数	12994	8870	2683	519	25066
		%	51.8%	35.4%	10.7%	2.1%	100.0%
		調整済み残差	19.8	-10.6	-11.2	-7.7	
商店の多い地域	度数	550	363	143	33	1089	
	%	50.5%	33.3%	13.1%	3.0%	100.0%	
	調整済み残差	1.0	-2.4	1.5	1.4		
工場の多い地域	度数	221	123	39	11	394	
	%	56.1%	31.2%	9.9%	2.8%	100.0%	
	調整済み残差	2.8	-2.3	-1.1	-.5		
田園・山間地域	度数	1340	2001	741	166	4248	
	%	31.5%	47.1%	17.4%	3.9%	100.0%	
	調整済み残差	-24.5	14.9	12.4	6.9		
その他	度数	340	253	92	29	714	
	%	47.6%	35.4%	12.9%	4.1%	100.0%	
	調整済み残差	-8	-8	1.0	2.9		
合計	度数	15445	11610	3698	758	31511	
	%	49.0%	36.8%	11.7%	2.4%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: p<0.001

図表 4-2-6 居住の自治体の分類と第 8 回調査「社会体験」

		第8回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	3888	2196	662	158	6904
		%	56.3%	31.8%	9.6%	2.3%	100.0%
		調整済み残差	13.8	-9.9	-6.3	-7	
その他の市	度数	9336	7063	2221	452	19072	
	%	49.0%	37.0%	11.6%	2.4%	100.0%	
	調整済み残差	.0	.7	-7	-6		
郡部	度数	2217	2379	823	152	5571	
	%	39.8%	42.7%	14.8%	2.7%	100.0%	
	調整済み残差	-15.1	9.9	7.7	1.7		
外国	度数	47	28	12	0	87	
	%	54.0%	32.2%	13.8%	.0%	100.0%	
	調整済み残差	.9	-.9	.6	-1.5		
合計	度数	15488	11666	3718	762	31634	
	%	49.0%	36.9%	11.8%	2.4%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: p<0.001

図表 4-2-7 ⑥子供の性別と第 8 回調査「社会体験」

		第8回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
性別	男	度数	8188	6147	1981	395	16711
		%	49.0%	36.8%	11.9%	2.4%	100.0%
		調整済み残差	.1	-.3	-.7	-.8	
女	度数	7519	5674	1780	383	15356	
	%	49.0%	36.9%	11.6%	2.5%	100.0%	
	調整済み残差	-.1	-.3	-.7	-.8		
合計	度数	15707	11821	3761	778	32067	
	%	49.0%	36.9%	11.7%	2.4%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: p=0.779

(3) 第8回調査の「文化的体験」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-3-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第8回調査「文化的体験」

		第8回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
世帯類型	父母同居	度数	2261	10522	12063	5395	30241
		%	7.5%	34.8%	39.9%	17.8%	100.0%
		調整済み残差	-4.1	-2.9	1.6	-4.4	
ひとり親世帯	度数	度数	184	696	694	252	1826
		%	10.1%	38.1%	38.0%	13.8%	100.0%
		調整済み残差	4.1	2.9	-1.6	-4.4	
合計	度数	2445	11218	12757	5647	32067	
	%	7.6%	35.0%	39.8%	17.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-3-2 ②父母の収入と第8回調査「文化的体験」

		第8回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
収入11分類	100万円未満	度数	24	62	54	22	162
		%	14.8%	38.3%	33.3%	13.6%	100.0%
		調整済み残差	3.5	.9	-1.7	-1.4	
100万円以上 200万円未満	度数	度数	102	278	203	67	650
		%	15.7%	42.8%	31.2%	10.3%	100.0%
		調整済み残差	7.9	4.2	-4.5	-5.0	
200万円以上 300万円未満	度数	度数	311	943	798	280	2332
		%	13.3%	40.4%	34.2%	12.0%	100.0%
		調整済み残差	10.8	5.7	-5.7	-7.4	
300万円以上 400万円未満	度数	度数	469	2076	1963	701	5209
		%	9.0%	39.9%	37.7%	13.5%	100.0%
		調整済み残差	4.2	8.1	-3.4	-8.6	
400万円以上 500万円未満	度数	度数	558	2505	2466	1057	6586
		%	8.5%	38.0%	37.4%	16.0%	100.0%
		調整済み残差	3.0	5.8	-4.3	-3.8	
500万円以上 600万円未満	度数	度数	419	1964	2333	1021	5737
		%	7.3%	34.2%	40.7%	17.8%	100.0%
		調整済み残差	-9	-1.3	1.5	.4	
600万円以上 700万円未満	度数	度数	239	1297	1635	795	3966
		%	6.0%	32.7%	41.2%	20.0%	100.0%
		調整済み残差	-4.0	-3.2	2.0	4.3	
700万円以上 800万円未満	度数	度数	116	841	1148	588	2693
		%	4.3%	31.2%	42.6%	21.8%	100.0%
		調整済み残差	-6.7	-4.3	3.2	6.0	
800万円以上 900万円未満	度数	度数	73	449	735	409	1666
		%	4.4%	27.0%	44.1%	24.5%	100.0%
		調整済み残差	-5.1	-7.1	3.7	7.6	
900万円以上 1,000万円未満	度数	度数	41	276	438	241	996
		%	4.1%	27.7%	44.0%	24.2%	100.0%
		調整済み残差	-4.2	-4.9	2.8	5.5	
1,000万円以上	度数	度数	76	480	927	450	1933
		%	3.9%	24.8%	48.0%	23.3%	100.0%
		調整済み残差	-6.3	-9.7	7.6	6.7	
合計	度数	2428	11171	12700	5631	31930	
	%	7.6%	35.0%	39.8%	17.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

		第8回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
等価世帯所得の水準	中央値の2分の1未満	度数	301	832	680	238	2051
		%	14.7%	40.6%	33.2%	11.6%	100.0%
		調整済み残差	12.6	5.5	-6.4	-7.4	
中央値未満、中央値の2分の1以上	度数	度数	1224	5019	4919	1961	13123
		%	9.3%	38.2%	37.5%	14.9%	100.0%
		調整済み残差	10.0	10.5	-7.2	-10.7	
中央値以上	度数	度数	838	5054	6837	3317	16046
		%	5.2%	31.5%	42.6%	20.7%	100.0%
		調整済み残差	-16.1	-13.1	10.3	14.3	
合計	度数	2363	10905	12436	5516	31220	
	%	7.6%	34.9%	39.8%	17.7%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-3-3 ③父母の学歴と第8回調査「文化的体験」

		第8回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
父母の学歴	ともに短大・高校・大学・大学院以外を卒業	度数	1517	5639	5029	1916	14101
		%	10.8%	40.0%	35.7%	13.6%	100.0%
		調整済み残差	19.2	16.8	-13.6	-16.8	
いずれかが短大・専修・大学・大学院を卒業	度数	度数	557	3169	3808	1685	9219
		%	6.0%	34.4%	41.3%	18.3%	100.0%
		調整済み残差	-6.6	-1.4	3.4	2.0	
ともに短大・高校・大学・大学院を卒業	度数	度数	325	2265	3774	1973	8337
		%	3.9%	27.2%	45.3%	23.7%	100.0%
		調整済み残差	-14.8	-17.4	11.8	16.9	
合計	度数	2399	11073	12611	5574	31657	
	%	7.6%	35.0%	39.8%	17.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-3-4 ④親子のかかわり・しつけと第 8 回調査「文化的体験」

		第8回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
しつけの実施 該当個数	6以下	度数	113	413	378	132	1036
		%	10.9%	39.9%	36.5%	12.7%	100.0%
		調整済み残差	4.3	3.3	-2.3	-4.2	
7	度数	92	397	383	140	1012	
	%	9.1%	39.2%	37.8%	13.8%	100.0%	
	調整済み残差	2.0	2.9	-1.4	-3.2		
8	度数	164	678	740	260	1842	
	%	8.9%	36.8%	40.2%	14.1%	100.0%	
	調整済み残差	2.5	1.7	.2	-4.1		
9	度数	269	1176	1202	435	3082	
	%	8.7%	38.2%	39.0%	14.1%	100.0%	
	調整済み残差	2.9	3.9	-1.1	-5.4		
10	度数	298	1650	1782	763	4493	
	%	6.6%	36.7%	39.7%	17.0%	100.0%	
	調整済み残差	-2.3	2.6	-4	-1.2		
11	度数	431	2191	2445	1033	6100	
	%	7.1%	35.9%	40.1%	16.9%	100.0%	
	調整済み残差	-1.3	1.7	.3	-1.6		
12	度数	474	2314	2913	1323	7024	
	%	6.7%	32.9%	41.5%	18.8%	100.0%	
	調整済み残差	-2.6	-4.1	3.0	3.0		
13	度数	409	1753	2212	1238	5612	
	%	7.3%	31.2%	39.4%	22.1%	100.0%	
	調整済み残差	-5	-6.6	-8	9.7		
合計	度数	2250	10572	12055	5324	30201	
	%	7.5%	35.0%	39.9%	17.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

⑤住環境等と第 8 回調査「文化的体験」

図表 4-3-5 居住環境の分類と第 8 回調査「文化的体験」

		第8回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住環境	住宅の多い地域	度数	1783	8732	10057	4494	25066
		%	7.1%	34.8%	40.1%	17.9%	100.0%
		調整済み残差	-6.2	-1.0	1.8	3.2	
商店の多い地域	度数	78	348	450	213	1089	
	%	7.2%	32.0%	41.3%	19.6%	100.0%	
	調整済み残差	-5	-2.1	1.0	1.7		
工場の多い地域	度数	30	135	157	72	394	
	%	7.6%	34.3%	39.8%	18.3%	100.0%	
	調整済み残差	.0	-3	.0	-4		
田園・山間地域	度数	424	1550	1629	645	4248	
	%	10.0%	36.5%	38.3%	15.2%	100.0%	
	調整済み残差	6.4	2.2	-2.2	-4.4		
その他	度数	74	254	271	115	714	
	%	10.4%	35.6%	38.0%	16.1%	100.0%	
	調整済み残差	2.8	.3	-1.1	-1.0		
合計	度数	2389	11019	12564	5539	31511	
	%	7.6%	35.0%	39.9%	17.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-3-6 居住の自治体の分類と第 8 回調査「文化的体験」

		第8回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	375	2142	2933	1454	6904
		%	5.4%	31.0%	42.5%	21.1%	100.0%
		調整済み残差	-7.7	-7.7	5.1	8.5	
その他の市	度数	1465	6800	7540	3267	19072	
	%	7.7%	35.7%	39.5%	17.1%	100.0%	
	調整済み残差	.7	3.2	-1.4	-2.7		
郡部	度数	561	2091	2095	824	5571	
	%	10.1%	37.5%	37.6%	14.8%	100.0%	
	調整済み残差	7.7	4.4	-3.8	-6.1		
外国	度数	2	25	37	23	87	
	%	2.3%	28.7%	42.5%	26.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.9	-1.2	.5	2.2		
合計	度数	2403	11058	12605	5568	31634	
	%	7.6%	35.0%	39.8%	17.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-3-7 ⑥子供の性別と第 8 回調査「文化的体験」

		第8回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
性別	男	度数	1311	6019	6366	3015	16711
		%	7.8%	36.0%	38.1%	18.0%	100.0%
		調整済み残差	1.6	4.1	-6.4	2.1	
女	度数	1134	5199	6391	2632	15356	
	%	7.4%	33.9%	41.6%	17.1%	100.0%	
	調整済み残差	-1.6	-4.1	6.4	-2.1		
合計	度数	2445	11218	12757	5647	32067	
	%	7.6%	35.0%	39.8%	17.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

(4) 第12回調査の「自然体験」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-4-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第12回調査「自然体験」

		第12回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
世帯類型	父母同居	度数	5578	7794	9045	5332	27749
		%	20.1%	28.1%	32.6%	19.2%	100.0%
		調整済み残差	-6.3	1.6	-2.3	1.9	
ひとり親世帯		度数	441	438	497	288	1664
		%	26.5%	26.3%	29.9%	17.3%	100.0%
		調整済み残差	6.3	-1.6	-2.3	-1.9	
合計	度数	6019	8232	9542	5620	29413	
	%	20.5%	28.0%	32.4%	19.1%	100.0%	

Pearson のカイ2乗検定: $p < 0.001$

図表 4-4-2 ②父母の収入と第12回調査「自然体験」

		第12回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
収入11分類	100万円未満	度数	45	31	44	18	138
		%	32.6%	22.5%	31.9%	13.0%	100.0%
		調整済み残差	3.5	-1.4	-1	-1.8	
100万円以上 200万円未満		度数	155	157	175	79	566
		%	27.4%	27.7%	30.9%	14.0%	100.0%
		調整済み残差	4.1	-1	-8	-3.2	
200万円以上 300万円未満		度数	446	573	699	334	2052
		%	21.7%	27.9%	34.1%	16.3%	100.0%
		調整済み残差	1.5	-1	1.6	-3.4	
300万円以上 400万円未満		度数	969	1327	1552	811	4659
		%	20.8%	28.5%	33.3%	17.4%	100.0%
		調整済み残差	.6	.8	1.4	-3.2	
400万円以上 500万円未満		度数	1152	1691	1991	1087	5921
		%	19.5%	28.6%	33.6%	18.4%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	1.1	2.2	-1.7	
500万円以上 600万円未満		度数	1057	1463	1675	1051	5246
		%	20.1%	27.9%	31.9%	20.0%	100.0%
		調整済み残差	-6	-2	-9	1.9	
600万円以上 700万円未満		度数	716	1054	1236	762	3768
		%	19.0%	28.0%	32.8%	20.2%	100.0%
		調整済み残差	-2.4	.0	.5	1.8	
700万円以上 800万円未満		度数	545	698	788	500	2531
		%	21.5%	27.6%	31.1%	19.8%	100.0%
		調整済み残差	1.4	-5	-1.5	.9	
800万円以上 900万円未満		度数	340	422	494	331	1587
		%	21.4%	26.6%	31.1%	20.9%	100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.3	-1.1	1.8	
900万円以上 1,000万円未満		度数	214	263	282	198	957
		%	22.4%	27.5%	29.5%	20.7%	100.0%
		調整済み残差	1.5	-.3	-2.0	1.3	
1,000万円以上		度数	355	515	562	428	1860
		%	19.1%	27.7%	30.2%	23.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.5	-.3	-2.1	4.4	
合計	度数	5994	8194	9498	5599	29285	
	%	20.5%	28.0%	32.4%	19.1%	100.0%	

Pearson のカイ2乗検定: $p < 0.001$

		第12回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
等価世帯所得の水準	中央値の2分の1未満	度数	437	501	581	295	1814
		%	24.1%	27.6%	32.0%	16.3%	100.0%
		調整済み残差	4.0	-.4	-.4	-3.2	
中央値未満、中央値の2分の1以上		度数	2404	3321	3955	2121	11801
		%	20.4%	28.1%	33.5%	18.0%	100.0%
		調整済み残差	-.2	.4	3.1	-4.0	
中央値以上		度数	3047	4249	4822	3086	15204
		%	20.0%	27.9%	31.7%	20.3%	100.0%
		調整済み残差	-1.7	-.2	-2.9	5.5	
合計	度数	5888	8071	9358	5502	28819	
	%	20.4%	28.0%	32.5%	19.1%	100.0%	

Pearson のカイ2乗検定: $p < 0.001$

図表 4-4-3 ③父母の学歴と第12回調査「自然体験」

		第12回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
父母の学歴	ともに短大・高専・大学・大学院以外を卒業	度数	2627	3596	4113	2224	12560
		%	20.9%	28.6%	32.7%	17.7%	100.0%
		調整済み残差	1.8	2.1	-.9	-5.3	
いずれかが短大・高専・大学・大学院を卒業		度数	1741	2391	2793	1647	8572
		%	20.3%	27.9%	32.6%	19.2%	100.0%
		調整済み残差	-.3	-.3	.3	.3	
ともに短大・高専・大学・大学院を卒業		度数	1574	2162	2539	1693	7968
		%	19.8%	27.1%	31.9%	21.2%	100.0%
		調整済み残差	-1.7	-2.0	1.3	-5.7	
合計	度数	5942	8149	9445	5564	29100	
	%	20.4%	28.0%	32.5%	19.1%	100.0%	

Pearson のカイ2乗検定: $p < 0.001$

図表 4-4-4 ④親子のかかわり・しつけと第 12 回調査「自然体験」

		第12回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
しつけの実施 該当個数	6以下	度数	258	280	263	143	944
		%	27.3%	29.7%	27.9%	15.1%	100.0%
		調整済み残差	-5.4	1.1	-3.1	-3.1	
7	度数	217	284	283	165	949	
	%	22.9%	29.9%	29.8%	17.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.9	1.3	-1.8	-1.4		
8	度数	374	498	534	310	1716	
	%	21.8%	29.0%	31.1%	18.1%	100.0%	
	調整済み残差	1.5	1.0	-1.2	-1.1		
9	度数	602	845	924	509	2880	
	%	20.9%	29.3%	32.1%	17.7%	100.0%	
	調整済み残差	.7	1.7	-.5	-2.0		
10	度数	835	1185	1368	765	4153	
	%	20.1%	28.5%	32.9%	18.4%	100.0%	
	調整済み残差	-5	.8	-.7	-1.2		
11	度数	1161	1604	1792	1112	5669	
	%	20.5%	28.3%	31.6%	19.6%	100.0%	
	調整済み残差	.1	.5	-1.6	1.1		
12	度数	1199	1733	2209	1265	6406	
	%	18.7%	27.1%	34.5%	19.7%	100.0%	
	調整済み残差	-3.8	-2.0	3.9	1.5		
13	度数	1024	1352	1646	1033	5055	
	%	20.3%	26.7%	32.6%	20.4%	100.0%	
	調整済み残差	-3	-2.2	.1	-2.7		
合計	度数	5670	7781	9019	5302	27772	
	%	20.4%	28.0%	32.5%	19.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

⑤住環境等と第 12 回調査「自然体験」

図表 4-4-5 居住環境の分類と第 12 回調査「自然体験」

		第12回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住環境	住宅の多い地域	度数	4774	6421	7531	4370	23096
		%	20.7%	27.8%	32.6%	18.9%	100.0%
		調整済み残差	1.5	-1.2	1.3	-1.7	
商店の多い地域	度数	202	298	282	183	965	
	%	20.9%	30.9%	29.2%	19.0%	100.0%	
	調整済み残差	.3	2.1	-2.2	-1		
工場の多い地域	度数	71	92	127	71	361	
	%	19.7%	25.5%	35.2%	19.7%	100.0%	
	調整済み残差	-4	-1.1	1.1	-.3		
田舎・山間地域	度数	769	1114	1257	796	3936	
	%	19.5%	28.3%	31.9%	20.2%	100.0%	
	調整済み残差	-1.6	.5	-.7	1.9		
その他	度数	131	191	212	129	663	
	%	19.8%	28.8%	32.0%	19.5%	100.0%	
	調整済み残差	-5	.5	-.2	-.2		
合計	度数	5947	8116	9409	5549	29021	
	%	20.5%	28.0%	32.4%	19.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p = 0.280$

図表 4-4-6 居住の自治体の分類と第 12 回調査「自然体験」

		第12回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	1323	1805	1977	1228	6333
		%	20.9%	28.5%	31.2%	19.4%	100.0%
		調整済み残差	-.9	1.0	-2.3	-.6	
その他の市	度数	3591	4926	5767	3305	17589	
	%	20.4%	28.0%	32.8%	18.8%	100.0%	
	調整済み残差	-.4	.1	1.7	-1.7		
郡部	度数	1042	1398	1668	1027	5135	
	%	20.3%	27.2%	32.5%	20.0%	100.0%	
	調整済み残差	-.4	-1.3	.1	1.8		
外国	度数	15	26	33	8	82	
	%	18.3%	31.7%	40.2%	9.8%	100.0%	
	調整済み残差	-5	.8	1.5	-2.2		
合計	度数	5971	8155	9445	5568	29139	
	%	20.5%	28.0%	32.4%	19.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p = 0.088$

図表 4-4-7 ⑥子供の性別と第 12 回調査「自然体験」

		第12回自然体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
性別	男	度数	2764	4062	5163	3188	15177
		%	18.2%	26.8%	34.0%	21.0%	100.0%
		調整済み残差	-9.9	-4.8	6.0	8.6	
女	度数	3255	4170	4379	2432	14236	
	%	22.9%	29.3%	30.8%	17.1%	100.0%	
	調整済み残差	9.9	4.8	-6.0	-8.6		
合計	度数	6019	8232	9542	5620	29413	
	%	20.5%	28.0%	32.4%	19.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

(5) 第12回調査の「社会体験」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-5-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第12回調査「社会体験」

		第12回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
世帯類型	父母同居	度数	14722	8530	3326	1171	27749
		%	53.1%	30.7%	12.0%	4.2%	100.0%
		調整済み残差	-3.0	1.5	2.0	.7	
ひとり親世帯	度数	946	482	172	64	1664	
	%	56.9%	29.0%	10.3%	3.8%	100.0%	
	調整済み残差	3.0	-1.5	-2.0	-.7		
合計	度数	15668	9012	3498	1235	29413	
	%	53.3%	30.6%	11.9%	4.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.019

図表 4-5-2 ②父母の収入と第12回調査「社会体験」

		第12回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
収入11分類	100万円未満	度数	74	41	18	5	138
		%	53.6%	29.7%	13.0%	3.6%	100.0%
		調整済み残差	.1	-.2	.4	-.3	
100万円以上 200万円未満	度数	325	146	68	27	566	
	%	57.4%	25.8%	12.0%	4.8%	100.0%	
	調整済み残差	2.0	-2.5	.1	.7		
200万円以上 300万円未満	度数	1073	628	249	102	2052	
	%	52.3%	30.6%	12.1%	5.0%	100.0%	
	調整済み残差	-.9	-.1	.4	1.8		
300万円以上 400万円未満	度数	2434	1415	590	220	4659	
	%	52.2%	30.4%	12.7%	4.7%	100.0%	
	調整済み残差	-1.5	-.5	1.8	2.0		
400万円以上 500万円未満	度数	3117	1812	734	258	5921	
	%	52.6%	30.6%	12.4%	4.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.0	-.1	1.3	.7		
500万円以上 600万円未満	度数	2711	1685	636	214	5246	
	%	51.7%	32.1%	12.1%	4.1%	100.0%	
	調整済み残差	-2.5	2.5	.6	-.5		
600万円以上 700万円未満	度数	1973	1172	457	166	3768	
	%	52.4%	31.1%	12.1%	4.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.2	.6	.5	.7		
700万円以上 800万円未満	度数	1395	808	252	76	2531	
	%	55.1%	31.9%	10.0%	3.0%	100.0%	
	調整済み残差	2.0	1.4	-3.1	-3.1		
800万円以上 900万円未満	度数	886	468	173	60	1587	
	%	55.8%	29.5%	10.9%	3.8%	100.0%	
	調整済み残差	2.1	-1.0	-1.3	-.8		
900万円以上 1,000万円未満	度数	541	283	105	28	957	
	%	56.5%	29.6%	11.0%	2.9%	100.0%	
	調整済み残差	2.1	-.7	-.9	-2.0		
1,000万円以上	度数	1065	522	200	73	1860	
	%	57.3%	28.1%	10.8%	3.9%	100.0%	
	調整済み残差	3.6	-2.5	-1.6	-.6		
合計	度数	15594	8980	3482	1229	29285	
	%	53.2%	30.7%	11.9%	4.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

		第12回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
等価世帯所得の水準	中央値の2分の1未満	度数	921	543	248	102	1814
		%	50.8%	29.9%	13.7%	5.6%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	-.7	2.5	3.2	
中央値未満、中央値の2分の1以上	度数	6159	3621	1482	539	11801	
	%	52.2%	30.7%	12.6%	4.6%	100.0%	
	調整済み残差	-3.1	.1	3.0	2.7		
中央値以上	度数	8281	4669	1689	565	15204	
	%	54.5%	30.7%	11.1%	3.7%	100.0%	
	調整済み残差	4.2	.2	-4.2	-4.2		
合計	度数	15361	8833	3419	1206	28819	
	%	53.3%	30.6%	11.9%	4.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-5-3 ③父母の学歴と第12回調査「社会体験」

		第12回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
父母の学歴	ともに短大・高専・大学・大学院以外を卒業	度数	6770	3746	1508	536	12560
		%	53.9%	29.8%	12.0%	4.3%	100.0%
		調整済み残差	2.0	-2.7	.5	.6	
いずれかが短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	4484	2692	1037	359	8572	
	%	52.3%	31.4%	12.1%	4.2%	100.0%	
	調整済み残差	2.1	1.8	.7	.0		
ともに短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	4239	2486	918	325	7968	
	%	53.2%	31.2%	11.5%	4.1%	100.0%	
	調整済み残差	-.1	1.2	-1.2	-.6		
合計	度数	15493	8924	3463	1220	29100	
	%	53.2%	30.7%	11.9%	4.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.154

図表 4-5-4 ④親子のかかわり・しつけと第 12 回調査「社会体験」

		第12回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
しつけの実施 該当個数	6以下	度数	558	262	99	25	944
		%	59.1%	27.8%	10.5%	2.6%	100.0%
		調整済み残差	3.6	-2.0	-1.4	-2.3	
7	度数	538	299	78	34	949	
	%	56.7%	31.5%	8.2%	3.6%	100.0%	
	調整済み残差	2.1	.6	-3.6	-9		
8	度数	1012	512	155	37	1716	
	%	59.0%	29.8%	9.0%	2.2%	100.0%	
	調整済み残差	-4.9	-.8	-3.8	-4.3		
9	度数	1611	864	313	92	2880	
	%	55.9%	30.0%	10.9%	3.2%	100.0%	
	調整済み残差	3.0	-.8	-1.8	-2.7		
10	度数	2298	1264	473	118	4153	
	%	55.3%	30.4%	11.4%	2.8%	100.0%	
	調整済み残差	-2.9	-.3	-1.1	-4.6		
11	度数	3039	1761	664	205	5669	
	%	53.6%	31.1%	11.7%	3.6%	100.0%	
	調整済み残差	.5	.8	-.5	-2.2		
12	度数	3269	2009	806	322	6406	
	%	51.0%	31.4%	12.6%	5.0%	100.0%	
	調整済み残差	-4.1	1.4	1.9	4.0		
13	度数	2477	1541	719	318	5055	
	%	49.0%	30.5%	14.2%	6.3%	100.0%	
	調整済み残差	-6.8	-.3	5.6	8.5		
合計	度数	14802	8512	3307	1151	27772	
	%	53.3%	30.6%	11.9%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

⑤住環境等と第 12 回調査「社会体験」

図表 4-5-5 居住環境の分類と第 12 回調査「社会体験」

		第12回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住環境	住宅の多い地域	度数	12932	6801	2515	848	23096
		%	56.0%	29.4%	10.9%	3.7%	100.0%
		調整済み残差	18.7	-8.9	-10.4	-9.1	
商店の多い地域	度数	526	291	99	49	965	
	%	54.5%	30.2%	10.3%	5.1%	100.0%	
	調整済み残差	.8	-.4	-1.6	1.4		
工場の多い地域	度数	201	99	43	18	361	
	%	55.7%	27.4%	11.9%	5.0%	100.0%	
	調整済み残差	.9	-1.3	.0	.7		
田園・山間地域	度数	1472	1498	707	259	3936	
	%	37.4%	38.1%	18.0%	6.6%	100.0%	
	調整済み残差	-21.4	10.8	12.7	7.9		
その他	度数	315	212	86	50	663	
	%	47.5%	32.0%	13.0%	7.5%	100.0%	
	調整済み残差	-3.0	.7	.9	4.3		
合計	度数	15446	8901	3450	1224	29021	
	%	53.2%	30.7%	11.9%	4.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-5-6 居住の自治体の分類と第 12 回調査「社会体験」

		第12回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	3889	1688	557	199	6333
		%	61.4%	26.7%	8.8%	3.1%	100.0%
		調整済み残差	14.7	-7.8	-8.6	-4.8	
その他の市	度数	9347	5467	2076	699	17589	
	%	53.1%	31.1%	11.8%	4.0%	100.0%	
	調整済み残差	-.4	2.0	-.6	-2.4		
郡部	度数	2227	1752	831	325	5135	
	%	43.4%	34.1%	16.2%	6.3%	100.0%	
	調整済み残差	-15.6	5.9	10.4	8.4		
外国	度数	51	25	4	2	82	
	%	62.2%	30.5%	4.9%	2.4%	100.0%	
	調整済み残差	1.6	.0	-2.0	-.8		
合計	度数	15514	8932	3468	1225	29139	
	%	53.2%	30.7%	11.9%	4.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-5-7 ⑥子供の性別と第 12 回調査「社会体験」

		第12回社会体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
性別	男	度数	8277	4584	1720	596	15177
		%	54.5%	30.2%	11.3%	3.9%	100.0%
		調整済み残差	-4.5	-1.7	-3.1	-2.4	
女	度数	7391	4428	1778	639	14236	
	%	51.9%	31.1%	12.5%	4.5%	100.0%	
	調整済み残差	-4.5	1.7	3.1	2.4		
合計	度数	15668	9012	3498	1235	29413	
	%	53.3%	30.6%	11.9%	4.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

(6) 第12回調査の「文化的体験」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-6-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第12回調査「文化的体験」

世帯類型		第12回文化的体験該当個数				合計
		0	1	2	3	
父母同居	度数	3281	8518	10167	5783	27749
	%	11.8%	30.7%	36.6%	20.8%	100.0%
	調整済み残差	-5.7	-3.0	3.7	-3.6	
ひとり親世帯	度数	275	569	534	286	1664
	%	16.5%	34.2%	32.1%	17.2%	100.0%
	調整済み残差	5.7	3.0	-3.7	-3.6	
合計	度数	3556	9087	10701	6069	29413
	%	12.1%	30.9%	36.4%	20.6%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-6-2 ②父母の収入と第12回調査「文化的体験」

収入11分類		第12回文化的体験該当個数				合計
		0	1	2	3	
100万円未満	度数	25	52	42	19	138
	%	18.1%	37.7%	30.4%	13.8%	100.0%
	調整済み残差	2.2	1.7	-1.5	-2.0	
100万円以上 200万円未満	度数	99	229	159	79	566
	%	17.5%	40.5%	28.1%	14.0%	100.0%
	調整済み残差	4.0	5.0	-4.2	-4.0	
200万円以上 300万円未満	度数	390	703	634	325	2052
	%	19.0%	34.3%	30.9%	15.8%	100.0%
	調整済み残差	10.0	3.5	-5.4	-5.6	
300万円以上 400万円未満	度数	628	1576	1623	832	4659
	%	13.5%	33.8%	34.8%	17.9%	100.0%
	調整済み残差	3.2	4.8	-2.4	-5.1	
400万円以上 500万円未満	度数	708	1914	2135	1164	5921
	%	12.0%	32.3%	36.1%	19.7%	100.0%
	調整済み残差	-3	2.7	-6	-2.1	
500万円以上 600万円未満	度数	595	1577	1916	1158	5246
	%	11.3%	30.1%	36.5%	22.1%	100.0%
	調整済み残差	-1.8	-1.4	.2	2.8	
600万円以上 700万円未満	度数	365	1119	1427	857	3768
	%	9.7%	29.7%	37.9%	22.7%	100.0%
	調整済み残差	-4.8	-1.7	2.0	3.4	
700万円以上 800万円未満	度数	258	733	986	554	2531
	%	10.2%	29.0%	39.0%	21.9%	100.0%
	調整済み残差	-3.0	-2.2	2.8	1.6	
800万円以上 900万円未満	度数	187	426	609	365	1587
	%	11.8%	26.8%	38.4%	23.0%	100.0%
	調整済み残差	-4	-3.6	1.7	2.4	
900万円以上 1,000万円未満	度数	78	249	382	248	957
	%	8.2%	26.0%	39.9%	25.9%	100.0%
	調整済み残差	-3.8	-3.3	2.3	4.1	
1,000万円以上	度数	201	461	750	448	1860
	%	10.8%	24.8%	40.3%	24.1%	100.0%
	調整済み残差	-1.7	-5.9	3.6	3.8	
合計	度数	3534	9039	10663	6049	29285
	%	12.1%	30.9%	36.4%	20.7%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

等価世帯所得の水準		第12回文化的体験該当個数				合計
		0	1	2	3	
中央値の2分の1未満	度数	346	656	534	278	1814
	%	19.1%	36.2%	29.4%	15.3%	100.0%
	調整済み残差	9.5	5.1	-6.4	-5.8	
中央値未満、中央値の2分の1以上	度数	1567	3902	4109	2223	11801
	%	13.3%	33.1%	34.8%	18.8%	100.0%
	調整済み残差	5.3	6.8	-4.8	-6.3	
中央値以上	度数	1564	4328	5866	3446	15204
	%	10.3%	28.5%	38.6%	22.7%	100.0%
	調整済み残差	-9.8	-9.2	7.9	9.0	
合計	度数	3477	8886	10509	5947	28819
	%	12.1%	30.8%	36.5%	20.6%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-6-3 ③父母の学歴と第12回調査「文化的体験」

父母の学歴		第12回文化的体験該当個数				合計
		0	1	2	3	
ともに短大・高専・大学・大学院以外を卒業	度数	1911	4269	4235	2145	12560
	%	15.2%	34.0%	33.7%	17.1%	100.0%
	調整済み残差	14.4	10.1	-8.5	-13.1	
いずれかが短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	910	2629	3162	1871	8572
	%	10.6%	30.7%	36.9%	21.8%	100.0%
	調整済み残差	-4.9	-4	1.0	3.2	
ともに短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	687	2076	3213	1992	7968
	%	8.6%	26.1%	40.3%	25.0%	100.0%
	調整済み残差	-11.0	-10.9	8.4	11.3	
合計	度数	3508	8974	10610	6008	29100
	%	12.1%	30.8%	36.5%	20.6%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-6-4 ④親子のかかわり・しつけと第 12 回調査「文化的体験」

		第12回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
しつけの実施 該当個数	6以下	度数	144	332	311	157	944
		%	15.3%	35.2%	32.9%	16.6%	100.0%
		調整済み残差	-3.2	2.9	-2.3	-3.2	
7	度数	131	336	321	161	949	
	%	13.8%	35.4%	33.8%	17.0%	100.0%	
	調整済み残差	1.8	3.1	-1.8	-2.9		
8	度数	253	594	593	276	1716	
	%	14.7%	34.6%	34.6%	16.1%	100.0%	
	調整済み残差	-3.7	3.5	-1.7	-4.9		
9	度数	401	973	1022	484	2880	
	%	13.9%	33.8%	35.5%	16.8%	100.0%	
	調整済み残差	3.5	3.6	-1.2	-5.5		
10	度数	488	1353	1530	782	4153	
	%	11.8%	32.6%	36.8%	18.8%	100.0%	
	調整済み残差	-4	2.6	.5	-3.3		
11	度数	650	1778	2089	1152	5669	
	%	11.5%	31.4%	36.8%	20.3%	100.0%	
	調整済み残差	-1.2	.9	.6	-.8		
12	度数	669	1826	2436	1475	6406	
	%	10.4%	28.5%	38.0%	23.0%	100.0%	
	調整済み残差	-4.2	-4.6	2.9	5.2		
13	度数	574	1375	1839	1267	5055	
	%	11.4%	27.2%	36.4%	25.1%	100.0%	
	調整済み残差	-1.4	-6.2	-.2	8.4		
合計	度数	3310	8567	10141	5754	27772	
	%	11.9%	30.8%	36.5%	20.7%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

⑤住環境等と第 12 回調査「文化的体験」

図表 4-6-5 居住環境の分類と第 12 回調査「文化的体験」

		第12回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住環境	住宅の多い地域	度数	2703	6993	8623	4777	23096
		%	11.7%	30.3%	37.3%	20.7%	100.0%
		調整済み残差	-3.7	-3.9	6.0	3	
商店の多い地域	度数	109	290	351	215	965	
	%	11.3%	30.1%	36.4%	22.3%	100.0%	
	調整済み残差	-1.7	-.5	-1	1.3		
工場の多い地域	度数	49	117	125	70	361	
	%	13.6%	32.4%	34.6%	19.4%	100.0%	
	調整済み残差	.9	.7	-.7	-.6		
田園・山間地域	度数	548	1335	1272	781	3936	
	%	13.9%	33.9%	32.3%	19.8%	100.0%	
	調整済み残差	3.9	4.5	-5.8	-1.3		
その他	度数	92	209	214	148	663	
	%	13.9%	31.5%	32.3%	22.3%	100.0%	
	調整済み残差	1.4	.4	-2.3	1.1		
合計	度数	3501	8944	10585	5991	29021	
	%	12.1%	30.8%	36.5%	20.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-6-6 居住の自治体の分類と第 12 回調査「文化的体験」

		第12回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	688	1776	2386	1483	6333
		%	10.9%	28.0%	37.7%	23.4%	100.0%
		調整済み残差	-3.3	-5.5	2.3	6.2	
その他の市	度数	2095	5500	6406	3588	17589	
	%	11.9%	31.3%	36.4%	20.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.1	1.9	-.1	-1.2		
郡部	度数	731	1690	1794	920	5135	
	%	14.2%	32.9%	34.9%	17.9%	100.0%	
	調整済み残差	5.2	3.5	-2.5	-5.3		
外国	度数	5	24	33	20	82	
	%	6.1%	29.3%	40.2%	24.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.7	-.3	.7	.8		
合計	度数	3519	8990	10619	6011	29139	
	%	12.1%	30.9%	36.4%	20.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 4-6-7 ⑥子供の性別と第 12 回調査「文化的体験」

		第12回文化的体験該当個数				合計	
		0	1	2	3		
性別	男	度数	1786	4877	5294	3220	15177
		%	11.8%	32.1%	34.9%	21.2%	100.0%
		調整済み残差	-1.7	4.8	-5.5	2.5	
女	度数	1770	4210	5407	2849	14236	
	%	12.4%	29.6%	38.0%	20.0%	100.0%	
	調整済み残差	1.7	-4.8	5.5	-2.5		
合計	度数	3556	9087	10701	6069	29413	
	%	12.1%	30.9%	36.4%	20.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

(7) 第7回調査の「遊び相手の多様性」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-7-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第7回調査「遊び相手の多様性」

		第7回遊び相手3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
世帯類型	父母同居	度数	4186	8133	12148	7911	32378
		%	12.9%	25.1%	37.5%	24.4%	100.0%
		調整済み残差	-5.3	1.2	.5	-5.9	
ひとり親世帯		度数	177	479	741	606	2003
		%	8.8%	23.9%	37.0%	30.3%	100.0%
		調整済み残差	-5.3	-1.2	-5	5.9	
合計	度数	4363	8612	12889	8517	34381	
	%	12.7%	25.0%	37.5%	24.8%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-7-2 ②父母の収入と第7回調査「遊び相手の多様性」

		第7回遊び相手3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
収入11分類	100万円未満	度数	25	37	70	45	177
		%	14.1%	20.9%	39.5%	25.4%	100.0%
		調整済み残差	.6	-1.3	.6	.2	
100万円以上 200万円未満		度数	77	172	253	203	705
		%	10.9%	24.4%	35.9%	28.8%	100.0%
		調整済み残差	-1.4	-.4	-.9	2.5	
200万円以上 300万円未満		度数	280	584	933	741	2538
		%	11.0%	23.0%	36.8%	29.2%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	-2.5	-.8	5.4	
300万円以上 400万円未満		度数	606	1336	2106	1564	5612
		%	10.8%	23.8%	37.5%	27.9%	100.0%
		調整済み残差	-4.7	-2.3	.0	5.9	
400万円以上 500万円未満		度数	813	1732	2663	1838	7046
		%	11.5%	24.6%	37.8%	26.1%	100.0%
		調整済み残差	-3.3	-1.0	.6	2.9	
500万円以上 600万円未満		度数	794	1582	2275	1493	6144
		%	12.9%	25.7%	37.0%	24.3%	100.0%
		調整済み残差	.6	1.4	-.9	-.9	
600万円以上 700万円未満		度数	577	1093	1636	956	4262
		%	13.5%	25.6%	38.4%	22.4%	100.0%
		調整済み残差	1.8	1.0	1.3	-3.8	
700万円以上 800万円未満		度数	391	731	1115	608	2845
		%	13.7%	25.7%	39.2%	21.4%	100.0%
		調整済み残差	1.8	.8	1.9	-4.4	
800万円以上 900万円未満		度数	270	466	651	388	1775
		%	15.2%	26.3%	36.7%	21.9%	100.0%
		調整済み残差	3.3	1.2	-.7	-2.9	
900万円以上 1,000万円未満		度数	165	289	357	227	1038
		%	15.9%	27.8%	34.4%	21.9%	100.0%
		調整済み残差	3.1	2.1	-2.1	-2.2	
1,000万円以上		度数	347	548	777	410	2082
		%	16.7%	26.3%	37.3%	19.7%	100.0%
		調整済み残差	5.6	1.4	-.2	-5.5	
合計	度数	4345	8570	12836	8473	34224	
	%	12.7%	25.0%	37.5%	24.8%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

		第7回遊び相手3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
等価世帯所得の水率	中央値の2分の1未満	度数	270	494	840	641	2245
		%	12.0%	22.0%	37.4%	28.6%	100.0%
		調整済み残差	-1.0	-3.5	-1	4.4	
中央値未満、中央値の2分の1以上		度数	1582	3445	5251	3769	14047
		%	11.3%	24.5%	37.4%	26.8%	100.0%
		調整済み残差	-6.8	-1.9	-.4	7.6	
中央値以上		度数	2410	4449	6467	3864	17190
		%	14.0%	25.9%	37.6%	22.5%	100.0%
		調整済み残差	7.3	3.6	.4	-9.7	
合計	度数	4262	8388	12558	8274	33482	
	%	12.7%	25.1%	37.5%	24.7%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-7-3 ③父母の学歴と第7回調査「遊び相手の多様性」

		第7回遊び相手3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
父母の学歴	ともに短大・高校・大学・大学院以外を卒業	度数	1739	3602	5722	4208	15271
		%	11.4%	23.6%	37.5%	27.6%	100.0%
		調整済み残差	-6.6	-5.7	-.1	10.9	
いずれかが短大・専修・大学・大学院を卒業		度数	1201	2521	3695	2422	9839
		%	12.2%	25.6%	37.6%	24.6%	100.0%
		調整済み残差	-1.7	1.5	.1	-3	
ともに短大・高校・大学・大学院を卒業		度数	1367	2384	3302	1757	8810
		%	15.5%	27.1%	37.5%	19.9%	100.0%
		調整済み残差	9.2	5.0	.0	-12.1	
合計	度数	4307	8507	12719	8387	33920	
	%	12.7%	25.1%	37.5%	24.7%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-7-4 ④親子のかかわり・しつけと第 7 回調査「遊び相手の多様性」

		第7回遊び相手3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
しつけの実施 該当個数	6以下	度数	241	284	358	186	1069
		%	22.5%	26.6%	33.5%	17.4%	100.0%
		調整済み残差	9.8	1.0	-2.8	-5.5	
7	度数	197	310	368	209	1084	
	%	18.2%	28.6%	33.9%	19.3%	100.0%	
	調整済み残差	5.5	2.6	-2.5	-4.1		
8	度数	333	535	700	361	1929	
	%	17.3%	27.7%	36.3%	18.7%	100.0%	
	調整済み残差	6.2	2.6	-1.2	-6.2		
9	度数	479	955	1197	678	3309	
	%	14.5%	28.9%	36.2%	20.5%	100.0%	
	調整済み残差	3.2	5.1	-1.7	-5.7		
10	度数	665	1299	1797	1027	4788	
	%	13.9%	27.1%	37.5%	21.4%	100.0%	
	調整済み残差	2.7	3.3	.0	-5.4		
11	度数	772	1727	2460	1606	6565	
	%	11.8%	26.3%	37.5%	24.5%	100.0%	
	調整済み残差	-2.6	2.3	-.1	-.2		
12	度数	842	1735	2903	2030	7510	
	%	11.2%	23.1%	38.7%	27.0%	100.0%	
	調整済み残差	-4.4	-4.8	2.3	5.7		
13	度数	573	1300	2342	1838	6053	
	%	9.5%	21.5%	38.7%	30.4%	100.0%	
	調整済み残差	-8.4	-7.4	2.1	11.6		
合計	度数	4102	8145	12125	7935	32307	
	%	12.7%	25.2%	37.5%	24.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

⑤住環境等と第 7 回調査「遊び相手の多様性」

図表 4-7-5 居住環境の分類と第 7 回調査「遊び相手の多様性」

		第7回遊び相手3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住環境	住宅の多い地域	度数	3421	6723	10124	6589	26857
		%	12.7%	25.0%	37.7%	24.5%	100.0%
		調整済み残差	-.0	-1.1	1.8	-1.0	
	商店の多い地域	度数	177	337	388	252	1154
		%	15.3%	29.2%	33.6%	21.8%	100.0%
		調整済み残差	2.7	3.2	-2.7	-2.3	
	工場の多い地域	度数	54	94	180	109	437
		%	12.4%	21.5%	41.2%	24.9%	100.0%
		調整済み残差	-.2	-1.8	1.6	.1	
	田舎・山間地域	度数	559	1183	1651	1158	4551
		%	12.3%	26.0%	36.3%	25.4%	100.0%
		調整済み残差	-1.0	1.4	-1.8	1.3	
	その他	度数	93	162	307	218	780
		%	11.9%	20.8%	39.4%	27.9%	100.0%
		調整済み残差	-.7	-2.9	1.1	-2.2	
合計	度数	4304	8499	12650	8326	33779	
	%	12.7%	25.2%	37.4%	24.6%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-7-6 居住の自治体の分類と第 7 回調査「遊び相手の多様性」

		第7回遊び相手3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	1009	1870	2738	1744	7361
		%	13.7%	25.4%	37.2%	23.7%	100.0%
		調整済み残差	2.9	.6	-.6	-2.2	
	その他の市	度数	2581	5195	7696	5009	20481
		%	12.6%	25.4%	37.6%	24.5%	100.0%
		調整済み残差	-.8	1.3	.5	-1.2	
	郡部	度数	709	1439	2231	1601	5980
		%	11.9%	24.1%	37.3%	26.8%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	-2.1	-.3	4.1	
	外国	度数	14	17	44	19	94
		%	14.9%	18.1%	46.8%	20.2%	100.0%
		調整済み残差	.6	-1.6	1.9	-1.0	
合計	度数	4313	8521	12709	8373	33916	
	%	12.7%	25.1%	37.5%	24.7%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-7-7 ⑥子供の性別と第 7 回調査「遊び相手の多様性」

		第7回遊び相手3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
性別	男	度数	2240	4780	6515	4289	17824
		%	12.6%	26.8%	36.6%	24.1%	100.0%
		調整済み残差	-.7	7.9	-3.7	-3.2	
	女	度数	2123	3832	6374	4228	16557
		%	12.8%	23.1%	38.5%	25.5%	100.0%
		調整済み残差	.7	-7.9	3.7	3.2	
合計	度数	4363	8612	12889	8517	34381	
	%	12.7%	25.0%	37.5%	24.8%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

(8) 第7回調査の「遊び場所の多様性」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-8-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第7回調査「遊び場所の多様性」

		遊び場所3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
世帯類型	父母同居	度数	1633	11518	12599	7345	33095
		%	4.9%	34.8%	38.1%	22.2%	100.0%
		調整済み残差	2.5	-3.4	-1.5	-3.4	
ひとり親世帯	度数	77	645	821	526	2069	
	%	3.7%	31.2%	39.7%	25.4%	100.0%	
	調整済み残差	-2.5	-3.4	1.5	3.4		
合計	度数	1710	12163	13420	7871	35164	
	%	4.9%	34.6%	38.2%	22.4%	100.0%	

Pearson のカイ2乗検定:p<0.001

図表 4-8-2 ②父母の収入と第7回調査「遊び場所の多様性」

		遊び場所3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
収入11分類	100万円未満	度数	21	63	62	41	187
		%	11.2%	33.7%	33.2%	21.9%	100.0%
		調整済み残差	4.1	-.3	-1.4	-.2	
100万円以上 200万円未満	度数	27	234	274	199	734	
	%	3.7%	31.9%	37.3%	27.1%	100.0%	
	調整済み残差	-1.5	-1.6	-.5	3.1		
200万円以上 300万円未満	度数	128	858	948	673	2607	
	%	4.9%	32.9%	36.4%	25.8%	100.0%	
	調整済み残差	.1	-1.9	-2.0	4.4		
300万円以上 400万円未満	度数	285	1867	2242	1375	5769	
	%	4.9%	32.4%	38.9%	23.8%	100.0%	
	調整済み残差	-.3	-3.9	1.2	2.9		
400万円以上 500万円未満	度数	338	2413	2757	1679	7187	
	%	4.7%	33.6%	38.4%	23.4%	100.0%	
	調整済み残差	-.7	-2.0	.4	2.2		
500万円以上 600万円未満	度数	312	2177	2358	1422	6269	
	%	5.0%	34.7%	37.6%	22.7%	100.0%	
	調整済み残差	.5	-.3	-1.0	.6		
600万円以上 700万円未満	度数	192	1499	1739	921	4351	
	%	4.4%	34.5%	40.0%	21.2%	100.0%	
	調整済み残差	-1.5	-.2	2.6	-2.1		
700万円以上 800万円未満	度数	129	1089	1112	572	2902	
	%	4.4%	37.5%	38.3%	19.7%	100.0%	
	調整済み残差	-1.1	3.5	.2	-3.6		
800万円以上 900万円未満	度数	85	666	690	371	1812	
	%	4.7%	36.8%	38.1%	20.5%	100.0%	
	調整済み残差	-.3	2.0	-.1	-2.0		
900万円以上 1,000万円未満	度数	62	422	388	199	1071	
	%	5.8%	39.4%	36.2%	18.6%	100.0%	
	調整済み残差	1.4	3.4	-1.3	-3.0		
1,000万円以上	度数	121	818	790	383	2112	
	%	5.7%	38.7%	37.4%	18.1%	100.0%	
	調整済み残差	1.9	4.1	-.7	-4.8		
合計	度数	1700	12106	13360	7835	35001	
	%	4.9%	34.6%	38.2%	22.4%	100.0%	

Pearson のカイ2乗検定:p<0.001

		遊び場所3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
等価世帯所得の水率	中央値の2分の1未満	度数	126	753	839	597	2315
		%	5.4%	32.5%	36.2%	25.8%	100.0%
		調整済み残差	1.4	-2.2	-2.0	4.2	
中央値未満、中央値の2分の1以上	度数	730	4674	5511	3478	14393	
	%	5.1%	32.5%	38.3%	24.2%	100.0%	
	調整済み残差	1.6	-7.2	.3	7.0		
中央値以上	度数	805	6440	6723	3562	17530	
	%	4.6%	36.7%	38.4%	20.3%	100.0%	
	調整済み残差	-2.3	8.3	.7	-9.0		
合計	度数	1661	11867	13073	7637	34238	
	%	4.9%	34.7%	38.2%	22.3%	100.0%	

Pearson のカイ2乗検定:p<0.001

図表 4-8-3 ③父母の学歴と第7回調査「遊び場所の多様性」

		遊び場所3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
父母の学歴	ともに短大・高専・大学・大学院以外を卒業	度数	756	5101	5960	3829	15646
		%	4.8%	32.6%	38.1%	24.5%	100.0%
		調整済み残差	-.3	-7.0	-.3	8.5	
いずれかが短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	499	3511	3828	2215	10053	
	%	5.0%	34.9%	38.1%	22.0%	100.0%	
	調整済み残差	.5	.9	-.2	-1.0		
ともに短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	434	3381	3452	1713	8980	
	%	4.8%	37.7%	38.4%	19.1%	100.0%	
	調整済み残差	-.2	7.1	.6	-8.7		
合計	度数	1689	11993	13240	7757	34679	
	%	4.9%	34.6%	38.2%	22.4%	100.0%	

Pearson のカイ2乗検定:p<0.001

図表 4-8-4 ④親子のかかわり・しつけと第7回調査「遊び場所の多様性」

		遊び場所3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
しつけの実施 該当個数	6以下	度数	93	405	400	203	1101
		%	8.4%	36.8%	36.3%	18.4%	100.0%
		調整済み残差	5.6	1.6	-1.4	-3.1	
7	度数	82	430	399	197	1108	
	%	7.4%	38.8%	36.0%	17.8%	100.0%	
	調整済み残差	-4.0	3.0	-1.6	-3.7		
8	度数	138	775	688	367	1968	
	%	7.0%	39.4%	35.0%	18.6%	100.0%	
	調整済み残差	-4.6	4.6	-3.1	-4.0		
9	度数	189	1234	1260	689	3372	
	%	5.6%	36.6%	37.4%	20.4%	100.0%	
	調整済み残差	2.1	2.6	-1.1	-2.7		
10	度数	245	1799	1801	1044	4889	
	%	5.0%	36.8%	36.8%	21.4%	100.0%	
	調整済み残差	.5	3.5	-2.2	-1.7		
11	度数	324	2281	2659	1445	6709	
	%	4.8%	34.0%	39.6%	21.5%	100.0%	
	調整済み残差	-1	-1.1	2.6	-1.6		
12	度数	285	2582	2990	1810	7667	
	%	3.7%	33.7%	39.0%	23.6%	100.0%	
	調整済み残差	-5.3	-1.9	1.5	3.2		
13	度数	250	1918	2449	1608	6225	
	%	4.0%	30.8%	39.3%	25.8%	100.0%	
	調整済み残差	-3.4	-6.9	1.9	7.5		
合計	度数	1606	11424	12646	7363	33039	
	%	4.9%	34.6%	38.3%	22.3%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

⑤住環境等と第7回調査「遊び場所の多様性」

図表 4-8-5 居住環境の分類と第7回調査「遊び場所の多様性」

		遊び場所3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住環境	住宅の多い地域	度数	1216	9778	10457	5965	27416
		%	4.4%	35.7%	38.1%	21.8%	100.0%
		調整済み残差	-7.4	8.1	-5	-4.8	
商店の多い地域	度数	68	466	471	198	1203	
	%	5.7%	38.7%	39.2%	16.5%	100.0%	
	調整済み残差	1.3	3.1	.7	-5.0		
工場の多い地域	度数	24	176	166	87	453	
	%	5.3%	38.9%	36.6%	19.2%	100.0%	
	調整済み残差	-4	1.9	-7	-1.6		
田舎・山間地域	度数	336	1297	1789	1243	4665	
	%	7.2%	27.8%	38.3%	26.6%	100.0%	
	調整済み残差	8.0	-10.5	.2	7.6		
その他	度数	39	237	314	218	808	
	%	4.8%	29.3%	38.9%	27.0%	100.0%	
	調整済み残差	-1	-3.2	.4	3.2		
合計	度数	1683	11954	13197	7711	34545	
	%	4.9%	34.6%	38.2%	22.3%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-8-6 居住の自治体の分類と第7回調査「遊び場所の多様性」

		遊び場所3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	245	3181	2895	1196	7517
		%	3.3%	42.3%	38.5%	15.9%	100.0%
		調整済み残差	-7.3	15.9	.6	-15.1	
その他の市	度数	1091	7027	7996	4838	20952	
	%	5.2%	33.5%	38.2%	23.1%	100.0%	
	調整済み残差	3.6	-5.1	-1	4.1		
郡部	度数	347	1755	2321	1700	6123	
	%	5.7%	28.7%	37.9%	27.8%	100.0%	
	調整済み残差	3.2	-10.8	-5	11.2		
外国	度数	6	38	35	15	94	
	%	6.4%	40.4%	37.2%	16.0%	100.0%	
	調整済み残差	.7	1.2	-.2	-1.5		
合計	度数	1689	12001	13247	7749	34686	
	%	4.9%	34.6%	38.2%	22.3%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-8-7 ⑥子供の性別と第7回調査「遊び場所の多様性」

		遊び場所3項目該当個数				合計	
		0	1	2	3		
性別	男	度数	783	5846	6996	4609	18234
		%	4.3%	32.1%	38.4%	25.3%	100.0%
		調整済み残差	-5.1	-10.3	.8	13.5	
女	度数	927	6317	6424	3262	16930	
	%	5.5%	37.3%	37.9%	19.3%	100.0%	
	調整済み残差	5.1	10.3	-.8	-13.5		
合計	度数	1710	12163	13420	7871	35164	
	%	4.9%	34.6%	38.2%	22.4%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

(9) 第7回調査の「遊び相手人数の多寡」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-9-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第7回調査「遊び相手の人数」

世帯類型		第7回遊び相手人数				合計
		0人	1人	2人	3人以上	
父母同居	度数	2620	6463	7619	15658	32360
	%	8.1%	20.0%	23.5%	48.4%	100.0%
	調整済み残差	1.8	5.0	2.8	-7.3	
	ひとり親世帯	141	311	422	1148	2022
	%	7.0%	15.4%	20.9%	56.8%	100.0%
	調整済み残差	-1.8	-5.0	-2.8	7.3	
合計	度数	2761	6774	8041	16806	34382
	%	8.0%	19.7%	23.4%	48.9%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: p<0.001

図表 4-9-2 ②父母の収入と第7回調査「遊び相手の人数」

収入11分類		第7回遊び相手人数				合計
		0人	1人	2人	3人以上	
100万円未満	度数	21	31	39	91	182
	%	11.5%	17.0%	21.4%	50.0%	100.0%
	調整済み残差	1.8	-9	-6	.3	
100万円以上 200万円未満	度数	69	126	170	348	713
	%	9.7%	17.7%	23.8%	48.8%	100.0%
	調整済み残差	1.6	-1.4	.3	.0	
200万円以上 300万円未満	度数	232	477	570	1248	2527
	%	9.2%	18.9%	22.6%	49.4%	100.0%
	調整済み残差	2.2	-1.1	-1.0	.5	
300万円以上 400万円未満	度数	426	1057	1369	2740	5592
	%	7.6%	18.9%	24.5%	49.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.2	-1.7	2.1	.2	
400万円以上 500万円未満	度数	528	1433	1692	3392	7045
	%	7.5%	20.3%	24.0%	48.1%	100.0%
	調整済み残差	-1.8	1.5	1.4	-1.4	
500万円以上 600万円未満	度数	476	1251	1453	2968	6148
	%	7.7%	20.3%	23.6%	48.3%	100.0%
	調整済み残差	-9	1.4	.5	-1.0	
600万円以上 700万円未満	度数	301	899	1066	2037	4303
	%	7.0%	20.9%	24.8%	47.3%	100.0%
	調整済み残差	-2.6	2.1	2.3	-2.2	
700万円以上 800万円未満	度数	205	582	665	1391	2843
	%	7.2%	20.5%	23.4%	48.9%	100.0%
	調整済み残差	-1.7	1.1	.0	.1	
800万円以上 900万円未満	度数	159	317	370	916	1762
	%	9.0%	18.0%	21.0%	52.0%	100.0%
	調整済み残差	1.6	-1.9	-2.4	2.7	
900万円以上 1,000万円未満	度数	84	217	233	515	1049
	%	8.0%	20.7%	22.2%	49.1%	100.0%
	調整済み残差	.0	.8	-9	.1	
1,000万円以上	度数	244	361	377	1087	2069
	%	11.8%	17.4%	18.2%	52.5%	100.0%
	調整済み残差	6.5	-2.7	-5.7	3.4	
合計	度数	2745	6751	8004	16733	34233
	%	8.0%	19.7%	23.4%	48.9%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: p<0.001

等価世帯所得の水準		第7回遊び相手人数				合計
		0人	1人	2人	3人以上	
中央値の2分の1未満	度数	216	431	526	1083	2256
	%	9.6%	19.1%	23.3%	48.0%	100.0%
	調整済み残差	2.8	-.8	-1	-.7	
中央値未満、中央値の2分の1以上	度数	1121	2759	3406	6731	14017
	%	8.0%	19.7%	24.3%	48.0%	100.0%
	調整済み残差	-.3	-.3	3.1	-2.2	
中央値以上	度数	1359	3430	3919	8511	17219
	%	7.9%	19.9%	22.8%	49.4%	100.0%
	調整済み残差	-1.1	.7	-3.0	2.6	
合計	度数	2696	6620	7851	16325	33492
	%	8.0%	19.8%	23.4%	48.7%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: p=0.004

図表 4-9-3 ③父母の学歴と第7回調査「遊び相手の人数」

父母の学歴		第7回遊び相手人数				合計
		0人	1人	2人	3人以上	
ともに短大・高専・大学・大学院以外を卒業	度数	1184	2921	3517	7582	15204
	%	7.8%	19.2%	23.1%	49.9%	100.0%
	調整済み残差	-1.5	-2.3	-1.0	3.5	
いずれかが短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	767	1938	2333	4948	9886
	%	7.8%	19.6%	23.6%	49.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.2	-.5	.6	.5	
ともに短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	775	1839	2079	4122	8815
	%	8.8%	20.9%	23.6%	46.8%	100.0%
	調整済み残差	3.0	3.0	.5	-4.5	
合計	度数	2726	6698	7929	16552	33905
	%	8.0%	19.8%	23.4%	48.8%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: p<0.001

図表 4-9-4 ④親子のかかわり・しつけと第7回調査「遊び相手の人数」

		第7回遊び相手人数				合計	
		0人	1人	2人	3人以上		
しつけの実施 該当個数	6以下	度数	145	236	223	432	1036
		%	14.0%	22.8%	21.5%	41.7%	100.0%
		調整済み残差	7.2	-2.5	-1.5	-4.6	
7	度数	140	259	233	445	1077	
	%	13.0%	24.0%	21.6%	41.3%	100.0%	
	調整済み残差	-6.1	-3.6	-1.4	-5.0		
8	度数	219	443	416	847	1925	
	%	11.4%	23.0%	21.6%	44.0%	100.0%	
	調整済み残差	5.6	3.7	-2.0	-4.3		
9	度数	284	731	780	1466	3261	
	%	8.7%	22.4%	23.9%	45.0%	100.0%	
	調整済み残差	1.5	-4.0	-.7	-4.6		
10	度数	375	1011	1064	2255	4705	
	%	8.0%	21.5%	22.6%	47.9%	100.0%	
	調整済み残差	-1	-3.2	-1.4	-1.2		
11	度数	486	1332	1553	3170	6541	
	%	7.4%	20.4%	23.7%	48.5%	100.0%	
	調整済み残差	-2.0	1.3	.6	-.5		
12	度数	512	1331	1833	3860	7536	
	%	6.8%	17.7%	24.3%	51.2%	100.0%	
	調整済み残差	-4.5	-5.3	2.1	-4.9		
13	度数	425	1041	1461	3255	6182	
	%	6.9%	16.8%	23.6%	52.7%	100.0%	
	調整済み残差	-3.7	-6.5	.4	6.8		
合計	度数	2586	6384	7563	15730	32263	
	%	8.0%	19.8%	23.4%	48.8%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

⑤住環境等と第7回調査「遊び相手の人数」

図表 4-9-5 居住環境の分類と第7回調査「遊び相手の人数」

		第7回遊び相手人数				合計	
		0人	1人	2人	3人以上		
居住環境	住宅の多い地域	度数	1985	5254	6316	13255	26810
		%	7.4%	19.6%	23.6%	49.4%	100.0%
		調整済み残差	-8.5	-1.4	1.1	4.8	
商店の多い地域	度数	129	224	282	544	1179	
	%	10.9%	19.0%	23.9%	46.1%	100.0%	
	調整済み残差	3.7	-.7	.4	-1.8		
工場の多い地域	度数	40	81	94	210	425	
	%	9.4%	19.1%	22.1%	49.4%	100.0%	
	調整済み残差	1.0	-.4	-.6	.3		
田舎・山間地域	度数	496	962	1038	2085	4581	
	%	10.8%	21.0%	22.7%	45.5%	100.0%	
	調整済み残差	7.4	2.3	-1.3	-4.8		
その他	度数	68	148	181	381	778	
	%	8.7%	19.0%	23.3%	49.0%	100.0%	
	調整済み残差	-.7	-.5	-.1	.1		
合計	度数	2718	6669	7911	16475	33773	
	%	8.0%	19.7%	23.4%	48.8%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-9-6 居住の自治体の分類と第7回調査「遊び相手の人数」

		第7回遊び相手人数				合計	
		0人	1人	2人	3人以上		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	566	1267	1609	3855	7297
		%	7.8%	17.4%	22.1%	52.8%	100.0%
		調整済み残差	-1.0	-5.8	-3.1	7.7	
その他の市	度数	1574	4199	4876	9846	20495	
	%	7.7%	20.5%	23.8%	48.0%	100.0%	
	調整済み残差	-3.0	4.2	2.1	-3.5		
郡部	度数	575	1210	1426	2817	6028	
	%	9.5%	20.1%	23.7%	46.7%	100.0%	
	調整済み残差	4.7	-.7	.5	-3.6		
外国	度数	13	21	22	36	92	
	%	14.1%	22.8%	23.9%	39.1%	100.0%	
	調整済み残差	2.1	-.7	.1	-1.9		
合計	度数	2728	6697	7933	16554	33912	
	%	8.0%	19.7%	23.4%	48.8%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-9-7 ⑥子供の性別と第7回調査「遊び相手の人数」

		第7回遊び相手人数				合計	
		0人	1人	2人	3人以上		
性別	男	度数	1460	3098	3938	9258	17754
		%	8.2%	17.4%	22.2%	52.1%	100.0%
		調整済み残差	1.4	-10.9	-5.5	12.5	
女	度数	1301	3676	4103	7548	16628	
	%	7.8%	22.1%	24.7%	45.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.4	10.9	5.5	-12.5		
合計	度数	2761	6774	8041	16806	34382	
	%	8.0%	19.7%	23.4%	48.9%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

(10) 第7回調査の「読書」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-10-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第7回調査「読書」

		第7回調査						合計	
		読まない	1冊	2、3冊	4冊～7冊	8冊～11冊	12冊以上		
世帯類型	父母同居	度数	2262	4175	10044	9725	3154	5449	34209
		%	6.6%	12.2%	29.4%	26.7%	9.2%	15.9%	100.0%
		調整済み残差	-3.9	-4.8	-1.7	3.2	3.8	2.3	
ひとり親世帯	度数	192	342	679	514	149	307	2183	
		%	8.8%	15.7%	31.1%	23.5%	6.8%	14.1%	100.0%
		調整済み残差	-3.9	4.8	1.7	-3.2	-3.8	-2.3	
合計	度数	2454	4517	10723	9639	3303	5756	36392	
	%	6.7%	12.4%	29.5%	26.5%	9.1%	15.8%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-10-2 ②父母の収入と第7回調査「読書」

		第7回調査						合計	
		読まない	1冊	2、3冊	4冊～7冊	8冊～11冊	12冊以上		
収入11分類	100万円未満	度数	25	38	62	35	15	34	209
		%	12.0%	18.2%	29.7%	16.7%	7.2%	16.3%	100.0%
		調整済み残差	3.0	2.5	.1	-3.2	-1.0	.2	
100万円以上 200万円未満	度数	74	109	234	187	55	117	776	
		%	9.5%	14.0%	30.2%	24.1%	7.1%	15.1%	100.0%
		調整済み残差	3.1	1.4	.4	-1.5	-1.9	-6	
200万円以上 300万円未満	度数	236	410	819	683	180	390	2718	
		%	8.7%	15.1%	30.1%	25.1%	6.6%	14.3%	100.0%
		調整済み残差	4.2	4.4	.8	-1.7	-4.6	-2.2	
300万円以上 400万円未満	度数	470	795	1821	1544	502	830	5962	
		%	7.9%	13.3%	30.5%	25.9%	8.4%	13.9%	100.0%
		調整済み残差	3.8	2.4	2.0	-1.2	-1.9	-4.4	
400万円以上 500万円未満	度数	540	987	2252	1938	671	1046	7434	
		%	7.3%	13.3%	30.3%	26.1%	9.0%	14.1%	100.0%
		調整済み残差	2.0	2.5	1.8	-1.0	-.2	-4.6	
500万円以上 600万円未満	度数	427	800	1887	1743	567	1027	6451	
		%	6.6%	12.4%	29.3%	27.0%	8.8%	15.9%	100.0%
		調整済み残差	-.4	.0	-.4	1.0	-.9	.2	
600万円以上 700万円未満	度数	265	524	1323	1205	444	738	4499	
		%	5.9%	11.6%	29.4%	26.8%	9.9%	16.4%	100.0%
		調整済み残差	-2.4	-1.7	-.1	.4	2.0	1.1	
700万円以上 800万円未満	度数	152	323	857	829	314	526	3001	
		%	5.1%	10.8%	28.6%	27.6%	10.5%	17.5%	100.0%
		調整済み残差	-3.8	-2.9	-1.1	1.4	2.8	2.7	
800万円以上 900万円未満	度数	120	197	528	499	186	340	1870	
		%	6.4%	10.5%	28.2%	26.7%	9.9%	18.2%	100.0%
		調整済み残差	-6	-2.5	-1.2	.2	1.4	2.9	
900万円以上 1,000万円未満	度数	53	114	297	325	115	203	1107	
		%	4.8%	10.3%	26.8%	29.4%	10.4%	18.3%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	-2.2	-1.9	2.2	1.6	2.3	
1,000万円以上	度数	81	199	586	615	237	481	2199	
		%	3.7%	9.0%	26.6%	28.0%	10.8%	21.9%	100.0%
		調整済み残差	-5.9	-4.9	-3.0	1.6	2.9	8.0	
合計	度数	2443	4496	10666	9603	3286	5732	36226	
	%	6.7%	12.4%	29.4%	26.5%	9.1%	15.8%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

		第7回調査						合計	
		読まない	1冊	2、3冊	4冊～7冊	8冊～11冊	12冊以上		
等価世帯所得の水準	中央値の2分の1未満	度数	229	365	715	617	160	345	2431
		%	9.4%	15.0%	29.4%	25.4%	6.6%	14.2%	100.0%
		調整済み残差	5.5	4.1	.0	-1.3	-4.4	-2.3	
中央値未満、中央値の2分の1以上	度数	1155	2031	4520	3779	1290	2094	14869	
		%	7.8%	13.7%	30.4%	25.4%	8.7%	14.1%	100.0%
		調整済み残差	6.8	6.1	3.4	-4.0	-2.3	-7.8	
中央値以上	度数	993	1996	5189	4998	1768	3182	18126	
		%	5.5%	11.0%	28.6%	27.6%	9.8%	17.6%	100.0%
		調整済み残差	-9.5	-8.1	-3.4	4.6	4.5	8.9	
合計	度数	2377	4392	10424	9394	3218	5621	35426	
	%	6.7%	12.4%	29.4%	26.5%	9.1%	15.9%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-10-3 ③父母の学歴と第7回調査「読書」

		第7回調査						合計	
		読まない	1冊	2、3冊	4冊～7冊	8冊～11冊	12冊以上		
父母の学歴	ともに短大・高専・大学・大学院以外を卒業	度数	1441	2473	5153	3944	1225	2010	16246
		%	8.9%	15.2%	31.7%	24.3%	7.5%	12.4%	100.0%
		調整済み残差	15.1	14.9	8.3	-8.6	-9.3	-16.4	
いずれかが短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	616	1180	3075	2880	989	1665	10405	
		%	5.9%	11.3%	29.6%	27.7%	9.5%	16.0%	100.0%
		調整済み残差	-3.7	-3.8	.1	3.3	1.7	.5	
ともに短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	340	787	2368	2674	1048	2011	9228	
		%	3.7%	8.5%	25.7%	29.0%	11.4%	21.8%	100.0%
		調整済み残差	-13.4	-13.0	-9.5	6.3	8.8	18.1	
合計	度数	2397	4440	10596	9498	3262	5686	35879	
	%	6.7%	12.4%	29.5%	26.5%	9.1%	15.8%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-10-4 ④親子のかかわり・しつけと第7回調査「読書」

		第7回調査						合計
		読まない	1冊	2、3冊	4冊～7冊	8冊～11冊	12冊以上	
しつけの実施 該当個数	6以下	度数 155	154	314	253	92	173	3141
	%	13.6%	13.5%	27.5%	22.2%	8.1%	15.2%	100.0%
	調整済み残差	9.6	1.3	-1.5	-3.4	-1.3	-7	
7	度数	106	139	325	276	122	175	1143
	%	9.3%	12.2%	28.4%	24.1%	10.7%	15.3%	100.0%
	調整済み残差	3.6	-1	-8	-1.9	1.9	-6	
8	度数	176	251	616	537	177	292	2049
	%	8.6%	12.2%	30.1%	26.2%	8.6%	14.3%	100.0%
	調整済み残差	3.7	.0	.5	-4	-8	-2.2	
9	度数	268	431	1018	933	284	549	3483
	%	7.7%	12.4%	29.2%	26.8%	8.2%	15.8%	100.0%
	調整済み残差	2.6	.3	-4	.3	-2.1	-3	
10	度数	345	617	1526	1301	450	770	5009
	%	6.9%	12.3%	30.5%	26.0%	9.0%	15.4%	100.0%
	調整済み残差	.8	.2	1.6	-1.0	-3	-1.2	
11	度数	445	842	2058	1919	643	1012	6919
	%	6.4%	12.2%	29.7%	27.7%	9.3%	14.6%	100.0%
	調整済み残差	-8	-2	.4	2.5	.6	-3.4	
12	度数	448	930	2361	2142	720	1324	7925
	%	5.7%	11.7%	29.8%	27.0%	9.1%	16.7%	100.0%
	調整済み残差	-4.0	-1.5	.6	1.1	-1	2.1	
13	度数	323	809	1859	1697	622	1146	6456
	%	5.0%	12.5%	28.8%	26.3%	9.6%	17.8%	100.0%
	調整済み残差	-5.9	.8	-1.4	-5	1.6	4.4	
合計	度数	2266	4173	10077	9058	3110	5441	34125
	%	6.6%	12.2%	29.5%	26.5%	9.1%	15.9%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

⑤住環境等と第7回調査「読書」

図表 4-10-5 居住環境の分類>と第7回調査「読書」

		第7回調査						合計
		読まない	1冊	2、3冊	4冊～7冊	8冊～11冊	12冊以上	
居住環境 住宅の多い地域	度数	1900	3478	8390	7577	2595	4397	28337
	%	6.7%	12.3%	29.6%	26.7%	9.2%	15.5%	100.0%
	調整済み残差	0.0	-1.1	1.3	2.0	.6	-3.5	
商店の多い地域	度数	79	159	354	330	111	207	1240
	%	6.4%	12.8%	28.5%	26.6%	9.0%	16.7%	100.0%
	調整済み残差	-5	.5	-7	.1	-2	.8	
工場の多い地域	度数	32	49	163	122	39	63	468
	%	6.8%	10.5%	34.8%	26.1%	8.3%	13.5%	100.0%
	調整済み残差	.1	-1.3	2.6	-2	-6	-1.4	
田舎・山間地域	度数	325	608	1384	1234	442	865	4858
	%	6.7%	12.5%	28.5%	25.4%	9.1%	17.8%	100.0%
	調整済み残差	-1	.3	-1.6	-1.9	.0	4.0	
その他	度数	61	127	233	209	70	137	837
	%	7.3%	15.2%	27.8%	25.0%	8.4%	16.4%	100.0%
	調整済み残差	.7	2.5	-1.0	-1.0	-8	-4	
合計	度数	2397	4421	10524	9472	3257	5669	35740
	%	6.7%	12.4%	29.4%	26.5%	9.1%	15.9%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.016

図表 4-10-6 居住の自治体の分類>と第7回調査「読書」

		第7回調査						合計
		読まない	1冊	2、3冊	4冊～7冊	8冊～11冊	12冊以上	
居住の自治 体の分類	14大都市	度数 493	928	2384	2262	661	1077	7805
	%	6.3%	11.9%	30.5%	29.0%	8.5%	13.8%	100.0%
	調整済み残差	-1.6	-1.5	2.4	5.6	-2.2	-5.6	
その他の市	度数	1456	2682	6284	5670	2053	3480	21625
	%	6.7%	12.4%	29.1%	26.2%	9.5%	16.1%	100.0%
	調整済み残差	.1	.2	-2.0	-1.5	3.2	1.5	
郡部	度数	459	818	1884	1551	539	1110	6361
	%	7.2%	12.9%	29.6%	24.4%	8.5%	17.5%	100.0%
	調整済み残差	1.7	1.3	.3	-4.2	-1.9	3.8	
外国	度数	3	12	17	31	12	23	98
	%	3.1%	12.2%	17.3%	31.6%	12.2%	23.5%	100.0%
	調整済み残差	-1.4	.0	-2.6	1.2	1.1	2.1	
合計	度数	2411	4440	10569	9514	3265	5690	35889
	%	6.7%	12.4%	29.4%	26.5%	9.1%	15.9%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-10-7 ⑥子供の性別と第7回調査「読書」

		第7回調査						合計
		読まない	1冊	2、3冊	4冊～7冊	8冊～11冊	12冊以上	
性別	男	度数 1731	2802	5742	4658	1472	2430	18835
	%	9.2%	14.9%	30.5%	24.7%	7.8%	12.9%	100.0%
	調整済み残差	19.3	14.8	4.4	-7.9	-8.7	-15.8	
女	度数	723	1715	4981	4981	1831	3326	17557
	%	4.1%	9.8%	28.4%	28.4%	10.4%	18.9%	100.0%
	調整済み残差	-19.3	-14.8	-4.4	7.9	8.7	15.8	
合計	度数	2454	4517	10723	9639	3303	5756	36392
	%	6.7%	12.4%	29.5%	26.5%	9.1%	15.8%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

(11) 第9回調査の「お手伝い」と「家庭による背景・要因・属性等」

図表 4-11-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と第9回調査「お手伝い」

		第9回お手伝い回数								合計	
		0	1	2	3	4	5	6	7		
世帯類型	父母同居	度数	1920	6057	8104	7135	4769	2832	1624	758	33199
		%	5.8%	18.2%	24.4%	21.5%	14.4%	8.5%	4.9%	2.3%	100.0%
		調整済み残差	-4	.9	2.4	.1	-1.9	-1.4	-1.4	.5	
ひとり親世帯	度	度数	125	363	458	445	329	196	116	44	2076
		%	6.0%	17.5%	22.1%	21.4%	15.8%	9.4%	5.6%	2.1%	100.0%
		調整済み残差	.4	-.9	-2.4	-.1	1.9	1.4	1.4	-.5	
合計	度	度数	2045	6420	8562	7580	5098	3028	1740	802	35275
		%	5.8%	18.2%	24.3%	21.5%	14.5%	8.6%	4.9%	2.3%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.092

図表 4-11-2 ②父母の収入と第9回調査「お手伝い」

		第9回お手伝い回数								合計	
		0	1	2	3	4	5	6	7		
収入11分類	100万円未満	度数	14	31	47	39	27	12	18	6	194
		%	7.2%	16.0%	24.2%	20.1%	13.9%	6.2%	9.3%	3.1%	100.0%
		調整済み残差	-.9	-.8	.0	-.5	-.2	-1.2	2.8	.8	
100万円以上 200万円未満	度	度数	52	135	154	158	113	70	42	20	744
		%	7.0%	18.1%	20.7%	21.2%	15.2%	9.4%	5.6%	2.7%	100.0%
		調整済み残差	1.4	.0	-2.3	-.2	.6	.8	.9	.8	
200万円以上 300万円未満	度	度数	161	473	586	553	382	232	115	56	2558
		%	6.3%	18.5%	22.9%	21.6%	14.9%	9.1%	4.5%	2.2%	100.0%
		調整済み残差	1.1	.4	-1.7	-.2	.7	.9	-1.1	-.3	
300万円以上 400万円未満	度	度数	368	1022	1407	1241	800	472	273	110	5693
		%	6.5%	18.0%	24.7%	21.8%	14.1%	8.3%	4.8%	1.9%	100.0%
		調整済み残差	2.4	-.5	.8	.6	-1.0	-.8	-.5	-1.9	
400万円以上 500万円未満	度	度数	406	1348	1762	1542	994	599	348	155	7154
		%	5.7%	18.8%	24.6%	21.6%	13.9%	8.4%	4.9%	2.2%	100.0%
		調整済み残差	-.5	1.6	.8	.1	-1.6	-.7	-.3	-.6	
500万円以上 600万円未満	度	度数	360	1086	1536	1322	945	544	330	159	6282
		%	5.7%	17.3%	24.5%	21.0%	15.0%	8.7%	5.3%	2.5%	100.0%
		調整済み残差	-.2	-2.0	.3	-1.0	1.4	.3	1.3	1.6	
600万円以上 700万円未満	度	度数	224	819	1076	934	650	375	219	101	4398
		%	5.1%	18.6%	24.5%	21.2%	14.8%	8.5%	5.0%	2.3%	100.0%
		調整済み残差	-2.1	.8	.3	-.5	.6	-.1	.1	.1	
700万円以上 800万円未満	度	度数	161	526	700	675	446	265	134	70	2977
		%	5.4%	17.7%	23.5%	22.7%	15.0%	8.9%	4.5%	2.4%	100.0%
		調整済み残差	-.9	-.8	-1.0	1.6	.8	.7	-1.1	.3	
800万円以上 900万円未満	度	度数	106	352	438	383	276	160	93	36	1844
		%	5.7%	19.1%	23.8%	20.8%	15.0%	8.7%	5.0%	2.0%	100.0%
		調整済み残差	-.1	1.0	-.5	-.8	.6	.2	.2	-.9	
900万円以上 1,000万円未満	度	度数	57	199	285	248	156	77	51	29	1102
		%	5.2%	18.1%	25.9%	22.5%	14.2%	7.0%	4.6%	2.6%	100.0%
		調整済み残差	-.9	-.1	1.2	.8	-.3	-1.9	-.5	.8	
1,000万円以上	度	度数	123	391	535	453	293	204	110	54	2163
		%	5.7%	18.1%	24.7%	20.9%	13.5%	9.4%	5.1%	2.5%	100.0%
		調整済み残差	-.2	-.1	.5	-.6	-1.3	1.5	.3	.7	
合計	度	度数	2032	6382	8526	7548	5082	3010	1733	796	35109
		%	5.8%	18.2%	24.3%	21.5%	14.5%	8.6%	4.9%	2.3%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.454

		第9回お手伝い回数								合計	
		0	1	2	3	4	5	6	7		
等価世帯所得の水準	中央値の2分の1未満	度数	174	452	515	488	312	196	110	54	2301
		%	7.6%	19.6%	22.4%	21.2%	13.6%	8.5%	4.8%	2.3%	100.0%
		調整済み残差	3.8	1.9	-2.2	-.4	-1.3	-.2	-.3	.3	
中央値未満、中央値の2分の1以上	度	度数	870	2651	3493	3082	2040	1182	693	298	14309
		%	6.1%	18.5%	24.4%	21.5%	14.3%	8.3%	4.8%	2.1%	100.0%
		調整済み残差	2.0	1.5	.3	.1	-.8	-1.9	-.6	-1.8	
中央値以上	度	度数	945	3146	4357	3826	2617	1581	890	423	17785
		%	5.3%	17.7%	24.5%	21.5%	14.7%	8.9%	5.0%	2.4%	100.0%
		調整済み残差	-3.9	-2.4	.8	.0	1.5	2.0	.7	1.6	
合計	度	度数	1989	6249	8365	7396	4969	2959	1693	775	34395
		%	5.8%	18.2%	24.3%	21.5%	14.4%	8.6%	4.9%	2.3%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-11-3 ③父母の学歴と第9回調査「お手伝い」

		第9回お手伝い回数								合計	
		0	1	2	3	4	5	6	7		
父母の学歴	ともに短大・高専・大学・大学院以外を卒業	度数	953	2844	3775	3324	2272	1329	740	344	15581
		%	6.1%	18.3%	24.2%	21.3%	14.6%	8.5%	4.7%	2.2%	100.0%
		調整済み残差	2.3	.1	-.3	-.6	-.8	-.4	-1.2	-.7	
いずれかが短大・高専・大学・大学院を卒業	度	度数	586	1837	2474	2174	1442	883	529	217	10142
		%	5.8%	18.1%	24.4%	21.4%	14.2%	8.7%	5.2%	2.1%	100.0%
		調整済み残差	-.4	.2	.3	-.3	-.7	.5	1.7	-.1	
ともに短大・高専・大学・大学院を卒業	度	度数	481	1663	2212	1981	1306	779	440	230	9092
		%	5.3%	18.3%	24.3%	21.8%	14.4%	8.6%	4.8%	2.5%	100.0%
		調整済み残差	-.4	.2	.1	-.8	-.2	-.1	1.9	-.4	
合計	度	度数	2020	6344	8461	7479	5020	2991	1709	791	34815
		%	5.8%	18.2%	24.3%	21.5%	14.4%	8.6%	4.9%	2.3%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.386

図表 4-11-4 ④親子のかかわり・しつけと第9回調査「お手伝い」

		第9回お手伝い回数								合計
		0	1	2	3	4	5	6	7	
しつけの実施 該当個数	6以下	155	281	299	195	88	58	30	10	1116
	度数	13.9%	25.2%	26.8%	17.5%	7.9%	5.2%	2.7%	.9%	100.0%
	調整済み残差	11.9	6.2	2.1	-3.4	-6.4	-4.2	-3.6	-3.1	
7	度数	118	252	260	237	136	64	34	12	1113
	%	10.6%	22.6%	23.4%	21.3%	12.2%	5.8%	3.1%	1.1%	100.0%
	調整済み残差	7.1	4.0	-7	-2	-2.2	-3.5	-3.0	-2.7	
8	度数	171	457	502	421	221	144	58	27	2001
	%	8.5%	22.8%	25.1%	21.0%	11.0%	7.2%	2.9%	1.3%	100.0%
	調整済み残差	5.6	5.7	1.0	-6	-4.5	-2.4	-4.4	-2.9	
9	度数	232	717	900	723	397	233	133	59	3394
	%	6.8%	21.1%	26.5%	21.3%	11.7%	6.9%	3.9%	1.7%	100.0%
	調整済み残差	2.9	4.8	3.3	-4	-4.9	-3.9	-3.0	-2.2	
10	度数	296	978	1266	1055	682	360	177	81	4895
	%	6.0%	20.0%	25.9%	21.6%	13.9%	7.4%	3.6%	1.7%	100.0%
	調整済み残差	1.0	3.7	2.9	.0	-1.2	-3.5	-4.8	-3.1	
11	度数	374	1225	1701	1459	976	550	270	127	6682
	%	5.6%	18.3%	25.5%	21.8%	14.6%	8.2%	4.0%	1.9%	100.0%
	調整済み残差	-6	.5	2.7	.6	.3	-1.3	-4.0	-2.3	
12	度数	359	1253	1806	1691	1243	727	440	191	7710
	%	4.7%	16.3%	23.4%	21.9%	16.1%	9.4%	5.7%	2.5%	100.0%
	調整済み残差	-4.7	-4.8	-1.8	.9	4.7	2.8	3.3	1.4	
13	度数	197	836	1283	1363	1056	724	512	246	6217
	%	3.2%	13.4%	20.6%	21.9%	17.0%	11.6%	8.2%	4.0%	100.0%
	調整済み残差	-9.7	-10.6	-7.3	.8	6.2	9.4	13.0	9.9	
合計	度数	1902	5999	8017	7144	4799	2860	1654	753	33128
	%	5.7%	18.1%	24.2%	21.6%	14.5%	8.6%	5.0%	2.3%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

⑤住環境等と第9回調査「お手伝い」

図表 4-11-5 居住環境の分類と第9回調査「お手伝い」

		第9回お手伝い回数								合計	
		0	1	2	3	4	5	6	7		
居住環境	住宅の多い地域	度数	1489	4901	6643	5961	4072	2451	1389	641	27547
		%	5.4%	17.8%	24.1%	21.6%	14.8%	8.9%	5.0%	2.3%	100.0%
		調整済み残差	-6.3	-4.0	-1.0	1.6	3.4	4.2	1.3	1.1	
商店の多い地域	度数	58	190	251	255	192	129	77	41	1193	
	%	4.9%	15.9%	21.0%	21.4%	16.1%	10.8%	6.5%	3.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.4	-2.1	-2.6	-1	1.6	2.8	2.4	2.7		
工場の多い地域	度数	20	80	93	89	71	39	24	17	433	
	%	4.6%	18.5%	21.5%	20.6%	16.4%	9.0%	5.5%	3.9%	100.0%	
	調整済み残差	-1.1	.1	-1.3	-5	1.2	.3	.6	2.3		
田園・山間地域	度数	396	1007	1225	993	551	292	192	66	4722	
	%	8.4%	21.3%	25.9%	21.0%	11.7%	6.2%	4.1%	1.4%	100.0%	
	調整済み残差	8.2	6.0	3.0	-8	-5.9	-6.3	-3.1	-4.4		
その他	度数	52	143	196	149	130	66	41	27	804	
	%	6.5%	17.8%	24.4%	18.5%	16.2%	8.2%	5.1%	3.4%	100.0%	
	調整済み残差	.8	-3	.1	-2.0	1.4	4.4	2	2.1		
合計	度数	2015	6321	8408	7447	5016	2977	1723	792	34699	
	%	5.8%	18.2%	24.2%	21.5%	14.5%	8.6%	5.0%	2.3%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-11-6 居住の自治体の分類と第9回調査「お手伝い」

		第9回お手伝い回数								合計	
		0	1	2	3	4	5	6	7		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	371	1222	1753	1628	1220	753	448	213	7608
		%	4.9%	16.1%	23.0%	21.4%	16.0%	9.9%	5.9%	2.8%	100.0%
		調整済み残差	-3.9	-5.5	-2.8	-2	4.5	4.7	4.3	3.4	
その他の市	度数	1228	3818	5142	4514	2991	1775	1030	474	20972	
	%	5.9%	18.2%	24.5%	21.5%	14.3%	8.5%	4.9%	2.3%	100.0%	
	調整済み残差	.5	-1	1.5	.2	-1.2	-9	-4	-3		
郡部	度数	413	1293	1528	1324	808	451	246	105	6168	
	%	6.7%	21.0%	24.8%	21.5%	13.1%	7.3%	4.0%	1.7%	100.0%	
	調整済み残差	3.3	6.2	1.1	.0	-3.3	-3.9	-3.8	-3.4		
外国	度数	9	16	23	21	16	9	1	3	98	
	%	9.2%	16.3%	23.5%	21.4%	16.3%	9.2%	1.0%	3.1%	100.0%	
	調整済み残差	1.4	-5	-2	.0	.5	2.2	-1.8	.5		
合計	度数	2021	6349	8446	7487	5035	2988	1725	795	34846	
	%	5.8%	18.2%	24.2%	21.5%	14.4%	8.6%	5.0%	2.3%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 4-11-7 ⑥子供の性別と第9回調査「お手伝い」

		第9回お手伝い回数								合計	
		0	1	2	3	4	5	6	7		
性別	男	度数	1264	3821	4632	3885	2464	1296	698	293	18353
		%	6.9%	20.8%	25.2%	21.2%	13.4%	7.1%	3.8%	1.6%	100.0%
		調整済み残差	9.1	13.3	4.4	-1.5	-5.7	-10.6	-10.2	-8.9	
女	度数	781	2599	3930	3695	2634	1732	1042	509	16922	
	%	4.6%	15.4%	23.2%	21.8%	15.6%	10.2%	6.2%	3.0%	100.0%	
	調整済み残差	-9.1	-13.3	-4.4	1.5	5.7	10.6	10.2	8.9		
合計	度数	2045	6420	8562	7580	5098	3028	1740	802	35275	
	%	5.8%	18.2%	24.3%	21.5%	14.5%	8.6%	4.9%	2.3%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

5. 「向学校的な意識」(小学生) についての分析

(1) 「向学校的な意識」(小学生) と「家庭による背景・要因・属性等」との関係

図表 5-1-1 ①世帯類型(ひとり親世帯であるか否かについて)と「向学校的な意識」(小学生)

世帯類型	項目	第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
父母同居	度数	17058	3040	9687	29785	
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%	
	調整済み残差	-.1	-.6	.5		
	ひとり親世帯	度数	1055	196	589	1840
	%	57.3%	10.7%	32.0%	100.0%	
	調整済み残差	.1	.6	-.5		
合計	度数	18113	3236	10276	31625	
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p=0.788$

図表 5-1-2 ②父母の収入と「向学校的な意識」(小学生)

収入11分類	項目	第12回勉強が楽しい			合計
		はい	いいえ	どちらとも いえない	
100万円未満	度数	80	19	65	164
	%	48.8%	11.6%	39.6%	100.0%
	調整済み残差	-2.2	.6	2.0	
100万円以上 200万円未満	度数	335	72	226	633
	%	52.9%	11.4%	35.7%	100.0%
	調整済み残差	-2.2	.9	1.8	
200万円以上 300万円未満	度数	1224	274	768	2266
	%	54.0%	12.1%	33.9%	100.0%
	調整済み残差	-3.3	3.0	1.5	
300万円以上 400万円未満	度数	2783	576	1632	4991
	%	55.8%	11.5%	32.7%	100.0%
	調整済み残差	-2.4	3.3	.4	
400万円以上 500万円未満	度数	3548	719	2091	6358
	%	55.8%	11.3%	32.9%	100.0%
	調整済み残差	-2.7	3.1	.8	
500万円以上 600万円未満	度数	3243	548	1882	5673
	%	57.2%	9.7%	33.2%	100.0%
	調整済み残差	-.2	-1.6	1.2	
600万円以上 700万円未満	度数	2380	407	1229	4016
	%	59.3%	10.1%	30.6%	100.0%
	調整済み残差	2.7	-.3	-2.7	
700万円以上 800万円未満	度数	1602	238	879	2719
	%	58.9%	8.8%	32.3%	100.0%
	調整済み残差	1.8	-2.7	-.2	
800万円以上 900万円未満	度数	1030	127	531	1688
	%	61.0%	7.5%	31.5%	100.0%
	調整済み残差	3.2	-3.8	-.9	
900万円以上 1,000万円未満	度数	606	82	325	1013
	%	59.8%	8.1%	32.1%	100.0%
	調整済み残差	1.7	-2.3	-.3	
1,000万円以上	度数	1205	165	598	1968
	%	61.2%	8.4%	30.4%	100.0%
	調整済み残差	3.7	-2.8	-2.0	
合計	度数	18036	3227	10226	31489
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p<0.001$

等価世帯所得の水準	項目	第12回勉強が楽しい			合計
		はい	いいえ	どちらとも いえない	
中央値の2分の1 未満	度数	1031	254	721	2006
	%	51.4%	12.7%	35.9%	100.0%
	調整済み残差	-5.5	3.8	3.4	
中央値未満、中央 値の2分の1以上	度数	7120	1398	4203	12721
	%	56.0%	11.0%	33.0%	100.0%
	調整済み残差	-4.0	3.8	1.7	
中央値以上	度数	9603	1507	5143	16253
	%	59.1%	9.3%	31.6%	100.0%
	調整済み残差	6.6	-5.7	-3.4	
合計	度数	17754	3159	10067	30980
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p<0.001$

図表 5-1-3 ③父母の学歴と「向学校的な意識」(小学生)

父母の学歴	項目	第12回勉強が楽しい			合計
		はい	いいえ	どちらとも いえない	
ともに短大・高 専、大学、大学院 以外を卒業	度数	7468	1585	4631	13684
	%	54.6%	11.6%	33.8%	100.0%
	調整済み残差	-8.6	7.0	4.6	
いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	度数	5332	892	2975	9199
	%	58.0%	9.7%	32.3%	100.0%
	調整済み残差	1.5	-2.0	-.3	
ともに短大・高 専、大学、大学院 を卒業	度数	5129	719	2554	8402
	%	61.0%	8.6%	30.4%	100.0%
	調整済み残差	8.1	-5.9	-4.8	
合計	度数	17929	3196	10160	31285
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p<0.001$

図表 5-1-4 ④親子のかかわり・しつけと「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
しつけの実施 該当個数	6以下	度数	561	121	321	1003
		%	55.9%	12.1%	32.0%	100.0%
		調整済み残差	-8	1.9	-3	
7	度数	520	120	363	1003	
	%	51.8%	12.0%	36.2%	100.0%	
	調整済み残差	-3.5	1.8	2.5		
8	度数	964	223	647	1834	
	%	52.6%	12.2%	35.3%	100.0%	
	調整済み残差	-4.2	2.7	2.6		
9	度数	1674	358	1041	3073	
	%	54.5%	11.6%	33.9%	100.0%	
	調整済み残差	-3.3	2.6	1.7		
10	度数	2440	495	1486	4421	
	%	55.2%	11.2%	33.6%	100.0%	
	調整済み残差	-3.0	2.2	1.7		
11	度数	3398	620	2033	6051	
	%	56.2%	10.2%	33.6%	100.0%	
	調整済み残差	-1.9	-1	2.1		
12	度数	4064	641	2196	6901	
	%	58.9%	9.3%	31.8%	100.0%	
	調整済み残差	3.2	-3.1	-1.4		
13	度数	3434	485	1596	5515	
	%	62.3%	8.8%	28.9%	100.0%	
	調整済み残差	8.4	-4.0	-6.2		
合計	度数	17055	3063	9683	29801	
	%	57.2%	10.3%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

⑤住環境等と「向学校的な意識」(小学生)

図表 5-1-5 居住環境の分類と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
居住環境	住宅の多い地域	度数	14092	2575	8106	24773
		%	56.9%	10.4%	32.7%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	1.6	1.8	
	商店の多い地域	度数	635	94	337	1066
		%	59.6%	8.8%	31.6%	100.0%
		調整済み残差	1.5	-1.6	-6	
	工場の多い地域	度数	196	44	150	390
		%	50.3%	11.3%	38.5%	100.0%
		調整済み残差	-2.8	.7	2.5	
	田園・山間地域	度数	2503	403	1326	4232
		%	59.1%	9.5%	31.3%	100.0%
		調整済み残差	2.7	-1.7	-1.7	
	その他	度数	431	82	211	724
		%	59.5%	11.3%	29.1%	100.0%
		調整済み残差	1.2	1.0	-1.9	
合計	度数	17857	3198	10130	31185	
	%	57.3%	10.3%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.003

図表 5-1-6 居住の自治体の分類と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	3898	687	2209	6794
		%	57.4%	10.1%	32.5%	100.0%
		調整済み残差	.2	-.4	.0	
	その他の市	度数	10773	1952	6155	18880
		%	57.1%	10.3%	32.6%	100.0%
		調整済み残差	-.9	.7	.5	
	郡部	度数	3201	563	1786	5550
		%	57.7%	10.1%	32.2%	100.0%
		調整済み残差	.7	-.3	-.5	
	外国	度数	61	5	25	91
		%	67.0%	5.5%	27.5%	100.0%
		調整済み残差	1.9	-1.5	-1.0	
合計	度数	17933	3207	10175	31315	
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.529

図表 5-1-7 ⑥子供の性別と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
性別	男	度数	9162	1791	5389	16342
		%	56.1%	11.0%	33.0%	100.0%
		調整済み残差	-4.5	4.4	1.9	
	女	度数	8951	1445	4887	15283
		%	58.6%	9.5%	32.0%	100.0%
		調整済み残差	4.5	-4.4	-1.9	
合計	度数	18113	3236	10276	31625	
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

(2) 「向学校的な意識」(小学生)と「体験」との関係

図表 5-2-1 ①第 8 回調査の「自然体験」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
第8回自然体 験談当個数	0	度数	1724	340	1125	3189
		%	54.1%	10.7%	35.3%	100.0%
		調整済み残差	-3.9	.8	3.5	
	1	度数	3919	795	2356	7070
		%	55.4%	11.2%	33.3%	100.0%
		調整済み残差	-3.6	3.2	1.7	
	2	度数	6173	1151	3490	10814
		%	57.1%	10.6%	32.3%	100.0%
		調整済み残差	-5	1.8	-7	
	3	度数	4030	547	2027	6604
		%	61.0%	8.3%	30.7%	100.0%
		調整済み残差	7.1	-6.0	-3.6	
合計	度数	15846	2833	8998	27677	
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 5-2-2 ②第 8 回調査の「社会体験」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
第8回社会体 験談当個数	0	度数	7324	1509	4540	13373
		%	54.8%	11.3%	33.9%	100.0%
		調整済み残差	-8.1	5.6	-4.9	
	1	度数	6061	992	3299	10352
		%	58.5%	9.6%	31.9%	100.0%
		調整済み残差	-3.4	-2.8	-1.8	
	2	度数	2000	286	990	3276
		%	61.1%	8.7%	30.2%	100.0%
		調整済み残差	4.7	-3.0	-3.0	
	3	度数	461	46	169	676
		%	68.2%	6.8%	25.0%	100.0%
		調整済み残差	5.8	-3.0	-4.2	
合計	度数	15846	2833	8998	27677	
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 5-2-3 ③第 8 回調査の「文化的体験」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
第8回文化的 体験談当個 数	0	度数	1077	251	718	2046
		%	52.6%	12.3%	35.1%	100.0%
		調整済み残差	-4.4	3.2	2.6	
	1	度数	5155	1143	3302	9600
		%	53.7%	11.9%	34.4%	100.0%
		調整済み残差	-8.7	6.7	4.9	
	2	度数	6510	1045	3583	11138
		%	58.4%	9.4%	32.2%	100.0%
		調整済み残差	3.3	-3.8	-1.0	
	3	度数	3104	394	1395	4893
		%	63.4%	8.1%	28.5%	100.0%
		調整済み残差	9.6	-5.6	-6.6	
合計	度数	15846	2833	8998	27677	
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 5-2-4 ④第 12 回調査の「自然体験」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
第12回自然 体験談当個 数	0	度数	3122	736	2065	5923
		%	52.7%	12.4%	34.9%	100.0%
		調整済み残差	-8.0	6.3	4.4	
	1	度数	4521	864	2751	8136
		%	55.6%	10.6%	33.8%	100.0%
		調整済み残差	-3.8	1.4	3.1	
	2	度数	5512	896	3020	9428
		%	58.5%	9.5%	32.0%	100.0%
		調整済み残差	2.7	-2.8	-1.1	
	3	度数	3490	473	1592	5555
		%	62.8%	8.5%	28.7%	100.0%
		調整済み残差	9.2	-4.7	-6.7	
合計	度数	16645	2969	9428	29042	
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 5-2-5 ⑤第 12 回調査の「社会体験」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
第12回社会 体験該当個 数	0	度数	8321	1798	5342	15461
		%	53.8%	11.6%	34.6%	100.0%
		調整済み残差	-12.8	8.4	8.1	
	1	度数	5310	796	2805	8911
		%	59.6%	8.9%	31.5%	100.0%
		調整済み残差	5.2	-4.8	-2.4	
	2	度数	2207	282	969	3458
		%	63.8%	8.2%	28.0%	100.0%
		調整済み残差	8.2	-4.3	-5.9	
	3	度数	807	93	312	1212
		%	66.6%	7.7%	25.7%	100.0%
		調整済み残差	6.7	-3.0	-5.1	
合計	度数	16645	2969	9428	29042	
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 5-2-6 ⑥第 12 回調査の「文化的体験」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
第12回文化 的体験該当 個数	0	度数	1700	515	1283	3498
		%	48.6%	14.7%	36.7%	100.0%
		調整済み残差	-11.1	9.4	5.7	
	1	度数	4790	1046	3130	8966
		%	53.4%	11.7%	34.9%	100.0%
		調整済み残差	-9.0	5.4	6.0	
	2	度数	6257	974	3348	10579
		%	59.1%	9.2%	31.6%	100.0%
		調整済み残差	4.8	-4.3	-2.2	
	3	度数	3898	434	1667	5999
		%	65.0%	7.2%	27.8%	100.0%
		調整済み残差	13.5	-8.6	-8.7	
合計	度数	16645	2969	9428	29042	
	%	57.3%	10.2%	32.5%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 5-2-7 ⑦第 7 回調査の「遊び相手の多様性」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
第7回遊び相 手3項目該当 個数	0	度数	2053	441	1289	3783
		%	54.3%	11.7%	34.1%	100.0%
		調整済み残差	-4.1	3.0	2.4	
	1	度数	4023	813	2497	7333
		%	54.9%	11.1%	34.1%	100.0%
		調整済み残差	-4.9	2.6	3.5	
	2	度数	6248	1098	3519	10865
		%	57.5%	10.1%	32.4%	100.0%
		調整済み残差	.5	-.8	.0	
	3	度数	4304	635	2089	7028
		%	61.2%	9.0%	29.7%	100.0%
		調整済み残差	7.6	-4.0	-5.5	
合計	度数	16628	2987	9394	29009	
	%	57.3%	10.3%	32.4%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 5-2-8 ⑧第 7 回調査の「遊ぶ場所の多様性」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計	
		はい	いいえ	どちらとも いえない		
遊び場所3項 目該当個数	0	度数	791	153	521	1465
		%	54.0%	10.4%	35.6%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	.3	2.6	
	1	度数	5789	1076	3465	10330
		%	56.0%	10.4%	33.5%	100.0%
		調整済み残差	-3.3	.8	2.9	
	2	度数	6611	1167	3523	11301
		%	58.5%	10.3%	31.2%	100.0%
		調整済み残差	3.2	.4	-3.7	
	3	度数	3808	639	2114	6561
		%	58.0%	9.7%	32.2%	100.0%
		調整済み残差	1.3	-1.5	-.4	
合計	度数	16999	3035	9623	29657	
	%	57.3%	10.2%	32.4%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 5-2-9 ⑨第7回調査の「遊び相手の人数の多寡」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計		
		はい	いいえ	どちらとも いえない			
第7回遊び相手 手人数	0人	度数	1305	260	793	2358	
		%	55.3%	11.0%	33.6%		100.0%
		調整済み残差	-2.3	1.4	1.5		
	1人	度数	3198	652	1955	5805	
		%	55.1%	11.2%	33.7%	100.0%	
		調整済み残差	-4.3	2.9	2.6		
	2人	度数	3851	698	2264	6813	
		%	56.5%	10.2%	33.2%	100.0%	
		調整済み残差	-2.0	.2	2.0		
	3人以上	度数	8339	1346	4334	14019	
		%	59.5%	9.6%	30.9%	100.0%	
		調整済み残差	6.4	-3.2	-4.6		
合計	度数	16693	2956	9346	28995		
	%	57.6%	10.2%	32.2%	100.0%		

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 5-2-10 ⑩第7回調査の「読書」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計		
		はい	いいえ	どちらとも いえない			
第7回読書	読まない	度数	1002	279	717	1998	
		%	50.2%	14.0%	35.9%		100.0%
		調整済み残差	-6.7	5.7	3.4		
	1冊	度数	2041	408	1232	3681	
		%	55.4%	11.1%	33.5%	100.0%	
		調整済み残差	-2.5	1.8	1.4		
	2、3冊	度数	5019	966	3015	9000	
		%	55.8%	10.7%	33.5%	100.0%	
		調整済み残差	-3.6	1.9	2.6		
	4冊～7冊	度数	4698	844	2613	8155	
		%	57.6%	10.3%	32.0%	100.0%	
		調整済み残差	.6	.4	-.9		
	8冊～11冊	度数	1700	249	879	2828	
		%	60.1%	8.8%	31.1%	100.0%	
		調整済み残差	3.1	-2.6	-1.6		
	12冊以上	度数	3098	384	1475	4957	
		%	62.5%	7.7%	29.8%	100.0%	
		調整済み残差	8.0	-6.3	-4.4		
合計	度数	17558	3130	9931	30619		
	%	57.3%	10.2%	32.4%	100.0%		

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 5-2-11 ⑪第9回調査の「お手伝い」と「向学校的な意識」(小学生)

		第12回勉強が楽しい			合計		
		はい	いいえ	どちらとも いえない			
第9回お手伝い 回数	0	度数	923	225	615	1763	
		%	52.4%	12.8%	34.9%		100.0%
		調整済み残差	-4.3	3.6	2.2		
	1	度数	3033	660	2000	5693	
		%	53.3%	11.6%	35.1%	100.0%	
		調整済み残差	-6.7	3.7	4.7		
	2	度数	4212	812	2539	7563	
		%	55.7%	10.7%	33.6%	100.0%	
		調整済み残差	-3.2	1.6	2.3		
	3	度数	3854	655	2120	6629	
		%	58.1%	9.9%	32.0%	100.0%	
		調整済み残差	1.6	-1.1	-1.0		
	4	度数	2697	427	1360	4484	
		%	60.1%	9.5%	30.3%	100.0%	
		調整済み残差	4.2	-1.7	-3.3		
	5	度数	1638	242	814	2694	
		%	60.8%	9.0%	30.2%	100.0%	
		調整済み残差	3.9	-2.3	-2.6		
	6	度数	971	113	441	1525	
		%	63.7%	7.4%	28.9%	100.0%	
		調整済み残差	5.2	-3.8	-3.0		
7	度数	461	52	201	714		
	%	64.6%	7.3%	28.2%	100.0%		
	調整済み残差	4.0	-2.6	-2.5			
合計	度数	17789	3186	10090	31065		
	第9回お手伝い	57.3%	10.3%	32.5%	100.0%		

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

(3) 「向学校的な意識」(小学生)に関する回帰分析

図表 5-3-1 「向学校的な意識」(小学生)に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号					
		1-1	1-2-4	1-3-4	1-4-4	1-5	1-6
世帯類型	ひとり親世帯		*	*	*		
父母の収入	収入の水準	***	***	***	***	***	***
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	***	***	***	***	***
	いずれかが大卒等	***	***	***	***	***	***
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***	***	***	***	***	***
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	***	*	**	***	***	***
	幼少期に大都市に居住						
	幼少期に都市部に居住						
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に海外に居住						
性別	男子	***	***	***	***	***	***
自然体験・社会体験・ 文化的体験①	小学2年生自然体験の多寡	/	*	/	/	/	/
	小学2年生社会体験の多寡	/	***	/	/	/	/
	小学2年生文化的体験の多寡	/	***	/	/	/	/
自然体験・社会体験・ 文化的体験②	小学6年生自然体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生社会体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生文化的体験の多寡	/	/	***	/	/	/
遊び	小学1年生遊び相手の多様性	/	/	/	***	/	/
	小学1年生遊び場所の多様性	/	/	/		/	/
	小学1年生遊び相手人数の多寡	/	/	/	**	/	/
読書	小学1年生読書冊数	/	/	/		***	/
お手伝い	小学3年生手伝い経験の多寡	/	/	/	/	/	***

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 5-3-2 ①家庭による背景・要因・属性等のみのモデル【向学校的な意識(小学生)】

		分析モデル整理番号1-1		
		B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.101	1.106	0.059
父母の収入	収入の水準	0.028	1.028	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.255	1.290	0.000
	いずれかが大卒等	0.143	1.154	0.000
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.060	1.062	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.143	1.154	0.000
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.031	0.969	0.296
	幼少期に都市部に居住	-0.006	0.994	0.852
	幼少期に海外に居住	0.295	1.344	0.222
性別	男子	-0.112	0.894	0.000
	(定数)	-0.588	0.555	0.000
	n			29285
	Cox-Snell R2 乗			0.008
	Nagelkerke R2 乗			0.011

図表 5-3-3 ②第8回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【向学校的な意識(小学生)】

		分析モデル整理番号1-2-1			分析モデル整理番号1-2-2			分析モデル整理番号1-2-3			分析モデル整理番号1-2-4		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.146	1.158	0.012	0.148	1.160	0.011	0.141	1.152	0.016	0.146	1.158	0.013
父母の収入	収入の水準	0.025	1.026	0.000	0.027	1.028	0.000	0.023	1.023	0.000	0.022	1.023	0.001
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.249	1.283	0.000	0.248	1.281	0.000	0.225	1.252	0.000	0.217	1.242	0.000
	いずれかが大卒等	0.147	1.158	0.000	0.144	1.155	0.000	0.131	1.140	0.000	0.127	1.136	0.000
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.061	1.063	0.000	0.059	1.061	0.000	0.058	1.060	0.000	0.055	1.056	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.127	1.135	0.002	0.097	1.102	0.017	0.133	1.142	0.001	0.104	1.110	0.010
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.033	0.967	0.297	-0.024	0.977	0.461	-0.046	0.955	0.155	-0.035	0.965	0.271
	幼少期に都市部に居住	-0.010	0.991	0.793	-0.019	0.981	0.603	-0.004	0.996	0.906	-0.012	0.988	0.734
	幼少期に海外に居住	0.242	1.274	0.343	0.241	1.272	0.346	0.214	1.238	0.403	0.232	1.261	0.364
性別	男子	-0.132	0.877	0.000	-0.123	0.885	0.000	-0.120	0.887	0.000	-0.125	0.883	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.075	1.078	0.000							0.036	1.037	0.010
	第8回社会体験該当個数				0.133	1.143	0.000				0.099	1.104	0.000
	第8回文化的体験該当個数							0.135	1.144	0.000	0.106	1.112	0.000
	(定数)	-0.707	0.493	0.000	-0.658	0.518	0.000	-0.750	0.473	0.000	-0.786	0.456	0.000
	n			25787			25787			25787			25787
	Cox-Snell R2 乗			0.010			0.012			0.012			0.014
	Nagelkerke R2 乗			0.014			0.015			0.016			0.018

図表 5-3-4 ③第 12 回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル

【向学校的な意識（小学生）】

		分析モデル整理番号1-3-1			分析モデル整理番号1-3-2			分析モデル整理番号1-3-3			分析モデル整理番号1-3-4		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.099	1.104	0.080	0.099	1.104	0.081	0.101	1.106	0.076	0.112	1.118	0.049
父母の収入	収入の水準	0.028	1.029	0.000	0.031	1.032	0.000	0.026	1.026	0.000	0.027	1.028	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.247	1.281	0.000	0.242	1.274	0.000	0.207	1.230	0.000	0.207	1.230	0.000
	いずれかが大卒等	0.138	1.148	0.000	0.133	1.142	0.000	0.113	1.119	0.000	0.113	1.120	0.000
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.058	1.060	0.000	0.055	1.057	0.000	0.053	1.054	0.000	0.049	1.051	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.140	1.150	0.000	0.098	1.103	0.013	0.147	1.158	0.000	0.113	1.120	0.004
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.023	0.977	0.459	-0.005	0.995	0.862	-0.037	0.963	0.236	-0.020	0.980	0.530
	幼少期に郡部に居住	-0.011	0.989	0.759	-0.031	0.970	0.386	0.002	1.002	0.956	-0.017	0.983	0.627
	幼少期に海外に居住	0.282	1.326	0.266	0.303	1.354	0.232	0.253	1.287	0.319	0.283	1.327	0.264
性別	男子	-0.141	0.868	0.000	-0.112	0.894	0.000	-0.122	0.885	0.000	-0.126	0.881	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第12回自然体験該当個数	0.128	1.137	0.000							0.061	1.063	0.000
	第12回社会体験該当個数				0.194	1.214	0.000				0.126	1.134	0.000
	第12回文化的体験該当個数							0.204	1.227	0.000	0.154	1.167	0.000
	(定数)	-0.749	0.473	0.000	-0.676	0.509	0.000	-0.807	0.446	0.000	-0.869	0.419	0.000
n			26960			26960			26960			26960	
Cox-Snell R2 乗			0.013			0.015			0.017			0.021	
Nagelkerke R2 乗			0.017			0.020			0.023			0.028	

図表 5-3-5 ④第 7 回調査の「遊び」投入モデル【向学校的な意識（小学生）】

		分析モデル整理番号1-4-1			分析モデル整理番号1-4-2			分析モデル整理番号1-4-3			分析モデル整理番号1-4-4		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.097	1.102	0.086	0.091	1.095	0.103	0.099	1.104	0.079	0.121	1.128	0.043
父母の収入	収入の水準	0.030	1.031	0.000	0.027	1.027	0.000	0.028	1.029	0.000	0.032	1.032	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.269	1.309	0.000	0.260	1.296	0.000	0.269	1.309	0.000	0.279	1.322	0.000
	いずれかが大卒等	0.146	1.157	0.000	0.149	1.161	0.000	0.144	1.155	0.000	0.150	1.162	0.000
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.057	1.059	0.000	0.061	1.063	0.000	0.060	1.062	0.000	0.057	1.059	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.130	1.139	0.001	0.135	1.144	0.001	0.142	1.152	0.000	0.145	1.156	0.000
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.029	0.972	0.358	-0.032	0.969	0.303	-0.039	0.962	0.214	-0.036	0.964	0.267
	幼少期に郡部に居住	-0.001	0.999	0.972	-0.012	0.989	0.742	-0.006	0.994	0.855	-0.011	0.989	0.762
	幼少期に海外に居住	0.184	1.202	0.456	0.255	1.290	0.306	0.272	1.312	0.274	0.196	1.216	0.445
性別	男子	-0.103	0.902	0.000	-0.118	0.889	0.000	-0.129	0.879	0.000	-0.112	0.894	0.000
遊び	第7回遊び相手3項目該当個数	0.099	1.104	0.000							0.083	1.087	0.000
	第7回遊び場所3項目該当個数				0.055	1.057	0.000				0.016	1.016	0.324
	第7回遊び相手人数							0.069	1.071	0.000	0.039	1.039	0.004
	(定数)	-0.750	0.473	0.000	-0.693	0.500	0.000	-0.789	0.454	0.000	-0.872	0.418	0.000
n			26982			27582			26944			25092	
Cox-Snell R2 乗			0.011			0.009			0.010			0.012	
Nagelkerke R2 乗			0.014			0.012			0.014			0.016	

図表 5-3-6 ⑤第 7 回調査の「読書」投入モデル

【向学校的な意識（小学生）】

		分析モデル整理番号1-5		
		B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.095	1.100	0.082
父母の収入	収入の水準	0.026	1.026	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.220	1.247	0.000
	いずれかが大卒等	0.127	1.136	0.000
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.057	1.059	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.129	1.138	0.001
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.020	0.980	0.509
	幼少期に郡部に居住	-0.009	0.992	0.805
	幼少期に海外に居住	0.249	1.283	0.306
性別	男子	-0.087	0.917	0.000
読書	第7回読書冊数	0.067	1.069	0.000
(定数)		-0.792	0.453	0.000
n			28430	
Cox-Snell R2 乗			0.010	
Nagelkerke R2 乗			0.014	

図表 5-3-7 ⑥第 9 回調査の「お手伝い」投入モデル

【向学校的な意識（小学生）】

		分析モデル整理番号1-6		
		B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.095	1.099	0.082
父母の収入	収入の水準	0.026	1.027	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.253	1.288	0.000
	いずれかが大卒等	0.141	1.151	0.000
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.050	1.052	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.157	1.169	0.000
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.038	0.962	0.205
	幼少期に郡部に居住	0.005	1.005	0.893
	幼少期に海外に居住	0.324	1.383	0.188
性別	男子	-0.089	0.915	0.000
お手伝い	第9回お手伝い個数	0.069	1.072	0.000
(定数)		-0.683	0.505	0.000
n			28800	
Cox-Snell R2 乗			0.011	
Nagelkerke R2 乗			0.015	

(4) 「向学校的な意識」(小学生)に関する父母の収入の水準別の分析

図表 5-4-1 「向学校的な意識」(小学生)に関する父母の収入の水準別の分析(回帰分析)

		分析モデル整理番号1-7-1			分析モデル整理番号1-7-2			分析モデル整理番号1-7-3		
		収入:中央値の2分の1未満			収入:中央値未満、中央値の2分の1以上			収入:中央値以上		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.149	1.161	0.211	0.241	1.272	0.005	0.109	1.115	0.355
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.013	1.013	0.950	0.273	1.313	0.000	0.198	1.219	0.000
	いずれかが大卒等	0.101	1.106	0.436	0.121	1.128	0.008	0.115	1.122	0.012
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	-0.008	0.992	0.755	0.069	1.072	0.000	0.052	1.054	0.000
住環境 居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.036	0.964	0.778	0.137	1.147	0.017	0.121	1.129	0.066
	幼少期に大都市に居住	-0.100	0.905	0.538	-0.052	0.949	0.343	-0.023	0.977	0.580
	幼少期に郡部に居住	0.074	1.077	0.548	0.026	1.026	0.623	-0.055	0.947	0.330
	幼少期に海外に居住	-	-	-	1.518	4.562	0.161	0.073	1.076	0.786
性別	男子	0.066	1.068	0.529	-0.081	0.922	0.041	-0.181	0.834	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.038	1.038	0.535	0.053	1.055	0.017	0.030	1.030	0.128
	第8回社会体験該当個数	0.174	1.189	0.013	0.093	1.098	0.001	0.085	1.088	0.000
	第8回文化的体験該当個数	0.132	1.141	0.037	0.061	1.063	0.014	0.145	1.156	0.000
	(定数)	-0.344	0.709	0.261	-0.829	0.437	0.000	-0.583	0.558	0.000
	n	1502			10404			13510		
	Cox-Snell R2 乗	0.013			0.014			0.014		
	Nagelkerke R2 乗	0.018			0.018			0.018		

※「収入:中央値の2分の1未満」では、「幼少期に海外に居住」の該当ケースなし

図表 5-4-2 「向学校的な意識」(小学生)に関する父母の収入の水準別の分析(「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」のクロス集計)

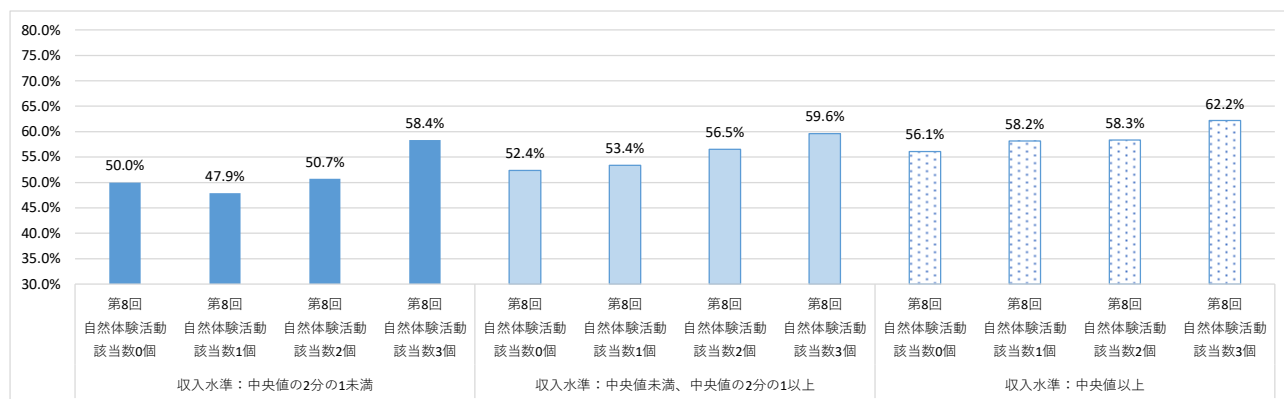
収入:中央値 未満、中央値 の2分の1未 満	第8回自然体 験該当個数	0	第12回勉強が楽しい		合計	収入:中央 値未満、中 央値の2分 の1以上	第8回社会 体験該当個 数	0	第12回勉強が楽しい		合計	収入:中央 値以上	第8回文化 的体験該当 個数	0	第12回勉強が楽しい		合計			
			いいえ、 どちらとも いえない	はい					いいえ、 どちらとも いえない	はい					いいえ、 どちらとも いえない	はい		いいえ、 どちらとも いえない	はい	
0	129	129	度数	129	258	433	381	814	度数	381	814	479	540	1019	度数	99	237			
			%	50.0%	50.0%				100.0%	%	53.2%				46.8%	100.0%	%	58.2%	41.8%	100.0%
			調整済み残差	.3	-.3					調整済み残差	3.3				-.3		調整済み残差	3.1	-.1	
			1	249	229				478	1	271				316	587	1	334	348	682
			%	52.1%	47.9%				100.0%	%	46.2%				53.8%	100.0%	%	49.0%	51.0%	100.0%
1	249	229	調整済み残差	1.6	-1.6		調整済み残差	-1.7	1.7		調整済み残差	.0	.0		調整済み残差	.0	.0			
			2	339	349	688	2	95	135	230	2	269	294	563						
			%	49.3%	50.7%	100.0%	%	41.3%	58.7%	100.0%	%	47.8%	52.2%	100.0%	%	47.8%	52.2%	100.0%		
			調整済み残差	.2	-.2		調整済み残差	-2.5	2.5		調整済み残差	-7	.7		調整済み残差	-7	.7			
			3	107	150	257	3	25	25	50	3	83	116	199						
合計	824	857	度数	824	857	1681	合計	824	857	1681	合計	824	857	1681	合計	824	857	1681		
			%	49.0%	51.0%	100.0%	%	49.0%	51.0%	100.0%	%	49.0%	51.0%	100.0%	%	49.0%	51.0%	100.0%		
			調整済み残差	-2.6	2.6		調整済み残差	.1	-.1		調整済み残差	-2.2	2.2		調整済み残差	-4.6	4.6			
			2	1919	2495	4414	2	532	767	1299	2	1824	2388	4212						
			%	43.5%	56.5%	100.0%	%	41.0%	59.0%	100.0%	%	43.3%	56.7%	100.0%	%	43.3%	56.7%	100.0%		
合計	4934	6233	調整済み残差	-1.2	1.2		調整済み残差	-2.5	2.5		調整済み残差	-1.5	1.5		調整済み残差	-1.5	1.5			
			3	949	1401	2350	3	90	176	266	3	649	1014	1663						
			%	40.4%	59.6%	100.0%	%	33.8%	66.2%	100.0%	%	39.0%	61.0%	100.0%	%	39.0%	61.0%	100.0%		
			調整済み残差	-4.2	4.2		調整済み残差	-3.4	3.4		調整済み残差	-4.6	4.6		調整済み残差	-4.6	4.6			
			合計	4934	6233	11167	合計	4934	6233	11167	合計	4934	6233	11167	合計	4934	6233	11167		
%	44.2%	55.8%	100.0%	%	44.2%	55.8%	100.0%	%	44.2%	55.8%	100.0%	%	44.2%	55.8%	100.0%					

図表 5-4-3 Pearson のカイ 2 乗検定の結果

	第 8 回自然体験	第 8 回社会体験	第 8 回文化的体験
収入:中央値の2分の1未満	p=0.057	p=0.004	p=0.005
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	p<0.001	p<0.001	p<0.001
収入:中央値以上	p<0.001	p<0.001	p<0.001

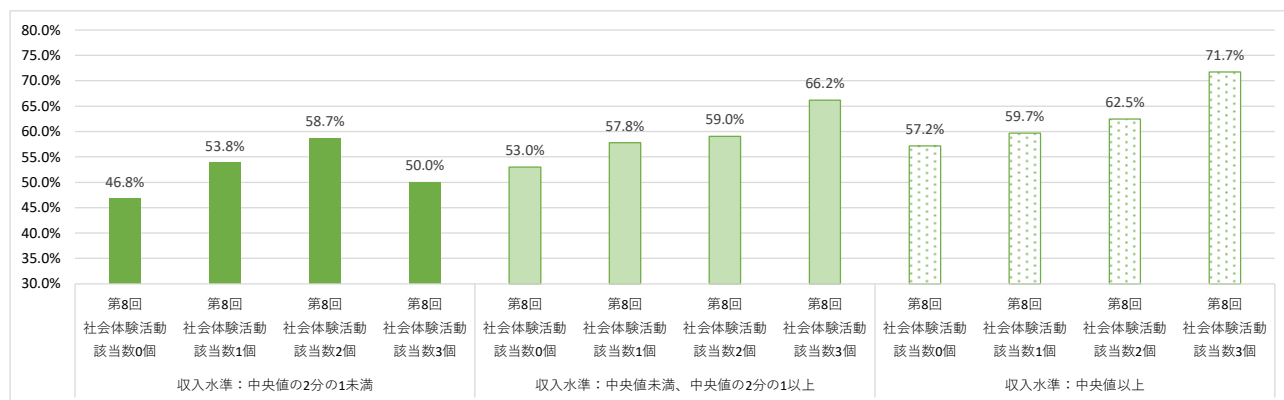
図表 5-4-4 「向学校的な意識」(小学生) に関する父母の収入の水準別の分析

(「自然体験」のクロス集計、「勉強が楽しい」について「はい」の回答割合)



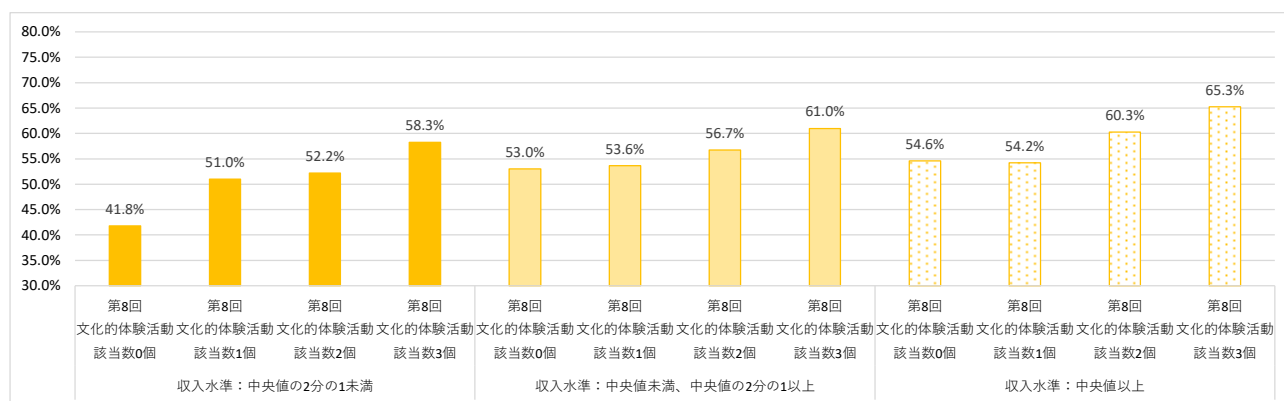
図表 5-4-5 「向学校的な意識」(小学生) に関する父母の収入の水準別の分析

(「社会体験」のクロス集計、「勉強が楽しい」について「はい」の回答割合)



図表 5-4-6 「向学校的な意識」(小学生) に関する父母の収入の水準別の分析

(「文化的体験」のクロス集計、「勉強が楽しい」について「はい」の回答割合)



6. 「向学校的な意識」(中学生) についての分析

(1) 「向学校的な意識」(中学生) と「家庭による背景・要因・属性等」との関係

図表 6-1-1 ①世帯類型 (ひとり親世帯であるか否かについて) と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	まあまあつまらない	まったくつまらない		
世帯類型	父母同居	度数	7508	12194	6850	1100	27652
		%	27.2%	44.1%	24.8%	4.0%	100.0%
	調整済み残差	-.9	3.0	-3.0	-2.9		
	ひとり親世帯	度数	430	664	462	89	1645
%		26.1%	40.4%	28.1%	5.4%	100.0%	
調整済み残差		-.9	-3.0	3.0	2.9		
合計	度数	7938	12858	7312	1189	29297	
	%	27.1%	43.9%	25.0%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 6-1-2 ②父母の収入と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	まあまあつまらない	まったくつまらない		
収入11分類	100万円未満	度数	37	57	39	10	143
	%	25.9%	39.9%	27.3%	7.0%	100.0%	
	調整済み残差	-.3	-1.0	.6	1.8		
	100万円以上 200万円未満	度数	138	238	163	22	561
	%	24.6%	42.4%	29.1%	3.9%	100.0%	
	調整済み残差	-1.3	-.7	2.3	-.2		
	200万円以上 300万円未満	度数	463	904	556	112	2035
	%	22.8%	44.4%	27.3%	5.5%	100.0%	
	調整済み残差	-4.6	.5	2.5	3.4		
	300万円以上 400万円未満	度数	1165	1968	1217	214	4564
	%	25.5%	43.1%	26.7%	4.7%	100.0%	
	調整済み残差	-2.6	-1.1	2.9	2.4		
	400万円以上 500万円未満	度数	1529	2492	1579	259	5859
	%	26.1%	42.5%	26.9%	4.4%	100.0%	
	調整済み残差	-1.9	-2.3	3.9	1.6		
	500万円以上 600万円未満	度数	1436	2344	1303	215	5298
	%	27.1%	44.2%	24.6%	4.1%	100.0%	
	調整済み残差	.0	-.6	-.7	.0		
	600万円以上 700万円未満	度数	1108	1641	884	139	3772
	%	29.4%	43.5%	23.4%	3.7%	100.0%	
	調整済み残差	3.4	-.5	-2.3	-1.2		
	700万円以上 800万円未満	度数	736	1146	582	88	2552
	%	28.8%	44.9%	22.8%	3.4%	100.0%	
	調整済み残差	2.1	1.1	-2.6	-1.6		
	800万円以上 900万円未満	度数	475	715	382	43	1615
	%	29.4%	44.3%	23.7%	2.7%	100.0%	
	調整済み残差	2.1	.3	-1.3	-2.9		
	900万円以上 1,000万円未満	度数	282	444	203	25	954
	%	29.6%	46.5%	21.3%	2.6%	100.0%	
	調整済み残差	1.7	1.7	-2.7	-2.3		
	1,000万円以上	度数	538	852	377	56	1823
	%	29.5%	46.7%	20.7%	3.1%	100.0%	
	調整済み残差	2.4	2.5	-4.4	-2.2		
合計	度数	7907	12801	7285	1183	29176	
	%	27.1%	43.9%	25.0%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	まあまあつまらない	まったくつまらない		
等価世帯所得の水率	中央値の2分の1未満	度数	417	775	522	96	1810
		%	23.0%	42.8%	28.8%	5.3%	100.0%
	調整済み残差	-4.0	-.9	3.9	2.7		
	中央値未満、中央値の2分の1以上	度数	2995	5083	3103	535	11716
%		25.6%	43.4%	26.5%	4.6%	100.0%	
	調整済み残差	-4.9	-1.2	5.0	3.4		
中央値以上	度数	4395	6755	3558	546	15254	
	%	28.8%	44.3%	23.3%	3.6%	100.0%	
	調整済み残差	6.8	1.7	-6.8	-4.6		
合計	度数	7807	12613	7183	1177	28780	
	%	27.1%	43.8%	25.0%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 6-1-3 ③父母の学歴と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	まあまあつまらない	まったくつまらない		
父母の学歴	ともに短大・高校・大学・大学院以外を卒業	度数	3120	5409	3363	584	12476
		%	25.0%	43.4%	27.0%	4.7%	100.0%
	調整済み残差	-7.0	-1.7	7.0	4.7		
	いずれかが短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	2341	3736	2134	343	8554
%		27.4%	43.7%	24.9%	4.0%	100.0%	
	調整済み残差	.6	-.5	.1	-.2		
ともに短大・高専・大学・大学院を卒業	度数	2407	3595	1729	249	7980	
	%	30.2%	45.1%	21.7%	3.1%	100.0%	
	調整済み残差	7.2	2.4	-7.9	-5.0		
合計	度数	7868	12740	7226	1176	29010	
	%	27.1%	43.9%	24.9%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 6-1-4 ④親子のかかわり・しつけと「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても多いと思う	まあまあ思う	あまり思う程ない	まったく思う程ない		
しつけの実施 該当回数	6以下	度数	260	399	235	35	929
		%	28.0%	42.9%	25.3%	3.8%	100.0%
		調整済み残差	.6	-.6	.3	-.5	
7	度数	291	391	231	31	944	
	%	30.8%	41.4%	24.5%	3.3%	100.0%	
	調整済み残差	2.6	-1.6	-.3	-1.3		
8	度数	457	723	444	78	1702	
	%	26.9%	42.5%	26.1%	4.6%	100.0%	
	調整済み残差	-.2	-1.3	1.2	1.0		
9	度数	750	1273	703	121	2847	
	%	26.3%	44.7%	24.7%	4.3%	100.0%	
	調整済み残差	-.9	.9	-.2	.4		
10	度数	1147	1794	1026	168	4135	
	%	27.7%	43.4%	24.8%	4.1%	100.0%	
	調整済み残差	1.1	-.8	-.1	-.2		
11	度数	1516	2445	1420	246	5627	
	%	26.9%	43.5%	25.2%	4.4%	100.0%	
	調整済み残差	-.2	-.9	-.7	1.1		
12	度数	1681	2844	1599	269	6393	
	%	26.3%	44.5%	25.0%	4.2%	100.0%	
	調整済み残差	-1.6	1.0	-.3	-.4		
13	度数	1384	2291	1218	189	5082	
	%	27.2%	45.1%	24.0%	3.7%	100.0%	
	調整済み残差	-.3	1.8	-1.6	-1.6		
合計	度数	7486	12160	6876	1137	27659	
	%	27.1%	44.0%	24.9%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.377

⑤住環境等と「向学校的な意識」(中学生)

図表 6-1-5 居住環境の分類と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても多いと思う	まあまあ思う	あまり思う程ない	まったく思う程ない		
居住環境	住宅の多い地域	度数	6234	10083	5752	937	23006
		%	27.1%	43.8%	25.0%	4.1%	100.0%
		調整済み残差	.0	-.5	.5	-.1	
商店の多い地域	度数	235	444	270	34	983	
	%	23.9%	45.2%	27.5%	3.5%	100.0%	
	調整済み残差	-2.3	.8	1.9	-1.0		
工場の多い地域	度数	96	147	98	16	357	
	%	26.9%	41.2%	27.5%	4.5%	100.0%	
	調整済み残差	-.1	-1.0	1.1	.4		
田園・山間地域	度数	1106	1733	929	161	3929	
	%	28.1%	44.1%	23.6%	4.1%	100.0%	
	調整済み残差	1.6	.3	-2.0	.1		
その他	度数	166	291	164	32	653	
	%	25.4%	44.6%	25.1%	4.9%	100.0%	
	調整済み残差	-1.0	.3	.1	1.1		
合計	度数	7837	12698	7213	1180	28928	
	%	27.1%	43.9%	24.9%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.223

図表 6-1-6 居住の自治体の分類と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても多いと思う	まあまあ思う	あまり思う程ない	まったく思う程ない		
居住の自治体の分類	14大都市	度数	1705	2849	1518	267	6339
		%	26.9%	44.9%	23.9%	4.2%	100.0%
		調整済み残差	-.4	1.9	-2.1	.6	
その他の市	度数	4727	7597	4428	717	17469	
	%	27.1%	43.5%	25.3%	4.1%	100.0%	
	調整済み残差	-.2	-1.7	2.0	.3		
郡部	度数	1412	2260	1280	198	5150	
	%	27.4%	43.9%	24.9%	3.8%	100.0%	
	調整済み残差	.6	.0	-.2	-.9		
外国	度数	26	46	18	1	91	
	%	28.6%	50.5%	19.8%	1.1%	100.0%	
	調整済み残差	.3	1.3	-1.1	-1.4		
合計	度数	7870	12752	7244	1183	29049	
	%	27.1%	43.9%	24.9%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.264

図表 6-1-7 ⑥子供の性別と「向学校的な意識」(中学生)

			第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計
			とても多いと思う	まあまあ思う	あまり思う程ない	まったく思う程ない	
性別	男	度数	4297	6599	3597	574	15067
		%	28.5%	43.8%	23.9%	3.8%	100.0%
		調整済み残差	5.6	-.3	-4.4	-2.2	
女	度数	3641	6259	3715	615	14230	
	%	25.6%	44.0%	26.1%	4.3%	100.0%	
	調整済み残差	-5.6	.3	4.4	2.2		
合計	度数	7938	12858	7312	1189	29297	
	%	27.1%	43.9%	25.0%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

(2) 「向学校的な意識」(中学生) と「体験」 との関係

図表 6-2-1 ①第 8 回調査の「自然体験」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しめない	まったく楽しめない		
第8回自然体験談当個数	0	度数	755	1324	751	130	2960
		%	25.5%	44.7%	25.4%	4.4%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	1.0	.7	1.0	
	1	度数	1686	2910	1645	309	6550
		%	25.7%	44.4%	25.1%	4.7%	100.0%
		調整済み残差	-3.0	1.0	.5	3.2	
	2	度数	2728	4367	2557	404	10056
		%	27.1%	43.4%	25.4%	4.0%	100.0%
		調整済み残差	-2	-1.2	1.6	-2	
	3	度数	1828	2700	1450	199	6177
		%	29.6%	43.7%	23.5%	3.2%	100.0%
		調整済み残差	4.9	-3	-2.9	-3.8	
合計	度数	6997	11301	6403	1042	25743	
	%	27.2%	43.9%	24.9%	4.0%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 6-2-2 ②第 8 回調査の「社会体験」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しめない	まったく楽しめない		
第8回社会体験談当個数	0	度数	3183	5396	3237	554	12370
		%	25.7%	43.6%	26.2%	4.5%	100.0%
		調整済み残差	-5.0	-9	4.6	-3.4	
	1	度数	2715	4277	2326	362	9680
		%	28.0%	44.2%	24.0%	3.7%	100.0%
		調整済み残差	2.4	.7	-2.4	-1.9	
	2	度数	913	1361	686	104	3064
		%	29.8%	44.4%	22.4%	3.4%	100.0%
		調整済み残差	3.5	.6	-3.4	-2.0	
	3	度数	186	267	154	22	629
		%	29.6%	42.4%	24.5%	3.5%	100.0%
		調整済み残差	1.4	-7	-2	-7	
合計	度数	6997	11301	6403	1042	25743	
	%	27.2%	43.9%	24.9%	4.0%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 6-2-3 ③第 8 回調査の「文化的体験」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しめない	まったく楽しめない		
第8回文化的体験談当個数	0	度数	453	810	504	125	1892
		%	23.9%	42.8%	26.6%	6.6%	100.0%
		調整済み残差	-3.3	-1.0	1.8	5.9	
	1	度数	2240	3908	2334	394	8876
		%	25.2%	44.0%	26.3%	4.4%	100.0%
		調整済み残差	-5.1	.3	3.8	2.3	
	2	度数	2928	4560	2529	386	10403
		%	28.1%	43.8%	24.3%	3.7%	100.0%
		調整済み残差	2.9	-2	-1.7	-2.3	
	3	度数	1376	2023	1036	137	4572
		%	30.1%	44.2%	22.7%	3.0%	100.0%
		調整済み残差	4.9	.5	-3.8	-4.0	
合計	度数	6997	11301	6403	1042	25743	
	%	27.2%	43.9%	24.9%	4.0%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 6-2-4 ④第 12 回調査の「自然体験」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しめない	まったく楽しめない		
第12回自然体験談当個数	0	度数	1386	2371	1378	291	5426
		%	25.5%	43.7%	25.4%	5.4%	100.0%
		調整済み残差	-3.2	-.4	1.3	5.4	
	1	度数	1916	3312	1829	313	7370
		%	26.0%	44.9%	24.8%	4.2%	100.0%
		調整済み残差	-2.9	2.1	.2	.8	
	2	度数	2411	3679	2172	311	8573
		%	28.1%	42.9%	25.3%	3.6%	100.0%
		調整済み残差	2.1	-2.3	1.6	-2.6	
	3	度数	1496	2238	1150	163	5047
		%	29.6%	44.3%	22.8%	3.2%	100.0%
		調整済み残差	4.2	.7	-3.5	-3.4	
合計	度数	7209	11600	6529	1078	26416	
	%	27.3%	43.9%	24.7%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p < 0.001$

図表 6-2-5 ⑤第 12 回調査の「社会体験」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったくと そうでもない		
第12回社会 体験該当個 数	0	度数	3634	6139	3598	660	14031
		%	25.9%	43.8%	25.6%	4.7%	100.0%
		調整済み残差	-5.4	-.6	3.7	5.4	
	1	度数	2272	3609	1966	282	8129
		%	27.9%	44.4%	24.2%	3.5%	100.0%
		調整済み残差	1.6	1.1	-1.3	-3.4	
	2	度数	955	1366	713	112	3146
		%	30.4%	43.4%	22.7%	3.6%	100.0%
		調整済み残差	4.1	-.6	-2.8	-1.6	
	3	度数	348	486	252	24	1110
		%	31.4%	43.8%	22.7%	2.2%	100.0%
		調整済み残差	3.1	-.1	-1.6	-3.3	
合計	度数	7209	11600	6529	1078	26416	
	%	27.3%	43.9%	24.7%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 6-2-6 ⑥第 12 回調査の「文化的体験」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったくと そうでもない		
第12回文化 的体験該当 個数	0	度数	707	1374	858	191	3130
		%	22.6%	43.9%	27.4%	6.1%	100.0%
		調整済み残差	-6.3	.0	3.7	6.1	
	1	度数	2140	3527	2113	379	8159
		%	26.2%	43.2%	25.9%	4.6%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	1.5	3.0	3.1	
	2	度数	2721	4303	2313	352	9689
		%	28.1%	44.4%	23.9%	3.6%	100.0%
		調整済み残差	2.2	1.2	-2.4	-2.8	
	3	度数	1641	2396	1245	156	5438
		%	30.2%	44.1%	22.9%	2.9%	100.0%
		調整済み残差	5.4	.2	-3.5	-5.1	
合計	度数	7209	11600	6529	1078	26416	
	%	27.3%	43.9%	24.7%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 6-2-7 ⑦第 7 回調査の「遊び相手の多様性」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったくと そうでもない		
第7回遊び相 手3項目該当 個数	0	度数	956	1540	897	170	3563
		%	26.8%	43.2%	25.2%	4.8%	100.0%
		調整済み残差	-6	-6	.3	2.4	
	1	度数	1808	3026	1724	293	6851
		%	26.4%	44.2%	25.2%	4.3%	100.0%
		調整済み残差	-1.9	.9	.4	1.2	
	2	度数	2721	4397	2569	393	10080
		%	27.0%	43.6%	25.5%	3.9%	100.0%
		調整済み残差	-.8	-.2	1.5	-.9	
	3	度数	1877	2832	1553	234	6496
		%	28.9%	43.6%	23.9%	3.6%	100.0%
		調整済み残差	3.4	-.2	-2.3	-2.0	
合計	度数	7362	11795	6743	1090	26990	
	%	27.3%	43.7%	25.0%	4.0%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.007

図表 6-2-8 ⑧第 7 回調査の「遊ぶ場所の多様性」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったくと そうでもない		
遊び場所3項 目該当個数	0	度数	353	616	335	69	1373
		%	25.7%	44.9%	24.4%	5.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.2	.8	-.5	1.9	
	1	度数	2595	4249	2391	400	9635
		%	26.9%	44.1%	24.8%	4.2%	100.0%
		調整済み残差	-.7	.7	-.5	.8	
	2	度数	2880	4546	2630	422	10478
		%	27.5%	43.4%	25.1%	4.0%	100.0%
		調整済み残差	.9	-1.1	.4	.0	
	3	度数	1674	2687	1541	221	6123
		%	27.3%	43.9%	25.2%	3.6%	100.0%
		調整済み残差	.3	-.1	-.4	-1.9	
合計	度数	7502	12098	6897	1112	27609	
	%	27.2%	43.8%	25.0%	4.0%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.388

図表 6-2-9 ⑨第7回調査の「遊び相手の人数の多寡」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあ楽しい	まあ面白くない	まったく面白くない		
第7回遊び相手人数	0人	度数	625	952	541	92	2210
		%	28.3%	43.1%	24.5%	4.2%	100.0%
		調整済み残差	1.2	-.9	-.4	.3	
	1人	度数	1478	2341	1342	264	5425
		%	27.2%	43.2%	24.7%	4.9%	100.0%
		調整済み残差	.1	-1.3	-.2	3.5	
	2人	度数	1648	2830	1614	253	6345
		%	26.0%	44.6%	25.4%	4.0%	100.0%
		調整済み残差	-2.5	1.2	1.2	-.2	
	3人以上	度数	3583	5741	3210	477	13011
		%	27.5%	44.1%	24.7%	3.7%	100.0%
		調整済み残差	1.3	.5	-.7	-2.9	
合計	度数	7334	11864	6707	1086	26991	
	%	27.2%	44.0%	24.8%	4.0%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.009

図表 6-2-10 ⑩第7回調査の「読書」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあ楽しい	まあ面白くない	まったく面白くない		
第7回読書	読まない	度数	435	786	487	119	1827
		%	23.8%	43.0%	26.7%	6.5%	100.0%
		調整済み残差	-3.3	-.8	1.8	5.4	
	1冊	度数	828	1503	894	154	3379
		%	24.5%	44.5%	26.5%	4.6%	100.0%
		調整済み残差	-3.7	.7	2.2	1.5	
	2、3冊	度数	2188	3623	2156	350	8317
		%	26.3%	43.6%	25.9%	4.2%	100.0%
		調整済み残差	-2.0	-.8	2.6	.7	
	4冊~7冊	度数	2108	3371	1879	305	7663
		%	27.5%	44.0%	24.5%	4.0%	100.0%
		調整済み残差	.9	.2	-.9	-.5	
	8冊~11冊	度数	777	1164	616	88	2645
		%	29.4%	44.0%	23.3%	3.3%	100.0%
		調整済み残差	2.7	.1	-2.0	-2.0	
	12冊以上	度数	1393	2062	1060	145	4660
		%	29.9%	44.2%	22.7%	3.1%	100.0%
		調整済み残差	4.6	.5	-3.7	-3.6	
合計	度数	7729	12509	7092	1161	28491	
	%	27.1%	43.9%	24.9%	4.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 6-2-11 ⑪第9回調査の「お手伝い」と「向学校的な意識」(中学生)

		第14回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあ楽しい	まあ面白くない	まったく面白くない		
第9回お手伝い回数	0	度数	440	695	435	74	1644
		%	26.8%	42.3%	26.5%	4.5%	100.0%
		調整済み残差	-.3	-1.4	1.4	1.0	
	1	度数	1357	2321	1343	247	5268
		%	25.8%	44.1%	25.5%	4.7%	100.0%
		調整済み残差	-2.4	.2	1.0	2.8	
	2	度数	1839	3089	1779	303	7010
		%	26.2%	44.1%	25.4%	4.3%	100.0%
		調整済み残差	-1.9	.3	.9	1.5	
	3	度数	1731	2698	1525	236	6190
		%	28.0%	43.6%	24.6%	3.8%	100.0%
		調整済み残差	1.7	-.6	-.7	-.9	
	4	度数	1143	1850	1055	148	4196
		%	27.2%	44.1%	25.1%	3.5%	100.0%
		調整済み残差	.2	.3	.3	-1.7	
	5	度数	712	1106	603	94	2515
		%	28.3%	44.0%	24.0%	3.7%	100.0%
		調整済み残差	1.4	.1	-1.2	-.7	
	6	度数	415	645	323	44	1427
		%	29.1%	45.2%	22.6%	3.1%	100.0%
		調整済み残差	1.7	1.0	-2.1	-1.8	
7	度数	199	286	155	14	654	
	%	30.4%	43.7%	23.7%	2.1%	100.0%	
	調整済み残差	1.9	-.1	-.8	-2.5		
合計	度数	7836	12690	7218	1160	28904	
	第9回お手伝い	27.1%	43.9%	25.0%	4.0%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.003

(3) 「向学校的な意識」(中学生)に関する回帰分析

図表 6-3-1 「向学校的な意識」(中学生)に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号					
		2-1	2-2-4	2-3-4	2-4-4	2-5	2-6
世帯類型	ひとり親世帯						
父母の収入	収入の水準	***	***	***	***	***	***
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	***	***	***	***	***
	いずれかが大卒等	**	*	**	*	*	**
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	*					
住環境 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に田園・山間地域に居住	**	*	*	**	**	**
	幼少期に大都市に居住						
	幼少期に海外に居住						
性別	男子	***	***	***	***	***	***
自然体験・社会体験・ 文化的体験①	小学2年生自然体験の多寡						
	小学2年生社会体験の多寡		***				
	小学2年生文化的体験の多寡		***				
自然体験・社会体験・ 文化的体験②	小学6年生自然体験の多寡						
	小学6年生社会体験の多寡			***			
	小学6年生文化的体験の多寡			***			
遊び	小学1年生遊び相手の多様性				***		
	小学1年生遊び場所の多様性						
	小学1年生遊び相手人数の多寡						
読書	小学1年生読書冊数					***	
お手伝い	小学3年生手伝い経験の多寡						***

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 6-3-2 ①家庭による背景・要因・属性等のみのモデル【向学校的な意識(中学生)】

		分析モデル整理番号2-1		
		B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.068	0.934	0.252
父母の収入	収入の水準	0.041	1.042	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.281	1.325	0.000
	いずれかが大卒等	0.093	1.097	0.004
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.014	1.014	0.048
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.137	1.147	0.001
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.039	1.040	0.253
	幼少期に郡部に居住	0.039	1.039	0.314
	幼少期に海外に居住	0.288	1.333	0.308
性別	男子	0.130	1.138	0.000
	(定数)	0.307	1.359	0.000
	n			27209
	Cox-Snell R2 乗			0.007
	Nagelkerke R2 乗			0.010

図表 6-3-3 ②第8回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【向学校的な意識(中学生)】

		分析モデル整理番号2-2-1			分析モデル整理番号2-2-2			分析モデル整理番号2-2-3			分析モデル整理番号2-2-4		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.005	0.995	0.941	-0.003	0.997	0.966	-0.007	0.993	0.910	-0.005	0.995	0.938
父母の収入	収入の水準	0.040	1.041	0.000	0.041	1.042	0.000	0.037	1.038	0.000	0.038	1.039	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.289	1.334	0.000	0.283	1.327	0.000	0.267	1.307	0.000	0.264	1.302	0.000
	いずれかが大卒等	0.091	1.096	0.008	0.087	1.091	0.012	0.079	1.082	0.023	0.076	1.079	0.027
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.008	1.008	0.273	0.006	1.006	0.445	0.005	1.005	0.485	0.003	1.003	0.662
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.123	1.131	0.007	0.100	1.105	0.029	0.125	1.133	0.006	0.105	1.111	0.022
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.054	1.056	0.135	0.061	1.063	0.093	0.046	1.047	0.207	0.053	1.054	0.148
	幼少期に郡部に居住	0.068	1.070	0.097	0.062	1.064	0.131	0.072	1.074	0.080	0.066	1.069	0.106
	幼少期に海外に居住	0.303	1.354	0.314	0.308	1.361	0.307	0.288	1.334	0.339	0.296	1.344	0.327
性別	男子	0.115	1.122	0.000	0.118	1.125	0.000	0.120	1.127	0.000	0.120	1.128	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.024	1.024	0.120							-0.006	0.994	0.710
	第8回社会体験該当個数				0.091	1.096	0.000				0.074	1.077	0.000
	第8回文化的体験該当個数							0.093	1.098	0.000	0.080	1.084	0.000
	(定数)	0.328	1.388	0.001	0.334	1.396	0.000	0.270	1.310	0.004	0.272	1.313	0.005
	n			24048		24048		24048		24048		24048	
	Cox-Snell R2 乗			0.007		0.008		0.008		0.008		0.009	
	Nagelkerke R2 乗			0.010		0.012		0.012		0.012		0.013	

図表 6-3-4 ③第 12 回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル

【向学校的な意識（中学生）】

		分析モデル整理番号2-3-1			分析モデル整理番号2-3-2			分析モデル整理番号2-3-3			分析モデル整理番号2-3-4		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.063	0.939	0.322	-0.062	0.940	0.332	-0.061	0.941	0.335	-0.056	0.945	0.374
父母の収入	収入の水準	0.039	1.040	0.000	0.040	1.041	0.000	0.037	1.038	0.000	0.039	1.039	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等 いずれかが大卒等	0.292	1.339	0.000	0.288	1.334	0.000	0.272	1.312	0.000	0.272	1.312	0.000
親のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.102	1.107	0.003	0.099	1.104	0.004	0.089	1.094	0.009	0.090	1.094	0.009
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.010	1.010	0.186	0.007	1.007	0.313	0.006	1.007	0.373	0.005	1.005	0.528
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.133	1.142	0.003	0.110	1.116	0.015	0.135	1.144	0.003	0.116	1.123	0.010
	幼少期に郡部に居住	0.032	1.033	0.372	0.042	1.042	0.249	0.025	1.026	0.484	0.035	1.036	0.331
	幼少期に海外に居住	0.035	1.036	0.385	0.023	1.024	0.564	0.041	1.042	0.311	0.030	1.031	0.458
性別	男子	0.205	1.227	0.486	0.222	1.248	0.451	0.190	1.209	0.519	0.210	1.233	0.476
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第12回自然体験該当個数	0.139	1.150	0.000	0.153	1.165	0.000	0.148	1.159	0.000	0.149	1.160	0.000
	第12回社会体験該当個数	0.052	1.053	0.000							0.015	1.016	0.298
	第12回文化的体験該当個数				0.105	1.111	0.000				0.077	1.080	0.000
	(定数)	0.283	1.327	0.003	0.303	1.354	0.001	0.245	1.277	0.009	0.226	1.253	0.017
n				24610			24610			24610			24610
Cox-Snell R2 乗				0.008			0.009			0.009			0.010
Nagelkerke R2 乗				0.012			0.013			0.013			0.014

図表 6-3-5 ④第 7 回調査の「遊び」投入モデル【向学校的な意識（中学生）】

		分析モデル整理番号2-4-1			分析モデル整理番号2-4-2			分析モデル整理番号2-4-3			分析モデル整理番号2-4-4		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.047	0.954	0.457	-0.032	0.968	0.602	-0.047	0.954	0.450	-0.047	0.954	0.476
父母の収入	収入の水準	0.041	1.042	0.000	0.043	1.044	0.000	0.042	1.043	0.000	0.043	1.044	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等 いずれかが大卒等	0.307	1.359	0.000	0.278	1.321	0.000	0.270	1.310	0.000	0.285	1.330	0.000
親のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.092	1.096	0.006	0.087	1.091	0.009	0.082	1.086	0.014	0.085	1.089	0.014
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.011	1.011	0.115	0.017	1.017	0.015	0.013	1.013	0.068	0.011	1.011	0.140
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.143	1.153	0.001	0.146	1.157	0.001	0.128	1.137	0.004	0.130	1.139	0.005
	幼少期に郡部に居住	0.053	1.055	0.133	0.042	1.042	0.238	0.051	1.052	0.157	0.052	1.054	0.159
	幼少期に海外に居住	0.046	1.047	0.246	0.037	1.038	0.344	0.032	1.033	0.420	0.050	1.051	0.226
性別	男子	0.182	1.200	0.523	0.271	1.311	0.354	0.196	1.216	0.492	0.162	1.176	0.583
遊び	第7回遊び相手3項目該当個数	0.150	1.162	0.000	0.136	1.145	0.000	0.120	1.128	0.000	0.139	1.149	0.000
	第7回遊び場所3項目該当個数	0.049	1.050	0.001	0.000	1.000	0.996				0.056	1.058	0.001
	第7回遊び相手人数							0.014	1.014	0.336	-0.008	0.992	0.621
	(定数)	0.223	1.250	0.017	0.253	1.288	0.007	0.278	1.320	0.005	0.262	1.299	0.013
n				25161			25143			25143			23403
Cox-Snell R2 乗				0.008			0.007			0.007			0.008
Nagelkerke R2 乗				0.012			0.011			0.010			0.011

図表 6-3-6 ⑤第 7 回調査の「読書」投入モデル

【向学校的な意識（中学生）】

		分析モデル整理番号2-5		
		B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.055	0.947	0.369
父母の収入	収入の水準	0.039	1.040	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等 いずれかが大卒等	0.257	1.293	0.000
親のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.079	1.082	0.016
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.012	1.012	0.094
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.124	1.132	0.004
	幼少期に郡部に居住	0.053	1.055	0.126
	幼少期に海外に居住	0.037	1.038	0.340
性別	男子	0.234	1.264	0.409
読書	第7回読書冊数	0.156	1.168	0.000
	第7回読書冊数	0.058	1.060	0.000
	(定数)	0.121	1.128	0.200
n				26514
Cox-Snell R2 乗				0.009
Nagelkerke R2 乗				0.012

図表 6-3-7 ⑥第 9 回調査の「お手伝い」投入モデル

【向学校的な意識（中学生）】

		分析モデル整理番号2-6		
		B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.063	0.939	0.298
父母の収入	収入の水準	0.041	1.042	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等 いずれかが大卒等	0.276	1.318	0.000
親のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.088	1.092	0.007
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.009	1.009	0.201
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.133	1.143	0.002
	幼少期に郡部に居住	0.028	1.028	0.421
	幼少期に海外に居住	0.045	1.046	0.246
性別	男子	0.267	1.306	0.346
お手伝い	第9回お手伝い個数	0.145	1.157	0.000
	第9回お手伝い個数	0.040	1.041	0.000
	(定数)	0.241	1.272	0.007
n				26872
Cox-Snell R2 乗				0.008
Nagelkerke R2 乗				0.011

(4) 「向学校的な意識」(中学生)に関する父母の収入の水準別の分析

図表 6-4-1 「向学校的な意識」(中学生)に関する父母の収入の水準別の分析(回帰分析)

		分析モデル整理番号2-7-1			分析モデル整理番号2-7-2			分析モデル整理番号2-7-3		
		収入:中央値の2分の1未満			収入:中央値未満、中央値の2分の1以上			収入:中央値以上		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.086	1.090	0.518	-0.031	0.970	0.745	-0.090	0.914	0.495
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.365	1.441	0.145	0.259	1.295	0.000	0.268	1.308	0.000
	いずれかが大卒等	0.236	1.266	0.104	0.069	1.071	0.175	0.050	1.051	0.332
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	-0.014	0.986	0.628	0.006	1.006	0.630	0.005	1.005	0.632
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.150	1.161	0.295	0.042	1.043	0.509	0.206	1.228	0.007
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.137	1.147	0.452	0.037	1.038	0.547	0.051	1.052	0.288
	幼少期に郡部に居住	0.127	1.135	0.354	0.184	1.202	0.002	-0.067	0.935	0.289
	幼少期に海外に居住	-	-	-	-0.082	0.922	0.925	0.315	1.370	0.332
性別	男子	0.195	1.215	0.091	0.152	1.164	0.001	0.094	1.098	0.020
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	-0.020	0.980	0.762	-0.019	0.981	0.430	0.006	1.006	0.784
	第8回社会体験該当個数	0.103	1.109	0.184	0.068	1.070	0.028	0.077	1.080	0.006
	第8回文化的体験該当個数	0.087	1.091	0.213	0.075	1.078	0.007	0.095	1.099	0.000
	(定数)	0.350	1.429	0.288	0.424	1.527	0.002	0.537	1.711	0.000
	n			1366			9670			12721
	Cox-Snell R2 乗			0.012			0.006			0.007
	Nagelkerke R2 乗			0.017			0.008			0.010

※「収入:中央値の2分の1未満」では、「幼少期に海外に居住」の該当ケースなし

図表 6-4-2 「向学校的な意識」(中学生)に関する父母の収入の水準別の分析(「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」のクロス集計)

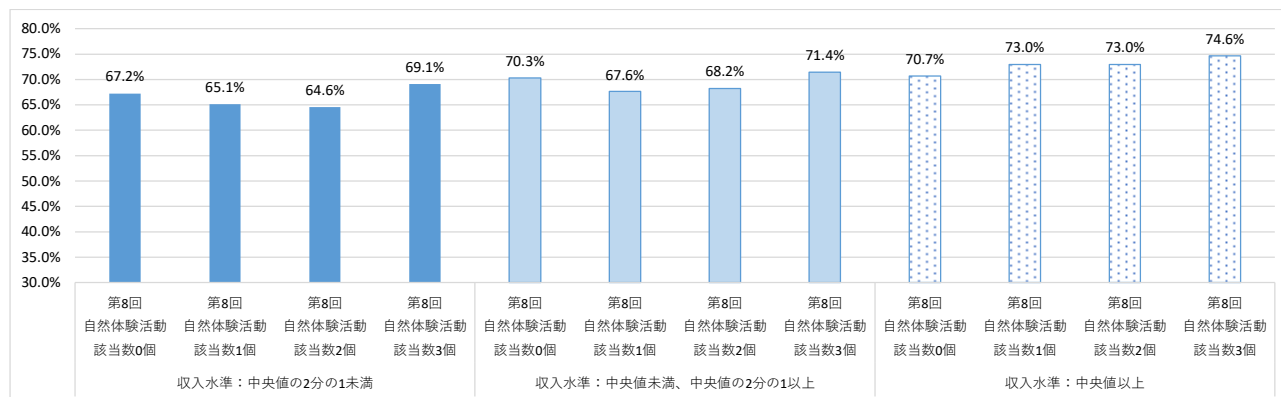
収入:中央値未満、中央値の2分の1未満	第8回自然体験該当個数	0	第14回楽しい授業ある		
			そう思わない	そう思う	合計
			度数	%	調整済み残差
収入:中央値未満、中央値の2分の1未満	第8回自然体験該当個数	0	75	32.8%	-5
			153	34.9%	4
			221	35.4%	9
		1	286	65.1%	-4
			403	64.6%	-9
			469	65.1%	-1.1
		2	211	39.1%	1.1
			391	65.0%	-1.1
			602	65.0%	-1.1
		3	161	28.6%	2.8
			233	41.2%	2.8
			233	41.2%	2.8
合計			521	1004	1525
			34.2%	65.8%	100.0%
			第14回楽しい授業ある		
			そう思わない	そう思う	合計
			385	910	1295
			29.7%	70.3%	100.0%
			-1.1	1.1	
			898	1876	2774
			32.4%	67.6%	100.0%
			1.8	-1.8	
			1293	2776	4069
			31.8%	68.2%	100.0%
			1.4	-1.4	
			629	1574	2203
			28.6%	71.4%	100.0%
			-2.8	2.8	
			3205	7136	10341
			31.0%	69.0%	100.0%
			第14回楽しい授業ある		
			そう思わない	そう思う	合計
			405	975	1380
			29.3%	70.7%	100.0%
			2.2	-2.2	
			874	2358	3232
			27.0%	73.0%	100.0%
			-3	-3	
			1404	3791	5195
			27.0%	73.0%	100.0%
			4	-4	
			925	2723	3648
			25.4%	74.6%	100.0%
			-2.3	2.3	
			3608	9847	13455
			26.8%	73.2%	100.0%
			第14回楽しい授業ある		
			そう思わない	そう思う	合計
			1829	4632	6461
			28.3%	71.7%	100.0%
			3.8	-3.8	
			1329	3751	5080
			26.2%	73.8%	100.0%
			-1.3	1.3	
			372	1213	1585
			23.5%	76.5%	100.0%
			-3.2	3.2	
			78	251	329
			23.7%	76.3%	100.0%
			-1.3	1.3	
			3608	9847	13455
			26.8%	73.2%	100.0%
			第14回楽しい授業ある		
			そう思わない	そう思う	合計
			226	460	686
			32.9%	67.1%	100.0%
			3.7	-3.7	
			1211	2969	4180
			29.0%	71.0%	100.0%
			3.8	-3.8	
			1496	4309	5805
			25.8%	74.2%	100.0%
			-2.4	2.4	
			675	2109	2784
			24.2%	75.8%	100.0%
			-3.4	3.4	
			3608	9847	13455
			26.8%	73.2%	100.0%

図表 6-4-3 Pearson のカイ 2 乗検定

	第 8 回自然体験	第 8 回社会体験	第 8 回文化的体験
収入:中央値の2分の1未満	p=0.608	p=0.127	p=0.185
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	p=0.013	p<0.001	p=0.006
収入:中央値以上	p=0.034	p<0.001	p<0.001

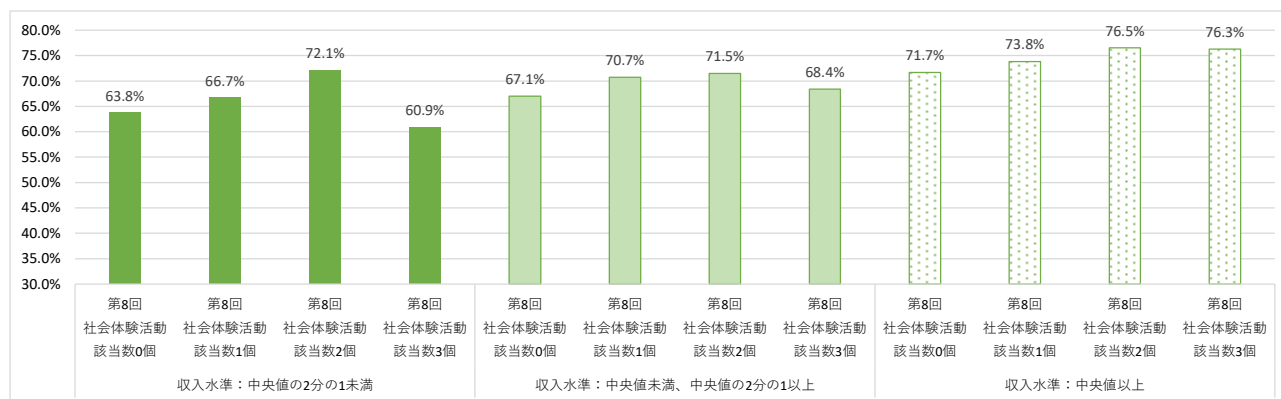
図表 6-4-4 「向学校的な意識」(中学生)に関する父母の収入の水準別の分析

(「自然体験」のクロス集計、「楽しいと思える授業がたくさんある」について「とても
 思う」又は「まあそう思う」の回答割合)



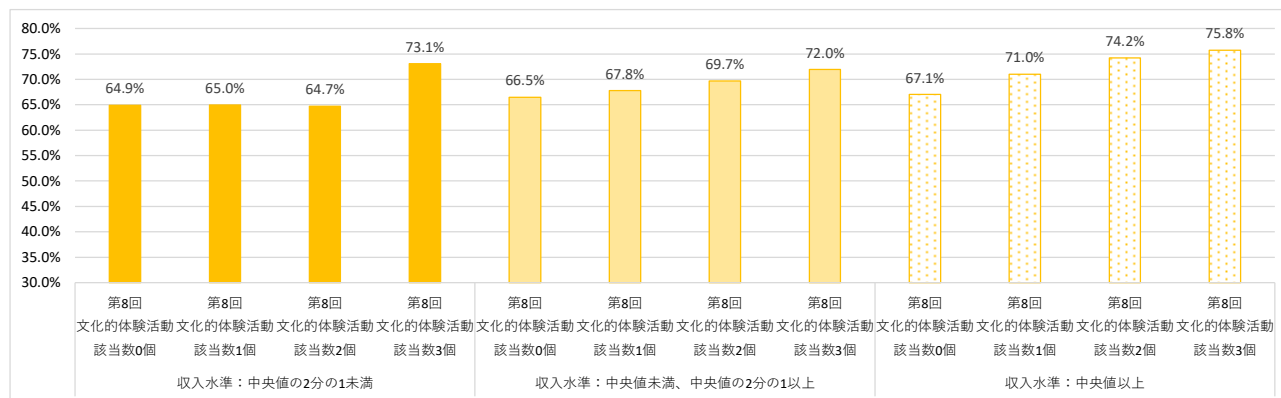
図表 6-4-5 「向学校的な意識」(中学生)に関する父母の収入の水準別の分析

(「社会体験」のクロス集計、「楽しいと思える授業がたくさんある」について「とても
 思う」又は「まあそう思う」の回答割合)



図表 6-4-6 「向学校的な意識」(中学生)に関する父母の収入の水準別の分析

(「文化的体験」のクロス集計、「楽しいと思える授業がたくさんある」について「とても
 そう思う」又は「まあそう思う」の回答割合)



7. 「向学校的な意識」(高校生) についての分析

(1) 「向学校的な意識」(高校生) と「家庭による背景・要因・属性等」との関係

図表 7-1-1 ①世帯類型(ひとり親世帯であるか否かについて)と「向学校的な意識」(高校生)

世帯類型		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計
		とてもそう思う	まあそう思う	あまり思うのではない	まったく思うのではない	
父母同居	度数	3701	9418	8228	1630	22977
	%	16.1%	41.0%	35.8%	7.1%	100.0%
	調整済み残差	-1.7	3.0	-4	-2.4	
ひとり親世帯	度数	229	4771	466	114	1280
	%	17.9%	36.8%	36.4%	8.9%	100.0%
	調整済み残差	1.7	-3.0	.4	2.4	
合計	度数	3930	9889	8694	1744	24257
	%	16.2%	40.8%	35.8%	7.2%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p=0.004$

図表 7-1-2 ②父母の収入と「向学校的な意識」(高校生)

収入11分類		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計
		とてもそう思う	まあそう思う	あまり思うのではない	まったく思うのではない	
100万円未満	度数	22	41	47	8	118
	%	18.6%	34.7%	39.8%	6.8%	100.0%
	調整済み残差	.7	-1.3	.9	-2	
100万円以上 200万円未満	度数	77	152	154	33	416
	%	18.5%	36.5%	37.0%	7.9%	100.0%
	調整済み残差	1.3	-1.8	.5	.6	
200万円以上 300万円未満	度数	249	605	597	124	1575
	%	15.8%	38.4%	37.9%	7.9%	100.0%
	調整済み残差	-.4	-2.0	1.8	1.1	
300万円以上 400万円未満	度数	592	1485	1280	282	3639
	%	16.3%	40.8%	35.2%	7.7%	100.0%
	調整済み残差	.1	.1	-.9	1.4	
400万円以上 500万円未満	度数	728	1968	1707	371	4774
	%	15.2%	41.2%	35.8%	7.8%	100.0%
	調整済み残差	-2.0	.7	-.2	1.7	
500万円以上 600万円未満	度数	715	1776	1622	324	4437
	%	16.1%	40.0%	36.6%	7.3%	100.0%
	調整済み残差	-.2	-1.1	1.1	.3	
600万円以上 700万円未満	度数	507	1355	1138	206	3206
	%	15.8%	42.3%	35.5%	6.4%	100.0%
	調整済み残差	-.6	1.9	-.4	-1.8	
700万円以上 800万円未満	度数	390	892	808	153	2243
	%	17.4%	39.8%	36.0%	6.8%	100.0%
	調整済み残差	1.6	-1.0	.2	-.7	
800万円以上 900万円未満	度数	231	574	478	84	1367
	%	16.9%	42.0%	35.0%	6.1%	100.0%
	調整済み残差	.7	1.0	-.7	-1.6	
900万円以上 1,000万円未満	度数	132	341	304	49	826
	%	16.0%	41.3%	36.8%	5.9%	100.0%
	調整済み残差	-.2	.3	.6	-1.4	
1,000万円以上	度数	272	663	531	106	1572
	%	17.3%	42.2%	33.8%	6.7%	100.0%
	調整済み残差	1.2	1.2	-1.8	-.7	
合計	度数	3915	9852	8666	1740	24173
	%	16.2%	40.8%	35.8%	7.2%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p=0.184$

等価世帯所得の水準		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計
		とてもそう思う	まあそう思う	あまり思うのではない	まったく思うのではない	
中央値の2分の1未満	度数	237	552	518	102	1409
	%	16.8%	39.2%	36.8%	7.2%	100.0%
	調整済み残差	-.6	-1.3	.8	.1	
中央値未満、中央値の2分の1以上	度数	1471	3866	3393	731	9461
	%	15.5%	40.9%	35.9%	7.7%	100.0%
	調整済み残差	-2.2	.2	.1	2.7	
中央値以上	度数	2167	5335	4650	883	13035
	%	16.6%	40.9%	35.7%	6.8%	100.0%
	調整済み残差	1.9	.4	-.5	-2.7	
合計	度数	3875	9753	8561	1716	23905
	%	16.2%	40.8%	35.8%	7.2%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p=0.050$

図表 7-1-3 ③父母の学歴と「向学校的な意識」(高校生)

父母の学歴		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計
		とてもそう思う	まあそう思う	あまり思うのではない	まったく思うのではない	
ともに短大・高校、大学、大学院以外を卒業	度数	1542	3955	3728	775	10000
	%	15.4%	39.6%	37.3%	7.8%	100.0%
	調整済み残差	-2.8	-3.4	4.1	2.8	
いずれかが短大・高専、大学、大学院を卒業	度数	1150	2924	2545	531	7150
	%	16.1%	40.9%	35.6%	7.4%	100.0%
	調整済み残差	-.3	.1	-.4	.9	
ともに短大・高校、大学、大学院を卒業	度数	1208	2949	2338	424	6919
	%	17.5%	42.6%	33.8%	6.1%	100.0%
	調整済み残差	3.4	3.6	-4.1	-4.0	
合計	度数	3900	9828	8611	1730	24069
	%	16.2%	40.8%	35.8%	7.2%	100.0%

Pearson のカイ 2 乗検定: $p<0.001$

図表 7-1-4 ④親子のかかわり・しつけと「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったく そうでもない		
しつけの実施 該当回数	6以下	度数	126	341	251	66	784
	%	16.1%	43.5%	32.0%	8.4%	100.0%	
	調整済み残差		-1	1.6	-2.3	1.3	
	7	度数	140	329	280	56	805
	%	17.4%	40.9%	34.8%	7.0%	100.0%	
	調整済み残差		1.0	.0	-.6	-.3	
	8	度数	252	576	491	108	1427
	%	17.7%	40.4%	34.4%	7.6%	100.0%	
	調整済み残差		1.6	-.3	-1.1	.5	
	9	度数	390	974	845	168	2377
	%	16.4%	41.0%	35.5%	7.1%	100.0%	
	調整済み残差		.3	.2	-.3	-.3	
	10	度数	572	1344	1258	246	3420
	%	16.7%	39.3%	36.8%	7.2%	100.0%	
	調整済み残差		1.0	-1.9	1.3	-.1	
	11	度数	697	1940	1690	347	4674
	%	14.9%	41.5%	36.2%	7.4%	100.0%	
	調整済み残差		-2.6	1.1	-.6	.6	
	12	度数	831	2104	1943	376	5254
	%	15.8%	40.0%	37.0%	7.2%	100.0%	
	調整済み残差		-.8	-1.3	2.0	-.2	
	13	度数	697	1748	1452	291	4188
	%	16.6%	41.7%	34.7%	6.9%	100.0%	
	調整済み残差		.9	1.4	-1.7	-.8	
合計	度数	3705	9356	8210	1658	22929	
	%	16.2%	40.8%	35.8%	7.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: p=0.204

⑤住環境等と「向学校的な意識」(高校生)

図表 7-1-5 居住環境の分類と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったく そうでもない		
居住環境	住宅の多い地域	度数	3039	7746	6856	1396	19037
	%	16.0%	40.7%	36.0%	7.3%	100.0%	
	調整済み残差		-1.9	-.4	.9	1.9	
	商店の多い地域	度数	130	335	289	67	821
	%	15.8%	40.8%	35.2%	8.2%	100.0%	
	調整済み残差		-.3	.0	-.4	1.1	
	工場の多い地域	度数	46	123	108	20	297
	%	15.5%	41.4%	36.4%	6.7%	100.0%	
	調整済み残差		-.3	.2	.2	-.3	
	田園・山間地域	度数	570	1377	1151	213	3311
	%	17.2%	41.6%	34.8%	6.4%	100.0%	
	調整済み残差		1.7	1.0	-1.4	-1.8	
	その他	度数	97	193	199	24	513
	%	18.9%	37.6%	38.8%	4.7%	100.0%	
	調整済み残差		1.7	-1.5	1.4	-2.2	
合計	度数	3882	9774	8603	1720	23979	
	%	16.2%	40.8%	35.9%	7.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: p=0.100

図表 7-1-6 居住の自治体の分類と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったく そうでもない		
居住の自治 体の分類	14大都市	度数	888	2108	1840	407	5243
	%	16.9%	40.2%	35.1%	7.8%	100.0%	
	調整済み残差		1.6	-.9	-1.3	1.8	
	その他の市	度数	2276	5924	5266	1050	14516
	%	15.7%	40.8%	36.3%	7.2%	100.0%	
	調整済み残差		-2.7	.2	1.7	.4	
	郡部	度数	725	1749	1499	270	4243
	%	17.1%	41.2%	35.3%	6.4%	100.0%	
	調整済み残差		1.7	.7	-.8	-2.3	
	外国	度数	12	33	28	2	75
	%	16.0%	44.0%	37.3%	2.7%	100.0%	
	調整済み残差		.0	.6	.3	-1.5	
合計	度数	3901	9814	8633	1729	24077	
	%	16.2%	40.8%	35.9%	7.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: p=0.040

図表 7-1-7 ⑥子供の性別と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったく そうでもない		
性別	男	度数	2101	5088	4241	853	12283
	%	17.1%	41.4%	34.5%	6.9%	100.0%	
	調整済み残差		3.9	2.1	-4.3	-1.5	
	女	度数	1829	4801	4453	891	11974
	%	15.3%	40.1%	37.2%	7.4%	100.0%	
	調整済み残差		-3.9	-2.1	4.3	1.5	
合計	度数	3930	9889	8694	1744	24257	
	%	16.2%	40.8%	35.8%	7.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: p<0.001

(2) 「向学校的な意識」(高校生) と「体験」 との関係

図表 7-2-1 ①第 8 回調査の「自然体験」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しめない	まったく楽しめない		
第8回自然体験該当当個数	0	度数	395	1012	875	171	2453
		%	16.1%	41.3%	35.7%	7.0%	100.0%
		調整済み残差	-.3	.6	-.2	-.3	
	1	度数	878	2192	1992	429	5491
		%	16.0%	39.9%	36.3%	7.8%	100.0%
		調整済み残差	-.7	-1.4	.7	2.3	
	2	度数	1348	3401	3009	582	8340
		%	16.2%	40.8%	36.1%	7.0%	100.0%
		調整済み残差	-.4	-.1	.5	-.7	
	3	度数	874	2137	1822	349	5182
		%	16.9%	41.2%	35.2%	6.7%	100.0%
		調整済み残差	1.3	-.9	-1.2	-1.3	
合計	度数	3495	8742	7698	1531	21466	
	%	16.3%	40.7%	35.9%	7.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p=0.431$

図表 7-2-2 ②第 8 回調査の「社会体験」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しめない	まったく楽しめない		
第8回社会体験該当当個数	0	度数	1555	4076	3818	769	10218
		%	15.2%	39.9%	37.4%	7.5%	100.0%
		調整済み残差	-4.0	-2.4	4.4	2.1	
	1	度数	1369	3315	2855	571	8110
		%	16.9%	40.9%	35.2%	7.0%	100.0%
		調整済み残差	1.9	.3	-1.6	-.4	
	2	度数	481	1110	845	156	2592
		%	18.6%	42.8%	32.6%	6.0%	100.0%
		調整済み残差	3.3	2.3	-3.7	-2.3	
	3	度数	90	241	180	35	546
		%	16.5%	44.1%	33.0%	6.4%	100.0%
		調整済み残差	-.1	1.6	-1.4	-.7	
合計	度数	3495	8742	7698	1531	21466	
	%	16.3%	40.7%	35.9%	7.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p<0.001$

図表 7-2-3 ③第 8 回調査の「文化的体験」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しめない	まったく楽しめない		
第8回文化的体験該当当個数	0	度数	219	617	548	136	1520
		%	14.4%	40.6%	36.1%	8.9%	100.0%
		調整済み残差	-2.1	-.1	.2	2.9	
	1	度数	1151	2973	2749	526	7399
		%	15.6%	40.2%	37.2%	7.1%	100.0%
		調整済み残差	-2.1	-1.2	2.9	-.1	
	2	度数	1449	3520	3114	622	8705
		%	16.6%	40.4%	35.8%	7.1%	100.0%
		調整済み残差	1.2	-.7	-.2	.1	
	3	度数	676	1632	1287	247	3842
		%	17.6%	42.5%	33.5%	6.4%	100.0%
		調整済み残差	2.4	2.4	-3.4	-1.9	
合計	度数	3495	8742	7698	1531	21466	
	%	16.3%	40.7%	35.9%	7.1%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p<0.001$

図表 7-2-4 ④第 12 回調査の「自然体験」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しめない	まったく楽しめない		
第12回自然体験該当当個数	0	度数	702	1852	1636	381	4571
		%	15.4%	40.5%	35.8%	8.3%	100.0%
		調整済み残差	-2.0	-.4	.1	3.4	
	1	度数	997	2461	2274	449	6181
		%	16.1%	39.8%	36.8%	7.3%	100.0%
		調整済み残差	-.5	-1.8	2.1	-.3	
	2	度数	1171	2903	2504	463	7041
		%	16.6%	41.2%	35.6%	6.6%	100.0%
		調整済み残差	.8	1.0	-.3	-2.4	
	3	度数	731	1763	1449	290	4233
		%	17.3%	41.6%	34.2%	6.9%	100.0%
		調整済み残差	1.8	1.3	-2.2	-.9	
合計	度数	3601	8979	7863	1583	22026	
	%	16.3%	40.8%	35.7%	7.2%	100.0%	

Pearson のカイ 2 乗検定: $p=0.002$

図表 7-2-5 ⑤第 12 回調査の「社会体験」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったく そうでもない		
第12回社会 体験該当個 数	0	度数	1797	4618	4271	909	11595
		%	15.5%	39.8%	36.8%	7.8%	
		調整済み残差	-3.6	-3.0	3.7	4.0	
	1	度数	1128	2859	2415	462	6864
		%	16.4%	41.7%	35.2%	6.7%	
		調整済み残差	.2	1.8	-1.1	-1.8	
	2	度数	491	1122	873	159	2645
		%	18.6%	42.4%	33.0%	6.0%	
		調整済み残差	-3.3	1.8	-3.1	-2.5	
	3	度数	185	380	304	53	922
		%	20.1%	41.2%	33.0%	5.7%	
		調整済み残差	3.1	.3	-1.8	-1.7	
合計	度数	3601	8979	7863	1583	22026	
	%	16.3%	40.8%	35.7%	7.2%		

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.002

図表 7-2-6 ⑥第 12 回調査の「文化的体験」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったく そうでもない		
第12回文化 的体験該当 個数	0	度数	385	972	1010	216	2583
		%	14.9%	37.6%	39.1%	8.4%	
		調整済み残差	-2.1	-3.5	3.8	2.5	
	1	度数	1041	2723	2451	537	6752
		%	15.4%	40.3%	36.3%	8.0%	
		調整済み残差	-2.5	.9	1.2	-2.9	
	2	度数	1372	3358	2872	544	8146
		%	16.8%	41.2%	35.3%	6.7%	
		調整済み残差	-1.5	1.1	-1.0	-2.2	
	3	度数	803	1926	1530	286	4545
		%	17.7%	42.4%	33.7%	6.3%	
		調整済み残差	2.7	2.5	-3.2	-2.6	
合計	度数	3601	8979	7863	1583	22026	
	%	16.3%	40.8%	35.7%	7.2%		

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 7-2-7 ⑦第 7 回調査の「遊び相手の多様性」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったく そうでもない		
第7回遊び相 手3項目該当 個数	0	度数	455	1234	1084	227	3000
		%	15.2%	41.1%	36.1%	7.6%	
		調整済み残差	-1.5	.6	1	.7	
	1	度数	915	2351	2129	405	5800
		%	15.8%	40.5%	36.7%	7.0%	
		調整済み残差	-.7	-.2	1.2	-.9	
	2	度数	1328	3394	3102	635	8459
		%	15.7%	40.1%	36.7%	7.5%	
		調整済み残差	-1.2	-1.2	1.5	1.2	
	3	度数	921	2163	1796	363	5243
		%	17.6%	41.3%	34.3%	6.9%	
		調整済み残差	3.3	1.1	-3.1	-1.0	
合計	度数	3619	9142	8111	1630	22502	
	%	16.1%	40.6%	36.0%	7.2%		

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.018

図表 7-2-8 ⑧第 7 回調査の「遊ぶ場所の多様性」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり そうでもない	まったく そうでもない		
遊び場所3項 目該当個数	0	度数	165	474	421	90	1150
		%	14.3%	41.2%	36.6%	7.8%	
		調整済み残差	-1.6	.4	.4	.8	
	1	度数	1244	3271	2968	597	8080
		%	15.4%	40.5%	36.7%	7.4%	
		調整済み残差	-2.1	-.4	1.6	-.7	
	2	度数	1457	3546	3148	632	8783
		%	16.6%	40.4%	35.8%	7.2%	
		調整済み残差	1.6	-.7	-.5	-1	
	3	度数	833	2059	1746	342	4980
		%	16.7%	41.3%	35.1%	6.9%	
		調整済み残差	1.4	1.1	-1.6	-1.1	
合計	度数	3699	9350	8283	1661	22993	
	%	16.1%	40.7%	36.0%	7.2%		

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.188

図表 7-2-9 ⑨第 7 回調査の「遊び相手の人数の多寡」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても好き思う	まあまあ好き	あまり好き思わない	まったく好き思わない		
第7回遊び相手人数	0人	度数	358	791	594	129	1872
		%	19.1%	42.3%	31.7%	6.9%	
		調整済み残差	3.6	1.3	-3.7	-6	
	1人	度数	701	1824	1708	322	4555
		%	15.4%	40.0%	37.5%	7.1%	
		調整済み残差	-1.7	-1.2	2.8	-4	
	2人	度数	865	2085	1929	423	5302
		%	16.3%	39.3%	36.4%	8.0%	
		調整済み残差	.2	-2.6	1.2	2.4	
	3人以上	度数	1724	4485	3798	750	10757
		%	16.0%	41.7%	35.3%	7.0%	
		調整済み残差	-8	2.5	-1.2	-1.4	
合計	度数	3648	9185	8029	1624	22486	
	%	16.2%	40.8%	35.7%	7.2%		

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 7-2-10 ⑩第 7 回調査の「読書」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても好き思う	まあまあ好き	あまり好き思わない	まったく好き思わない		
第7回読書	読まない	度数	215	568	569	114	1466
		%	14.7%	38.7%	38.8%	7.8%	
		調整済み残差	-1.6	-1.6	2.4	.9	
	1冊	度数	407	1125	990	226	2748
		%	14.8%	40.9%	36.0%	8.2%	
		調整済み残差	-2.0	.2	.2	2.2	
	2, 3冊	度数	1089	2669	2559	517	6834
		%	15.9%	39.1%	37.4%	7.6%	
		調整済み残差	-6	-3.4	3.2	1.4	
	4冊～7冊	度数	1028	2665	2255	439	6387
		%	16.1%	41.7%	35.3%	6.9%	
		調整済み残差	-1	1.8	-1.1	-1.2	
	8冊～11冊	度数	367	961	768	139	2235
		%	16.4%	43.0%	34.4%	6.2%	
		調整済み残差	.4	2.3	-1.6	-1.9	
	12冊以上	度数	718	1667	1359	269	4013
		%	17.9%	41.5%	33.9%	6.7%	
		調整済み残差	3.3	1.1	-2.9	-1.3	
合計	度数	3824	9655	8500	1704	23683	
	%	16.1%	40.8%	35.9%	7.2%		

Pearson のカイ 2 乗検定:p<0.001

図表 7-2-11 ⑪第 9 回調査の「お手伝い」と「向学校的な意識」(高校生)

		第17回楽しいと思える授業がたくさんある				合計	
		とても好き思う	まあまあ好き	あまり好き思わない	まったく好き思わない		
第9回お手伝い回数	0	度数	186	569	474	111	1340
		%	13.9%	42.5%	35.4%	8.3%	
		調整済み残差	-2.4	1.3	-4	1.6	
	1	度数	685	1784	1603	323	4395
		%	15.6%	40.6%	36.5%	7.3%	
		調整済み残差	-1.2	-.3	.9	.5	
	2	度数	915	2363	2126	423	5827
		%	15.7%	40.6%	36.5%	7.3%	
		調整済み残差	-1.1	-.4	1.1	.3	
	3	度数	862	2064	1848	339	5113
		%	16.9%	40.4%	36.1%	6.6%	
		調整済み残差	1.5	-.7	.5	-1.7	
	4	度数	563	1397	1254	235	3449
		%	16.3%	40.5%	36.4%	6.8%	
		調整済み残差	.2	-.4	.7	-.8	
	5	度数	347	891	700	164	2102
		%	16.5%	42.4%	33.3%	7.8%	
		調整済み残差	.4	1.5	-2.6	1.2	
	6	度数	219	482	416	85	1202
		%	18.2%	40.1%	34.6%	7.1%	
		調整済み残差	2.0	-.5	-.9	-.1	
7	度数	102	231	175	36	544	
	%	18.8%	42.5%	32.2%	6.6%		
	調整済み残差	1.6	.8	-1.8	-.5		
合計	度数	3879	9781	8596	1716	23972	
	第9回お手伝い	16.2%	40.8%	35.9%	7.2%		

Pearson のカイ 2 乗検定:p=0.075

(3) 「向学校的な意識」(高校生) に関する回帰分析

図表 7-3-1 「向学校的な意識」(高校生) に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号					
		3-1	3-2-4	3-3-4	3-4-4	3-5	3-6
世帯類型	ひとり親世帯						
父母の収入	収入の水準						
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	***	***	***	***	***
	いずれかが大卒等	**	*	**	**	**	**
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡						
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	*			*	*	**
	幼少期に大都市に居住						
	幼少期に郡部に居住			*			
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に海外に居住						
性別	男子	***	***	***	***	***	***
自然体験・社会体験・ 文化的体験①	小学2年生自然体験の多寡	/	/	/	/	/	/
	小学2年生社会体験の多寡	/	***	/	/	/	/
	小学2年生文化的体験の多寡	/	*	/	/	/	/
自然体験・社会体験・ 文化的体験②	小学6年生自然体験の多寡	/	/	/	/	/	/
	小学6年生社会体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生文化的体験の多寡	/	/	***	/	/	/
遊び	小学1年生遊び相手の多様性	/	/	/	*	/	/
	小学1年生遊び場所の多様性	/	/	/	/	/	/
	小学1年生遊び相手人数の多寡	/	/	/	/	/	/
読書	小学1年生読書冊数	/	/	/	/	***	/
お手伝い	小学3年生手伝い経験の多寡	/	/	/	/	/	***

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 7-3-2 ①家庭による背景・要因・属性等のみのモデル【向学校的な意識(高校生)】

		分析モデル整理番号3-1		
		B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.041	0.960	0.513
父母の収入	収入の水準	0.007	1.007	0.310
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.228	1.256	0.000
	いずれかが大卒等	0.098	1.103	0.003
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	-0.004	0.996	0.549
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.105	1.110	0.014
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.000	1.000	0.998
	幼少期に郡部に居住	0.069	1.071	0.076
	幼少期に海外に居住	-0.104	0.902	0.683
性別	男子	0.131	1.140	0.000
	(定数)	0.098	1.103	0.268
	n			22611
	Cox-Snell R2 乗			0.004
	Nagelkerke R2 乗			0.005

図表 7-3-3 ②第8回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【向学校的な意識(高校生)】

		分析モデル整理番号3-2-1			分析モデル整理番号3-2-2			分析モデル整理番号3-2-3			分析モデル整理番号3-2-4		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.080	0.923	0.240	-0.078	0.925	0.248	-0.080	0.923	0.235	-0.079	0.924	0.243
父母の収入	収入の水準	0.009	1.009	0.229	0.009	1.009	0.225	0.007	1.007	0.338	0.008	1.008	0.286
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.234	1.264	0.000	0.226	1.253	0.000	0.222	1.248	0.000	0.219	1.245	0.000
	いずれかが大卒等	0.092	1.096	0.008	0.087	1.090	0.013	0.085	1.088	0.016	0.082	1.086	0.019
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	-0.006	0.994	0.445	-0.009	0.991	0.232	-0.007	0.993	0.317	-0.010	0.990	0.194
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.094	1.098	0.037	0.068	1.070	0.136	0.094	1.099	0.037	0.070	1.072	0.126
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.001	0.999	0.973	0.005	1.005	0.887	-0.006	0.994	0.870	0.001	1.001	0.968
	幼少期に郡部に居住	0.067	1.069	0.104	0.060	1.061	0.148	0.069	1.071	0.094	0.062	1.063	0.136
	幼少期に海外に居住	-0.118	0.889	0.661	-0.107	0.899	0.691	-0.131	0.877	0.626	-0.119	0.888	0.659
性別	男子	0.123	1.131	0.000	0.125	1.133	0.000	0.126	1.135	0.000	0.128	1.137	0.000
	(定数)	0.010	1.010	0.512									
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数												
	第8回社会体験該当個数				0.098	1.103	0.000				0.093	1.098	0.000
	第8回文化的体験該当個数							0.053	1.054	0.002	0.037	1.038	0.040
	(定数)	0.095	1.100	0.318	0.084	1.088	0.369	0.058	1.060	0.543	0.067	1.069	0.487
	n			20120		20120		20120		20120		20120	
	Cox-Snell R2 乗			0.004		0.005		0.005		0.005		0.006	
	Nagelkerke R2 乗			0.006		0.007		0.006		0.006		0.008	

図表 7-3-4 ③第 12 回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル

【向学校的な意識（高校生）】

		分析モデル整理番号3-3-1			分析モデル整理番号3-3-2			分析モデル整理番号3-3-3			分析モデル整理番号3-3-4		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.006	0.994	0.932	-0.003	0.997	0.962	-0.004	0.996	0.952	0.000	1.000	0.999
父母の収入	収入の水準	0.007	1.007	0.324	0.008	1.008	0.239	0.006	1.006	0.438	0.007	1.007	0.338
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等 いずれかが大卒等	0.245	1.277	0.000	0.240	1.272	0.000	0.227	1.255	0.000	0.226	1.254	0.000
親のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.108	1.114	0.002	0.105	1.111	0.002	0.097	1.102	0.005	0.097	1.102	0.005
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.009	0.991	0.222	-0.012	0.988	0.113	-0.012	0.988	0.100	-0.014	0.986	0.057
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住 幼少期に郡部に居住 幼少期に海外に居住	0.066	1.068	0.139	0.042	1.043	0.345	0.068	1.070	0.128	0.048	1.049	0.283
性別	男子	-0.013	0.987	0.717	-0.004	0.996	0.919	-0.018	0.982	0.610	-0.009	0.991	0.801
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第12回自然体験該当個数	0.086	1.089	0.036	0.075	1.078	0.066	0.090	1.094	0.027	0.080	1.084	0.050
	第12回社会体験該当個数	0.020	1.020	0.943	0.037	1.038	0.892	0.003	1.003	0.990	0.022	1.022	0.936
	第12回文化的体験該当個数	0.126	1.134	0.000	0.136	1.146	0.000	0.132	1.141	0.000	0.135	1.145	0.000
	(定数)	0.037	1.037	0.008	0.099	1.104	0.000	0.087	1.091	0.000	0.066	1.068	0.000
n		0.097	1.102	0.306	0.105	1.111	0.261	0.055	1.056	0.561	0.047	1.049	0.618
Cox-Snell R2 乗				20584			20584			20584			20584
Nagelkerke R2 乗			0.005			0.006			0.006				0.007
			0.006			0.008			0.008				0.009

図表 7-3-5 ④第 7 回調査の「遊び」投入モデル【向学校的な意識（高校生）】

		分析モデル整理番号3-4-1			分析モデル整理番号3-4-2			分析モデル整理番号3-4-3			分析モデル整理番号3-4-4		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.015	0.985	0.822	-0.040	0.961	0.543	-0.027	0.973	0.681	0.004	1.004	0.958
父母の収入	収入の水準	0.010	1.010	0.147	0.008	1.008	0.256	0.008	1.008	0.237	0.010	1.010	0.160
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等 いずれかが大卒等	0.250	1.284	0.000	0.240	1.271	0.000	0.227	1.255	0.000	0.246	1.279	0.000
親のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.111	1.117	0.001	0.102	1.108	0.002	0.100	1.105	0.003	0.116	1.123	0.001
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.005	0.995	0.474	-0.004	0.996	0.621	0.000	1.000	0.974	-0.001	0.999	0.869
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住 幼少期に郡部に居住 幼少期に海外に居住	0.105	1.111	0.017	0.106	1.112	0.015	0.097	1.102	0.028	0.098	1.103	0.032
性別	男子	-0.011	0.989	0.752	-0.002	0.998	0.964	-0.011	0.989	0.759	-0.019	0.981	0.608
遊び	第7回遊び相手3項目該当個数	0.074	1.077	0.066	0.071	1.073	0.076	0.068	1.071	0.089	0.071	1.073	0.089
	第7回遊び場所3項目該当個数	-0.078	0.925	0.771	-0.064	0.938	0.809	0.016	1.016	0.953	0.069	1.071	0.807
	第7回遊び相手人数	0.140	1.151	0.000	0.125	1.133	0.000	0.119	1.126	0.000	0.131	1.140	0.000
	(定数)	0.038	1.039	0.009	0.038	1.039	0.021	-0.002	0.998	0.902	-0.018	0.982	0.228
n		-0.001	0.999	0.992	0.006	1.006	0.949	0.056	1.058	0.571	-0.024	0.976	0.820
Cox-Snell R2 乗				21047			21502			21004			19612
Nagelkerke R2 乗			0.005			0.004			0.004				0.005
			0.006			0.006			0.005				0.006

図表 7-3-6 ⑤第 7 回調査の「読書」投入モデル

【向学校的な意識（高校生）】

		分析モデル整理番号3-5		
		B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.049	0.952	0.439
父母の収入	収入の水準	0.006	1.006	0.349
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等 いずれかが大卒等	0.203	1.225	0.000
親のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.091	1.095	0.006
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.005	0.995	0.436
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住 幼少期に郡部に居住 幼少期に海外に居住	0.104	1.109	0.016
性別	男子	0.001	1.001	0.967
読書	第7回読書冊数	0.069	1.072	0.076
(定数)		-0.115	0.892	0.656
n		0.154	1.167	0.000
Cox-Snell R2 乗		0.050	1.051	0.000
Nagelkerke R2 乗		-0.075	0.927	0.427
				22110
				0.005
				0.007

図表 7-3-7 ⑥第 9 回調査の「お手伝い」投入モデル

【向学校的な意識（高校生）】

		分析モデル整理番号3-6		
		B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.042	0.959	0.506
父母の収入	収入の水準	0.007	1.007	0.292
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等 いずれかが大卒等	0.221	1.248	0.000
親のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.096	1.101	0.004
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.009	0.991	0.211
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住 幼少期に郡部に居住 幼少期に海外に居住	0.118	1.125	0.006
性別	男子	-0.008	0.992	0.814
お手伝い	第9回お手伝い個数	0.070	1.073	0.071
(定数)		-0.105	0.900	0.678
n		0.146	1.158	0.000
Cox-Snell R2 乗		0.031	1.031	0.000
Nagelkerke R2 乗		0.057	1.059	0.527
				22361
				0.004
				0.006

(4) 「向学校的な意識」(高校生)に関する父母の収入の水準別の分析

図表 7-4-1 「向学校的な意識」(高校生)に関する父母の収入の水準別の分析(回帰分析)

		分析モデル整理番号3-7-1			分析モデル整理番号3-7-2			分析モデル整理番号3-7-3		
		収入:中央値の2分の1未満			収入:中央値未満、中央値の2分の1以上			収入:中央値以上		
		B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率	B	Exp(B)	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.000	1.000	1.000	0.019	1.019	0.853	-0.289	0.749	0.025
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.157	1.170	0.507	0.207	1.230	0.002	0.254	1.289	0.000
	いずれかが大卒等	0.074	1.077	0.625	0.021	1.021	0.688	0.135	1.144	0.008
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	-0.054	0.948	0.080	-0.003	0.997	0.793	-0.008	0.992	0.420
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.097	1.102	0.510	0.031	1.032	0.629	0.094	1.098	0.194
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.086	1.090	0.665	-0.068	0.934	0.284	0.029	1.030	0.523
	幼少期に郡部に居住	0.043	1.044	0.763	0.093	1.098	0.124	0.015	1.016	0.803
	幼少期に海外に居住	-	-	-	0.150	1.161	0.871	-0.219	0.803	0.443
性別	男子	0.250	1.284	0.043	0.239	1.270	0.000	0.041	1.042	0.288
自然体験・社会体験・文化的体験	第8回自然体験該当個数	-0.003	0.997	0.969	0.015	1.015	0.555	-0.031	0.970	0.152
	第8回社会体験該当個数	0.193	1.213	0.018	0.072	1.075	0.022	0.089	1.093	0.001
	第8回文化的体験該当個数	0.118	1.125	0.118	0.034	1.034	0.239	0.033	1.034	0.183
	(定数)	0.269	1.309	0.460	-0.016	0.984	0.911	0.161	1.175	0.184
n			1095			7862			10964	
Cox-Snell R2 乗			0.018			0.007			0.005	
Nagelkerke R2 乗			0.024			0.010			0.007	

※「収入:中央値の2分の1未満」では、「幼少期に海外に居住」の該当ケースなし

図表 7-4-2 「向学校的な意識」(高校生)に関する父母の収入の水準別の分析(「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」のクロス集計)

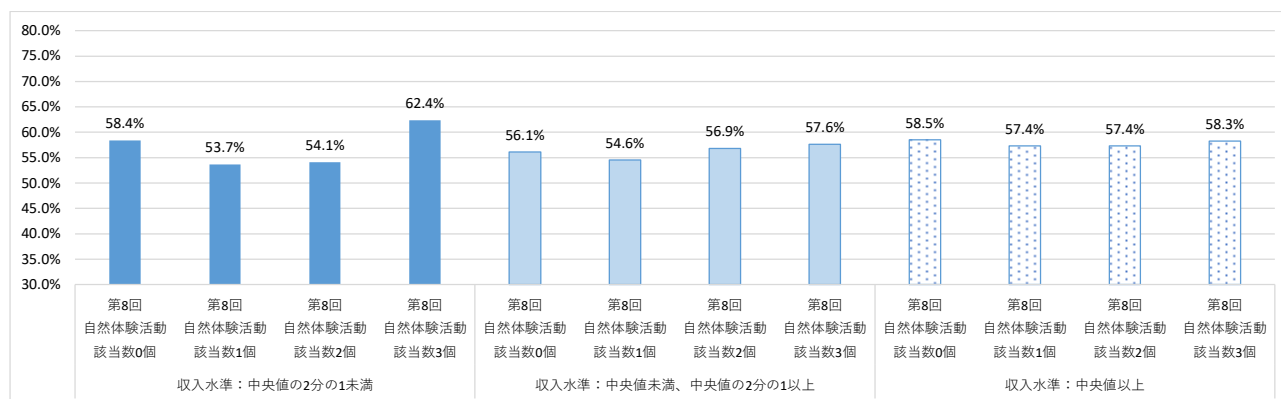
		第17回楽しい授業ある				
		そう 思わない	そう 思う	合計		
収入:中央値未満、中央値の2分の1未満	第8回自然体験該当個数	0	77	108	185	
		%	41.6%	58.4%	100.0%	
		調整済み残差	-7	7		
		1	157	182	339	
		%	46.3%	53.7%	100.0%	
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回社会体験該当個数	0	454	581	1035	
		%	43.9%	56.1%	100.0%	
		調整済み残差	.1	-.1		
		1	1033	1240	2273	
		%	45.4%	54.6%	100.0%	
収入:中央値以上	第8回文化的体験該当個数	0	496	700	1196	
		%	41.5%	58.5%	100.0%	
		調整済み残差	-.6	.6		
		1	1192	1603	2795	
		%	42.6%	57.4%	100.0%	
収入:中央値未満、中央値の2分の1未満	第8回社会体験該当個数	0	1810	2177	3987	
		%	45.4%	54.6%	100.0%	
		調整済み残差	3.0	-3.0		
		1	1373	1818	3191	
		%	43.0%	57.0%	100.0%	
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回文化的体験該当個数	0	2416	3090	5506	
		%	43.9%	56.1%	100.0%	
		調整済み残差	3.3	-3.3		
		1	1833	2557	4390	
		%	41.8%	58.2%	100.0%	
収入:中央値以上	第8回社会体験該当個数	0	2416	3090	5506	
		%	43.9%	56.1%	100.0%	
		調整済み残差	3.3	-3.3		
		1	1833	2557	4390	
		%	41.8%	58.2%	100.0%	
収入:中央値以上	第8回文化的体験該当個数	0	264	309	573	
		%	46.1%	53.9%	100.0%	
		調整済み残差	1.9	-1.9		
		1	1552	2054	3606	
		%	43.0%	57.0%	100.0%	

図表 7-4-3 Pearson のカイ2乗検定

	第8回自然体験	第8回社会体験	第8回文化的体験
収入:中央値の2分の1未満	p=0.167	p=0.055	p=0.162
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	p=0.211	p=0.004	p=0.038
収入:中央値以上	p=0.767	p=0.001	p=0.016

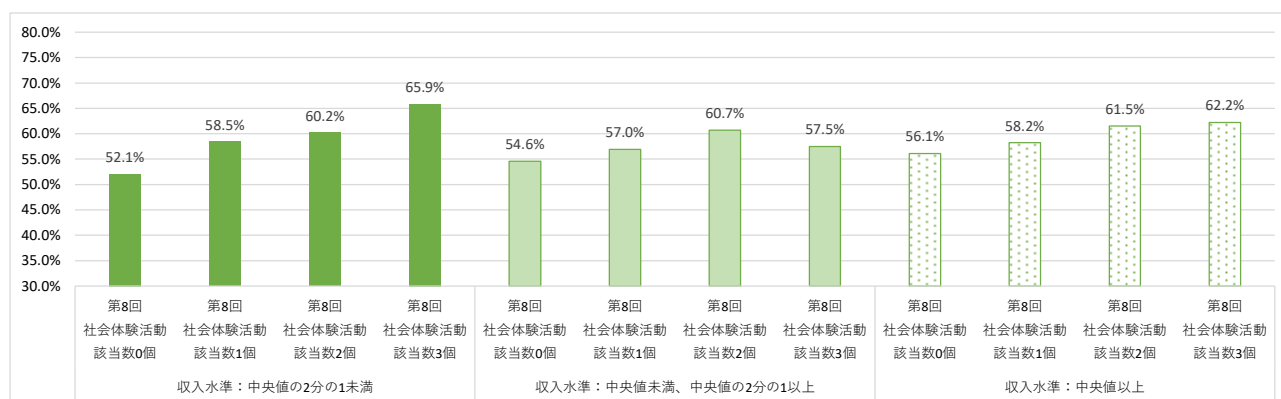
図表 7-4-4 「向学校的な意識」(高校生)に関する父母の収入の水準別の分析

(「自然体験」のクロス集計、「楽しいと思える授業がたくさんある」について「とてもそう思う」又は「まあそう思う」の回答割合)



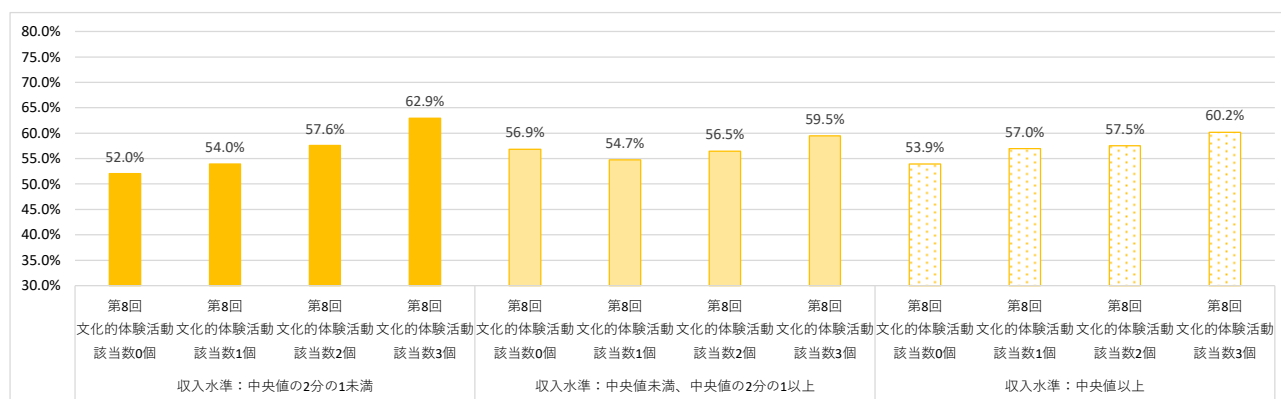
図表 7-4-5 「向学校的な意識」(高校生)に関する父母の収入の水準別の分析

(「社会体験」のクロス集計、「楽しいと思える授業がたくさんある」について「とてもそう思う」又は「まあそう思う」の回答割合)



図表 7-4-6 「向学校的な意識」(高校生)に関する父母の収入の水準別の分析

(「文化的体験」のクロス集計、「楽しいと思える授業がたくさんある」について「とてもそう思う」又は「まあそう思う」の回答割合)



8. 「自尊感情」についての分析

(1) 「自尊感情」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係

図表 8-1-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と「自尊感情」

		自尊感情尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
世帯類型	父母同居	28.7	23110	0.002
	ひとり親世帯	28.1	1305	

図表 8-1-2 ②父母の収入と「自尊感情」

収入11分類	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較																		
				100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 300万円未満	300万円以上 400万円未満	400万円以上 500万円未満	500万円以上 600万円未満	600万円以上 700万円未満	700万円以上 800万円未満	800万円以上 900万円未満	900万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上								
100万円未満	28.3	121	0.000																			
100万円以上 200万円未満	28.3	422		1.000																		
200万円以上 300万円未満	27.8	1602		1.000	0.963																	
300万円以上 400万円未満	28.5	3684		1.000	1.000	0.078																
400万円以上 500万円未満	28.5	4797		1.000	1.000	0.038	1.000															
500万円以上 600万円未満	28.6	4462		1.000	0.998	0.002	0.979	0.988														
600万円以上 700万円未満	28.8	3223		0.999	0.943	0.000	0.450	0.467	0.984													
700万円以上 800万円未満	29.1	2241		0.955	0.434	0.000	0.005	0.005	0.113	0.803												
800万円以上 900万円未満	29.3	1367		0.901	0.281	0.000	0.005	0.005	0.074	0.575	1.000											
900万円以上 1,000万円未満	29.0	826		0.993	0.863	0.003	0.598	0.634	0.953	1.000	1.000	0.997										
1,000万円以上	29.3	1584		0.894	0.250	0.000	0.002	0.002	0.041	0.478	1.000	1.000	0.995									

等価世帯所得 の水準	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較		
				中央値の2分の1 未満	中央値未満、中央 値の2分の1以上	中央値以上
中央値の2分の1 未満	28.3	1435	0.000			
中央値未満、中央 値の2分の1以上	28.4	9542		0.713		
中央値以上	28.9	13084		0.002	0.000	

図表 8-1-3 ③父母の学歴と「自尊感情」

父母の学歴	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較		
				ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業
ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	28.3	10129	0.000			
いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	28.6	7169		0.026		
ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業	29.3	6930		0.000	0.000	

図表 8-1-4 ④親子のかかわり・しつけと「自尊感情」

		自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較								
					6以下	7	8	9	10	11	12	13	
しつけの実施 該当個数	6以下	28.4	789	0.000									
	7	28.1	810		0.960								
	8	28.8	1430		0.841	0.129							
	9	28.4	2398		1.000	0.834	0.643						
	10	28.6	3448		0.999	0.489	0.907	0.997					
	11	28.5	4698		1.000	0.537	0.816	0.999	1.000				
	12	28.8	5284		0.775	0.053	1.000	0.335	0.722	0.463			
	13	29.0	4219		0.224	0.003	0.973	0.010	0.041	0.009	0.690		

⑤住環境等と「自尊感情」

図表 8-1-5 居住環境の分類と「自尊感情」

		自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較				
					住宅の多い地域	商店の多い地域	工場の多い地域	田園・山間地域	その他
居住環境	住宅の多い地域	28.7	19154	0.942					
	商店の多い地域	28.7	830		1.000				
	工場の多い地域	28.4	299		0.930	0.955			
	田園・山間地域	28.7	3331		1.000	1.000	0.954		
	その他	28.8	522		0.998	1.000	0.923	0.996	

図表 8-1-6 居住の自治体の分類と「自尊感情」

		自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					14大都市	その他の市	郡部	外国
居住の自治体 の分類	14大都市	28.9	5263	0.053				
	その他の市	28.6	14620		0.076			
	郡部	28.7	4276		0.391	0.985		
	外国	29.7	75		0.687	0.472	0.511	

図表 8-1-7 ⑥子供の性別と「自尊感情」

		自尊感情尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
性別	男	29.3	12376	0.000
	女	28.0	12039	

(2) 「自尊感情」と「体験」との関係

図表 8-2-1 ①第 8 回調査の「自然体験」と「自尊感情」

	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
				0	1	2	3
第8回自然体 験該当個数	0	27.6	0.000				
	1	28.2		0.001			
	2	28.8		0.000	0.000		
	3	29.4		0.000	0.000	0.000	

図表 8-2-2 ②第 8 回調査の「社会体験」と「自尊感情」

	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
				0	1	2	3
第8回社会体 験該当個数	0	28.4	0.000				
	1	28.9		0.000			
	2	29.0		0.000	0.828		
	3	28.9		0.317	0.999	0.992	

図表 8-2-3 ③第 8 回調査の「文化的体験」と「自尊感情」

	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
				0	1	2	3
第8回文化的 体験該当個数	0	28.1	0.000				
	1	28.1		1.000			
	2	28.8		0.002	0.000		
	3	29.6		0.000	0.000	0.000	

図表 8-2-4 ④第 12 回調査の「自然体験」と「自尊感情」

	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
				0	1	2	3
第12回自然 体験該当個数	0	27.9	0.000				
	1	28.5		0.000			
	2	28.9		0.000	0.000		
	3	29.4		0.000	0.000	0.001	

図表 8-2-5 ⑤第 12 回調査の「社会体験」と「自尊感情」

	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
				0	1	2	3
第12回社会 体験該当個数	0	28.5	0.000				
	1	28.8		0.013			
	2	29.1		0.000	0.073		
	3	29.3		0.001	0.085	0.891	

図表 8-2-6 ⑥第 12 回調査の「文化的体験」と「自尊感情」

	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
				0	1	2	3
第12回文化 的体験該当個 数	0	27.9	0.000				
	1	28.2		0.160			
	2	28.9		0.000	0.000		
	3	29.6		0.000	0.000	0.000	

図表 8-2-7 ⑦第7回調査の「遊び相手の多様性」と「自尊感情」

		自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
第7回遊び相手3項目該当 個数	0	28.0	3014	0.000				
	1	28.5	5829		0.006			
	2	28.8	8509		0.000	0.060		
	3	29.1	5292		0.000	0.000	0.056	

図表 8-2-8 ⑧第7回調査の「遊ぶ場所の多様性」と「自尊感情」

		自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
遊び場所3項目 該当個数	0	27.9	1165	0.000				
	1	28.5	8128		0.056			
	2	28.8	8828		0.000	0.002		
	3	29.1	5012		0.000	0.000	0.178	

図表 8-2-9 ⑨第7回調査の「遊び相手の人数の多寡」と「自尊感情」

		自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0人	1人	2人	3人以上
第7回遊び相手 人数	0人	28.3	1874	0.000				
	1人	28.5	4604		0.779			
	2人	28.4	5342		0.961	0.921		
	3人以上	29.1	10811		0.000	0.000	0.000	

図表 8-2-10 ⑩第7回調査の「読書」と「自尊感情」

		自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較					
					読まない	1冊	2,3冊	4冊~7冊	8冊~11冊	12冊以上
第7回読書	読まない	28.7	1481	0.007						
	1冊	28.6	2767		0.994					
	2,3冊	28.6	6912		0.937	0.998				
	4冊~7冊	28.7	6419		1.000	0.995	0.824			
	8冊~11冊	28.5	2235		0.906	0.991	1.000	0.843		
	12冊以上	29.0	4020		0.658	0.106	0.003	0.109	0.027	

図表 8-2-11 ⑪第9回調査の「お手伝い」と「自尊感情」

		自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較							
					0	1	2	3	4	5	6	7
第9回お手伝い 個数	0	28.4	1348	0.083								
	1	28.5	4412		0.993							
	2	28.7	5854		0.731	0.923						
	3	28.7	5155		0.801	0.967	1.000					
	4	28.7	3475		0.633	0.844	1.000	1.000				
	5	28.8	2121		0.445	0.640	0.988	0.977	1.000			
	6	29.0	1210		0.259	0.401	0.856	0.817	0.959	0.999		
	7	29.2	553		0.228	0.372	0.722	0.684	0.844	0.963	0.999	

(3) 「自尊感情」に関する回帰分析

図表 8-3-1 「自尊感情」に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号					
		4-1	4-2-4	4-3-4	4-4-4	4-5	4-6
世帯類型	ひとり親世帯		*				
父母の収入	収入の水準	***	**	***	***	***	***
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	***	***	***	***	***
	いずれかが大卒等						
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***	**	***	***	***	***
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住						
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住				*		
	幼少期に郡部に居住						
	幼少期に海外に居住						
性別	男子	***	***	***	***	***	***
自然体験・社会体験・ 文化的体験①	小学2年生自然体験の多寡	/	***	/	/	/	/
	小学2年生社会体験の多寡	/	/	/	/	/	/
	小学2年生文化的体験の多寡	/	***	/	/	/	/
自然体験・社会体験・ 文化的体験②	小学6年生自然体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生社会体験の多寡	/	/	/	/	/	/
	小学6年生文化的体験の多寡	/	/	***	/	/	/
遊び	小学1年生遊び相手の多様性	/	/	/	***	/	/
	小学1年生遊び場所の多様性	/	/	/	**	/	/
	小学1年生遊び相手人数の多寡	/	/	/	**	/	/
読書	小学1年生読書冊数	/	/	/	/	*	/
お手伝い	小学3年生手伝い経験の多寡	/	/	/	/	/	***

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 8-3-2 ①家庭による背景・要因・属性等のみのモデル【自尊感情】

		分析モデル整理番号4-1		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.348	-0.012	0.086
父母の収入	収入の水準	0.096	0.032	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.695	0.048	0.000
	いずれかが大卒等	0.182	0.013	0.088
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.100	0.030	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.184	0.010	0.178
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.128	0.008	0.244
	幼少期に郡部に居住	0.062	0.004	0.617
	幼少期に海外に居住	0.865	0.007	0.294
性別	男子	1.197	0.091	0.000
	(定数)	26.116		0.000
	n			22757
	R2 乗			0.014
	調整済みR2 乗			0.013

図表 8-3-3 ②第8回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【自尊感情】

	分析モデル整理番号4-2-1			分析モデル整理番号4-2-2			分析モデル整理番号4-2-3			分析モデル整理番号4-2-4			
	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	
世帯類型	ひとり親世帯	-0.514	-0.017	0.019	-0.521	-0.017	0.017	-0.533	-0.017	0.015	-0.521	-0.017	0.017
父母の収入	収入の水準	0.085	0.028	0.000	0.099	0.033	0.000	0.081	0.027	0.000	0.073	0.024	0.002
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.634	0.044	0.000	0.691	0.048	0.000	0.580	0.040	0.000	0.540	0.037	0.000
	いずれかが大卒等	0.084	0.006	0.460	0.105	0.007	0.357	0.039	0.003	0.729	0.026	0.002	0.821
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.084	0.025	0.000	0.094	0.028	0.000	0.082	0.024	0.001	0.071	0.021	0.003
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.143	0.007	0.324	0.110	0.006	0.453	0.168	0.009	0.248	0.136	0.007	0.351
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.184	0.011	0.116	0.200	0.012	0.088	0.140	0.009	0.232	0.151	0.009	0.198
	幼少期に郡部に居住	0.046	0.003	0.731	0.031	0.002	0.814	0.067	0.004	0.612	0.059	0.003	0.658
	幼少期に海外に居住	1.304	0.010	0.135	1.201	0.010	0.170	1.070	0.009	0.221	1.210	0.010	0.166
性別	男子	1.132	0.085	0.000	1.186	0.090	0.000	1.202	0.091	0.000	1.155	0.087	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.492	0.070	0.000	/	/	/	/	/	/	0.410	0.058	0.000
	第8回社会体験該当個数	/	/	/	0.232	0.027	0.000	/	/	/	0.029	0.003	0.638
	第8回文化的体験該当個数	/	/	/	/	/	/	0.499	0.063	0.000	0.388	0.049	0.000
	(定数)	25.540		0.000	26.008		0.000	25.605		0.000	25.267		0.000
	n			20245		20245			20245				20245
	R2 乗		0.019			0.015			0.018				0.021
	調整済みR2 乗		0.018			0.014			0.017				0.021

図表 8-3-4 ③第 12 回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【自尊感情】

		分析モデル整理番号4-3-1			分析モデル整理番号4-3-2			分析モデル整理番号4-3-3			分析モデル整理番号4-3-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.426	-0.014	0.048	-0.454	-0.015	0.035	-0.435	-0.014	0.043	-0.407	-0.013	0.058
父母の収入	収入の水準	0.105	0.035	0.000	0.111	0.037	0.000	0.098	0.033	0.000	0.099	0.033	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.596	0.041	0.000	0.605	0.042	0.000	0.499	0.034	0.000	0.500	0.035	0.000
	いずれかが大卒等	0.106	0.007	0.344	0.110	0.008	0.327	0.047	0.003	0.674	0.050	0.003	0.656
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.102	0.030	0.000	0.102	0.030	0.000	0.089	0.026	0.000	0.084	0.025	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.197	0.010	0.170	0.134	0.007	0.353	0.212	0.011	0.139	0.185	0.010	0.199
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.110	0.007	0.340	0.128	0.008	0.269	0.070	0.004	0.545	0.093	0.006	0.423
	幼少期に郡部に居住	0.025	0.001	0.850	0.003	0.000	0.985	0.059	0.003	0.651	0.037	0.002	0.777
	幼少期に海外に居住	0.475	0.004	0.586	0.507	0.004	0.562	0.364	0.003	0.677	0.414	0.003	0.635
性別	男子	1.096	0.083	0.000	1.179	0.089	0.000	1.167	0.088	0.000	1.120	0.085	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第12回自然体験該当個数	0.434	0.067	0.000							0.315	0.049	0.000
	第12回社会体験該当個数				0.303	0.039	0.000				0.062	0.008	0.293
	第12回文化的体験該当個数							0.528	0.074	0.000	0.413	0.058	0.000
	(定数)	25.513		0.000	25.882		0.000	25.477		0.000	25.229		0.000
	n			20721			20721			20721			20721
	R2 乗			0.018			0.015			0.019			0.021
	調整済みR2 乗			0.017			0.014			0.018			0.020

図表 8-3-5 ④第 7 回調査の「遊び」投入モデル【自尊感情】

		分析モデル整理番号4-4-1			分析モデル整理番号4-4-2			分析モデル整理番号4-4-3			分析モデル整理番号4-4-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.402	-0.013	0.059	-0.424	-0.014	0.043	-0.314	-0.010	0.138	-0.328	-0.011	0.139
父母の収入	収入の水準	0.109	0.037	0.000	0.098	0.033	0.000	0.094	0.032	0.000	0.108	0.036	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.719	0.050	0.000	0.713	0.049	0.000	0.677	0.047	0.000	0.700	0.049	0.000
	いずれかが大卒等	0.156	0.011	0.158	0.193	0.013	0.077	0.157	0.011	0.154	0.151	0.011	0.184
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.088	0.026	0.000	0.094	0.028	0.000	0.095	0.028	0.000	0.080	0.024	0.001
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.124	0.006	0.382	0.143	0.007	0.310	0.157	0.008	0.267	0.121	0.006	0.412
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.170	0.011	0.137	0.206	0.013	0.069	0.181	0.011	0.114	0.258	0.016	0.030
	幼少期に郡部に居住	0.083	0.005	0.522	0.032	0.002	0.803	0.091	0.005	0.477	0.114	0.007	0.394
	幼少期に海外に居住	0.711	0.006	0.410	0.772	0.006	0.372	0.724	0.006	0.396	0.402	0.003	0.656
性別	男子	1.244	0.094	0.000	1.165	0.088	0.000	1.179	0.090	0.000	1.218	0.092	0.000
遊び	第7回遊び相手3項目該当個数	0.383	0.056	0.000							0.271	0.040	0.000
	第7回遊び場所3項目該当個数				0.311	0.040	0.000				0.173	0.022	0.003
	第7回遊び相手人数							0.231	0.035	0.000	0.144	0.022	0.003
	(定数)	25.475		0.000	25.630		0.000	25.527		0.000	25.049		0.000
	n			21180			21634			21142			19742
	R2 乗			0.017			0.015			0.015			0.018
	調整済みR2 乗			0.017			0.015			0.014			0.017

図表 8-3-6 ⑤第 7 回調査の「読書」投入モデル

【自尊感情】

		分析モデル整理番号4-5		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.351	-0.012	0.087
父母の収入	収入の水準	0.098	0.033	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.644	0.044	0.000
	いずれかが大卒等	0.159	0.011	0.140
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.100	0.030	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.174	0.009	0.207
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.147	0.009	0.186
	幼少期に郡部に居住	0.051	0.003	0.683
	幼少期に海外に居住	0.865	0.007	0.301
性別	男子	1.224	0.093	0.000
読書	第7回読書冊数	0.077	0.017	0.015
	(定数)	25.820		0.000
	n			22252
	R2 乗			0.014
	調整済みR2 乗			0.013

図表 8-3-7 ⑥第 9 回調査の「お手伝い」投入モデル

【自尊感情】

		分析モデル整理番号4-6		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.378	-0.013	0.064
父母の収入	収入の水準	0.097	0.033	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.680	0.047	0.000
	いずれかが大卒等	0.167	0.012	0.119
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.087	0.026	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.207	0.011	0.132
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.112	0.007	0.312
	幼少期に郡部に居住	0.077	0.004	0.537
	幼少期に海外に居住	0.859	0.007	0.297
性別	男子	1.223	0.093	0.000
お手伝い	第9回お手伝い個数	0.100	0.025	0.000
	(定数)	25.968		0.000
	n			22504
	R2 乗			0.014
	調整済みR2 乗			0.013

(4) 「自尊感情」に関する父母の収入の水準別の分析

図表 8-4-1 「自尊感情」に関する父母の収入の水準別の分析（回帰分析）

		分析モデル整理番号4-7-1			分析モデル整理番号4-7-2			分析モデル整理番号4-7-3		
		収入:中央値の2分の1未満			収入:中央値未満、中央値の2分の1以上			収入:中央値以上		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.313	-0.022	0.463	-0.655	-0.023	0.040	-0.691	-0.015	0.106
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.021	0.001	0.977	0.548	0.031	0.008	0.632	0.046	0.000
	いずれかが大卒等	0.196	0.013	0.671	0.154	0.011	0.354	-0.062	-0.004	0.710
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.096	0.031	0.294	0.078	0.023	0.037	0.064	0.018	0.053
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.693	0.049	0.124	0.008	0.000	0.970	0.197	0.008	0.405
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.271	0.014	0.650	0.434	0.025	0.033	0.027	0.002	0.857
	幼少期に郡部に居住	-0.222	-0.016	0.610	0.082	0.005	0.667	0.106	0.005	0.602
	幼少期に海外に居住	—	—	—	4.982	0.019	0.083	0.724	0.007	0.447
性別	男子	1.830	0.144	0.000	1.350	0.104	0.000	0.977	0.072	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.512	0.074	0.019	0.497	0.072	0.000	0.353	0.050	0.000
	第8回社会体験該当個数	-0.010	-0.001	0.966	0.004	0.001	0.964	0.045	0.005	0.600
	第8回文化的体験該当個数	0.795	0.109	0.001	0.240	0.031	0.008	0.472	0.057	0.000
	(定数)	24.138		0.000	25.452		0.000	25.931		0.000
	n			1116			7918			11009
	R2 乗			0.050			0.023			0.017
	調整済みR2 乗			0.041			0.022			0.016

※「収入:中央値の2分の1未満」では、「幼少期に海外に居住」の該当ケースなし

図表 8-4-2 「自尊感情」に関する父母の収入の水準別の分析（平均値差）

<自然体験>

収入:中央値の2分の1未満	第8回自然体験該当個数	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					F検定有意確率			
	0	27.4	187	0.001				
	1	27.6	352		0.984			
	2	28.4	504		0.268	0.289		
	3	29.6	194		0.004	0.003	0.109	
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回自然体験該当個数	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					F検定有意確率			
						0	27.3	1053
1	27.9	2298	0.036					
2	28.7	3296	0.000	0.000				
3	29.1	1802	0.000	0.000		0.187		
収入:中央値以上	第8回自然体験該当個数	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					F検定有意確率			
						0	27.9	1202
1	28.5	2791	0.098					
2	28.9	4460	0.000	0.019				
3	29.5	3159	0.000	0.000		0.001		

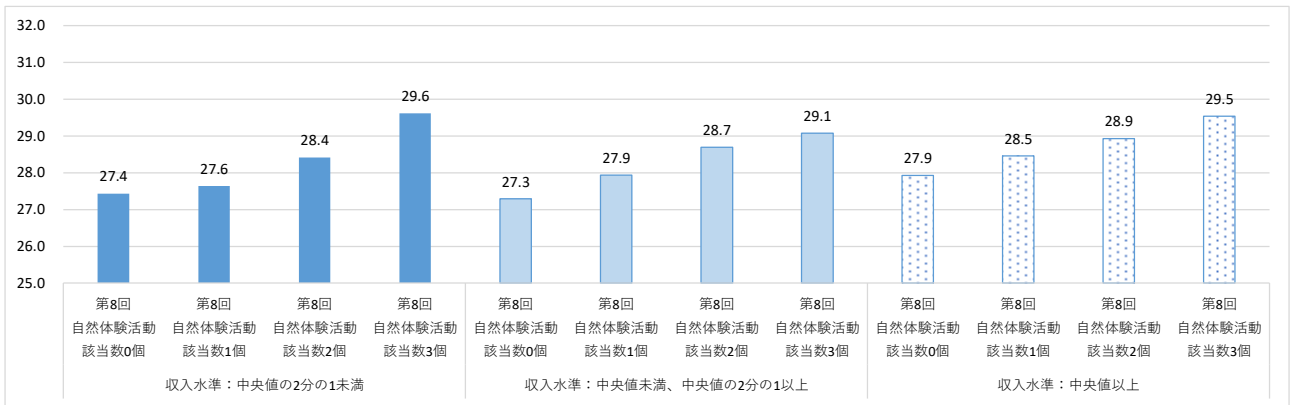
<社会体験>

収入:中央値の2分の1未満	第8回社会体験該当個数	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					F検定有意確率			
	0	27.9	590	0.170				
	1	28.3	428		0.787			
	2	29.1	175		0.139	0.500		
	3	28.8	44		0.808	0.957	0.993	
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回社会体験該当個数	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					F検定有意確率			
						0	28.1	4026
1	28.7	3202	0.000					
2	28.5	1010	0.306	0.800				
3	28.4	211	0.900	0.922		0.999		
収入:中央値以上	第8回社会体験該当個数	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					F検定有意確率			
						0	28.7	5533
1	29.0	4406	0.033					
2	29.3	1392	0.010	0.592				
3	29.2	281	0.500	0.960		0.999		

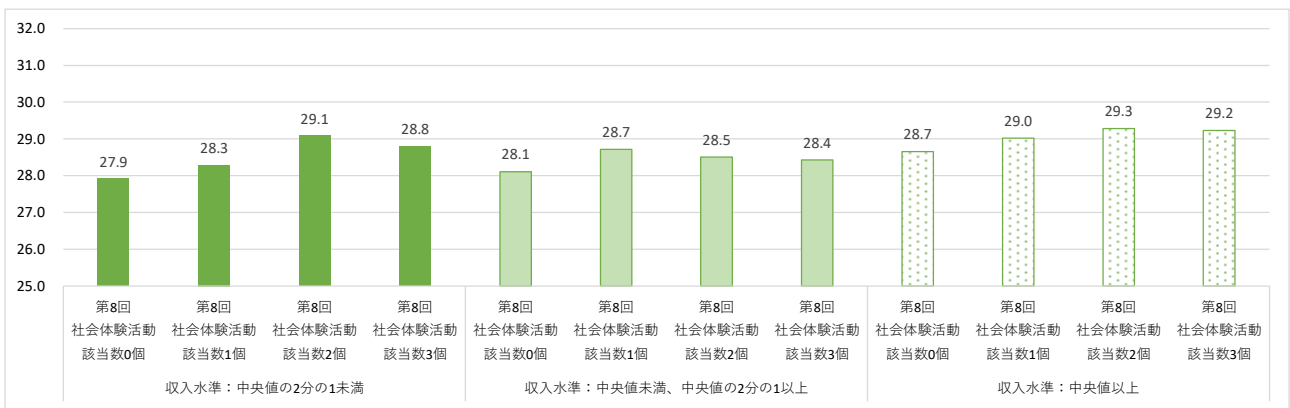
<文化的体験>

収入:中央値の2分の1未満	第8回文化的体験該当個数	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					F検定有意確率			
	0	27.0	175	0.000				
	1	27.9	502		0.434			
	2	28.4	416		0.074	0.569		
	3	30.5	144		0.000	0.000	0.003	
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回文化的体験該当個数	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					F検定有意確率			
						0	28.4	757
1	27.9	3218	0.159					
2	28.5	3216	0.995	0.001				
3	29.3	1258	0.015	0.000		0.001		
収入:中央値以上	第8回文化的体験該当個数	自尊感情尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					F検定有意確率			
						0	28.1	573
1	28.3	3615	0.925					
2	29.0	5000	0.024	0.000				
3	29.7	2424	0.000	0.000		0.000		

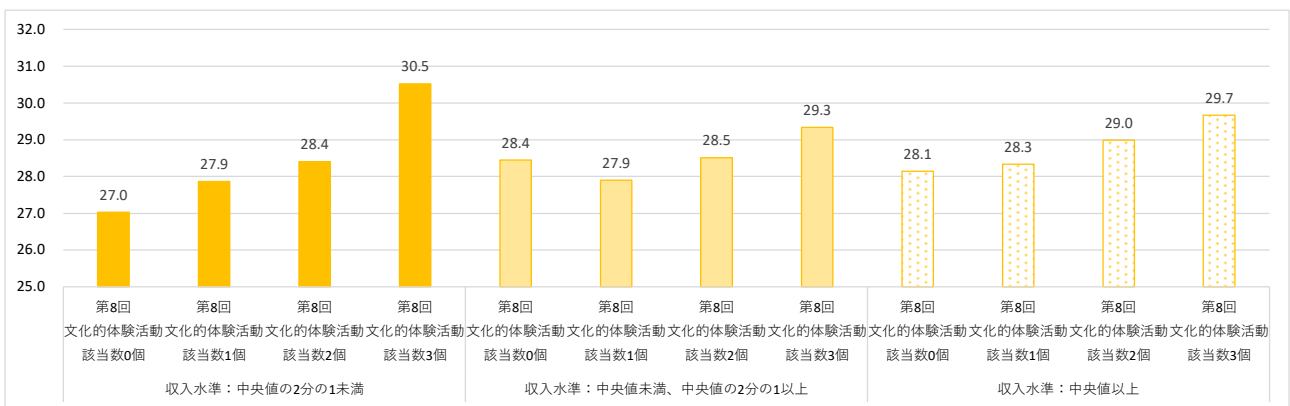
図表 8-4-3 「自尊感情」に関する父母の収入の水準別の分析（「自然体験」による平均値差）



図表 8-4-4 「自尊感情」に関する父母の収入の水準別の分析（「社会体験」による平均値差）



図表 8-4-5 「自尊感情」に関する父母の収入の水準別の分析（「文化的体験」による平均値差）



9. 「外向性」についての分析

(1) 「外向性」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係

図表 9-1-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
世帯類型	父母同居	8.6	22991	0.149
	ひとり親世帯	8.7	1281	

図表 9-1-2 ②父母の収入と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較											
収入11分類					100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 300万円未満	300万円以上 400万円未満	400万円以上 500万円未満	500万円以上 600万円未満	600万円以上 700万円未満	700万円以上 800万円未満	800万円以上 900万円未満	900万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上	
100万円未満	100万円以上 200万円未満	8.3	122	0.000												
	200万円以上 300万円未満	8.7	428		0.983											
	300万円以上 400万円未満	8.4	1564		1.000	0.888										
	400万円以上 500万円未満	8.5	3656		1.000	0.980	0.999									
	500万円以上 600万円未満	8.5	4767		1.000	0.980	0.999	1.000								
	600万円以上 700万円未満	8.6	4435		0.996	1.000	0.757	0.961	0.949							
	700万円以上 800万円未満	8.6	3210		0.988	1.000	0.487	0.754	0.708	1.000						
	800万円以上 900万円未満	8.6	2220		0.993	1.000	0.707	0.933	0.922	1.000	1.000					
	900万円以上 1,000万円未満	8.6	1377		0.996	1.000	0.908	0.994	0.994	1.000	1.000	1.000				
	1,000万円以上	8.7	833		0.986	1.000	0.789	0.956	0.954	1.000	1.000	1.000	1.000			
	1,000万円以上	8.9	1577		0.555	0.944	0.000	0.000	0.000	0.000	0.008	0.071	0.080	0.121	0.621	

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較		
等価世帯所得 の水準					中央値の2分の1 未満	中央値未満、中央 値の2分の1以上	中央値以上
等価世帯所得 の水準	中央値の2分の1 未満	8.5	1410	0.027			
	中央値未満、中央 値の2分の1以上	8.5	9523		0.861		
	中央値以上	8.6	12993		0.213	0.044	

図表 9-1-3 ③父母の学歴と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較		
父母の学歴					ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業
父母の学歴	ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	8.5	10017	0.013			
	いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	8.6	7227		0.776		
	ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業	8.7	6848		0.011	0.096	

図表 9-1-4 ④親子のかかわり・しつけと「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較								
					6以下	7	8	9	10	11	12	13	
しつけの実施 該当個数	6以下	7.9	789	0.000									
	7	8.2	813		0.509								
	8	8.2	1459		0.173	1.000							
	9	8.3	2355		0.016	0.972	0.994						
	10	8.5	3425		0.000	0.056	0.025	0.091					
	11	8.6	4674		0.000	0.001	0.000	0.000	0.743				
	12	8.8	5289		0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.076			
	13	8.9	4177		0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.720		

⑤住環境等と「外向性」

図表 9-1-5 居住環境の分類と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較				
					住宅の多い地域	商店の多い地域	工場の多い地域	田園・山間地域	その他
居住環境	住宅の多い地域	8.6	19072	0.549					
	商店の多い地域	8.6	809		0.989				
	工場の多い地域	8.5	302		0.975	0.999			
	田園・山間地域	8.5	3319		0.567	0.999	1.000		
	その他	8.5	513		0.943	0.998	1.000	1.000	

図表 9-1-6 居住の自治体の分類と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					14大都市	その他の市	郡部	外国
居住の自治体 の分類	14大都市	8.7	5196	0.192				
	その他の市	8.6	14579		0.297			
	郡部	8.6	4257		0.486	1.000		
	外国	9.0	75		0.755	0.602	0.601	

図表 9-1-7 ⑥子供の性別と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
性別	男	8.4	12347	0.000
	女	8.8	11925	

(2) 「外向性」と「体験」との関係

図表 9-2-1 ①第 8 回調査の「自然体験」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回自然体 験該当個数	0			0.000				
	1	8.2	2454					
	2	8.4	5477		0.034			
	3	8.7	8340		0.000	0.000		
		8.9	5199		0.000	0.000	0.000	

図表 9-2-2 ②第 8 回調査の「社会体験」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回社会体 験該当個数	0			0.000				
	1	8.5	10215					
	2	8.6	8113		0.006			
	3	8.8	2587		0.000	0.003		
		9.0	555		0.004	0.443		

図表 9-2-3 ③第 8 回調査の「文化的体験」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回文化的 体験該当個数	0			0.000				
	1	8.3	1507					
	2	8.3	7389		0.995			
	3	8.6	8725		0.000	0.000		
		9.1	3849		0.000	0.000	0.000	

図表 9-2-4 ④第 12 回調査の「自然体験」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回自然 体験該当個数	0			0.000				
	1	8.2	4545					
	2	8.5	6146		0.000			
	3	8.7	7105		0.000	0.000		
		8.9	4234		0.000	0.000	0.004	

図表 9-2-5 ⑤第 12 回調査の「社会体験」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回社会 体験該当個数	0			0.000				
	1	8.4	11577					
	2	8.7	6881		0.000			
	3	8.8	2643		0.000	0.087		
		9.2	929		0.000	0.000	0.012	

図表 9-2-6 ⑥第 12 回調査の「文化的体験」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回文化 的体験該当個 数	0			0.000				
	1	8.1	2562					
	2	8.3	6729		0.002			
	3	8.7	8153		0.000	0.000		
		9.1	4586		0.000	0.000	0.000	

図表 9-2-7 ⑦第 7 回調査の「遊び相手の多様性」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
第7回遊び相手3項目該当個数	0	8.0	3018	0.000				
	1	8.4	5750		0.000			
	2	8.7	8411		0.000	0.000		
	3	9.0	5305		0.000	0.000	0.000	

図表 9-2-8 ⑧第 7 回調査の「遊ぶ場所の多様性」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
遊び場所3項目該当個数	0	8.2	1160	0.000				
	1	8.5	8037		0.007			
	2	8.6	8804		0.000	0.002		
	3	8.9	4983		0.000	0.000	0.000	

図表 9-2-9 ⑨第 7 回調査の「遊び相手の人数の多寡」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0人	1人	2人	3人以上
第7回遊び相手人数	0人	8.3	1852	0.000				
	1人	8.3	4593		0.793			
	2人	8.6	5295		0.001	0.001		
	3人以上	8.8	10747		0.000	0.000	0.000	

図表 9-2-10 ⑩第 7 回調査の「読書」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較					
					読まない	1冊	2, 3冊	4冊~7冊	8冊~11冊	12冊以上
第7回読書	読まない	8.4	1476	0.035						
	1冊	8.6	2778		0.290					
	2, 3冊	8.5	6829		0.885	0.594				
	4冊~7冊	8.6	6376		0.436	0.989	0.050			
	8冊~11冊	8.6	2229		0.524	0.999	0.070	0.070		
	12冊以上	8.7	3996		0.059	0.981	0.057	0.076	0.905	

図表 9-2-11 ⑪第 9 回調査の「お手伝い」と「外向性」

		外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較							
					0	1	2	3	4	5	6	7
第9回お手伝い個数	0	8.3	1351	0.000								
	1	8.5	4382		0.233							
	2	8.5	5912		0.288	1.000						
	3	8.6	5112		0.020	0.904	0.700					
	4	8.7	3437		0.000	0.009	0.001	0.208				
	5	8.8	2081		0.000	0.002	0.000	0.060	0.992			
	6	8.9	1192		0.000	0.000	0.000	0.006	0.544	0.947		
	7	9.0	543		0.000	0.007	0.004	0.045	0.606	0.909	1.000	

(3) 「外向性」に関する回帰分析

図表 9-3-1 「外向性」に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号					
		5-1	5-2-4	5-3-4	5-4-4	5-5	5-6
世帯類型	ひとり親世帯						
父母の収入	収入の水準	***	*	***	***	***	***
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等				*		
	いずれかが大卒等						
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***	***	***	***	***	***
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住						
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住						
	幼少期に郡部に居住						
	幼少期に海外に居住						
性別	男子	***	***	***	***	***	***
自然体験・社会体験・ 文化的体験①	小学2年生自然体験の多寡	/	***	/	/	/	/
	小学2年生社会体験の多寡	/	/	/	/	/	/
	小学2年生文化的体験の多寡	/	***	/	/	/	/
自然体験・社会体験・ 文化的体験②	小学6年生自然体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生社会体験の多寡	/	/	*	/	/	/
	小学6年生文化的体験の多寡	/	/	***	/	/	/
遊び	小学1年生遊び相手の多様性	/	/	/	***	/	/
	小学1年生遊び場所の多様性	/	/	/	***	/	/
	小学1年生遊び相手人数の多寡	/	/	/	***	/	/
読書	小学1年生読書冊数	/	/	/	/	/	/
お手伝い	小学3年生手伝い経験の多寡	/	/	/	/	/	***

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 9-3-2 ①家庭による背景・要因・属性等のみのモデル【外向性】

		分析モデル整理番号5-1		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.159	0.012	0.071
父母の収入	収入の水準	0.039	0.030	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.095	0.015	0.058
	いずれかが大卒等	0.008	0.001	0.862
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.129	0.088	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.036	-0.004	0.548
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.048	0.007	0.313
	幼少期に郡部に居住	0.043	0.006	0.426
	幼少期に海外に居住	0.174	0.003	0.627
性別	男子	-0.418	-0.073	0.000
	(定数)	7.137		0.000
	n			22673
	R2 乗			0.014
	調整済みR2 乗			0.014

図表 9-3-3 ②第8回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【外向性】

		分析モデル整理番号5-2-1			分析モデル整理番号5-2-2			分析モデル整理番号5-2-3			分析モデル整理番号5-2-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.152	0.011	0.112	0.153	0.011	0.109	0.147	0.011	0.123	0.151	0.011	0.112
父母の収入	収入の水準	0.031	0.024	0.002	0.037	0.029	0.000	0.027	0.021	0.007	0.024	0.018	0.017
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.093	0.015	0.079	0.119	0.019	0.025	0.060	0.010	0.258	0.040	0.006	0.448
	いずれかが大卒等	0.014	0.002	0.768	0.023	0.004	0.643	-0.009	-0.001	0.850	-0.016	-0.003	0.745
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.124	0.085	0.000	0.127	0.087	0.000	0.121	0.083	0.000	0.115	0.079	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.043	-0.005	0.489	-0.066	-0.008	0.298	-0.029	-0.003	0.649	-0.053	-0.006	0.405
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.069	0.010	0.172	0.078	0.011	0.125	0.047	0.007	0.360	0.054	0.008	0.290
	幼少期に郡部に居住	0.035	0.005	0.540	0.030	0.004	0.606	0.051	0.007	0.374	0.042	0.006	0.465
	幼少期に海外に居住	0.175	0.003	0.643	0.133	0.002	0.726	0.076	0.001	0.841	0.133	0.002	0.725
性別	男子	-0.426	-0.074	0.000	-0.400	-0.070	0.000	-0.391	-0.068	0.000	-0.413	-0.072	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.233	0.077	0.000	/	/	/	/	/	/	0.183	0.060	0.000
	第8回社会体験該当個数	/	/	/	0.141	0.038	0.000	/	/	/	0.043	0.012	0.111
	第8回文化的体験該当個数	/	/	/	/	/	/	0.269	0.079	0.000	0.213	0.062	0.000
	(定数)	6.822		0.000	7.039		0.000	6.827		0.000	6.674		0.000
	n			20156			20156			20156			20156
	R2 乗			0.020			0.016			0.020			0.024
	調整済みR2 乗			0.020			0.015			0.020			0.023

図表 9-3-4 ③第 12 回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【外向性】

		分析モデル整理番号5-3-1			分析モデル整理番号5-3-2			分析モデル整理番号5-3-3			分析モデル整理番号5-3-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.163	0.012	0.080	0.151	0.011	0.106	0.159	0.012	0.087	0.177	0.013	0.056
父母の収入	収入の水準	0.040	0.031	0.000	0.043	0.033	0.000	0.035	0.027	0.000	0.036	0.028	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.055	0.009	0.290	0.062	0.010	0.236	-0.001	0.000	0.989	-0.003	-0.001	0.950
	いずれかが大卒等	0.000	0.000	0.992	0.003	0.000	0.955	-0.033	-0.005	0.498	-0.032	-0.005	0.502
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.127	0.087	0.000	0.126	0.086	0.000	0.118	0.081	0.000	0.115	0.078	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.049	-0.006	0.431	-0.086	-0.010	0.166	-0.036	-0.004	0.566	-0.059	-0.007	0.339
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.036	0.005	0.469	0.047	0.007	0.347	0.013	0.002	0.800	0.028	0.004	0.577
	幼少期に郡部に居住	0.020	0.003	0.720	0.004	0.001	0.940	0.041	0.005	0.469	0.026	0.003	0.642
	幼少期に海外に居住	0.257	0.005	0.495	0.264	0.005	0.484	0.184	0.003	0.626	0.222	0.004	0.555
性別	男子	-0.452	-0.079	0.000	-0.406	-0.071	0.000	-0.413	-0.072	0.000	-0.436	-0.076	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第12回自然体験該当個数	0.236	0.084	0.000							0.158	0.057	0.000
	第12回社会体験該当個数				0.191	0.056	0.000				0.057	0.017	0.024
	第12回文化的体験該当個数							0.321	0.104	0.000	0.256	0.083	0.000
	(定数)	6.843		0.000	7.033		0.000	6.791		0.000	6.663		0.000
n			20627			20627			20627				20627
R2 乗			0.022			0.018			0.025				0.029
調整済みR2 乗			0.021			0.017			0.025				0.028

図表 9-3-5 ④第 7 回調査の「遊び」投入モデル【外向性】

		分析モデル整理番号5-4-1			分析モデル整理番号5-4-2			分析モデル整理番号5-4-3			分析モデル整理番号5-4-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.111	0.008	0.231	0.152	0.012	0.094	0.152	0.012	0.099	0.136	0.010	0.157
父母の収入	収入の水準	0.048	0.037	0.000	0.043	0.033	0.000	0.039	0.030	0.000	0.051	0.039	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.121	0.019	0.019	0.110	0.017	0.031	0.100	0.016	0.054	0.121	0.019	0.023
	いずれかが大卒等	0.022	0.004	0.643	0.024	0.004	0.613	0.001	0.000	0.981	0.015	0.002	0.764
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.111	0.076	0.000	0.123	0.084	0.000	0.120	0.082	0.000	0.107	0.072	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.026	-0.003	0.676	-0.025	-0.003	0.678	-0.036	-0.004	0.558	-0.041	-0.005	0.521
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.056	0.008	0.259	0.063	0.009	0.201	0.040	0.006	0.423	0.062	0.009	0.227
	幼少期に郡部に居住	0.036	0.005	0.516	0.020	0.003	0.719	0.048	0.006	0.390	0.038	0.005	0.508
	幼少期に海外に居住	0.162	0.003	0.658	0.204	0.004	0.579	0.259	0.005	0.479	0.293	0.005	0.444
性別	男子	-0.397	-0.069	0.000	-0.452	-0.079	0.000	-0.434	-0.076	0.000	-0.419	-0.073	0.000
遊び	第7回遊び相手3項目該当個数	0.326	0.111	0.000							0.266	0.090	0.000
	第7回遊び場所3項目該当個数				0.211	0.062	0.000				0.104	0.031	0.000
	第7回遊び相手人数							0.201	0.070	0.000	0.104	0.036	0.000
	(定数)	6.701		0.000	6.814		0.000	6.628		0.000	6.343		0.000
n			21074			21546			21059				19655
R2 乗			0.026			0.018			0.019				0.028
調整済みR2 乗			0.026			0.018			0.018				0.027

図表 9-3-6 ⑤第 7 回調査の「読書」投入モデル

【外向性】

		分析モデル整理番号5-5		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.143	0.011	0.112
父母の収入	収入の水準	0.040	0.031	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.096	0.015	0.059
	いずれかが大卒等	0.010	0.002	0.833
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.131	0.089	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.028	-0.003	0.638
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.051	0.007	0.293
	幼少期に郡部に居住	0.040	0.005	0.460
	幼少期に海外に居住	0.178	0.003	0.619
性別	男子	-0.420	-0.073	0.000
読書	第7回読書冊数	-0.004	-0.002	0.764
(定数)		7.132		0.000
n				22158
R2 乗				0.014
調整済みR2 乗				0.014

図表 9-3-7 ⑥第 9 回調査の「お手伝い」投入モデル

【外向性】

		分析モデル整理番号5-6		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.169	0.013	0.058
父母の収入	収入の水準	0.038	0.030	0.000
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.088	0.014	0.078
	いずれかが大卒等	-0.001	0.000	0.983
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.123	0.084	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	-0.032	-0.004	0.593
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.037	0.005	0.448
	幼少期に郡部に居住	0.046	0.006	0.402
	幼少期に海外に居住	0.171	0.003	0.631
性別	男子	-0.401	-0.070	0.000
お手伝い	第9回お手伝い個数	0.048	0.028	0.000
(定数)		7.074		0.000
n				22441
R2 乗				0.015
調整済みR2 乗				0.015

(4) 「外向性」に関する父母の収入の水準別の分析

図表 9-4-1 「外向性」に関する父母の収入の水準別の分析 (回帰分析)

		分析モデル整理番号5-7-1			分析モデル整理番号5-7-2			分析モデル整理番号5-7-3		
		収入:中央値の2分の1未満			収入:中央値未満、中央値の2分の1以上			収入:中央値以上		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.197	0.030	0.322	0.205	0.016	0.148	-0.073	-0.004	0.685
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.407	0.037	0.233	0.213	0.027	0.021	0.008	0.001	0.912
	いずれかが大卒等	-0.043	-0.006	0.842	0.014	0.002	0.849	-0.044	-0.007	0.538
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.090	0.065	0.036	0.111	0.075	0.000	0.122	0.084	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.071	0.011	0.738	-0.036	-0.005	0.691	-0.101	-0.010	0.313
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.225	0.026	0.417	0.069	0.009	0.445	0.039	0.006	0.547
	幼少期に郡部に居住	0.251	0.040	0.219	0.051	0.007	0.547	-0.002	0.000	0.985
	幼少期に海外に居住	-	-	-	-0.875	-0.008	0.491	0.166	0.004	0.681
性別	男子	-0.037	-0.006	0.834	-0.324	-0.057	0.000	-0.494	-0.086	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.244	0.077	0.018	0.223	0.073	0.000	0.156	0.051	0.000
	第8回社会体験該当個数	0.009	0.003	0.937	0.030	0.008	0.490	0.047	0.013	0.195
	第8回文化的体験該当個数	0.291	0.089	0.006	0.124	0.036	0.002	0.279	0.079	0.000
	(定数)	6.513		0.000	6.844		0.000	6.759		0.000
	n			1081			7913			10959
	R2 乗			0.029			0.020			0.028
	調整済みR2 乗			0.019			0.018			0.027

※「収入:中央値の2分の1未満」では、「幼少期に海外に居住」の該当ケースなし

図表 9-4-2 「外向性」に関する父母の収入の水準別の分析 (平均値差)

<自然体験>

収入:中央値の2分の1未満	第8回自然体験該当個数	外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.570	0.461		
	0	7.9	172	0.003				
	1	8.3	340					
	2	8.6	508					
	3	9.0	183					
					0.003	0.034	0.323	

収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回自然体験該当個数	外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.121	0.000	0.002	
	0	8.1	1048	0.000				
	1	8.3	2245					
	2	8.6	3276					
	3	8.9	1858					
					0.000	0.000	0.003	

収入:中央値以上	第8回自然体験該当個数	外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.684	0.000	0.000	
	0	8.3	1198	0.000				
	1	8.4	2812					
	2	8.7	4436					
	3	8.9	3097					
					0.000	0.000	0.033	

<社会体験>

収入:中央値の2分の1未満	第8回社会体験該当個数	外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.174	0.265	0.990	
	0	8.3	571	0.123				
	1	8.6	420					
	2	8.7	169					
	3	8.6	43					
					0.893	0.999	0.993	

収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回社会体験該当個数	外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.134	0.074	0.782	
	0	8.4	4016	0.000				
	1	8.6	3192					
	2	8.7	1001					
	3	9.1	218					
					0.002	0.023	0.120	

収入:中央値以上	第8回社会体験該当個数	外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.243	0.000	0.003	
	0	8.5	5482	0.000				
	1	8.6	4395					
	2	8.9	1379					
	3	9.0	287					
					0.032	0.156	0.991	

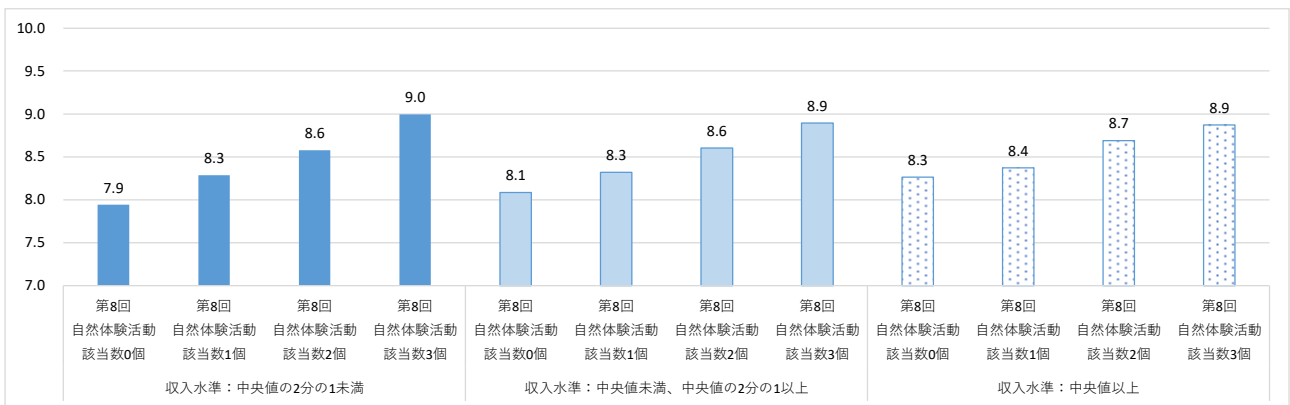
<文化的体験>

収入:中央値の2分の1未満	第8回文化的体験該当個数	外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.112	0.035	0.891	
	0	7.8	163	0.000				
	1	8.4	490					
	2	8.5	400					
	3	9.3	150					
					0.000	0.003	0.022	

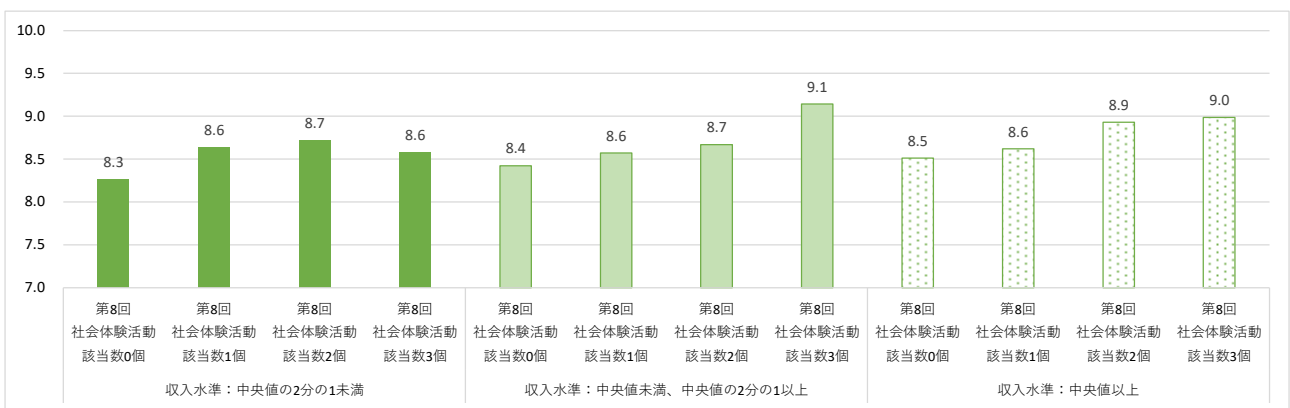
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回文化的体験該当個数	外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.997	0.455	0.034	
	0	8.4	752	0.000				
	1	8.4	3216					
	2	8.5	3213					
	3	9.0	1246					
					0.000	0.000	0.000	

収入:中央値以上	第8回文化的体験該当個数	外向性尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.959	0.047	0.000	
	0	8.3	566	0.000				
	1	8.3	3575					
	2	8.7	4992					
	3	9.1	2410					
					0.000	0.000	0.000	

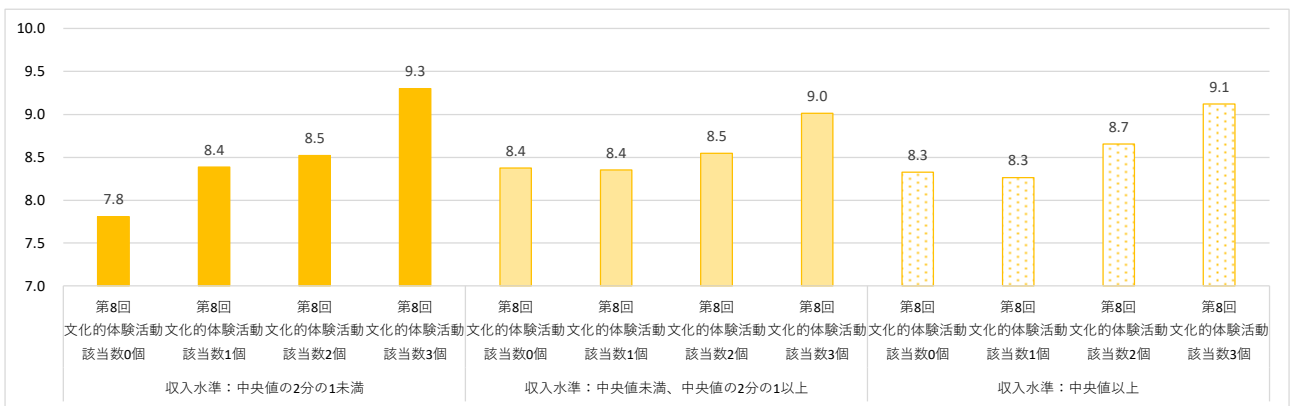
図表 9-4-3 「外向性」に関する父母の収入の水準別の分析（「自然体験」による平均値差）



図表 9-4-4 「外向性」に関する父母の収入の水準別の分析（「社会体験」による平均値差）



図表 9-4-5 「外向性」に関する父母の収入の水準別の分析（「文化的体験」による平均値差）



10. 「新奇性追求」についての分析

(1) 「新奇性追求」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係

図表 10-1-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と「新奇性追求」

世帯類型		新奇性追求尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
	父母同居	10.8	22989	0.543
	ひとり親世帯	10.7	1284	

図表 10-1-2 ②父母の収入と「新奇性追求」

収入11分類	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較																		
				100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 300万円未満	300万円以上 400万円未満	400万円以上 500万円未満	500万円以上 600万円未満	600万円以上 700万円未満	700万円以上 800万円未満	800万円以上 900万円未満	900万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上								
100万円未満	10.4	121	0.070																			
100万円以上 200万円未満	10.9	429		0.874																		
200万円以上 300万円未満	10.7	1563		0.996	0.962																	
300万円以上 400万円未満	10.7	3655		0.965	0.999	0.997																
400万円以上 500万円未満	10.7	4767		0.989	0.976	1.000	0.999															
500万円以上 600万円未満	10.8	4435		0.909	1.000	0.879	0.999	0.782														
600万円以上 700万円未満	10.7	3213		0.988	0.985	1.000	1.000	1.000	0.916													
700万円以上 800万円未満	10.8	2220		0.952	1.000	0.992	1.000	0.996	1.000	0.999												
800万円以上 900万円未満	10.9	1377		0.675	1.000	0.306	0.636	0.202	0.933	0.314	0.860											
900万円以上 1,000万円未満	10.9	834		0.747	1.000	0.636	0.916	0.617	0.994	0.710	0.976	1.000										
1,000万円以上	10.8	1577		0.895	1.000	0.913	0.999	0.910	1.000	0.957	1.000	0.995	1.000									

等価世帯所得 の水準	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較		
				中央値の2分の1 未満	中央値未満、中央 値の2分の1以上	中央値以上
中央値の2分の1 未満	10.8	1411	0.222			
中央値未満、中央 値の2分の1以上	10.7	9519		0.905		
中央値以上	10.8	12997		0.916	0.193	

図表 10-1-3 ③父母の学歴と「新奇性追求」

父母の学歴	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較		
				ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業
ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	10.7	10021	0.001			
いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	10.7	7227		0.791		
ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業	10.9	6844		0.001	0.012	

図表 10-1-4 ④親子のかかわり・しつけと「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較								
					6以下	7	8	9	10	11	12	13	
しつけの実施 該当個数	6以下	10.5	794	0.000									
	7	10.7	816		0.961								
	8	10.6	1459		0.998	0.999							
	9	10.7	2350		0.848	1.000	0.985						
	10	10.7	3427		0.613	1.000	0.862	1.000					
	11	10.8	4673		0.135	0.909	0.204	0.665	0.870				
	12	10.9	5288		0.013	0.444	0.011	0.065	0.113	0.835			
	13	10.8	4181		0.028	0.584	0.031	0.164	0.283	0.965	1.000		

⑤住環境等と「新奇性追求」

図表 10-1-5 居住環境の分類と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較				
					住宅の多い地域	商店の多い地域	工場の多い地域	田園・山間地域	その他
居住環境	住宅の多い地域	10.8	19073	0.423					
	商店の多い地域	10.8	810		0.969				
	工場の多い地域	10.5	302		0.649	0.553			
	田園・山間地域	10.8	3317		0.857	1.000	0.478		
	その他	10.7	514		0.963	0.883	0.961	0.843	

図表 10-1-6 居住の自治体の分類と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					14大都市	その他の市	郡部	外国
居住の自治体 の分類	14大都市	10.7	5191	0.000				
	その他の市	10.8	14583		0.721			
	郡部	10.8	4259		0.807	1.000		
	外国	11.2	75		0.500	0.589	0.603	

図表 10-1-7 ⑥子供の性別と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
性別	男	10.7	12340	0.000
	女	10.9	11933	

(2) 「新奇性追求」と「体験」との関係

図表 10-2-1 ①第 8 回調査の「自然体験」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回自然体 験該当個数	0			0.000				
	1	10.5	2458					
	2	10.6	5482		0.390			
	3	10.8	8333		0.000	0.000		
		11.0	5201		0.000	0.000	0.002	

図表 10-2-2 ②第 8 回調査の「社会体験」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回社会体 験該当個数	0			0.000				
	1	10.6	10224					
	2	10.8	8110		0.000			
	3	11.0	2585		0.000	0.041		
		11.3	555		0.000	0.002	0.148	

図表 10-2-3 ③第 8 回調査の「文化的体験」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回文化的 体験該当個数	0			0.000				
	1	10.5	1510					
	2	10.5	7388		0.947			
	3	10.8	8727		0.000	0.000		
		11.1	3849		0.000	0.000	0.000	

図表 10-2-4 ④第 12 回調査の「自然体験」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回自然 体験該当個数	0			0.000				
	1	10.5	4542					
	2	10.7	6147		0.011			
	3	10.8	7104		0.000	0.000		
		11.0	4236		0.000	0.000	0.002	

図表 10-2-5 ⑤第 12 回調査の「社会体験」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回社会 体験該当個数	0			0.000				
	1	10.6	11581					
	2	10.8	6873		0.000			
	3	11.1	2645		0.000	0.000		
		11.4	930		0.000	0.000	0.054	

図表 10-2-6 ⑥第 12 回調査の「文化的体験」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回文化 的体験該当個 数	0			0.000				
	1	10.4	2556					
	2	10.6	6728		0.046			
	3	10.8	8160		0.000	0.000		
		11.1	4585		0.000	0.000	0.000	

図表 10-2-7 ⑦第7回調査の「遊び相手の多様性」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第7回遊び相手3項目該当個数	0	10.5	3019	0.000				
	1	10.6	5740		0.063			
	2	10.8	8423		0.000	0.008		
	3	11.0	5303		0.000	0.000	0.000	

図表 10-2-8 ⑧第7回調査の「遊ぶ場所の多様性」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
遊び場所3項目該当個数	0	10.6	1162	0.000				
	1	10.7	8030		0.833			
	2	10.8	8813		0.060	0.005		
	3	10.9	4979		0.002	0.000	0.144	

図表 10-2-9 ⑨第7回調査の「遊び相手の人数の多寡」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0人	1人	2人	3人以上
第7回遊び相手人数	0人	10.7	1855	0.001				
	1人	10.7	4591		0.992			
	2人	10.7	5287		0.930	0.975		
	3人以上	10.8	10751		0.053	0.008	0.024	

図表 10-2-10 ⑩第7回調査の「読書」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較					
					読まない	1冊	2,3冊	4冊~7冊	8冊~11冊	12冊以上
第7回読書	読まない	10.5	1479	0.000						
	1冊	10.6	2780		0.807					
	2,3冊	10.7	6831		0.015	0.178				
	4冊~7冊	10.8	6372		0.000	0.001	0.047			
	8冊~11冊	10.8	2228		0.000	0.002	0.066	0.066		
	12冊以上	11.0	3995		0.000	0.000	0.054	0.071	0.382	

図表 10-2-11 ⑪第9回調査の「お手伝い」と「新奇性追求」

		新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較								
					0	1	2	3	4	5	6	7	
第9回お手伝い個数	0	10.4	1355	0.000									
	1	10.6	4391		0.480								
	2	10.7	5903		0.130	0.984							
	3	10.8	5110		0.001	0.047	0.278						
	4	10.9	3433		0.000	0.000	0.001	0.410					
	5	10.9	2082		0.000	0.000	0.001	0.301	1.000				
	6	11.1	1190		0.000	0.000	0.000	0.012	0.523	0.839			
	7	11.1	547		0.000	0.000	0.002	0.066	0.580	0.802	1.000		

(3) 「新奇性追求」に関する回帰分析

図表 10-3-1 「新奇性追求」に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号					
		6-1	6-2-4	6-3-4	6-4-4	6-5	6-6
世帯類型	ひとり親世帯						
父母の収入	収入の水準						
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	**			*	*	**
	いずれかが大卒等						
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***	***	***	***	***	***
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住						
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住						
	幼少期に郡部に居住						
	幼少期に海外に居住						
性別	男子	***	***	***	***	***	***
自然体験・社会体験・ 文化的体験①	小学2年生自然体験の多寡	/	***	/	/	/	/
	小学2年生社会体験の多寡	/	***	/	/	/	/
	小学2年生文化的体験の多寡	/	***	/	/	/	/
自然体験・社会体験・ 文化的体験②	小学6年生自然体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生社会体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生文化的体験の多寡	/	/	***	/	/	/
遊び	小学1年生遊び相手の多様性	/	/	/	***	/	/
	小学1年生遊び場所の多様性	/	/	/	**	/	/
	小学1年生遊び相手人数の多寡	/	/	/	/	/	/
読書	小学1年生読書冊数	/	/	/	/	***	/
お手伝い	小学3年生手伝い経験の多寡	/	/	/	/	/	***

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 10-3-2 ①家庭による背景・要因・属性等のみのモデル【新奇性追求】

		分析モデル整理番号6-1		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.014	-0.001	0.865
父母の収入	収入の水準	0.011	0.009	0.241
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.135	0.023	0.004
	いずれかが大卒等	0.017	0.003	0.690
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.051	0.037	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.078	0.010	0.166
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.058	-0.009	0.207
	幼少期に郡部に居住	-0.013	-0.002	0.794
	幼少期に海外に居住	0.157	0.003	0.643
性別	男子	-0.209	-0.039	0.000
	(定数)	10.220		0.000
	n			22680
	R2 乗			0.003
	調整済みR2 乗			0.003

図表 10-3-3 ②第8回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【新奇性追求】

		分析モデル整理番号6-2-1			分析モデル整理番号6-2-2			分析モデル整理番号6-2-3			分析モデル整理番号6-2-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.007	-0.001	0.938	-0.004	0.000	0.966	-0.011	-0.001	0.903	-0.004	0.000	0.961
父母の収入	収入の水準	0.002	0.002	0.807	0.007	0.005	0.486	-0.001	-0.001	0.944	-0.002	-0.002	0.813
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.136	0.023	0.007	0.146	0.024	0.004	0.110	0.019	0.029	0.093	0.016	0.066
	いずれかが大卒等	0.014	0.002	0.771	0.014	0.002	0.757	-0.005	-0.001	0.916	-0.012	-0.002	0.799
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.048	0.035	0.000	0.047	0.034	0.000	0.046	0.034	0.000	0.039	0.029	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.082	0.010	0.168	0.040	0.005	0.505	0.093	0.012	0.120	0.049	0.006	0.415
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.050	-0.008	0.301	-0.038	-0.006	0.429	-0.068	-0.010	0.162	-0.055	-0.008	0.256
	幼少期に郡部に居住	-0.021	-0.003	0.705	-0.031	-0.004	0.567	-0.009	-0.001	0.872	-0.023	-0.003	0.675
	幼少期に海外に居住	0.178	0.003	0.621	0.155	0.003	0.666	0.104	0.002	0.773	0.153	0.003	0.669
性別	男子	-0.237	-0.044	0.000	-0.218	-0.040	0.000	-0.211	-0.039	0.000	-0.226	-0.042	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.171	0.060	0.000	/	/	/	/	/	/	0.118	0.041	0.000
	第8回社会体験該当個数	/	/	/	0.198	0.057	0.000	/	/	/	0.132	0.038	0.000
	第8回文化的体験該当個数	/	/	/	/	/	/	0.204	0.063	0.000	0.146	0.045	0.000
	(定数)	10.007		0.000	10.147		0.000	10.005		0.000	9.904		0.000
	n			20165			20165			20165			20165
	R2 乗			0.007			0.007			0.008			0.011
	調整済みR2 乗			0.007			0.007			0.007			0.011

図表 10-3-4 ③第 12 回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【新奇性追求】

		分析モデル整理番号6-3-1			分析モデル整理番号6-3-2			分析モデル整理番号6-3-3			分析モデル整理番号6-3-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.000	0.000	0.998	-0.001	0.000	0.991	-0.005	0.000	0.951	0.015	0.001	0.862
父母の収入	収入の水準	0.011	0.009	0.227	0.015	0.012	0.112	0.008	0.007	0.388	0.011	0.009	0.247
父母の学歴 (参照:共に非大卒等)	共に大卒等	0.117	0.020	0.018	0.115	0.019	0.020	0.080	0.014	0.108	0.077	0.013	0.122
親子の関わり	いずれかが大卒等	0.011	0.002	0.803	0.009	0.002	0.841	-0.011	-0.002	0.810	-0.011	-0.002	0.810
親子の関わり	幼少期のしつけの多寡	0.047	0.034	0.000	0.043	0.031	0.000	0.041	0.030	0.000	0.036	0.026	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.081	0.010	0.171	0.024	0.003	0.681	0.091	0.011	0.125	0.040	0.005	0.502
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.055	-0.008	0.247	-0.036	-0.005	0.457	-0.072	-0.011	0.131	-0.047	-0.007	0.329
	幼少期に郡部に居住	-0.009	-0.001	0.864	-0.034	-0.005	0.531	0.006	0.001	0.915	-0.021	-0.003	0.691
	幼少期に海外に居住	0.049	0.001	0.892	0.073	0.001	0.839	-0.004	0.000	0.990	0.050	0.001	0.888
性別	男子	-0.236	-0.043	0.000	-0.196	-0.036	0.000	-0.206	-0.038	0.000	-0.216	-0.040	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第12回自然体験該当個数	0.181	0.068	0.000							0.107	0.040	0.000
	第12回社会体験該当個数				0.251	0.078	0.000				0.170	0.053	0.000
	第12回文化的体験該当個数							0.222	0.076	0.000	0.145	0.050	0.000
	(定数)	9.998		0.000	10.110		0.000	9.981		0.000	9.884		0.000
n			20629			20629			20629				20629
R2 乗			0.008			0.009			0.009				0.014
調整済みR2 乗			0.008			0.009			0.009				0.013

図表 10-3-5 ④第 7 回調査の「遊び」投入モデル【新奇性追求】

		分析モデル整理番号6-4-1			分析モデル整理番号6-4-2			分析モデル整理番号6-4-3			分析モデル整理番号6-4-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.004	0.000	0.959	0.004	0.000	0.966	-0.018	-0.001	0.837	0.020	0.002	0.827
父母の収入	収入の水準	0.015	0.012	0.108	0.012	0.010	0.199	0.012	0.010	0.183	0.019	0.015	0.051
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.142	0.024	0.004	0.148	0.025	0.002	0.126	0.021	0.010	0.117	0.020	0.022
親子の関わり	いずれかが大卒等	0.032	0.005	0.484	0.038	0.006	0.402	0.003	0.001	0.944	0.010	0.002	0.837
親子の関わり	幼少期のしつけの多寡	0.041	0.030	0.000	0.050	0.036	0.000	0.046	0.034	0.000	0.038	0.027	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.103	0.013	0.078	0.087	0.011	0.131	0.076	0.010	0.192	0.091	0.011	0.135
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.032	-0.005	0.500	-0.040	-0.006	0.397	-0.061	-0.009	0.197	-0.032	-0.005	0.514
	幼少期に郡部に居住	-0.027	-0.004	0.615	-0.016	-0.002	0.760	-0.018	-0.003	0.738	-0.031	-0.004	0.578
	幼少期に海外に居住	0.223	0.004	0.524	0.237	0.005	0.499	0.292	0.006	0.399	0.373	0.007	0.308
性別	男子	-0.208	-0.038	0.000	-0.233	-0.043	0.000	-0.215	-0.040	0.000	-0.213	-0.039	0.000
遊び	第7回遊び相手3項目該当個数	0.166	0.060	0.000							0.134	0.048	0.000
	第7回遊び場所3項目該当個数				0.119	0.037	0.000				0.074	0.023	0.002
	第7回遊び相手人数							0.082	0.030	0.000	0.037	0.014	0.068
	(定数)	10.006		0.000	10.009		0.000	10.022		0.000	9.844		0.000
n			21081			21552			21062				19659
R2 乗			0.007			0.005			0.004				0.007
調整済みR2 乗			0.006			0.005			0.004				0.007

図表 10-3-6 ⑤第 7 回調査の「読書」投入モデル 【新奇性追求】

		分析モデル整理番号6-5		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.000	0.000	0.996
父母の収入	収入の水準	0.009	0.008	0.312
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.097	0.016	0.046
親子の関わり	いずれかが大卒等	0.005	0.001	0.914
親子の関わり	幼少期のしつけの多寡	0.047	0.034	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.061	0.008	0.281
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.043	-0.007	0.349
	幼少期に郡部に居住	-0.015	-0.002	0.775
	幼少期に海外に居住	0.115	0.002	0.733
性別	男子	-0.177	-0.033	0.000
読書	第7回読書冊数	0.086	0.045	0.000
(定数)	9.951		0.000	
n			22165	
R2 乗			0.005	
調整済みR2 乗			0.005	

図表 10-3-7 ⑥第 9 回調査の「お手伝い」投入モデル 【新奇性追求】

		分析モデル整理番号6-6		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.011	-0.001	0.898
父母の収入	収入の水準	0.010	0.008	0.265
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.126	0.021	0.008
親子の関わり	いずれかが大卒等	0.006	0.001	0.893
親子の関わり	幼少期のしつけの多寡	0.039	0.028	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.094	0.012	0.098
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.076	-0.012	0.098
	幼少期に郡部に居住	-0.005	-0.001	0.930
	幼少期に海外に居住	0.155	0.003	0.647
性別	男子	-0.174	-0.032	0.000
お手伝い	第9回お手伝い個数	0.082	0.050	0.000
(定数)	10.114		0.000	
n			22448	
R2 乗			0.006	
調整済みR2 乗			0.005	

(4) 「新奇性追求」に関する父母の収入の水準別の分析

図表 10-4-1 「新奇性追求」に関する父母の収入の水準別の分析（回帰分析）

		分析モデル整理番号6-7-1			分析モデル整理番号6-7-2			分析モデル整理番号6-7-3		
		収入：中央値の2分の1未満			収入：中央値未満、中央値の2分の1以上			収入：中央値以上		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.185	0.032	0.304	-0.121	-0.010	0.366	-0.078	-0.004	0.653
父母の学歴 (参照：ともに非大卒等)	ともに大卒等	-0.168	-0.016	0.593	0.067	0.009	0.445	0.108	0.019	0.100
	いずれかが大卒等	0.212	0.033	0.280	0.008	0.001	0.907	-0.048	-0.008	0.479
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.012	0.009	0.759	0.024	0.018	0.118	0.053	0.038	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.099	0.017	0.607	-0.057	-0.008	0.507	0.138	0.015	0.151
居住の自治体分類 (参照：大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.034	0.004	0.893	-0.089	-0.012	0.298	-0.039	-0.006	0.525
	幼少期に郡部に居住	0.255	0.045	0.170	-0.017	-0.003	0.829	-0.078	-0.010	0.349
	幼少期に海外に居住	-	-	-	-1.775	-0.016	0.141	0.291	0.007	0.450
性別	男子	0.050	0.010	0.754	-0.271	-0.050	0.000	-0.220	-0.040	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.206	0.071	0.028	0.098	0.034	0.004	0.129	0.045	0.000
	第8回社会体験該当個数	0.140	0.044	0.175	0.148	0.043	0.000	0.114	0.033	0.001
	第8回文化的体験該当個数	0.201	0.068	0.037	0.110	0.034	0.004	0.172	0.052	0.000
	(定数)	9.751		0.000	10.178		0.000	9.688		0.000
	n			1084			7914			10963
	R2 乗			0.024			0.010			0.013
	調整済みR2 乗			0.014			0.008			0.012

※「収入：中央値の2分の1未満」では、「幼少期に海外に居住」の該当ケースなし

図表 10-4-2 「新奇性追求」に関する父母の収入の水準別の分析（平均値差）

<自然体験>

収入：中央値の2分の1未満	第8回自然体験該当個数	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
	0	10.4	174	0.000				
	1	10.5	340		0.959			
	2	10.8	507		0.478	0.668		
	3	11.5	184		0.001	0.000	0.006	
収入：中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回自然体験該当個数	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
	0	10.6	1049	0.000				
	1	10.5	2244		0.946			
	2	10.8	3275		0.089	0.001		
	3	10.9	1858		0.001	0.000	0.189	
収入：中央値以上	第8回自然体験該当個数	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
	0	10.4	1199	0.000				
	1	10.6	2818		0.037			
	2	10.8	4431		0.000	0.013		
	3	11.0	3028		0.000	0.000	0.070	

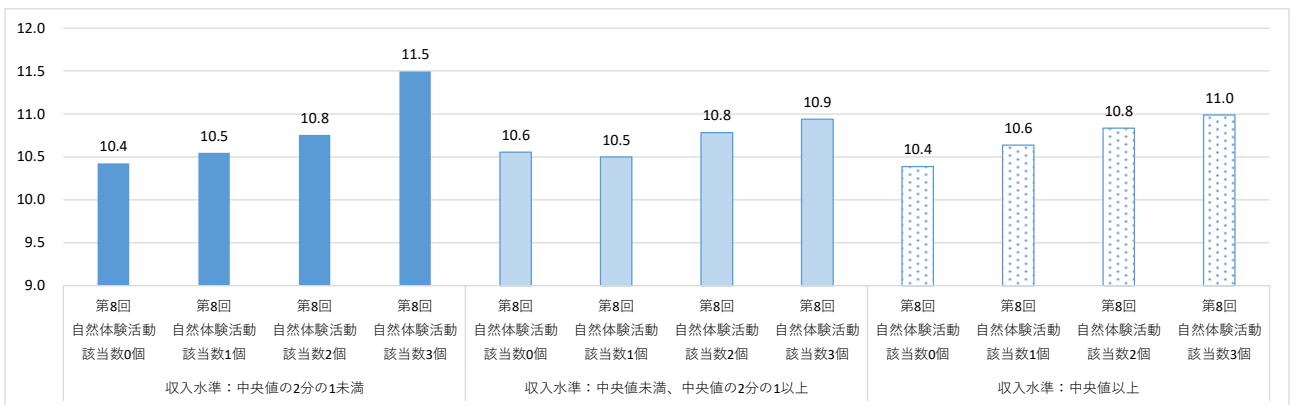
<社会体験>

収入：中央値の2分の1未満	第8回社会体験該当個数	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
	0	10.5	573	0.024				
	1	10.9	421		0.235			
	2	11.1	168		0.105	0.825		
	3	11.4	43		0.155	0.554	0.867	
収入：中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回社会体験該当個数	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
	0	10.6	4023	0.000				
	1	10.8	3184		0.003			
	2	11.0	1001		0.000	0.252		
	3	11.3	218		0.001	0.042	0.396	
収入：中央値以上	第8回社会体験該当個数	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
	0	10.6	5483	0.000				
	1	10.9	4398		0.000			
	2	11.0	1378		0.000	0.327		
	3	11.2	287		0.005	0.191	0.711	

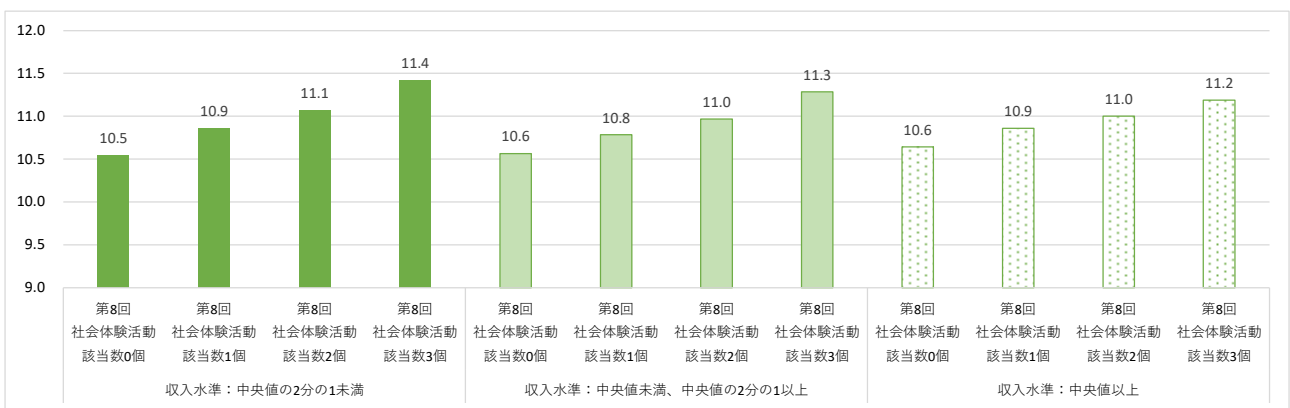
<文化的体験>

収入：中央値の2分の1未満	第8回文化的体験該当個数	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
	0	10.3	164	0.003				
	1	10.7	490		0.472			
	2	10.9	401		0.120	0.680		
	3	11.4	150		0.002	0.018	0.160	
収入：中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回文化的体験該当個数	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
	0	10.6	752	0.000				
	1	10.5	3217		0.700			
	2	10.8	3212		0.431	0.000		
	3	11.1	1245		0.004	0.000	0.020	
収入：中央値以上	第8回文化的体験該当個数	新奇性追求尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
	0	10.4	568	0.000				
	1	10.6	3573		0.388			
	2	10.8	4994		0.001	0.000		
	3	11.1	2411		0.000	0.000	0.003	

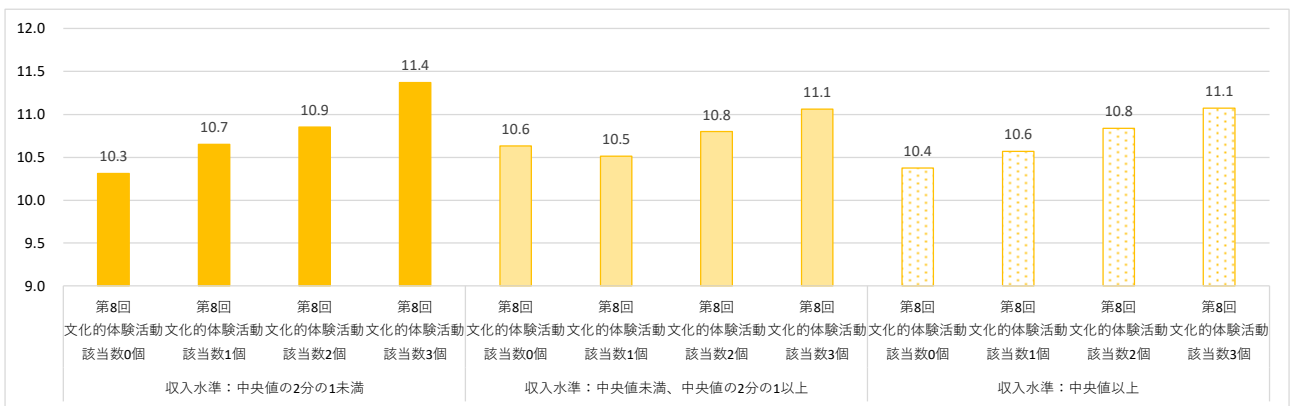
図表 10-4-3 「新奇性追求」に関する父母の収入の水準別の分析（「自然体験」による平均値差）



図表 10-4-4 「新奇性追求」に関する父母の収入の水準別の分析（「社会体験」による平均値差）



図表 10-4-5 「新奇性追求」に関する父母の収入の水準別の分析（「文化的体験」による平均値差）



11. 「感情調整」についての分析

(1) 「感情調整」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係

図表 11-1-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と「感情調整」

世帯類型		感情調整尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
	父母同居	10.1	23002	0.002
	ひとり親世帯	9.9	1284	

図表 11-1-2 ②父母の収入と「感情調整」

収入11分類	感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較																		
				100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 300万円未満	300万円以上 400万円未満	400万円以上 500万円未満	500万円以上 600万円未満	600万円以上 700万円未満	700万円以上 800万円未満	800万円以上 900万円未満	900万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上								
100万円未満	9.9	122	0.009																			
100万円以上 200万円未満	9.8	427		1.000																		
200万円以上 300万円未満	10.0	1568		1.000	0.994																	
300万円以上 400万円未満	10.0	3664		1.000	0.899	1.000																
400万円以上 500万円未満	10.1	4771		0.999	0.779	0.987	1.000															
500万円以上 600万円未満	10.2	4431		0.979	0.268	0.323	0.470	0.742														
600万円以上 700万円未満	10.1	3212		0.986	0.354	0.518	0.745	0.930	1.000													
700万円以上 800万円未満	10.1	2219		0.990	0.435	0.690	0.903	0.985	1.000	1.000												
800万円以上 900万円未満	10.2	1379		0.947	0.194	0.296	0.482	0.695	1.000	0.999	0.999											
900万円以上 1,000万円未満	10.2	833		0.987	0.530	0.853	0.972	0.996	1.000	1.000	1.000	1.000										
1,000万円以上	10.0	1578		1.000	0.993	1.000	1.000	0.988	0.331	0.527	0.699	0.303	0.858									

等価世帯所得 の水準	感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較		
				中央値の2分の1 未満	中央値未満、中央 値の2分の1以上	中央値以上
中央値の2分の1 未満	10.1	1412	0.215			
中央値未満、中央 値の2分の1以上	10.1	9534		0.987		
中央値以上	10.1	12994		0.779	0.197	

図表 11-1-3 ③父母の学歴と「感情調整」

父母の学歴	感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較		
				ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業
ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	10.0	10028	0.034			
いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	10.1	7232		0.149		
ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業	10.1	6844		0.040	0.096	

図表 11-1-4 ④親子のかかわり・しつけと「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較								
					6以下	7	8	9	10	11	12	13	
しつけの実施 該当個数	6以下	10.0	794	0.075									
	7	10.0	815		0.999								
	8	10.0	1457		1.000	1.000							
	9	10.0	2356		1.000	0.999	1.000						
	10	10.1	3430		0.983	1.000	0.992	0.950					
	11	10.1	4671		0.951	1.000	0.960	0.825	1.000				
	12	10.1	5294		0.633	0.969	0.532	0.202	0.846	0.926			
	13	10.2	4180		0.599	0.957	0.498	0.192	0.813	0.901	1.000		

⑤住環境等と「感情調整」

図表 11-1-5 居住環境の分類と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較				
					住宅の多い地域	商店の多い地域	工場の多い地域	田舎・山間地域	その他
居住環境	住宅の多い地域	10.1	19079	0.121					
	商店の多い地域	10.1	810		1.000				
	工場の多い地域	9.8	302		0.291	0.460			
	田舎・山間地域	10.1	3324		0.948	0.995	0.215		
	その他	10.3	515		0.447	0.657	0.071	0.697	

図表 11-1-6 居住の自治体の分類と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					14大都市	その他の市	郡部	外国
居住の自治体 の分類	14大都市	10.0	5197	0.498				
	その他の市	10.1	14589		0.659			
	郡部	10.1	4260		0.502	0.935		
	外国	10.2	75		0.920	0.964	0.980	

図表 11-1-7 ⑥子供の性別と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
性別	男	10.2	12350	0.000
	女	10.0	11936	

(2) 「感情調整」と「体験」との関係

図表 11-2-1 ①第 8 回調査の「自然体験」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回自然体 験該当個数	0			0.000				
	1	9.8	2460					
	2	10.0	5487		0.175			
	3	10.1	8335		0.000	0.001		
		10.3	5202		0.000	0.000	0.046	

図表 11-2-2 ②第 8 回調査の「社会体験」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回社会体 験該当個数	0			0.000				
	1	10.0	10220					
	2	10.1	8125		0.002			
	3	10.2	2583		0.001	0.599		
		10.2	556		0.238	0.916	1.000	

図表 11-2-3 ③第 8 回調査の「文化的体験」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回文化的 体験該当個数	0			0.000				
	1	9.9	1508					
	2	10.0	7396		0.810			
	3	10.1	8726		0.005	0.000		
		10.3	3854		0.000	0.000	0.013	

図表 11-2-4 ④第 12 回調査の「自然体験」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回自然 体験該当個数	0			0.000				
	1	9.8	4551					
	2	10.0	6148		0.001			
	3	10.2	7100		0.000	0.000		
		10.3	4237		0.000	0.000	0.624	

図表 11-2-5 ⑤第 12 回調査の「社会体験」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回社会 体験該当個数	0			0.000				
	1	10.0	11590					
	2	10.1	6876		0.406			
	3	10.3	2641		0.001	0.044		
		10.4	929		0.001	0.009	0.562	

図表 11-2-6 ⑥第 12 回調査の「文化的体験」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回文化 的体験該当個 数	0			0.000				
	1	9.9	2561					
	2	10.0	6732		0.325			
	3	10.2	8159		0.000	0.000		
		10.3	4584		0.000	0.000	0.032	

図表 11-2-7 ⑦第7回調査の「遊び相手の多様性」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第7回遊び相手3項目該当 個数	0	9.9	3021	0.000				
	1	10.1	5750		0.016			
	2	10.1	8420		0.000	0.260		
	3	10.2	5305		0.000	0.015	0.460	

図表 11-2-8 ⑧第7回調査の「遊ぶ場所の多様性」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
遊び場所3項目 該当個数	0	9.9	1162	0.000				
	1	10.0	8034		0.566			
	2	10.1	8819		0.032	0.021		
	3	10.2	4978		0.001	0.000	0.122	

図表 11-2-9 ⑨第7回調査の「遊び相手の人数の多寡」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0人	1人	2人	3人以上
第7回遊び相手人数	0人	9.8	1855	0.000				
	1人	10.1	4592		0.000			
	2人	10.1	5289		0.000	0.850		
	3人以上	10.2	10758		0.000	0.194	0.683	

図表 11-2-10 ⑩第7回調査の「読書」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較					
					読まない	1冊	2,3冊	4冊~7冊	8冊~11冊	12冊以上
第7回読書	読まない	10.0	1481	0.000						
	1冊	10.0	2774		1.000					
	2,3冊	10.0	6838		0.929	0.936				
	4冊~7冊	10.2	6375		0.459	0.102	0.045			
	8冊~11冊	10.2	2232		0.476	0.182	0.063	0.064		
	12冊以上	10.2	3998		0.327	0.065	0.052	0.068	1.000	

図表 11-2-11 ⑪第9回調査の「お手伝い」と「感情調整」

		感情調整尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較								
					0	1	2	3	4	5	6	7	
第9回お手伝い 個数	0	9.9	1357	0.000									
	1	10.0	4395		0.967								
	2	10.1	5906		0.028	0.028							
	3	10.1	5109		0.018	0.015	1.000						
	4	10.1	3437		0.111	0.230	1.000	0.998					
	5	10.3	2080		0.000	0.000	0.352	0.530	0.270				
	6	10.1	1194		0.477	0.838	0.999	0.997	1.000	0.470			
	7	10.2	547		0.076	0.194	0.956	0.979	0.911	1.000	0.904		

(3) 「感情調整」に関する回帰分析

図表 11-3-1 「感情調整」に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号					
		7-1	7-2-4	7-3-4	7-4-4	7-5	7-6
世帯類型	ひとり親世帯	*	*	*	*	*	*
父母の収入	収入の水準						
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等						
	いずれかが大卒等						
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***	*	*		**	**
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住						
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住						
	幼少期に郡部に居住						
	幼少期に海外に居住						
性別	男子	***	***	***	***	***	***
自然体験・社会体験・ 文化的体験①	小学2年生自然体験の多寡	/	***	/	/	/	/
	小学2年生社会体験の多寡	/	/	/	/	/	/
	小学2年生文化的体験の多寡	/	***	/	/	/	/
自然体験・社会体験・ 文化的体験②	小学6年生自然体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生社会体験の多寡	/	/	/	/	/	/
	小学6年生文化的体験の多寡	/	/	***	/	/	/
遊び	小学1年生遊び相手の多様性	/	/	/	***	/	/
	小学1年生遊び場所の多様性	/	/	/	**	/	/
	小学1年生遊び相手人数の多寡	/	/	/	*	/	/
読書	小学1年生読書冊数	/	/	/	/	***	/
お手伝い	小学3年生手伝い経験の多寡	/	/	/	/	/	***

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 11-3-2 ①家庭による背景・要因・属性等のみのモデル【感情調整】

		分析モデル整理番号7-1		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.202	-0.017	0.012
父母の収入	収入の水準	0.009	0.008	0.271
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.080	0.014	0.079
	いずれかが大卒等	0.065	0.011	0.124
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.030	0.022	0.001
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.065	0.009	0.226
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.046	-0.007	0.291
	幼少期に郡部に居住	0.025	0.004	0.616
	幼少期に海外に居住	0.000	0.000	1.000
性別	男子	0.242	0.047	0.000
	(定数)	9.548		0.000
	n			22688
	R2 乗			0.003
	調整済みR2 乗			0.003

図表 11-3-3 ②第8回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【感情調整】

		分析モデル整理番号7-2-1			分析モデル整理番号7-2-2			分析モデル整理番号7-2-3			分析モデル整理番号7-2-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.217	-0.018	0.012	-0.217	-0.018	0.012	-0.220	-0.018	0.011	-0.217	-0.018	0.012
父母の収入	収入の水準	0.006	0.005	0.547	0.009	0.008	0.325	0.004	0.003	0.673	0.002	0.002	0.818
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.056	0.010	0.246	0.069	0.012	0.150	0.040	0.007	0.404	0.029	0.005	0.551
	いずれかが大卒等	0.049	0.009	0.275	0.052	0.009	0.239	0.037	0.007	0.410	0.033	0.006	0.462
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.027	0.020	0.004	0.028	0.022	0.002	0.026	0.020	0.005	0.022	0.017	0.017
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.046	0.006	0.419	0.032	0.004	0.584	0.054	0.007	0.342	0.038	0.005	0.509
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.020	-0.003	0.658	-0.015	-0.002	0.742	-0.033	-0.005	0.482	-0.028	-0.004	0.551
	幼少期に郡部に居住	0.055	0.008	0.289	0.052	0.008	0.321	0.064	0.009	0.222	0.058	0.008	0.268
	幼少期に海外に居住	0.128	0.003	0.711	0.105	0.002	0.761	0.074	0.002	0.829	0.107	0.002	0.755
性別	男子	0.225	0.043	0.000	0.239	0.046	0.000	0.243	0.047	0.000	0.231	0.045	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.129	0.047	0.000	/	/	/	/	/	/	0.102	0.037	0.000
	第8回社会体験該当個数	/	/	/	0.087	0.026	0.000	/	/	/	0.035	0.010	0.158
	第8回文化的体験該当個数	/	/	/	/	/	/	0.139	0.045	0.000	0.105	0.034	0.000
	(定数)	9.386		0.000	9.504		0.000	9.397		0.000	9.312		0.000
	n			20172			20172			20172			20172
	R2 乗			0.006			0.004			0.005			0.007
	調整済みR2 乗			0.005			0.004			0.005			0.006

図表 11-3-4 ③第 12 回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【感情調整】

		分析モデル整理番号7-3-1			分析モデル整理番号7-3-2			分析モデル整理番号7-3-3			分析モデル整理番号7-3-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.194	-0.016	0.023	-0.204	-0.017	0.017	-0.202	-0.017	0.018	-0.189	-0.016	0.026
父母の収入	収入の水準	0.014	0.012	0.124	0.016	0.013	0.085	0.012	0.010	0.180	0.013	0.011	0.166
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.048	0.008	0.317	0.054	0.009	0.257	0.028	0.005	0.559	0.026	0.005	0.580
親子のかかわり	いずれかが大卒等	0.039	0.007	0.377	0.041	0.007	0.351	0.027	0.005	0.548	0.027	0.005	0.541
住環境	幼少期のしつけの多寡	0.025	0.019	0.007	0.026	0.019	0.006	0.022	0.017	0.016	0.021	0.016	0.027
	幼少期に田園・山間地域に居住	0.047	0.006	0.406	0.032	0.004	0.575	0.055	0.007	0.331	0.044	0.006	0.445
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.042	-0.007	0.358	-0.039	-0.006	0.401	-0.054	-0.009	0.240	-0.045	-0.007	0.324
	幼少期に郡部に居住	0.032	0.005	0.533	0.026	0.004	0.614	0.043	0.006	0.413	0.035	0.005	0.504
	幼少期に海外に居住	0.006	0.000	0.987	0.004	0.000	0.990	-0.031	-0.001	0.929	-0.007	0.000	0.983
性別	男子	0.214	0.041	0.000	0.240	0.046	0.000	0.237	0.046	0.000	0.219	0.042	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第12回自然体験該当個数	0.146	0.057	0.000							0.118	0.046	0.000
	第12回社会体験該当個数				0.088	0.028	0.000				0.019	0.006	0.407
	第12回文化的体験該当個数							0.134	0.048	0.000	0.092	0.033	0.000
	(定数)	9.391		0.000	9.519		0.000	9.419		0.000	9.326		0.000
n			20632			20632			20632			20632	
R2 乗			0.007			0.004			0.006			0.008	
調整済みR2 乗			0.006			0.004			0.005			0.007	

図表 11-3-5 ④第 7 回調査の「遊び」投入モデル【感情調整】

		分析モデル整理番号7-4-1			分析モデル整理番号7-4-2			分析モデル整理番号7-4-3			分析モデル整理番号7-4-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.208	-0.017	0.014	-0.193	-0.016	0.020	-0.212	-0.018	0.012	-0.203	-0.017	0.021
父母の収入	収入の水準	0.012	0.011	0.165	0.009	0.008	0.291	0.011	0.010	0.210	0.016	0.014	0.077
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.089	0.016	0.059	0.085	0.015	0.070	0.061	0.011	0.192	0.062	0.011	0.202
親子のかかわり	いずれかが大卒等	0.064	0.011	0.140	0.067	0.012	0.123	0.043	0.008	0.326	0.051	0.009	0.262
住環境	幼少期のしつけの多寡	0.024	0.018	0.010	0.025	0.019	0.006	0.023	0.017	0.012	0.018	0.014	0.058
	幼少期に田園・山間地域に居住	0.063	0.008	0.266	0.066	0.009	0.232	0.090	0.012	0.106	0.088	0.012	0.132
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.041	-0.007	0.362	-0.042	-0.007	0.351	-0.032	-0.005	0.479	-0.022	-0.003	0.641
	幼少期に郡部に居住	0.027	0.004	0.596	0.014	0.002	0.784	0.036	0.005	0.482	0.024	0.004	0.650
	幼少期に海外に居住	0.002	0.000	0.995	0.038	0.001	0.910	-0.106	-0.002	0.749	-0.060	-0.001	0.864
性別	男子	0.246	0.047	0.000	0.223	0.043	0.000	0.237	0.046	0.000	0.238	0.046	0.000
遊び	第7回遊び相手3項目該当個数	0.100	0.038	0.000							0.071	0.027	0.001
	第7回遊び場所3項目該当個数				0.099	0.032	0.000				0.075	0.024	0.001
	第7回遊び相手人数							0.083	0.032	0.000	0.045	0.018	0.020
	(定数)	9.419		0.000	9.436		0.000	9.367		0.000	9.250		0.000
n			21089			21558			21067			19664	
R2 乗			0.005			0.004			0.004			0.006	
調整済みR2 乗			0.004			0.004			0.004			0.005	

図表 11-3-6 ⑤第 7 回調査の「読書」投入モデル

【感情調整】

		分析モデル整理番号7-5		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.203	-0.017	0.013
父母の収入	収入の水準	0.007	0.006	0.423
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.044	0.008	0.343
親子のかかわり	いずれかが大卒等	0.038	0.007	0.367
住環境	幼少期のしつけの多寡	0.026	0.020	0.004
	幼少期に田園・山間地域に居住	0.059	0.008	0.278
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.027	-0.004	0.543
	幼少期に郡部に居住	0.040	0.006	0.422
	幼少期に海外に居住	-0.023	0.000	0.943
性別	男子	0.267	0.052	0.000
読書	第7回読書冊数	0.065	0.035	0.000
	(定数)	9.365		0.000
	n			22173
	R2 乗			0.005
調整済みR2 乗			0.004	

図表 11-3-7 ⑥第 9 回調査の「お手伝い」投入モデル

【感情調整】

		分析モデル整理番号7-6		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.206	-0.017	0.011
父母の収入	収入の水準	0.010	0.008	0.263
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.069	0.012	0.131
親子のかかわり	いずれかが大卒等	0.061	0.011	0.150
住環境	幼少期のしつけの多寡	0.023	0.018	0.009
	幼少期に田園・山間地域に居住	0.077	0.010	0.154
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.054	-0.009	0.222
	幼少期に郡部に居住	0.033	0.005	0.500
	幼少期に海外に居住	0.003	0.000	0.993
性別	男子	0.258	0.050	0.000
お手伝い	第9回お手伝い個数	0.043	0.028	0.000
	(定数)	9.489		0.000
	n			22456
	R2 乗			0.004
調整済みR2 乗			0.004	

(4) 「感情調整」に関する父母の収入の水準別の分析

図表 11-4-1 「感情調整」に関する父母の収入の水準別の分析 (回帰分析)

		分析モデル整理番号7-7-1			分析モデル整理番号7-7-2			分析モデル整理番号7-7-3		
		収入:中央値の2分の1未満			収入:中央値未満、中央値の2分の1以上			収入:中央値以上		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.212	-0.036	0.242	-0.352	-0.031	0.006	-0.070	-0.004	0.674
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	-0.108	-0.010	0.735	0.074	0.011	0.368	-0.023	-0.004	0.719
	いずれかが大卒等	0.036	0.006	0.855	0.084	0.015	0.200	-0.039	-0.007	0.555
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.053	0.042	0.171	0.019	0.014	0.203	0.022	0.017	0.085
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.253	0.042	0.193	-0.003	0.000	0.973	0.039	0.004	0.673
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	0.392	0.049	0.124	-0.023	-0.003	0.776	-0.048	-0.008	0.419
	幼少期に郡部に居住	0.313	0.055	0.094	0.068	0.011	0.367	-0.005	-0.001	0.953
	幼少期に海外に居住	—	—	—	0.988	0.010	0.385	-0.064	-0.002	0.864
性別	男子	0.269	0.051	0.093	0.360	0.071	0.000	0.120	0.023	0.016
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.031	0.011	0.744	0.137	0.051	0.000	0.088	0.032	0.002
	第8回社会体験該当個数	0.173	0.054	0.098	0.043	0.013	0.266	0.008	0.002	0.815
	第8回文化的体験該当個数	0.215	0.072	0.026	0.043	0.014	0.235	0.135	0.043	0.000
	(定数)	8.734		0.000	9.296		0.000	9.446		0.000
	n			1087			7921			10960
	R2 乗			0.027			0.011			0.005
	調整済みR2 乗			0.017			0.010			0.004

※「収入:中央値の2分の1未満」では、「幼少期に海外に居住」の該当ケースなし

図表 11-4-2 「感情調整」に関する父母の収入の水準別の分析 (平均値差)

<自然体験>

収入:中央値の2分の1未満	第8回自然体験該当個数	感情調整尺度 平均値	n	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0	1	2	3
	0	10.0	174	0.263				
	1	10.0	343					
	2	10.1	506		0.953	0.911		
	3	10.4	184		0.367	0.238	0.465	
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	0	9.9	1050	0.000				
	1	9.8	2247		0.964			
	2	10.1	3280		0.057	0.001		
	3	10.3	1859		0.000	0.000	0.073	
収入:中央値以上	0	9.8	1200	0.000				
	1	10.1	2817		0.010			
	2	10.2	4429		0.000	0.327		
	3	10.2	3028		0.000	0.072	0.776	

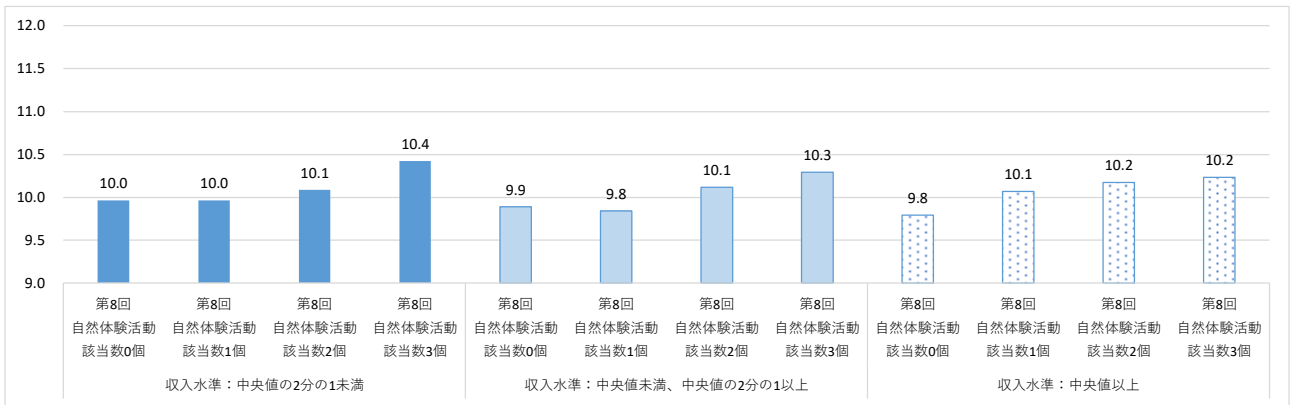
<社会体験>

収入:中央値の2分の1未満	第8回社会体験該当個数	感情調整尺度 平均値	n	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0	1	2	3
	0	9.9	572	0.013				
	1	10.3	424		0.058			
	2	10.1	168		0.855	0.751		
	3	10.9	43		0.059	0.455	0.224	
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	0	9.9	4021	0.001				
	1	10.2	3195		0.002			
	2	10.2	1000		0.051	0.999		
	3	10.0	220		0.985	0.817	0.812	
収入:中央値以上	0	10.1	5482	0.068				
	1	10.1	4399		0.840			
	2	10.3	1377		0.056	0.219		
	3	10.3	286		0.686	0.843	0.999	

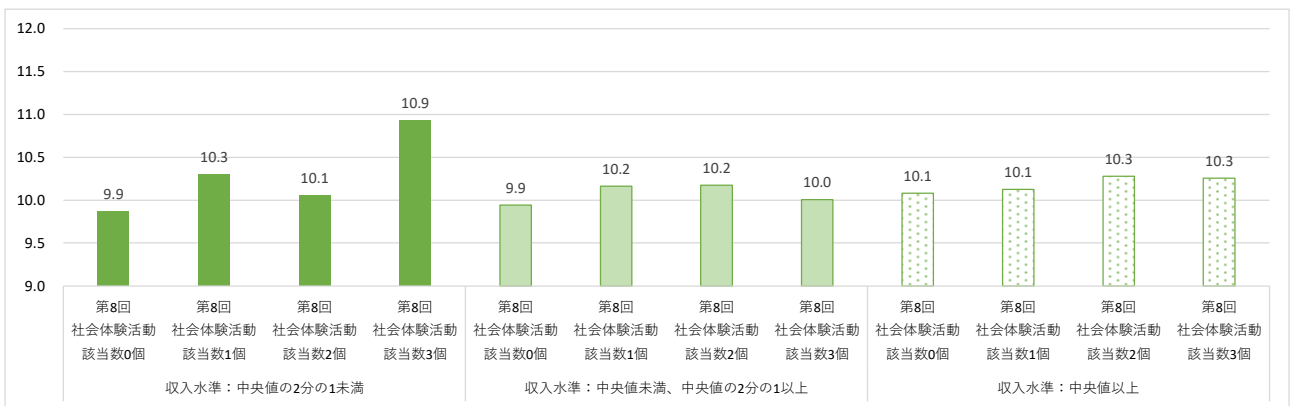
<文化的体験>

収入:中央値の2分の1未満	第8回文化的体験該当個数	感情調整尺度 平均値	n	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0	1	2	3
	0	9.7	164	0.023				
	1	10.0	492		0.721			
	2	10.2	401		0.337	0.803		
	3	10.6	150		0.020	0.060	0.271	
収入:中央値未満、中央値の2分の1以上	0	9.9	751	0.010				
	1	10.0	3221		0.996			
	2	10.1	3215		0.505	0.231		
	3	10.2	1249		0.078	0.013	0.364	
収入:中央値以上	0	9.9	567	0.000				
	1	10.0	3575		0.917			
	2	10.2	4990		0.066	0.002		
	3	10.3	2412		0.003	0.000	0.168	

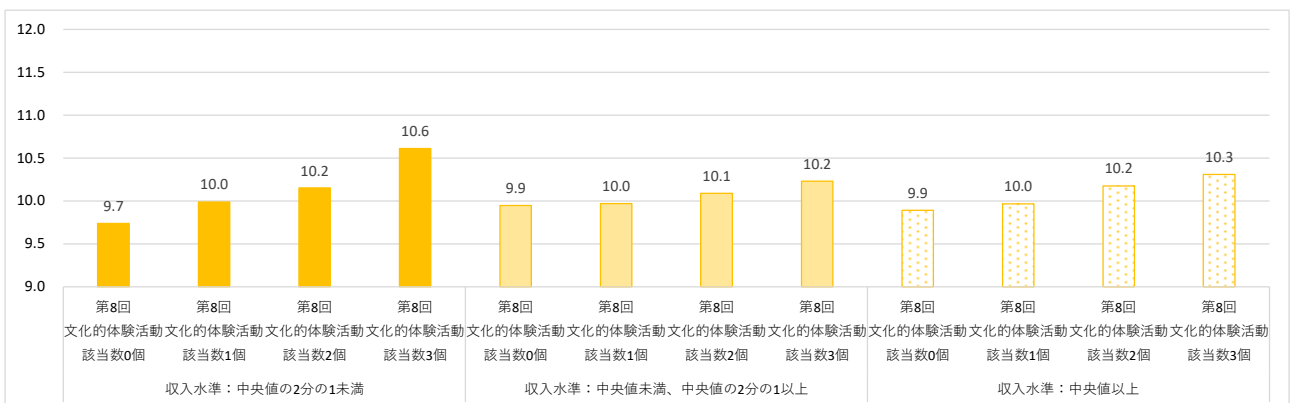
図表 11-4-3 「感情調整」に関する父母の収入の水準別の分析（「自然体験」による平均値差）



図表 11-4-4 「感情調整」に関する父母の収入の水準別の分析（「社会体験」による平均値差）



図表 11-4-5 「感情調整」に関する父母の収入の水準別の分析（「文化的体験」による平均値差）



12. 「肯定的な未来志向」についての分析

(1) 「肯定的な未来志向」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係

図表 12-1-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
世帯類型	父母同居	10.3	22990	0.130
	ひとり親世帯	10.2	1283	

図表 12-1-2 ②父母の収入と「肯定的な未来志向」

収入11分類	肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較																		
				100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 300万円未満	300万円以上 400万円未満	400万円以上 500万円未満	500万円以上 600万円未満	600万円以上 700万円未満	700万円以上 800万円未満	800万円以上 900万円未満	900万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上								
100万円未満	10.1	122	0.018																			
100万円以上 200万円未満	10.4	429		1.000																		
200万円以上 300万円未満	10.1	1559		1.000	0.805																	
300万円以上 400万円未満	10.3	3660		1.000	1.000	0.166																
400万円以上 500万円未満	10.2	4767		1.000	1.000	0.652	0.985															
500万円以上 600万円未満	10.3	4435		1.000	1.000	0.126	1.000	0.971														
600万円以上 700万円未満	10.3	3213		1.000	1.000	0.271	1.000	0.998	1.000													
700万円以上 800万円未満	10.4	2219		0.997	1.000	0.027	0.993	0.558	0.993	0.979												
800万円以上 900万円未満	10.4	1378		0.991	1.000	0.022	0.948	0.437	0.948	0.908	1.000											
900万円以上 1,000万円未満	10.4	831		0.995	1.000	0.136	0.995	0.826	0.996	0.989	1.000	1.000										
1,000万円以上	10.4	1578		0.998	1.000	0.069	0.998	0.767	0.998	0.994	1.000	1.000	1.000									

等価世帯所得 の水準	肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較		
				中央値の2分の1 未満	中央値未満、中央 値の2分の1以上	中央値以上
中央値の2分の1 未満	10.2	1410	0.068			
中央値未満、中央 値の2分の1以上	10.3	9525		0.499		
中央値以上	10.3	12993		0.129	0.226	

図表 12-1-3 ③父母の学歴と「肯定的な未来志向」

父母の学歴	肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較		
				ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業
ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	10.2	10019	0.000			
いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	10.3	7227		0.265		
ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業	10.5	6846		0.000	0.001	

図表 12-1-4 ④親子のかかわり・しつけと「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較								
					6以下	7	8	9	10	11	12	13	
しつけの実施 該当個数	6以下	10.2	792	0.000									
	7	10.1	815		1.000								
	8	10.1	1459		1.000	1.000							
	9	10.1	2354		1.000	1.000	1.000						
	10	10.2	3421		1.000	0.986	0.988	0.971					
	11	10.3	4680		0.978	0.792	0.701	0.482	0.971				
	12	10.4	5289		0.324	0.091	0.020	0.002	0.027	0.245			
	13	10.4	4175		0.356	0.107	0.029	0.004	0.047	0.336	1.000		

⑤住環境等と「肯定的な未来志向」

図表 12-1-5 居住環境の分類と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較				
					住宅の多い地域	商店の多い地域	工場の多い地域	田園・山間地域	その他
居住環境	住宅の多い地域	10.3	19074	0.212					
	商店の多い地域	10.4	806		0.969				
	工場の多い地域	9.9	303		0.649	0.553			
	田園・山間地域	10.3	3318		0.857	1.000	0.478		
	その他	10.3	514		0.963	0.883	0.961	0.843	

図表 12-1-6 居住の自治体の分類と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					14大都市	その他の市	郡部	外国
居住の自治体 の分類	14大都市	10.3	5195	0.664				
	その他の市	10.3	14581		0.913			
	郡部	10.3	4256		0.680	0.892		
	外国	10.5	75		0.910	0.939	0.966	

図表 12-1-7 ⑥子供の性別と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来 志向尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
性別	男	10.2	12346	0.000
	女	10.5	11927	

(2) 「肯定的な未来志向」と「体験」との関係

図表 12-2-1 ①第 8 回調査の「自然体験」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回自然 体験該当個数	0			0.000				
	1	9.9	2458					
	2	10.1	5480		0.040			
	3	10.4	8332		0.000	0.000		
		10.5	5200		0.000	0.000	0.089	

図表 12-2-2 ②第 8 回調査の「社会体験」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回社会 体験該当個数	0			0.000				
	1	10.2	10219					
	2	10.4	8109		0.000			
	3	10.5	2585		0.000	0.493		
		10.7	557		0.001	0.171	0.603	

図表 12-2-3 ③第 8 回調査の「文化的体験」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回文化的 体験該当個数	0			0.000				
	1	10.0	1507					
	2	10.0	7393		0.986			
	3	10.4	8719		0.000	0.000		
		10.8	3851		0.000	0.000	0.000	

図表 12-2-4 ④第 12 回調査の「自然体験」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回自然 体験該当個数	0			0.000				
	1	10.0	4543					
	2	10.2	6146		0.005			
	3	10.4	7103		0.000	0.001		
		10.5	4239		0.000	0.000	0.122	

図表 12-2-5 ⑤第 12 回調査の「社会体験」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回社会 体験該当個数	0			0.000				
	1	10.2	11585					
	2	10.4	6874		0.000			
	3	10.6	2644		0.000	0.011		
		10.8	928		0.000	0.000	0.149	

図表 12-2-6 ⑥第 12 回調査の「文化的体験」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回文化 的体験該当個 数	0			0.000				
	1	9.9	2559					
	2	10.1	6733		0.025			
	3	10.4	8155		0.000	0.000		
		10.7	4584		0.000	0.000	0.000	

図表 12-2-7 ⑦第7回調査の「遊び相手の多様性」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
第7回遊び相手3項目該当個数	0	10.0	3018	0.000				
	1	10.2	5746		0.004			
	2	10.3	8422		0.000	0.012		
	3	10.6	5300		0.000	0.000	0.000	

図表 12-2-8 ⑧第7回調査の「遊ぶ場所の多様性」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
遊び場所3項目該当個数	0	10.2	1161	0.000				
	1	10.2	8028		0.990			
	2	10.3	8815		0.752	0.041		
	3	10.5	4976		0.060	0.000	0.023	

図表 12-2-9 ⑨第7回調査の「遊び相手の人数の多寡」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0人	1人	2人	3人以上
第7回遊び相手人数	0人	10.1	1854	0.002				
	1人	10.3	4592		0.165			
	2人	10.3	5283		0.285	0.972		
	3人以上	10.4	10752		0.003	0.288	0.080	

図表 12-2-10 ⑩第7回調査の「読書」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較					
					読まない	1冊	2,3冊	4冊~7冊	8冊~11冊	12冊以上
第7回読書	読まない	10.0	1473	0.000						
	1冊	10.2	2777		0.732					
	2,3冊	10.2	6832		0.109	0.802				
	4冊~7冊	10.3	6379		0.009	0.171	0.051			
	8冊~11冊	10.5	2228		0.000	0.008	0.072	0.073		
	12冊以上	10.5	3998		0.000	0.000	0.059	0.078	0.920	

図表 12-2-11 ⑪第9回調査の「お手伝い」と「肯定的な未来志向」

		肯定的な未来志向 尺度平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較								
					0	1	2	3	4	5	6	7	
第9回お手伝い個数	0	10.0	1353	0.000									
	1	10.1	4396		0.961								
	2	10.3	5900		0.094	0.174							
	3	10.4	5111		0.001	0.000	0.409						
	4	10.4	3434		0.000	0.000	0.097	0.987					
	5	10.5	2079		0.000	0.000	0.029	0.755	0.994				
	6	10.7	1191		0.000	0.000	0.001	0.065	0.336	0.829			
	7	10.6	547		0.004	0.011	0.238	0.810	0.969	0.999	1.000		

(3) 「肯定的な未来志向」に関する回帰分析

図表 12-3-1 「肯定的な未来志向」に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号					
		8-1	8-2-4	8-3-4	8-4-4	8-5	8-6
世帯類型	ひとり親世帯						
父母の収入	収入の水準				**		
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	**	**	***	***	***
	いずれかが大卒等						
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***	***	***	***	***	***
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住						
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住						
	幼少期に郡部に居住						
	幼少期に海外に居住						
性別	男子	***	***	***	***	***	***
自然体験・社会体験・ 文化的体験①	小学2年生自然体験の多寡	/	***	/	/	/	/
	小学2年生社会体験の多寡	/	*	/	/	/	/
	小学2年生文化的体験の多寡	/	***	/	/	/	/
自然体験・社会体験・ 文化的体験②	小学6年生自然体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生社会体験の多寡	/	/	**	/	/	/
	小学6年生文化的体験の多寡	/	/	***	/	/	/
遊び	小学1年生遊び相手の多様性	/	/	/	***	/	/
	小学1年生遊び場所の多様性	/	/	/	*	/	/
	小学1年生遊び相手人数の多寡	/	/	/	/	/	/
読書	小学1年生読書冊数	/	/	/	/	***	/
お手伝い	小学3年生手伝い経験の多寡	/	/	/	/	/	***

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 12-3-2 ①家庭による背景・要因・属性等のみのモデル【肯定的な未来志向】

		分析モデル整理番号8-1		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.061	-0.005	0.506
父母の収入	収入の水準	0.015	0.011	0.123
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.230	0.035	0.000
	いずれかが大卒等	0.063	0.010	0.186
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.058	0.038	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.047	0.005	0.443
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.051	-0.007	0.301
	幼少期に郡部に居住	0.044	0.006	0.432
	幼少期に海外に居住	0.014	0.000	0.970
性別	男子	-0.302	-0.051	0.000
	(定数)	9.662		0.000
	n			22677
	R2 乗			0.005
	調整済みR2 乗			0.005

図表 12-3-3 ②第8回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【肯定的な未来志向】

		分析モデル整理番号8-2-1			分析モデル整理番号8-2-2			分析モデル整理番号8-2-3			分析モデル整理番号8-2-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.073	-0.005	0.460	-0.072	-0.005	0.468	-0.077	-0.006	0.432	-0.073	-0.005	0.461
父母の収入	収入の水準	0.005	0.004	0.607	0.010	0.008	0.313	0.001	0.000	0.957	-0.002	-0.001	0.866
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.231	0.036	0.000	0.250	0.038	0.000	0.192	0.030	0.000	0.176	0.027	0.001
	いずれかが大卒等	0.063	0.010	0.217	0.068	0.011	0.182	0.036	0.006	0.474	0.030	0.005	0.549
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.058	0.039	0.000	0.060	0.040	0.000	0.054	0.036	0.000	0.049	0.032	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.037	0.004	0.573	0.009	0.001	0.895	0.049	0.006	0.454	0.022	0.003	0.735
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.037	-0.005	0.480	-0.028	-0.004	0.595	-0.060	-0.008	0.252	-0.052	-0.007	0.322
	幼少期に郡部に居住	0.055	0.007	0.357	0.048	0.006	0.420	0.070	0.009	0.241	0.061	0.008	0.308
	幼少期に海外に居住	0.173	0.003	0.659	0.140	0.003	0.720	0.082	0.001	0.833	0.129	0.002	0.741
性別	男子	-0.319	-0.054	0.000	-0.298	-0.050	0.000	-0.289	-0.049	0.000	-0.306	-0.052	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.194	0.062	0.000	/	/	/	/	/	/	0.139	0.044	0.000
	第8回社会体験該当個数	/	/	/	0.151	0.040	0.000	/	/	/	0.063	0.017	0.024
	第8回文化的体験該当個数	/	/	/	/	/	/	0.269	0.076	0.000	0.220	0.063	0.000
	(定数)	9.382		0.000	9.556		0.000	9.345		0.000	9.229		0.000
	n			20159			20159			20159			20159
	R2 乗			0.010			0.007			0.011			0.014
	調整済みR2 乗			0.009			0.007			0.011			0.013

図表 12-3-4 ③第 12 回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【肯定的な未来志向】

		分析モデル整理番号8-3-1			分析モデル整理番号8-3-2			分析モデル整理番号8-3-3			分析モデル整理番号8-3-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.043	-0.003	0.660	-0.049	-0.004	0.614	-0.044	-0.003	0.650	-0.029	-0.002	0.764
父母の収入	収入の水準	0.019	0.014	0.060	0.022	0.017	0.031	0.015	0.011	0.140	0.016	0.012	0.109
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.197	0.030	0.000	0.200	0.031	0.000	0.148	0.023	0.007	0.146	0.022	0.007
親子のかかわり	いずれかが大卒等	0.049	0.008	0.327	0.050	0.008	0.325	0.020	0.003	0.691	0.020	0.003	0.689
	幼少期のしつけの多寡	0.055	0.036	0.000	0.053	0.035	0.000	0.047	0.031	0.000	0.044	0.029	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.053	0.006	0.411	0.015	0.002	0.816	0.063	0.007	0.326	0.037	0.004	0.566
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.059	-0.008	0.257	-0.047	-0.007	0.370	-0.078	-0.011	0.133	-0.064	-0.009	0.222
	幼少期に郡部に居住	0.042	0.005	0.474	0.026	0.003	0.663	0.059	0.008	0.317	0.044	0.006	0.453
	幼少期に海外に居住	-0.015	0.000	0.970	-0.003	0.000	0.994	-0.075	-0.001	0.848	-0.041	-0.001	0.917
性別	男子	-0.341	-0.058	0.000	-0.305	-0.052	0.000	-0.312	-0.053	0.000	-0.326	-0.055	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第12回自然体験該当個数	0.178	0.061	0.000							0.105	0.036	0.000
	第12回社会体験該当個数				0.181	0.051	0.000				0.076	0.022	0.004
	第12回文化的体験該当個数							0.272	0.086	0.000	0.220	0.069	0.000
	(定数)	9.436		0.000	9.567		0.000	9.366		0.000	9.278		0.000
n			20628			20628			20628				20628
R2 乗			0.009			0.008			0.013				0.015
調整済みR2 乗			0.009			0.008			0.012				0.014

図表 12-3-5 ④第 7 回調査の「遊び」投入モデル【肯定的な未来志向】

		分析モデル整理番号8-4-1			分析モデル整理番号8-4-2			分析モデル整理番号8-4-3			分析モデル整理番号8-4-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.064	-0.005	0.509	-0.091	-0.007	0.337	-0.056	-0.004	0.560	-0.041	-0.003	0.679
父母の収入	収入の水準	0.026	0.019	0.012	0.018	0.013	0.078	0.018	0.014	0.070	0.030	0.022	0.005
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.231	0.035	0.000	0.234	0.036	0.000	0.219	0.034	0.000	0.210	0.032	0.000
親子のかかわり	いずれかが大卒等	0.057	0.009	0.251	0.078	0.012	0.112	0.058	0.009	0.239	0.056	0.009	0.278
	幼少期のしつけの多寡	0.047	0.031	0.000	0.054	0.036	0.000	0.052	0.034	0.000	0.042	0.027	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.047	0.005	0.467	0.025	0.003	0.692	0.029	0.003	0.653	0.027	0.003	0.679
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.038	-0.005	0.463	-0.037	-0.005	0.475	-0.033	-0.005	0.526	-0.014	-0.002	0.798
	幼少期に郡部に居住	0.042	0.005	0.471	0.030	0.004	0.609	0.066	0.008	0.259	0.052	0.007	0.393
	幼少期に海外に居住	0.101	0.002	0.791	0.015	0.000	0.969	0.011	0.000	0.977	0.054	0.001	0.893
性別	男子	-0.305	-0.051	0.000	-0.339	-0.057	0.000	-0.327	-0.055	0.000	-0.327	-0.055	0.000
遊び	第7回遊び相手3項目該当個数	0.191	0.063	0.000							0.168	0.055	0.000
	第7回遊び場所3項目該当個数				0.125	0.036	0.000				0.064	0.018	0.016
	第7回遊び相手人数							0.080	0.027	0.000	0.026	0.009	0.233
	(定数)	9.387		0.000	9.486		0.000	9.481		0.000	9.290		0.000
n			21080			21546			21056				19655
R2 乗			0.009			0.007			0.006				0.010
調整済みR2 乗			0.009			0.006			0.006				0.009

図表 12-3-6⑤第 7 回調査の「読書」投入モデル 【肯定的な未来志向】

		分析モデル整理番号8-5		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.049	-0.004	0.600
父母の収入	収入の水準	0.016	0.012	0.099
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.196	0.030	0.000
親子のかかわり	いずれかが大卒等	0.053	0.008	0.277
	幼少期のしつけの多寡	0.056	0.037	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.026	0.003	0.682
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.038	-0.005	0.452
	幼少期に郡部に居住	0.054	0.007	0.342
	幼少期に海外に居住	-0.017	0.000	0.964
性別	男子	-0.288	-0.049	0.000
読書	第7回読書冊数	0.066	0.031	0.000
(定数)	9.439		0.000	
n			22163	
R2 乗			0.007	
調整済みR2 乗			0.006	

【肯定的な未来志向】

		分析モデル整理番号8-6		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.060	-0.004	0.512
父母の収入	収入の水準	0.015	0.011	0.132
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.221	0.034	0.000
親子のかかわり	いずれかが大卒等	0.054	0.008	0.258
	幼少期のしつけの多寡	0.047	0.031	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.053	0.006	0.387
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.074	-0.010	0.141
	幼少期に郡部に居住	0.054	0.007	0.342
	幼少期に海外に居住	0.010	0.000	0.979
性別	男子	-0.269	-0.045	0.000
お手伝い	第9回お手伝い個数	0.076	0.043	0.000
(定数)	9.562		0.000	
n			22445	
R2 乗			0.007	
調整済みR2 乗			0.006	

(4) 「肯定的な未来志向」に関する父母の収入の水準別の分析

図表 12-4-1 「肯定的な未来志向」に関する父母の収入の水準別の分析（回帰分析）

		分析モデル整理番号8-7-1			分析モデル整理番号8-7-2			分析モデル整理番号8-7-3		
		収入：中央値の2分の1未満			収入：中央値未満、中央値の2分の1以上			収入：中央値以上		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	0.150	0.024	0.443	-0.188	-0.014	0.197	-0.068	-0.003	0.721
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	0.165	0.015	0.628	0.221	0.028	0.019	0.130	0.021	0.069
	いずれかが大卒等	-0.020	-0.003	0.925	0.103	0.016	0.170	-0.051	-0.008	0.496
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.020	0.015	0.635	0.038	0.025	0.024	0.058	0.038	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.248	0.039	0.236	0.048	0.006	0.603	-0.065	-0.006	0.534
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.285	-0.033	0.301	-0.098	-0.012	0.288	-0.012	-0.002	0.857
	幼少期に郡部に居住	0.241	0.039	0.232	-0.007	-0.001	0.935	0.086	0.010	0.345
	幼少期に海外に居住	—	—	—	0.031	0.000	0.981	0.136	0.003	0.746
性別	男子	0.035	0.006	0.838	-0.215	-0.037	0.001	-0.402	-0.067	0.000
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.128	0.041	0.207	0.161	0.052	0.000	0.132	0.042	0.000
	第8回社会体験該当個数	0.012	0.003	0.918	0.067	0.018	0.137	0.055	0.014	0.152
	第8回文化的体験該当個数	0.254	0.079	0.015	0.148	0.043	0.000	0.271	0.074	0.000
	(定数)	9.308		0.000	9.356		0.000	9.122		0.000
	n			1084			7914			10958
	R2 乗			0.017			0.011			0.018
	調整済みR2 乗			0.007			0.009			0.016

※「収入：中央値の2分の1未満」では、「幼少期に海外に居住」の該当ケースなし

図表 12-4-2 「肯定的な未来志向」に関する父母の収入の水準別の分析（平均値差）

<自然体験>

収入：中央値の2分の1未満	第8回自然体験該当個数	肯定的な未来志向の平均値	n=	F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.072			
	0	9.8	174					
	1	10.2	341	0.540				
	2	10.2	506	0.310	0.980			
	3	10.6	184	0.044	0.342	0.465		
収入：中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回自然体験該当個数	肯定的な未来志向の平均値	n=	F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.000			
	0	10.0	1049					
	1	10.0	2244	0.996				
	2	10.4	3278	0.002	0.000			
	3	10.6	1857	0.000	0.000	0.099		
収入：中央値以上	第8回自然体験該当個数	肯定的な未来志向の平均値	n=	F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.000			
	0	9.9	1199					
	1	10.2	2815	0.020				
	2	10.5	4429	0.000	0.002			
	3	10.5	3098	0.000	0.000	0.807		

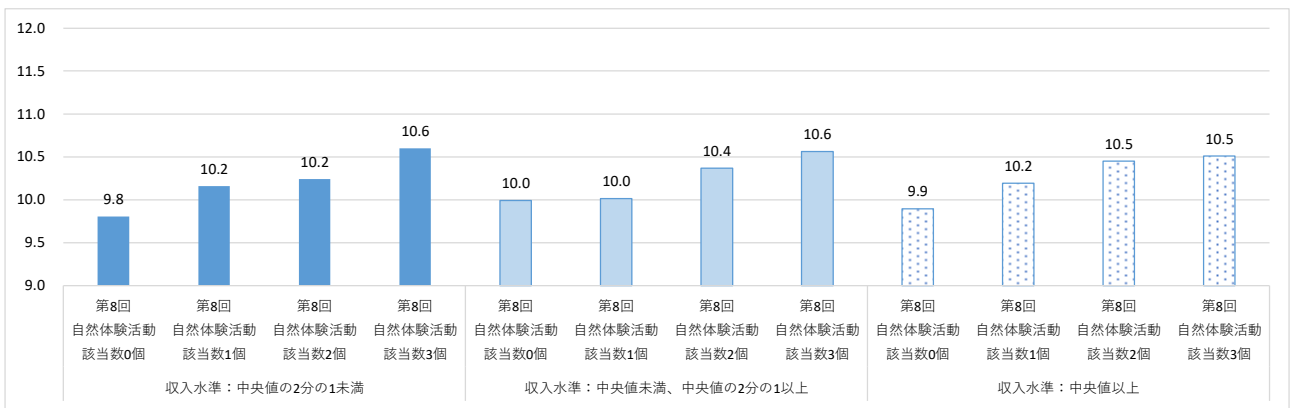
<社会体験>

収入：中央値の2分の1未満	第8回社会体験該当個数	肯定的な未来志向の平均値	n=	F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.164			
	0	10.1	571					
	1	10.2	423	0.755				
	2	10.6	168	0.169	0.575			
	3	10.6	43	0.650	0.876	1.000		
収入：中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回社会体験該当個数	肯定的な未来志向の平均値	n=	F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.000			
	0	10.1	4022					
	1	10.4	3184	0.006				
	2	10.5	1002	0.007	0.736			
	3	10.6	220	0.062	0.522	0.864		
収入：中央値以上	第8回社会体験該当個数	肯定的な未来志向の平均値	n=	F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.000			
	0	10.2	5481					
	1	10.4	4396	0.000				
	2	10.5	1377	0.007	0.949			
	3	10.7	287	0.061	0.658	0.844		

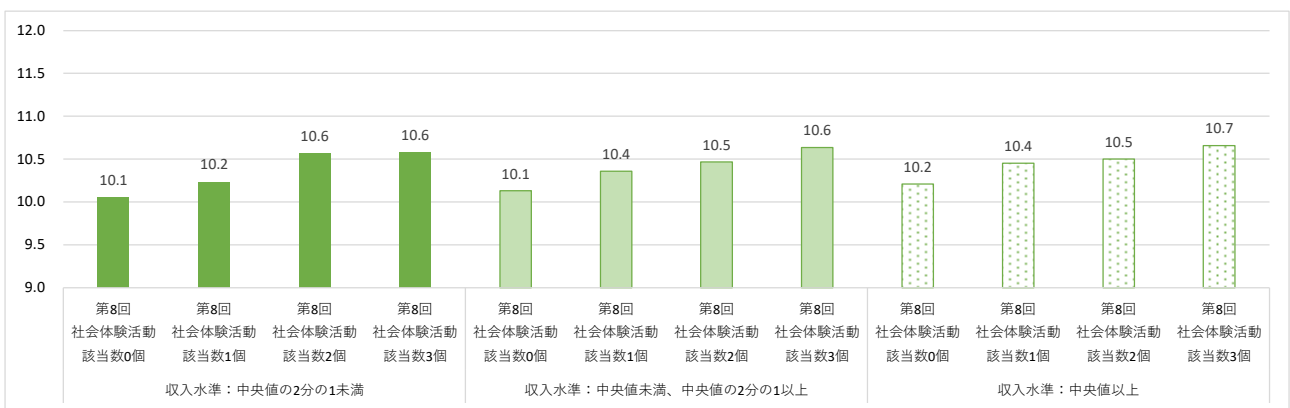
<文化的体験>

収入：中央値の2分の1未満	第8回文化的体験該当個数	肯定的な未来志向の平均値	n=	F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.000			
	0	9.8	164					
	1	10.2	491	0.528				
	2	10.1	401	0.730	0.979			
	3	11.2	149	0.000	0.001	0.000		
収入：中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回文化的体験該当個数	肯定的な未来志向の平均値	n=	F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.000			
	0	10.1	750					
	1	10.1	3218	0.962				
	2	10.3	3212	0.221	0.001			
	3	10.7	1248	0.000	0.000	0.001		
収入：中央値以上	第8回文化的体験該当個数	肯定的な未来志向の平均値	n=	F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.000			
	0	10.0	567					
	1	10.0	3576	0.986				
	2	10.4	4987	0.003	0.000			
	3	10.8	2411	0.000	0.000	0.000		

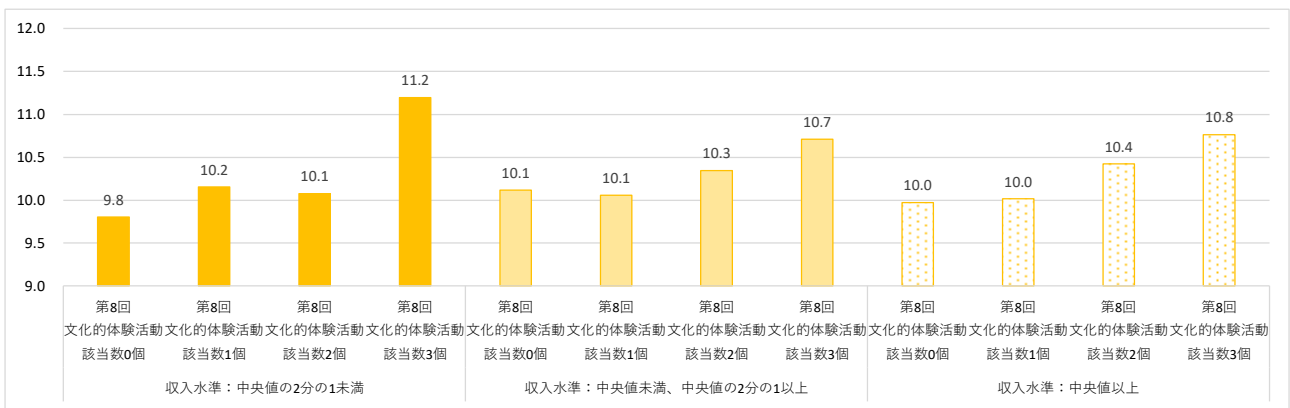
図表 12-4-3 「肯定的な未来志向」に関する父母の収入の水準別の分析（「自然体験」による平均値差）



図表 12-4-4 「肯定的な未来志向」に関する父母の収入の水準別の分析（「社会体験」による平均値差）



図表 12-4-5 「肯定的な未来志向」に関する父母の収入の水準別の分析（「文化的体験」による平均値差）



13. 「心の健康」についての分析

(1) 「心の健康」と「家庭による背景・要因・属性等」との関係

図表 13-1-1 ①世帯類型（ひとり親世帯であるか否かについて）と「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
世帯類型	父母同居	13.9	22908	0.923
	ひとり親世帯	13.9	1281	

図表 13-1-2 ②父母の収入と「心の健康」

収入11分類	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較																		
				100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 300万円未満	300万円以上 400万円未満	400万円以上 500万円未満	500万円以上 600万円未満	600万円以上 700万円未満	700万円以上 800万円未満	800万円以上 900万円未満	900万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上								
100万円未満	13.9	121	0.002																			
100万円以上 200万円未満	14.0	430		1.000																		
200万円以上 300万円未満	13.9	1558		1.000	1.000																	
300万円以上 400万円未満	14.2	3634		1.000	0.999	0.853																
400万円以上 500万円未満	14.0	4762		1.000	1.000	1.000	0.883															
500万円以上 600万円未満	14.0	4434		1.000	1.000	1.000	0.933	1.000														
600万円以上 700万円未満	13.9	3192		1.000	1.000	1.000	0.598	1.000	1.000													
700万円以上 800万円未満	13.8	2202		1.000	1.000	1.000	0.230	0.950	0.928	1.000												
800万円以上 900万円未満	14.0	1374		1.000	1.000	1.000	0.977	1.000	1.000	1.000	0.998											
900万円以上 1,000万円未満	13.5	835		1.000	0.957	0.809	0.043	0.362	0.327	0.693	0.962	0.675										
1,000万円以上	13.4	1566		0.999	0.849	0.377	0.000	0.024	0.020	0.169	0.681	0.245	1.000									

等価世帯所得 の水準	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較		
				中央値の2分の1 未満	中央値未満、中央 値の2分の1以上	中央値以上
中央値の2分の1 未満	14.0	1408	0.000			
中央値未満、中央 値の2分の1以上	14.2	9497		0.700		
中央値以上	13.8	12939		0.308	0.000	

図表 13-1-3 ③父母の学歴と「心の健康」

父母の学歴	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較		
				ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業
ともに短大・高専、 大学、大学院以外 を卒業	14.2	9998	0.000			
いずれかが短大・ 高専、大学、大学 院を卒業	14.0	7185		0.044		
ともに短大・高専、 大学、大学院を卒 業	13.6	6828		0.000	0.002	

図表 13-1-4 ④親子のかかわり・しつけと「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較							
					6以下	7	8	9	10	11	12	13
しつけの実施 該当個数	6以下	13.5	786	0.000								
	7	13.8	812		0.953							
	8	13.6	1449		0.999	0.998						
	9	13.8	2345		0.909	1.000	0.994					
	10	13.9	3413		0.707	1.000	0.915	1.000				
	11	13.9	4663		0.557	1.000	0.786	0.993	1.000			
	12	14.0	5284		0.226	0.977	0.330	0.730	0.924	0.975		
	13	14.3	4153		0.007	0.339	0.004	0.014	0.025	0.030	0.279	

⑤住環境等と「心の健康」

図表 13-1-5 居住環境の分類と「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較				
					住宅の多い地域	商店の多い地域	工場の多い地域	田園・山間地域	その他
居住環境	住宅の多い地域	13.9	19003	0.000					
	商店の多い地域	13.8	807		0.993				
	工場の多い地域	12.9	301		0.026	0.139			
	田園・山間地域	14.3	3309		0.001	0.154	0.000		
	その他	13.9	513		1.000	0.999	0.129	0.509	

図表 13-1-6 居住の自治体の分類と「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					14大都市	その他の市	郡部	外国
居住の自治体 の分類	14大都市	13.7	5169	0.000				
	その他の市	14.0	14534		0.002			
	郡部	14.2	4244		0.000	0.187		
	外国	14.3	75		0.717	0.944	0.994	

図表 13-1-7 ⑥子供の性別と「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	t検定 有意確率
性別	男	14.0	12300	0.912
	女	13.9	11889	

(2) 「心の健康」と「体験」との関係

図表 13-2-1 ①第 8 回調査の「自然体験」と「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回自然体 験該当個数	0	13.6	2449	0.000				
	1	13.7	5465			0.729		
	2	14.1	8303			0.000	0.001	
	3	14.2	5184			0.000	0.000	0.416

図表 13-2-2 ②第 8 回調査の「社会体験」と「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回社会体 験該当個数	0	13.7	10170	0.000				
	1	14.1	8098			0.000		
	2	14.5	2576			0.000	0.019	
	3	14.6	557			0.003	0.226	0.981

図表 13-2-3 ③第 8 回調査の「文化的体験」と「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第8回文化的 体験該当個数	0	13.7	1506	0.000				
	1	13.7	7357			0.991		
	2	14.0	8685			0.185	0.000	
	3	14.5	3853			0.000	0.000	0.001

図表 13-2-4 ④第 12 回調査の「自然体験」と「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回自然 体験該当個数	0	13.4	4536	0.000				
	1	13.8	6130			0.001		
	2	14.2	7073			0.000	0.000	
	3	14.3	4219			0.000	0.000	0.879

図表 13-2-5 ⑤第 12 回調査の「社会体験」と「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回社会 体験該当個数	0	13.7	11544	0.000				
	1	14.1	6850			0.000		
	2	14.3	2634			0.000	0.174	
	3	14.8	930			0.000	0.003	0.198

図表 13-2-6 ⑥第 12 回調査の「文化的体験」と「心の健康」

		心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkeyの多重比較			
					0	1	2	3
第12回文化 的体験該当個 数	0	13.2	2553	0.000				
	1	13.6	6695			0.007		
	2	14.1	8142			0.000	0.000	
	3	14.5	4568			0.000	0.000	0.001

図表 13-2-7 ⑦第7回調査の「遊び相手の多様性」と「心の健康」

	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
				0	1	2	3
第7回遊び相手3項目該当 個数	0	13.3	0.000				
	1	13.6		0.033			
	2	14.0		0.000	0.000		
	3	14.6		0.000	0.000	0.000	

図表 13-2-8 ⑧第7回調査の「遊ぶ場所の多様性」と「心の健康」

	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
				0	1	2	3
遊び場所3項目 該当個数	0	13.6	0.000				
	1	13.7		0.908			
	2	14.0		0.126	0.012		
	3	14.4		0.000	0.000	0.000	

図表 13-2-9 ⑨第7回調査の「遊び相手の人数の多寡」と「心の健康」

	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
				0人	1人	2人	3人以上
第7回遊び相手 人数	0人	13.6	0.000				
	1人	13.8		0.286			
	2人	14.0		0.057	0.777		
	3人以上	14.1		0.000	0.022	0.247	

図表 13-2-10 ⑩第7回調査の「読書」と「心の健康」

	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較					
				読まない	1冊	2, 3冊	4冊~7冊	8冊~11冊	12冊以上
第7回読書	読まない	14.1	0.858						
	1冊	14.0		1.000					
	2, 3冊	13.9		0.917	0.963				
	4冊~7冊	14.0		0.974	0.996	0.098			
	8冊~11冊	14.0		0.995	1.000	0.137	0.138		
	12冊以上	13.9		0.887	0.940	0.112	0.148	0.992	

図表 13-2-11 ⑪第9回調査の「お手伝い」と「心の健康」

	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較								
				0	1	2	3	4	5	6	7	
第9回お手伝い 個数	0	13.7	0.075									
	1	13.9		0.928								
	2	13.9		0.986	0.999							
	3	13.9		0.892	1.000	0.997						
	4	14.1		0.407	0.894	0.557	0.920					
	5	14.1		0.453	0.914	0.667	0.935	1.000				
	6	14.2		0.393	0.840	0.611	0.866	1.000	1.000			
	7	14.4		0.289	0.657	0.476	0.685	0.962	0.981	0.999		

(3) 「心の健康」に関する回帰分析

図表 13-3-1 「心の健康」に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号					
		9-1	9-2-4	9-3-4	9-4-4	9-5	9-6
世帯類型	ひとり親世帯						
父母の収入	収入の水準		*				
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	***	***	***	***	***
	いずれかが大卒等		*		*		
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***	***	**	*	***	***
住環境 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に田園・山間地域に居住	**			*	*	**
	幼少期に大都市に居住	*		**		*	**
	幼少期に海外に居住						
性別	男子						
自然体験・社会体験・ 文化的体験①	小学2年生自然体験の多寡	/	***	/	/	/	/
	小学2年生社会体験の多寡	/	***	/	/	/	/
	小学2年生文化的体験の多寡	/	***	/	/	/	/
自然体験・社会体験・ 文化的体験②	小学6年生自然体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生社会体験の多寡	/	/	***	/	/	/
	小学6年生文化的体験の多寡	/	/	***	/	/	/
遊び	小学1年生遊び相手の多様性	/	/	/	***	/	/
	小学1年生遊び場所の多様性	/	/	/	***	/	/
	小学1年生遊び相手人数の多寡	/	/	/	/	/	/
読書	小学1年生読書冊数	/	/	/	/	/	/
お手伝い	小学3年生手伝い経験の多寡	/	/	/	/	/	**

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 13-3-2 ①家庭による背景・要因・属性等のみのモデル【心の健康】

		分析モデル整理番号9-1		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.166	-0.006	0.342
父母の収入	収入の水準	-0.031	-0.012	0.093
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	-0.396	-0.032	0.000
	いずれかが大卒等	-0.135	-0.011	0.139
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.082	0.028	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.302	0.018	0.010
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.241	-0.018	0.011
	幼少期に郡部に居住	0.043	0.003	0.688
	幼少期に海外に居住	0.246	0.002	0.727
性別	男子	-0.056	-0.005	0.453
	(定数)	13.459		0.000
	n			22602
	R2 乗			0.003
	調整済みR2 乗			0.003

図表 13-3-3 ②第8回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【心の健康】

		分析モデル整理番号9-2-1			分析モデル整理番号9-2-2			分析モデル整理番号9-2-3			分析モデル整理番号9-2-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.189	-0.007	0.314	-0.184	-0.007	0.325	-0.195	-0.007	0.298	-0.184	-0.007	0.324
父母の収入	収入の水準	-0.040	-0.016	0.044	-0.034	-0.013	0.087	-0.046	-0.018	0.020	-0.048	-0.019	0.015
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	-0.432	-0.035	0.000	-0.420	-0.034	0.000	-0.483	-0.039	0.000	-0.507	-0.041	0.000
	いずれかが大卒等	-0.165	-0.014	0.087	-0.165	-0.014	0.087	-0.199	-0.016	0.039	-0.210	-0.017	0.030
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.089	0.031	0.000	0.087	0.031	0.000	0.084	0.030	0.000	0.074	0.026	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.205	0.013	0.097	0.138	0.008	0.267	0.220	0.014	0.075	0.153	0.009	0.219
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.174	-0.013	0.082	-0.155	-0.011	0.122	-0.204	-0.015	0.042	-0.184	-0.014	0.066
	幼少期に郡部に居住	0.139	0.009	0.221	0.121	0.008	0.286	0.159	0.011	0.161	0.137	0.009	0.227
	幼少期に海外に居住	0.788	0.007	0.289	0.758	0.007	0.308	0.673	0.006	0.365	0.743	0.007	0.317
性別	男子	-0.081	-0.007	0.308	-0.054	-0.005	0.496	-0.042	-0.004	0.594	-0.062	-0.006	0.432
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.245	0.041	0.000	/	/	/	/	/	/	0.154	0.026	0.000
	第8回社会体験該当個数	/	/	/	0.311	0.043	0.000	/	/	/	0.209	0.029	0.000
	第8回文化的体験該当個数	/	/	/	/	/	/	0.347	0.052	0.000	0.264	0.040	0.000
	(定数)	13.029		0.000	13.221		0.000	12.974		0.000	12.842		0.000
	n			20098			20098			20098			20098
	R2 乗			0.005			0.005			0.006			0.008
	調整済みR2 乗			0.005			0.005			0.006			0.007

図表 13-3-4 ③第12回調査の「自然体験」、「社会体験」、「文化的体験」投入モデル【心の健康】

		分析モデル整理番号9-3-1			分析モデル整理番号9-3-2			分析モデル整理番号9-3-3			分析モデル整理番号9-3-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.130	-0.005	0.479	-0.142	-0.006	0.439	-0.130	-0.005	0.481	-0.107	-0.004	0.559
父母の収入	収入の水準	-0.027	-0.011	0.163	-0.023	-0.009	0.244	-0.034	-0.013	0.080	-0.032	-0.013	0.096
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	-0.458	-0.037	0.000	-0.452	-0.037	0.000	-0.541	-0.044	0.000	-0.545	-0.044	0.000
	いずれかが大卒等	-0.138	-0.011	0.149	-0.137	-0.011	0.153	-0.186	-0.015	0.052	-0.186	-0.015	0.051
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.077	0.027	0.000	0.075	0.026	0.000	0.064	0.022	0.001	0.059	0.021	0.003
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.210	0.013	0.087	0.153	0.009	0.216	0.227	0.014	0.064	0.191	0.012	0.120
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.295	-0.022	0.003	-0.277	-0.020	0.005	-0.329	-0.024	0.001	-0.308	-0.023	0.002
	幼少期に郡部に居住	0.022	0.002	0.841	-0.002	0.000	0.982	0.051	0.003	0.651	0.030	0.002	0.792
	幼少期に海外に居住	0.459	0.004	0.537	0.474	0.004	0.524	0.357	0.003	0.630	0.408	0.004	0.583
性別	男子	-0.109	-0.010	0.165	-0.049	-0.004	0.531	-0.059	-0.005	0.445	-0.084	-0.008	0.282
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第12回自然体験該当個数	0.295	0.054	0.000							0.177	0.032	0.000
	第12回社会体験該当個数				0.276	0.041	0.000				0.097	0.015	0.052
	第12回文化的体験該当個数							0.461	0.077	0.000	0.381	0.063	0.000
	(定数)												
n			20564			20564			20564				20564
R2 乗			0.007			0.005			0.009				0.011
調整済みR2 乗			0.006			0.005			0.009				0.010

図表 13-3-5 ④第7回調査の「遊び」投入モデル【心の健康】

		分析モデル整理番号9-4-1			分析モデル整理番号9-4-2			分析モデル整理番号9-4-3			分析モデル整理番号9-4-4		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.202	-0.008	0.268	-0.131	-0.005	0.466	-0.159	-0.006	0.383	-0.165	-0.006	0.384
父母の収入	収入の水準	-0.017	-0.007	0.387	-0.027	-0.011	0.162	-0.031	-0.012	0.111	-0.009	-0.003	0.658
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	-0.358	-0.029	0.000	-0.374	-0.030	0.000	-0.423	-0.034	0.000	-0.414	-0.034	0.000
	いずれかが大卒等	-0.135	-0.011	0.153	-0.121	-0.010	0.195	-0.195	-0.016	0.039	-0.212	-0.017	0.030
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.066	0.023	0.001	0.077	0.027	0.000	0.069	0.024	0.001	0.051	0.018	0.013
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.304	0.019	0.012	0.283	0.017	0.018	0.260	0.016	0.032	0.262	0.016	0.037
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.199	-0.015	0.043	-0.193	-0.014	0.047	-0.264	-0.019	0.007	-0.189	-0.014	0.063
	幼少期に郡部に居住	0.019	0.001	0.867	0.007	0.000	0.947	0.061	0.004	0.579	0.046	0.003	0.686
	幼少期に海外に居住	0.520	0.005	0.473	0.332	0.003	0.647	0.191	0.002	0.790	0.484	0.005	0.521
性別	男子	-0.005	0.000	0.949	-0.090	-0.008	0.241	-0.083	-0.007	0.280	-0.043	-0.004	0.590
遊び	第7回遊び相手3項目該当個数	0.411	0.071	0.000							0.339	0.059	0.000
	第7回遊び場所3項目該当個数				0.294	0.044	0.000				0.198	0.030	0.000
	第7回遊び相手人数							0.169	0.030	0.000	0.044	0.008	0.297
	(定数)												
n			21007			21471			20989				19590
R2 乗			0.008			0.005			0.004				0.009
調整済みR2 乗			0.008			0.005			0.004				0.008

図表 13-3-6 ⑤第7回調査の「読書」投入モデル

【心の健康】

		分析モデル整理番号9-5		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.118	-0.005	0.506
父母の収入	収入の水準	-0.033	-0.013	0.079
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	-0.390	-0.032	0.000
	いずれかが大卒等	-0.130	-0.011	0.161
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.083	0.029	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.277	0.017	0.019
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.240	-0.018	0.012
	幼少期に郡部に居住	0.021	0.001	0.847
	幼少期に海外に居住	0.241	0.002	0.732
性別	男子	-0.069	-0.006	0.365
読書	第7回読書冊数	-0.008	-0.002	0.762
(定数)		13.506		0.000
n				22085
R2 乗				0.003
調整済みR2 乗				0.003

図表 13-3-7 ⑥第9回調査の「お手伝い」投入モデル

【心の健康】

		分析モデル整理番号9-6		
		B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.163	-0.006	0.353
父母の収入	収入の水準	-0.033	-0.013	0.082
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	-0.410	-0.033	0.000
	いずれかが大卒等	-0.148	-0.012	0.105
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.071	0.025	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.313	0.019	0.008
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.264	-0.019	0.006
	幼少期に郡部に居住	0.064	0.004	0.555
	幼少期に海外に居住	0.243	0.002	0.730
性別	男子	-0.033	-0.003	0.661
お手伝い	第9回お手伝い個数	0.076	0.022	0.001
(定数)		13.376		0.000
n				22371
R2 乗				0.004
調整済みR2 乗				0.004

(4) 「心の健康」に関する父母の収入の水準別の分析

図表 13-4-1 「心の健康」に関する父母の収入の水準別の分析（回帰分析）

		分析モデル整理番号9-7-1			分析モデル整理番号9-7-2			分析モデル整理番号9-7-3		
		収入：中央値の2分の1未満			収入：中央値未満、中央値の2分の1以上			収入：中央値以上		
		B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率	B	ベータ	有意確率
世帯類型	ひとり親世帯	-0.287	-0.022	0.466	0.054	0.002	0.845	-0.085	-0.002	0.813
父母の学歴 (参照：ともに非大卒等)	ともに大卒等	1.434	0.065	0.034	-0.397	-0.026	0.027	-0.718	-0.063	0.000
	いずれかが大卒等	-0.074	-0.005	0.863	-0.112	-0.009	0.436	-0.392	-0.032	0.005
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	0.081	0.029	0.338	0.045	0.016	0.164	0.096	0.034	0.000
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	0.555	0.043	0.187	0.069	0.005	0.699	0.087	0.005	0.660
居住の自治体分類 (参照：大都市以外の市に居住)	幼少期に大都市に居住	-0.190	-0.011	0.728	-0.077	-0.005	0.663	-0.258	-0.020	0.041
	幼少期に郡部に居住	0.606	0.049	0.136	0.268	0.020	0.104	-0.093	-0.006	0.586
	幼少期に海外に居住	—	—	—	1.059	0.005	0.671	0.652	0.008	0.411
性別	男子	0.556	0.049	0.108	0.255	0.023	0.042	-0.346	-0.031	0.001
自然体験・社会体験・ 文化的体験	第8回自然体験該当個数	0.250	0.040	0.222	0.157	0.027	0.025	0.148	0.025	0.013
	第8回社会体験該当個数	0.067	0.010	0.767	0.231	0.032	0.007	0.201	0.028	0.005
	第8回文化的体験該当個数	0.402	0.062	0.056	0.163	0.025	0.038	0.325	0.048	0.000
	(定数)	11.581		0.000	12.874		0.000	12.467		0.000
	n			1083			7897			10914
	R2 乗			0.024			0.006			0.010
	調整済みR2 乗			0.014			0.004			0.009

※「収入：中央値の2分の1未満」では、「幼少期に海外に居住」の該当ケースなし

図表 13-4-2 「心の健康」に関する父母の収入の水準別の分析（平均値差）

<自然体験>

収入：中央値の2分の1未満	第8回自然体験該当個数	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.999	0.400	0.043	0.020
	0	13.5	176	0.016				
	1	13.6	342					
	2	14.2	504					
	3	15.1	182					
収入：中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回自然体験該当個数	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
	0	13.8	1039	0.000				
	1	13.8	2243					
	2	14.3	3271					
	3	14.5	1854					
収入：中央値以上	第8回自然体験該当個数	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
	0	13.4	1198	0.000				
	1	13.6	2801					
	2	13.9	4408					
	3	14.0	3087					

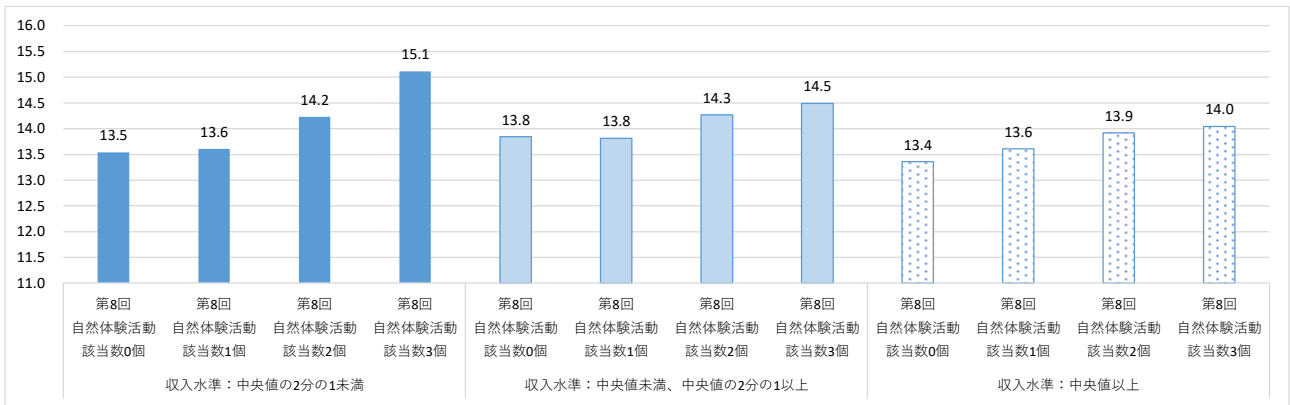
<社会体験>

収入：中央値の2分の1未満	第8回社会体験該当個数	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.028	0.230	0.090	0.632
	0	13.7	572	0.007				
	1	14.7	420					
	2	13.7	169					
	3	15.7	43					
収入：中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回社会体験該当個数	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
	0	13.9	4000	0.000				
	1	14.3	3188					
	2	14.7	998					
	3	14.7	221					
収入：中央値以上	第8回社会体験該当個数	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
	0	13.6	5453	0.000				
	1	13.8	4384					
	2	14.4	1371					
	3	14.3	286					

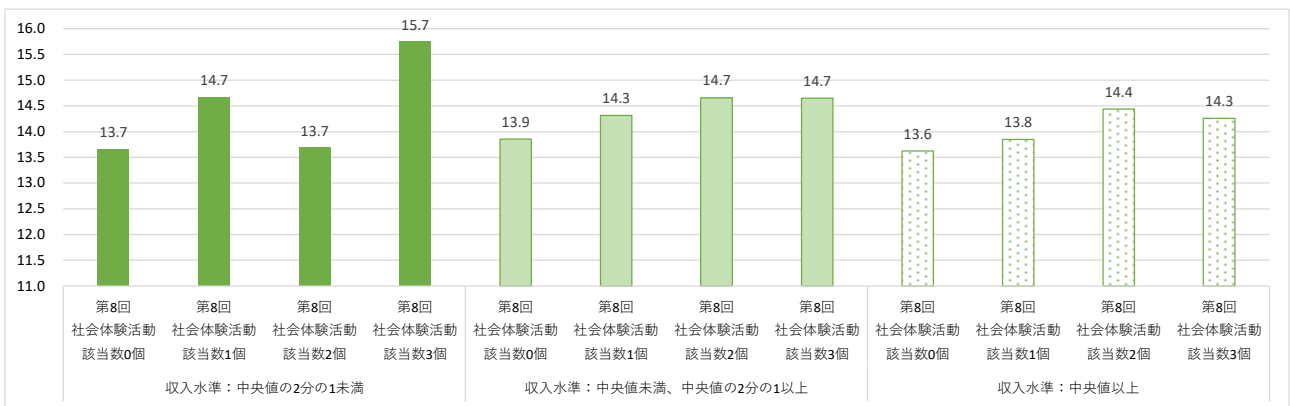
<文化的体験>

収入：中央値の2分の1未満	第8回文化的体験該当個数	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
					0	1	2	3
					0.060	0.991	0.041	0.152
	0	12.8	165	0.003				
	1	14.1	489					
	2	14.2	402					
	3	15.2	148					
収入：中央値未満、中央値の2分の1以上	第8回文化的体験該当個数	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
	0	14.1	749	0.000				
	1	13.8	3205					
	2	14.3	3199					
	3	14.6	1254					
収入：中央値以上	第8回文化的体験該当個数	心の健康尺度 平均値	n=	分散分析 F検定有意確率	Turkyの多重比較			
	0	13.5	566	0.000				
	1	13.5	3556					
	2	13.9	4964					
	3	14.3	2408					

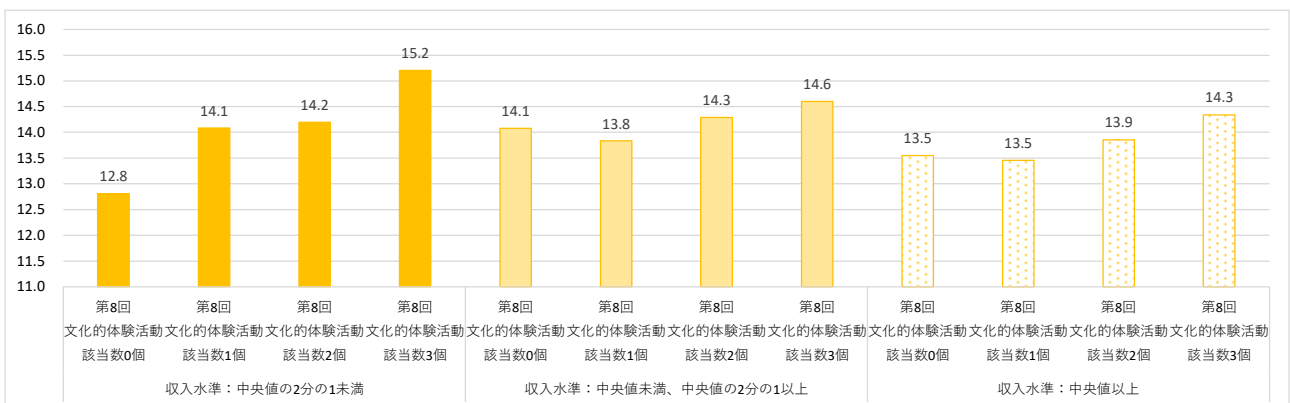
図表 13-4-3 「心の健康」に関する父母の収入の水準別の分析（「自然体験」による平均値差）



図表 13-4-4 「心の健康」に関する父母の収入の水準別の分析（「社会体験」による平均値差）



図表 13-4-5 「心の健康」に関する父母の収入の水準別の分析（「文化的体験」による平均値差）



14. 体験の内容別の回帰分析結果の再整理

図表 14-1 ①第 8 回調査の自然体験、社会体験、文化的体験に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号								
		1-2-4	2-2-4	3-2-4	4-2-4	5-2-4	6-2-4	7-2-4	8-2-4	9-2-4
		向学校的 小学生	向学校的 中学生	向学校的 高校生	自尊感情	外向性	新奇性 追求	感情調整	肯定的な 未来志向	心の健康
世帯類型	ひとり親世帯	*			*			*		
父母の収入	収入の水準	***	***		**	*				*
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	***	***	***				**	***
	いずれかが大卒等	***	*	*						*
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***			**	***	***	*	***	***
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	*	*							
	居住の自治体分類 (参照:大都市以外の 市に居住)									
	幼少期に大都市に居住									
	幼少期に郡部に居住									
	幼少期に海外に居住									
性別	男子	***	***	***	***	***	***	***	***	***
自然体験・社会体験・ 文化的体験①	小学2年生自然体験の多寡	*			***	***	***	***	***	***
	小学2年生社会体験の多寡	***	***	***			***		*	***
	小学2年生文化的体験の多寡	***	***	*	***	***	***	***	***	***

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 14-2 ②第 12 回調査の自然体験、社会体験、文化的体験に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号								
		1-3-4	2-3-4	3-3-4	4-3-4	5-3-4	6-3-4	7-3-4	8-3-4	9-3-4
		向学校的 小学生	向学校的 中学生	向学校的 高校生	自尊感情	外向性	新奇性 追求	感情調整	肯定的な 未来志向	心の健康
世帯類型	ひとり親世帯	*						*		
父母の収入	収入の水準	***	***		***	***				
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	***	***	***				**	***
	いずれかが大卒等	***	**	**						
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***			***	***	***	*	***	**
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	**	*							
	居住の自治体分類 (参照:大都市以外の 市に居住)									**
	幼少期に大都市に居住									
	幼少期に郡部に居住			*						
	幼少期に海外に居住									
性別	男子	***	***	***	***	***	***	***	***	***
自然体験・社会体験・ 文化的体験②	小学6年生自然体験の多寡	***			***	***	***	***	***	***
	小学6年生社会体験の多寡	***	***	***		*	***		**	
	小学6年生文化的体験の多寡	***	***	***	***	***	***	***	***	***

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 14-3 ③第7回調査の遊びに関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号								
		1-4-4	2-4-4	3-4-4	4-4-4	5-4-4	6-4-4	7-4-4	8-4-4	9-4-4
		向学校的 小学生	向学校的 中学生	向学校的 高校生	自尊感情	外向性	新奇性 追求	感情調整	肯定的な 未来志向	心の健康
世帯類型	ひとり親世帯	*						*		
父母の収入	収入の水準	***	***		***	***			**	
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	***	***	***	*	*		***	***
	いずれかが大卒等	***	*	**						*
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***			***	***	***		***	*
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	***	**	*						*
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の 市に居住)	幼少期に大都市に居住				*					
	幼少期に郡部に居住									
	幼少期に海外に居住									
性別	男子	***	***	***	***	***	***	***	***	
遊び	小学1年生遊び相手の多様性	***	***	*	***	***	***	***	***	***
	小学1年生遊び場所の多様性				**	***	*	**	*	***
	小学1年生遊び相手人数の多寡	**			**	***		*		

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 14-4 ④第7回調査の読書に関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号								
		1-5	2-5	3-5	4-5	5-5	6-5	7-5	8-5	9-5
		向学校的 小学生	向学校的 中学生	向学校的 高校生	自尊感情	外向性	新奇性 追求	感情調整	肯定的な 未来志向	心の健康
世帯類型	ひとり親世帯							*		
父母の収入	収入の水準	***	***		***	***				
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	***	***	***		*		***	***
	いずれかが大卒等	***	*	**						
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***			***	***	***	**	***	***
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	***	**	*						*
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の 市に居住)	幼少期に大都市に居住									*
	幼少期に郡部に居住									
	幼少期に海外に居住									
性別	男子	***	***	***	***	***	***	***	***	
読書	小学1年生読書冊数	***	***	***	*		***	***	***	

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした

図表 14-5 ⑤第9回調査のお手伝いに関する回帰分析の結果概要

		分析モデル整理番号								
		1-6	2-6	3-6	4-6	5-6	6-6	7-6	8-6	9-6
		向学校的 小学生	向学校的 中学生	向学校的 高校生	自尊感情	外向性	新奇性 追求	感情調整	肯定的な 未来志向	心の健康
世帯類型	ひとり親世帯							*		
父母の収入	収入の水準	***	***		***	***				
父母の学歴 (参照:ともに非大卒等)	ともに大卒等	***	***	***	***		**		***	***
	いずれかが大卒等	***	**	**						
親子のかかわり	幼少期のしつけの多寡	***			***	***	***	**	***	***
住環境	幼少期に田園・山間地域に居住	***	**	**						**
居住の自治体分類 (参照:大都市以外の 市に居住)	幼少期に大都市に居住									**
	幼少期に郡部に居住									
	幼少期に海外に居住									
性別	男子	***	***	***	***	***	***	***	***	
お手伝い	小学3年生手伝い経験の多寡	***	***	***	***	***	***	***	***	**

注)***:p<0.001,**:p<0.01,*:p<0.05、係数がマイナスのものは赤字にした